第一條　東京都方面疎開事業所（以下所ト稱ス）ハ重要工場主要廠等ノ附近及防火帶ニ於ケル建造物等ノ疎開事業ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所員ヲ指揮監督ス

事務官　所長ノ命ヲ承ケ所務ニ從事ス

技師　所長ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

主事　所長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

理工技師　所長ノ命ヲ承ケ理工ニ關スル事務ヲ掌ル

屬　所長ノ命ヲ承ケ所務ニ從事ス

技手　所長ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

主事補　所長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

理工技手　所長ノ命ヲ承ケ理工ニ關スル事務ニ從事ス

前項ノ外必要ナル履修員ヲ置クコトヲ得

第三條　所長ハ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ防衛局長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所員ヲ指揮監督ス

所員ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ニ從事ス

第四條　所長事故アルトキハ所管事項ニ付係長其ノ職務ヲ代理ス

第五條　所ニ左ノ三係ヲ置ク

庶務係

移轉係

工事係

各係ニ係長ヲ置ク

第六條　各係ノ事務分掌左ノ如シ

庶務係

一　所ノ人事及文書ニ關スル事項

二　所ノ經理ニ關スル事項

三　土地家屋ノ管理ニ關スル事項

四　物品ノ購入、檢收及保管ニ關スル事項

五　所內他係ノ主管ニ屬セサル事項

移轉係

一　用地ノ取得ニ關スル事項

二　地上物件其ノ他ノ補償ニ關スル事項

工事係

一　建物ノ移築、改築及新築ニ關スル事項

二　整地ニ關スル事項

三　土地測量ニ關スル事項

四　資材ノ調達及配給ニ關スル事項

第七條　所長ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外左ノ事項ヲ專決ス

一　所務ニ關シ職名又ハ所名ヲ以テスル文書ノ往復ヲ爲スコト

二　職員以下ニ管內及隣接縣下ヘノ出張ヲ命ズルコト

三　職員ノ進退ニ關シ具申ヲ爲スコト

四　職員以下ニ時間外勤務ヲ命ズルコト

五　職員以下ノ休暇、慕參、看護及旅行ヲ許否シ並ニ除服出仕ヲ命ズルコト

六　履修員ノ採證ニ關スルコト

七　處務細則、當直心得及履員ノ勤務心得ヲ規定スルコト

八　土地、建物其ノ他工作物ノ借入ニ關スルコト

九　用地取得ニ伴フ一廉五萬圓未滿ノ地上物件其ノ他補償ニ關スルコト

十　一廉五萬圓未滿ノ工事契約又ハ起工ニ關スルコト

【防衛】



十一　豫定價格一廉五千圓未滿ノ建物以外ノ物件ノ購入竝ニ豫定價格一廉五千圓未滿ノ不用品賣却ニ關スルコト

十二　決裁ヲ經ダル工事ノ些少ノ設計變更ニ關スルコト

十三　請負契約ノ履行ニ關シ三十日以內ノ延期ノ許否及之ニ伴フ措置ニ關スルコト

十四　事業執行上必要ナル手續ニシテ重要ナラザルモノニ關スルコト

前項第六號及第七號ノ事項ニ付テハ施行後直ニ疎開第二課長ニ報告スベシ

第八條　所長ハ左ニ揭グル事項ヲ代決ス

一　一廉五萬圓未滿ノ用地取得ニ關スルコト

二　一廉五萬圓未滿ノ建物其ノ他ノ工作物ノ取得及賣却處分ニ關スルコト

第九條　本規程ニ定ムルモノヲ除クノ外都廳中處務細則ヲ準用ス

## ●東京都移轉奬勵金交付規程

昭和十九年二月三日
東京都告示第百二號

第一條　人員疎開ニ依ル地方轉出者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ移轉奬勵金ヲ交付ス但シ別表ノ區域ニ轉出スル者ニ對シテハ之ヲ交付セズ

第二條　移轉奬勵金ハ左ニ揭グル者ニシテ世帶ヲ單位トシテ轉出スル者ニ對シテ之ヲ交付ス但シ轉出ニ付別ニ移轉費、旅費等ノ支給ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　都民稅二圓以下ノ者及都民稅免除者

二　入營、應召軍人ノ遺家族

三　被徵用者ノ遺家族

四　其ノ他必要ト認ムル者

前項第二號及第三號ノ家族トハ主タル生計維持者ガ入營應召又ハ徵用セラレタル家族ヲ謂フ

第三條　世帶單位トハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スル場合ヲ謂フ

一　世帶員ノ半數以上ナルコト

二　生活必需家財ノ大部ノ移轉ヲ伴フコト

第四條　移轉奬勵金ハ轉出世帶員數五人以上ノ場合ニハ三百圓トシ四人以下ノ場合ハ二百圓トス

第五條　移轉奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ移轉奬勵金交付申請書ヲ現住地區長ニ提出スベシ

第六條　區長前條ノ申請ニ對シ交付ノ決定ヲ爲シタルトキハ申請者ニ對シ其ノ旨通知スベシ

第七條　移轉奬勵金ノ交付ヲ受ケ三月以內ニ轉出セザル者其ノ他移轉奬勵金交付ノ趣旨ニ違反シタル者ニ對シテハ移轉奬勵金交付ノ決定ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル移轉奬勵金ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ

第八條　移轉奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者地方轉出ヲ完了シタルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經テ原住地區長ニ屆出ヲベシ

第九條　本規程施行ニ關シ必要ナル樣式ハ別ニ之ヲ定ム

附則

第十條　本規程ハ昭和十九年一月一日ヨリ之ヲ適用ス

別表

疎開區域其ノ他指定重要區域

| 地域別 | 疎開區域 | 其ノ他指定重要區域 |
|---|---|---|
| 東京都區部、橫濱市、川崎市 | 東京都區部、橫濱市、川崎市 | 立川市、川口市、橫須賀市 |

【防衛】

| | | |
|---|---|---|
| 阪神地域 | 大阪市、神戸市、京都市、堺市、布施市、西宮市、御影市、尼崎市 | |
| 名古屋地域 | 名古屋市 | |
| 九北州地域 | 門司市、小倉市、戸畑市、若松市、八幡市 | 下關市 |

## ●移轉奬勵金交付ニ關スル件

昭和十九年一月三十一日
防企發第六九號次長依命通牒

各區長宛

移轉奬勵金交付ニ關スル件依命通牒

今般別紙ノ通移轉奬勵金交付規程施行可相成筈ノ處之ガ取扱ニ付テハ左記各項ニ御留意萬遺憾無キヲ期セラレ度候也

記

一　移轉奬勵金ハ世帶單位ニ交付スルモノナルニ付之ガ交付ヲ受ケ世帶員ノ半數以上轉出シタル後ニ殘留セル世帶員ノ轉出ニ對シテハ其ノ交付ヲナサザルコト

二　規程第二條第四號ノ「其ノ他必要ト認ムル者」トアルハ同條第一號及至第三號ニ準ズベキ者トシテ取扱フコト

三　規程第七條ノ「其ノ他移轉奬勵金交付ノ趣旨ニ違反シタル者」トハ詐欺的方法ニ依リ移轉奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者等ナルコト

四　移轉奬勵金ノ交付事務ハ特ニ簡素迅速ニ處理スルコト

五　移轉奬勵金ノ交付狀況ニ付十日目毎ニ別紙樣式ニ依リ都長官ニ報告スルコト

（別紙省略）





# 第六章　消防及防毒

## ●自衛消防規則

昭和十七年四月十八日
警視廳令第十二號

**第一條**　本令ニ於テ自衛消防ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

一　工場、事業場、倉庫其ノ他ノ建築物ノ所有者又ハ管理者ニ於テ自衛ノ爲設備スル防火消防組織

二　隣組ニ於テ自衛ノ爲設備スル防火消防組織

**第二條**　自衛消防ニシテ動力喞筒車ヲ使用セントスルモノハ其ノ設置前左ノ事項ヲ具シ所轄消防署長ヲ經テ警視總監ニ届出ヅベシ之ヲ廢止變更セントスルトキ亦同ジ

一　設置者ノ住所、職業、氏名、年齡（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名）

二　設置スベキ場所及名稱、管理者ノ住所、氏名、年齡

三　自衛對象物ノ構造、業態及規模ノ概要

四　消防組織

イ　喞筒車ノ種別、性能、裏數、水管個數竝ニ水利ノ種別、個數及其ノ所在（圖面添附ノコト）

ロ　人員及勤務方法ノ概要

警視總監ハ前項ノ組織ニシテ不適當ト認ムルモノアルトキハ適宜ノ措置ヲ命ズルコトアルベシ

**第三條**　警視總監ハ工場、事業場、倉庫其ノ他ノ建築物ニシテ消防上特ニ必要ナル施設ヲ要スト認ムルモノアルトキハ他ノ法令ニ規定アルモノノ外其ノ所有者又ハ管理者ニ對シ適當ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

**第四條**　自衛消防ハ自家防衛ノ爲ニスルノ外自家構外又ハ自組若ハ隣接隣組以外ノ火災ナルトキハ出場スルコトヲ得ズ但シ所轄消防署長ノ命令アリタル場合ハ直ニ出場シ其ノ指揮ヲ承ケテ防禦ニ從事スベシ

**第五條**　自衛消防ハ官設消防隊ノ防禦行動ヲ阻害シ其ノ他消防活動ノ統制ヲ紊ルガ如キ行動ヲ爲スコトヲ得ズ

**第六條**　自衛消防ニシテ動力喞筒車ヲ使用スルモノハ其ノ設置者又ハ管理者ニ於テ每月一回以上消防訓練ヲ實施スベシ

前項ノ訓練ニ際シテハ豫メ所轄消防署長ニ連絡シ其ノ指導ヲ承クベシ

**第七條**　私設消防ハ本令ニ據ルモノノ外其ノ設置ヲ禁ス

**第八條**　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

前項ノ罰則ハ設置者又ハ管理者法人ナルトキハ法人ノ代表者ニ之ヲ適用ス

### 附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年五月警視廳令第二十八號ハ之ヲ廢止ス

本令ハ消防署ヲ設置シタル區域ニ限リ之ヲ施行ス

本令施行前既ニ動力喞筒車ヲ使用スル自衛消防ヲ設置シ現ニ存續スルモノハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第二條ニ依ル届出ヲ爲スベシ

## ●防毒資材取締規則

昭和十三年五月二日
內務省令第一號
厚生

改正　昭和一四年第一號、一六年第一號、一七年第一號、一八年第二號

**第一條**　本令ニ於テ防毒具ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ニ對スル防護具ヲ謂フ

防毒具ハ左ノ二種トス

第一種　防毒面、酸素呼吸器、防毒衣、防毒手袋、防毒靴、防毒濾函、防毒面ノ覆面、呼氣弁及吸收罐竝ニ酸素呼吸器ノ覆面、空氣更新罐、酸素發生劑罐、減壓弁、氣藥、過壓安全弁及吸排氣弁函

第二種　其ノ他ノ防毒具

本令ニ於テ防毒檢定器ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢知スル器具及防毒具ノ性能ヲ檢査スル器具ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒藥物ト稱スルハ防毒面吸收罐又ハ防毒濾函ニ使用シ防毒ノ效能アリトスル藥物、毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ノ檢知ノ效能アリトスル藥物及防毒ノ效能アリトスルモノニシテ內務大臣及厚生大臣ノ指定スル藥物ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒具材料ト稱スルハ防毒具ノ製造又ハ修覆ニ使用スル物ニシテ內務大臣ノ指定スルモノヲ謂フ

**第二條**　本令ハ販賣ノ用ニ共スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付之ヲ適用ス但シ第十一條及第十二條ノ規定ハ販賣ノ用ニ供セザルモノニ付テモ之ヲ適用ス

**第三條**　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ヲ製造セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ、輸入又ハ移入セントスル者ハ第一號乃至第三號及第六號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル營業所所在地ノ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、商號及營業所所在地

二　製造所ノ名稱及所在地

三　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ種類、型式、構造及性能

四　製造方法及製造設備（製品檢査設備ヲ含ム）ノ概要竝ニ一年ノ製造能力

五　主任技術者ノ氏名及履歷

六　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ添附スル性能說明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ內務大臣ニ屆出ヅベシ

**第四條**　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ其ノ型式及製造年竝ニ製造者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記シ且防毒面吸收罐又ハ防毒濾函ニ別表ニ掲グル性能標識ヲ附スベシ

**第五條**　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ付內務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書ヲ提出スベシ

第一項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニハ第一號樣式ノ檢定證印ヲ附ス

**第六條**　第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ヲ發賣セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ、輸入又ハ移入セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、商號及營業所所在地

二　製造所ノ名稱及所在地

三　第二種防毒具ニ在リテハ其ノ種類、型式、構造及性能

【防毒】

四　防毒藥物ニ在リテハ其ノ品名、品質及效能（製劑ニ在リテハ原料品名及其ノ分量竝ニ製造方法ノ概要ヲ併記スルコト）

五　防毒具材料ニ在リテハ其ノ品名、品質及性能

六　第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ニ添附スル性能又ハ效能說明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ地方長官ニ屆出ヅベシ

**第七條**　第二種防毒具ノ發賣者ハ其ノ發賣セントスル第二種防毒具ニ其ノ型式及發賣者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記スベシ

防毒藥物ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒藥物ノ容器又ハ被包ニ防毒藥物ナル文字、品名及發賣者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記スベシ

防毒具材料ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒具材料ノ容器又ハ被包ニ防毒具材料ナル文字、品名及發賣者ノ氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）又ハ商號ヲ明記スベシ

**第八條**　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ營業所每ニ營業所所在地ノ地方長官ニ屆出ヅベシ

**第九條**　第五條第二項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具若ハ防毒檢定器又ハ第四條若ハ第七條ノ規定ニ依ル表示若ハ性能標識ナキ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

**第十條**　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ハ第三條第一項第六號ノ性能說明書又ハ第六條第一項第六號ノ性能若ハ效能說明書ヲ添附スルニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

**第十一條**　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業ヲ爲サントスル者ハ營業所每ニ營業所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

**第十二條**　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業者ハ其ノ修覆シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ付內務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書ヲ提出スベシ

第一項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニハ第二號樣式ノ檢定證印ヲ附ス

前項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具又ハ防毒檢定器ハ之ヲ修覆シタルモノトシテ交付スルコトヲ得ズ

**第十二條ノ二**　第五條及前條ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ手數料ヲ納付スベシ

| | | |
|---|---|---|
| 一 | 防毒面（隔離型ノモノ） | 一箇ニ付　六　錢 |
| 二 | 防毒面（直結型ノモノ） | 一箇ニ付　二錢五厘 |
| 三 | 壓縮酸素式酸素呼吸器 | 一箇ニ付　一圓二十錢 |
| 四 | 酸素發生式酸素呼吸器 | 一箇ニ付　四十八錢 |
| 五 | 防毒衣 | 一著ニ付　十二錢 |
| 六 | 防毒手袋 | 一組ニ付　六　錢 |
| 七 | 防毒靴 | 一足ニ付　六　錢 |
| 八 | 防毒濾函 | 一箇ニ付　二圓四十錢 |
| 九 | 防毒面（隔離型ノモノ）及酸素呼吸器ノ覆面 | 一箇ニ付　二錢四厘 |
| 十 | 防毒面（直結型ノモノ）ノ覆面 | 一箇ニ付　一錢二厘 |
| 十一 | 防毒面ノ呼氣弁 | 一箇ニ付　一錢二厘 |
| 十二 | 防毒面（隔離型ノモノ）吸收罐 | 一箇ニ付　二錢四厘 |

十三　防毒面（直結型ノモノ）ノ吸收罐　一箇ニ付　一錢二厘
十四　酸素呼吸器ノ空氣更新罐　一箇ニ付　六　錢
十五　酸素呼吸器ノ酸素發生劑罐　一箇ニ付　十二錢
十六　酸素呼吸器ノ減壓辨　一箇ニ付　八十四錢
十七　酸素呼吸器ノ氣嚢　一箇ニ付　十二錢
十八　酸素呼吸器ノ過壓安全辨　一箇ニ付　二錢四厘
十九　酸素呼吸器ノ吸排氣辨面　一箇ニ付　九錢六厘
二十　防毒檢定器
イ　毒性ノ瓦斯、標識、液體、粉塵等ヲ檢知スル器具　一箇ニ付　二十四錢
ロ　防毒具ノ性能ヲ檢査スル器具　一箇ニ付　一圓二十錢

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ檢定申請書ニ之ヲ貼付スベシ既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ

第十三條　地方長官ハ當該官吏ヲシテ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ製造、貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ內務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十五條　第二種防毒具、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ製造者、防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ請賣營業者又ハ第一種防毒具若ハ防毒檢定器ノ修覆營業者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

第十六條　第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第六條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第三條第二項、第四條、第六條第二項、第七條乃至第九條、第十一條又ハ第十二條第三項ノ規定ニ違反シタル者

二　第十三條ノ規定ニ依ル巡視又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三　第十五條ノ規定ニ依ル營業ノ停止中其ノ營業ヲ爲シタル者

第十九條　第三條第三項、第六條第三項又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修覆營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條　本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　本令ハ陸海軍ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付テハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布ノ際現ニ防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ヲ製造若ハ發賣スル者又ハ其ノ請賣營業ヲ爲ス者ハ本令施行後一月以內ニ第三條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ第三條又ハ第六條ノ許可ヲ申請シタル者ニ付テハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄第四條、第五條及第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

本令施行ノ際現ニ在スル防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物又ハ第二項ノ規定ニ依リ第三條若ハ第六條ノ許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申請ニ對スル許可若ハ不許可ノ處分ノ日迄ニ製造若ハ發賣シタル防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ニ付テハ昭和十四年十二月三十一日迄第九條及第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

別表

| 防毒面吸收罐及防毒濾毒種類 | 性能標識 | |
|---|---|---|
| | 標識色 | 標識記號 |
| 普通瓦斯用 | 灰色及黑色 | イ |
| 酸性瓦斯用 | 灰色 | ロ |
| 有機瓦斯用 | 黑色 | ハ |
| 粉塵用 | 白色 | ホ |
| 一酸化炭素用 | 紅色 | ヘ |
| 消防用 | 白色及紅色 | ト |
| 金屬煙用 | 白色及黑色 | チ |
| アンモニア用 | 綠色 | リ |
| 亞硫酸及硫黃用 | 橙色 | ヌ |
| 青酸用 | 青色 | ル |
| 硫化水素用 | 黃色 | ヲ |
| 鹽化水素及硫化水素用 | 藍色 | ワ |
| 各種瓦斯及煙霧用 | 暗赤色 | カ |
| 防空用 | 棒色 | ヨ |

備考

一　標識色ハ外部全面一樣ニ塗色シ二色ノ場合ハ上下二層ニ塗色スルコト

二　標識記號ハ白字ヲ以テ表スコト但シ標識色白色ナルトキハ黑字ヲ以テ表スコト

第一號樣式

外圓　直徑一五粍

第二號樣式

外圓　直徑一五粍

## ●防毒資材檢定ニ關スル告示

昭和十四年八月一日
內務省告示第四百十七號

防毒資材取締規則第五條及第十二條ノ檢定ハ內務省防空研究所之ヲ行フモノトス

## ●警視廳防毒資材取締規則施行細則

昭和十三年五月二十八日
警視廳令第十二號

**第一條**　防毒資材取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）又ハ本令ニ依リ內務大臣又ハ警視總監ニ提出スル申請書又ハ屆書ハ主タル業務所又ハ主タル營業所所在地（防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ請賣營業若ハ第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業ヲ爲ス者ニ在リテハ各營業所所在地）所轄警察署長ヲ經由スベシ

**第二條**　規則第三條ノ申請書又ハ屆書ハ二通（正副）提出スベシ

**第三條**　規則第三條ノ見本品ハ特別ノ事情アル場合ノ外二個添附スベシ

**第四條**　規則第八條ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）商號及營業所所在地

二　販賣品ノ種類

**第五條**　規則第十一條ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）商號及營業所所在地

二　修覆場所

三　修覆品ノ種類

四　修覆設備ノ概要

五　主任技術者ノ氏名及履歷

**第六條**　第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業者修覆品ノ種類、修覆設備又ハ主任技術者ヲ變更セントスルトキハ警視總監ノ許可ヲ受クベシ

**第七條**　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日內ニ警視總監ニ屆出ヅベシ

第四號及第五號ノ場合ニ於テハ戶籍法ニ依ル屆出義務者（法人ニ在リテハ滿算人）前項ノ手續ヲ爲スベシ

一　第四條ノ屆出事項ニ變更アリタルトキ

二　第五條第一號又ハ第二號ノ事項ニ變更アリタルトキ

三　廢業シタルトキ

四　業務者又ハ業務者死亡（法人ニ在リテハ解散）シタルトキ

五　營業者又ハ業務者所在不明三十日ニ及ビタルトキ

**第八條**　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者又ハ請賣營業者ハ一年間ニ製造又ハ取引シタル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ種類、數量竝ニ年末現在高ヲ翌年一月二十日迄ニ警視總監ニ屆出ヅベシ

**第九條**　警視總監ハ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修覆營業者ニ對シ營業所、業務所、製造所又ハ修覆場所ノ設備其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ

**第十條**　第六條及至第八條ノ規定ニ違反シタルトキ若ハ第九條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

**第十一條**　防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修覆營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居人、雇人其ノ他從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

**第十二條**　本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ其ノ代表者ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

【防毒】

## ●警視廳防毒資材取締規則施行細則執行心得

昭和十三年五月二十八日
警視廳訓令甲第四十五號

**第一條**　本令ニ於テ規則ト稱スルハ防毒資材取締規則ヲ、細則ト稱スルハ防毒資材取締規則施行細則ヲ謂フ

**第二條**　所轄警察署長ハ別記樣式ニ依ル防毒資材業者臺帳ヲ備ヘ異動アル毎ニ整理スベシ主タル業務所又ハ主タル營業所所在地ヲ變更セントスル屆ニシテ變更先東京府內ナルトキハ其ノ所轄警察署ニ他ノ廳府縣ナルトキハ警視廳ニ前項ノ臺帳ヲ送付スベシ

**第三條**　規則第六條第一項又ハ規則第十一條ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ申達スベシ

一　規則又ハ細則ニ依ル所定事項ヲ具備スルヤ否ヤ

二　規則第十四條又ハ第十五條ノ行政處分ヲ受ケタル事實ナキヤ否ヤ

三　資產信用ノ程度

四　性行來歷

五　其ノ他參考事項

**第四條**　細則第三條ニ依ル見本品二個ヲ添附シ難キ特別ノ事情アルトキハ其ノ事由ヲ具シ進達スベシ

**第五條**　規則又ハ細則ニ依ル申請書又ハ屆書（規則第六條第一項及規則第十一條ノ申請書ヲ除ク）ヲ受理シタルトキハ所要事項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査シ進達スベシ

**第六條**　細則第九條ノ特別ノ事項ヲ命ズル必要アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申スベシ

**第七條**　規則第十四條又ハ第十五條ニ依ル行政處分ノ必要アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申スベシ

**第八條**　規則又ハ細則ノ違反事實ヲ認メタルトキハ警務部長ニ報告スベシ

附　則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

樣式

防毒資材業者臺帳（カード式縦十五糎橫十二糎）

| 業務又ハ營業ノ種別 | | 署長 | | 警務部 |
|---|---|---|---|---|
| 業務所又ハ營業所所在地商號及氏名 | | | | |
| 許可 | 昭和　年　月　日<br>指令第　號 | | | |
| 屆 | 昭和　年　月　日 | 主任 | | |
| | 製造所又ハ修覆場所所在地 | | | |
| | | | 取扱者 | |

| 製造、輸入、移入、譲渡、修復又ハ販賣品ノ種類 | |
|---|---|
| 製造又ハ修覆方法及其ノ設備ノ概要 | |
| 一ケ年ノ製造能力 | |
| 主任技術者氏名 | |
| 備考 | |





# 第七章　救護

## ●大東亞戰爭ニ關シ空襲被害ニ因ル防空從事者ニ對スル御下賜金ノ件

昭和十七年一月二十九日
宮內次官通達

内務次長宛

大東亞戰爭ニ關シ警察官吏、消防官吏其ノ他職務上防空ノ實施ニ從事スル官公吏、官廳防空從事者竝ニ防空從事者扶助令第二條各號ニ揭グル者及之ニ準ズベキ者防空ノ實施ニ從事中空襲ニ因リ死傷シタル場合ハ左記ニ依リ祭粢料又ハ御菓子料下賜可相成候ニ付該當者發生ノ場合ハ其ノ都度報告相成度

記

一金拾圓　祭粢料　死者
一金五圓　御菓子料　傷者

負傷者ハ治療三週間ヲ超ユル者トス

## ●大東亞戰爭ニ關シ空襲被害ニ因ル防空從事者ニ對スル御下賜金ノ件

昭和十七年一月三十日
內務省防空局長通牒

各總廳縣長官宛

今般昭和十七年一月三十日附ヲ以テ別紙寫ノ通大東亞戰爭ニ關シ防空從事者ニシテ空襲ニ因リ死傷スル者アル場合思召ヲ以テ祭粢料又ハ御菓子料ヲ下賜アラセラルル旨宮內次官ヨリ內務次官宛通達有之候條依命此段及通知候

追而之ガ該當者發生ノ場合ハ關係書類ヲ添ヘ速ニ報告相成度

【防衛】

## ●大東亞戰爭ニ關シ空襲被害ニ因ル防空從事者ニ對スル祭粢料御菓子料御下賜ノ件

昭和十七年二月十七日
警防空第一三〇號警視總監
東京府知事通牒

所管警察署長　監察官　市區町村長宛

標記ノ件ニ關シ內務省防空局長ヨリ左記寫ノ通通達アリタルヲ以テ各位ハ部僚一般竝ニ所屬防空機關ニ對シ宏大無邊ナル　聖旨ヲ傳達スルト共ニ一層職責遂行ニ邁進セシメラルル樣徹底セラルベシ

追而該當者アリタル場合ハ別記樣式ニ依リ所署課隊長ニ於テ（但シ市區町村長ハ所轄警察署長ヲ經由）警務部長（警防課）宛卽報セラルベシ

寫

宮內大臣
官房官發第一九號
昭和十七年一月二十九日

宮內次官　男爵　白根松介

內務次官　湯澤三千男殿

通達

大東亜戦争ニ関シ警察官吏、消防官吏其ノ他職務上防空ノ実施ニ従事スル官公吏、官廳防空従事者並ニ防空従事者扶助令第二條各號ニ掲グル者及之ニ準ズベキ者防空ノ実施ニ従事中空襲ニ因リ死傷シタル場合ハ左記ニ依リ祭粢料又ハ御菓子料下賜可相成候ニ付該當者發生ノ場合ハ其ノ都度報告相成度

記

一金拾圓　祭粢料　死者
一金五圓　御菓子料　傷者
負傷者ハ治療三週間ヲ超ユル者トス

内務省内防第一號
昭和十七年一月三十日

内務省防空局長

各廳府縣長官殿

今般長キ邊ヨリ別紙寫ノ通大東亜戦争ニ関シ防空従事者ニシテ空襲ニ因リ死傷スル者アル場合思召ヲ以テ祭粢料又ハ御菓子料ヲ下賜アラセラルル旨宮内次官ヨリ内務次官宛通達有之候條依命此段及通知候
追而之ガ該當者發生ノ場合ハ關係書類ヲ添ヘ速ニ報告相成度

（別記樣式）

發番號
昭和　年　月　日

警務部長殿（警防）

所署隊長
市區町村長　印

## ●防空従事者御下賜金取扱ニ關スル件

昭和十七年三月二十六日
警防空第二一一號警視總監
東京府知事通牒

所署警察部長　察察官　市區町村長宛

大東亜戦争ニ關シ空襲ニ因リ死傷シタル防空従事者ニ對シ祭粢料、御菓子料御下賜被在旨ノ通達ニ就テハ昭和十七年二月十七日警防空第一三〇號ヲ以テ通牒シタル處今般之ガ細部取扱方針並ニ手續關係書類樣式左記ノ通決定ノ旨内務省防空局長ヨリ依命通牒有之タルヲ以テ爾今該當事實發生ノ場合萬遺漏ナキヲ期セラレ度

記

防空従事者御下賜金ニ關スル取扱方針

一、官内省通達中「之ニ準ズベキ者」ノ範圍ハ差當リ左記ニ掲グル者トス
(イ) 船舶（就海中）監視ニ従事スル者
(ロ) 防護監視ニ従事スル者
(ハ) 公衛ノ防空ニ従事スル者
(ニ) 特殊技能者防空法第六條第一項ノ規定ニ依ルニ非ズシテ警防團等ニ協力シ防空ニ従事スル者
(ホ) 戰時災害保護法第七條ノ規定ニ依リ救助ノ實施ニ従事スル者
二、祭粢料ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ下賜相成ルモノトシ遺族ノ範圍及順序ハ防空従事者扶助令ノ規定ニ準ズ
御菓子料ハ負傷セル本人ニ下賜相成ルモノトス
三、官廳防空ニ係ル其ノ部内職員ニ付テハ當該官廳ニ於テ該當者ヲ調査ノ上關係書類ヲ内務省ニ送付スルコト
船舶（就海中）監視ニ従事スル者ニ付テハ通信省ニ於テ該當者ヲ調査ノ上關係書類ヲ内務省ニ送付スルコト
前二項以外ノ該當者ニ付テハ地方長官之ヲ調査シ内務省ニ報告スルコト
四、同一ノ原因ニ付他ノ御下賜金アルトキハ本御下賜金ノ取扱ヲ爲サザルコト

關係書類
一、負傷ノ場合

第三編　防空業務　第七章　救護

(イ) 地方長官報告書（樣式一）省略
(ロ) 所屬長ノ事實證明書又ハ其ノ寫（樣式二）
(ハ) 診斷書又ハ診斷書寫（治療三週間以上ヲ要シタル旨ヲ明示スルコト）

二、死亡ノ場合
(イ) 地方長官報告書（樣式一）省略
(ロ) 所屬長ノ事實證明書又ハ其ノ寫（樣式二）
(ハ) 戸籍謄本（該當者事實上婚姻關係ニ在リタル者ナルトキハ市區町村長又ハ警察署長ノ證明書）
(ニ) 死亡診斷書又ハ之ガ寫

備考
一、所屬長ハ官廳防空ニ在リテハ其ノ防空計畫ニ定ムル特設防護團長、副團長、部、班長又ハ之ニ準ズル者ヲ謂ヒ一般防空ニ在リテハ地方長官、警察、消防署長、市區町村長、防空監視隊長、副隊長、哨長、副哨長、警防團長、副團長、部、班長又ハ之ニ準ズル者ヲ謂フ
二、前號ノ者官公吏以外ノ場合ハ地方長官、警察、消防署長又ハ市區町村長ノ奥書ヲ爲スコト
三、診斷書寫ナルトキハ警察署長又ハ市區町村長ニ於テ照合濟ナル旨證明スルコト

樣式二（B五版）

事實證明書

住所
職業　氏名

右者昭和　年　月　日午前（後）　時何地ニ於テ何々（防空業務ノ種類）トシテ何々ニ従事中　何ニ因リ負傷（死亡）シタリ右證明ス




祭粢料、御菓子料ノ拜受該當者報告

| | | |
|---|---|---|
| 本籍 | | |
| 拜受該當者 | 住所 | |
| | 防空上ノ職務及職業 | |
| | 氏名 | |
| | 生年月日 | |
| 發生ノ日時場所 | | |
| 死傷ノ別並負傷ノ程度 | | |
| 事由發生狀況ノ詳細 | | |
| 所屬長ノ意見 | | |

【防衛】

年　月　日　　現住所　所屬長(官職)　氏　名印

右ハ調査シタルニ事實相違ナキモノト認ム

何市區町村長(何警察署長)　氏　名印

## ●防空從事者扶助令

昭和十六年十二月十七日
勅令第千百三十七號

改正　昭和一八年第二二號

**第一條**　防空法第十二條ノ規定ニ依ル扶助金ノ支給ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

**第二條**　扶助金ハ左ニ揭グル防空從事者（恩給法ニ依ル公務員又ハ之ニ準ズベキ者ニシテ職務上防空ノ實施又ハ其ノ訓練ニ從事スルモノヲ除ク）ニ付之ヲ給ス

一　防空監視隊員

二　警防團員

三　防空法第六條第一項又ハ第二項（同法第十條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ基ク地方長官、（東京都ニ在リテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ命令ニ依リ防空ノ實施又ハ其ノ訓練ニ從事スル者

四　防空法第九條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事スル者

五　前二號ニ揭グル者ヲ除クノ外地方官廳又ハ市町村長ノ爲ス防空ノ實施又ハ其ノ訓練ニ從事スル者ニシテ內務大臣ノ指定スルモノ

六　防空法第八條ノ七（同法第十條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依リ應急防火若ハ其ノ訓練ヲ爲シ又ハ之ニ協力スル者

七　防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ從業者ニシテ其ノ防空計畫ニ基キ防空ノ實施又ハ其ノ訓練ニ從事スルモノ

**第三條**　扶助金ノ支給者ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一　前條第一號又ハ第二號ニ揭グル者ニ付扶助金ニ在リテハ當該防空監視隊又ハ警防團ヲ設置シタル地方長官

二　前條第三號ニ揭グル者ニシテ地方長官又ハ市町村長ノ爲ス防空ノ實施又ハ其ノ訓練ニ從事スルモノニ付給スル扶助金ニ在リテハ從事令書ヲ發シタル地方長官、防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ爲ス防空ノ實施又ハ其ノ訓練ニ從事スルモノニ付給スル扶助金ニ在リテハ當該防空計畫ノ設定者

三　前條第四號又ハ第五號ニ揭グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ其ノ者ガ防空ノ實施又ハ其ノ訓練ニ從事スル地方長官

四　前條第六號ニ揭グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ其ノ者ノ從事スル應急防火又ハ其ノ訓練ニ係ル建築物ノ所在地ヲ管轄スル地方長官

五　前條第七號ニ揭グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ當該防空計畫ノ設定者

**第四條**　扶助金ハ療養費、障害扶助金、打切扶助金、遺族扶助金及葬祭費ノ五種トシ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ給ス

一　療養費ハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官公費ノ治療ヲ受ケザルモノニ之ヲ給ス

二　障害扶助金ハ傷痍又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ給ス

三　打切扶助金ハ療養ノ期間一年ヲ經過スルモ傷痍又ハ疾病ノ治癒セザル者ニ之ヲ給ス

四　遺族扶助金ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス



五　葬祭費ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ給スルコトヲ得

打切扶助金ヲ給スベキトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ給セズ

防空從事者重大ナル過失ニ因リ傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ障害扶助金又ハ遺族扶助金ハ之ヲ給セザルコトヲ得

**第五條**　防空法第十二條第二項ノ規定ニ依ル扶助金ノ額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一　地方長官ノ給スルモノニ在リテハ別表第一欄ニ揭グル金額但シ第二條第六號ニ揭グル者ニ付給スルモノニ在リテハ別表第二欄ニ揭グル金額

二　防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ給スルモノニ在リテハ當該支給者ガ別表第一欄ニ揭グル金額ノ範圍內ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ定ムル金額

防空法第十二條第二項ノ規定ニ依ル扶助金ノ額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一　地方長官ノ給スルモノニ在リテハ別表第二欄ニ揭グル金額但シ第二條第六號ニ揭グル者ニ付給スルモノニ在リテハ別表第三欄ニ揭グル金額

二　防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ給スルモノニ在リテハ當該支給者ガ別表第二欄ニ揭グル金額ノ範圍內ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ定ムル金額

障害扶助金又ハ打切扶助金ハ前二項ノ規定ニ依ル金額ノ範圍內ニ於テ傷痍疾病ノ程度、身體障害ノ輕重等ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ給スベシ

**第六條**　防空從事者障害扶助金ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ者ガ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル日ヨリ起算シ三年以內ニ當該傷痍疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ障害扶助金ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ給シタル障害扶助金ノ金額ヲ控除シテ之ヲ給ス



**第七條**　本令ニ於テ遺族トハ本人ノ配偶者、子、孫、父、母、祖父、祖母及兄弟姉妹ニシテ本人死亡ノ當時ヨリ引續キ之ト同一戶籍內ニ在ル者ヲ謂フ本人ノ死亡後二年以內ニ昭和十五年法律第四號（委託又ハ郵便ニ依ル戶籍届出ニ關スル法律）ノ適用ヲ受ケ本人死亡ノ當時ヨリ引續キ之ト同一戶籍內ニ在ルコトト爲ルニ至リタル者ニ付亦同ジ

本人死亡後分家シタル遺族又ハ分家シタル遺族ニ伴ヒ其ノ家ニ入リタル遺族ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ引續キ本人ト同一戶籍內ニ在ルモノト看做ス

屆出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同樣ノ事情ニ在ル者ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同一戶籍內ニ在ル配遇者ト看做ス

本人死亡當時胎兒タル子又ハ孫出生シタルトキハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ本人死亡ノ當時之ト同一戶籍內ニ在リタルモノト看做ス

**第八條**　遺族扶助金ヲ受クベキ遺族ノ順位ハ前條第一項ニ揭グル順序ニ依ル

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子又ハ孫數人アルトキハ本人ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ準ジ之ヲ定ム

父母及祖父母ニ付テハ養方ヲ先ニシ實方ヲ後ニス

兄弟姉妹ニ遺族扶助金ヲ給スルハ其ノ者ガ未成年又ハ不具廢疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ前條第一項後段ニ規定スル者ニ遺族扶助金ヲ給スルハ既ニ之ヲ受ケタル者ナキ場合ニ限ル

**第九條**　遺族扶助金ヲ給スベキ順位ニ在ル遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遺族扶助金ハ其ノ次順位ニ在ル遺族ニ之ヲ給ス

一　死亡シタルトキ

二　所在不明ナルトキ

三　分家ノ場合ヲ除クノ外同一戸籍内ニ在ラザルニ至リタルトキ

**第十條**　扶助金ヲ受クベキ者ガ扶助金ヲ受クベキ事由ノ生ジタル日ヨリ起算シ二年以内ニ請求ヲ爲サザルトキハ當該扶助金ハ之ヲ給セズ

**第十一條**　扶助金ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

**第十二條**　扶助金ヲ受クベキ者同一ノ原因ニ付他ノ法令ニ依ル扶助、給付竝ハ給與ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ扶助、給付又ハ給與ガ本令ノ扶助金ト同種ノモノナルトキハ本令ノ扶助金ハ之ヲ給セズ但シ其ノ額ガ本令ノ扶助金ノ額ヨリ少額ナルトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ他ノ法令ニ依ル扶助、給付又ハ給與ニシテ本令ノ扶助金ト同種ノモノハ内務大臣之ヲ指定ス

**附則**

本令ハ昭和十六年法律第九十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十六年十二月二十日ヨリ施行）

**附則**

本令ハ昭和十八年法律第百四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十九年一月九日ヨリ施行）

（別表）

| 種別 | 第一欄 | 第二欄 | 第三欄 |
|---|---|---|---|
| 療養費 | 療養費 | 療養費 | 療養費 |
| 障害扶助金 | 終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルモノ | 一、五〇〇円 | 一、〇〇〇円 | 七〇〇円 |
| | 終身業務ニ服スルコト能ハザルモノ | 一、〇〇〇 | 七〇〇 | 五〇〇 |
| | 其ノ他身體ニ著シキ障害ヲ存スルモノ又ハ女子ニシテ其ノ外號ニ醜痕ヲ殘シタルモノ | 七〇〇 | 五〇〇 | 三五〇 |

## ●防空従事者扶助令第二條第五號ノ規定ニ依ル指定

昭和十六年十二月二十七日
内務省告示第六百八十九號

學校報國隊員

## ●防空従事者扶助令第十二條第二項ニ依ル指定（同令ノ扶助金ト同種ノモノノ指定）

昭和十七年六月十三日
内務省告示第四百五十三號

改正　昭和十九年一月第二號

防空従事者扶助令第十二條ノ規定ニ依リ左ニ掲グル上欄ノ他ノ法令ニ依ル扶助、給付又ハ給與ハ下欄ノ同令ノ扶助金ト同種ノモノトシテ之ヲ指定ス

【防衛】





| 基礎法令 | 種目 | 備考 |
|---|---|---|
| 他ノ法令ニ依ル扶助、給付又ハ給與 | | 防空従事者ニ依ル扶助金 |
| 健康保険法及職員健康保険法 | 療養ノ給付又ハ療養費ノ支給 | 療養費 | 被保険者ヲシテ負擔セシムル金額ヲ除ク |
| | 埋葬料 | 葬祭費 | |
| 雇員扶助令及傭人扶助令 | 療治料 | 療養費 | |
| | 障害扶助料 | 障害扶助金 | |
| | 打切扶助料 | 打切扶助金 | |
| | 遺族扶助料 | 遺族扶助金 | |
| | 葬祭料 | 葬祭費 | |
| 政府職員ノ相互救濟ヲ目的トスル組合ニ關シ規定スル勅令 | 雇員扶助令及傭人扶助令ノ療治料ニ類スルモノ | 療養費 | 組合員ヲシテ負擔セシムル金額ヲ除ク |
| | 雇員扶助令及傭人扶助令ノ障害扶助料ニ類スルモノ | 障害扶助金 | |
| | 雇員扶助令及傭人扶助令ノ遺族扶助料ニ類スルモノ | 遺族扶助金 | |
| | 雇員扶助令及傭人扶助令ノ葬祭料ニ類スルモノ | 葬祭費 | |
| 戰時災害保護法 | 障害給與金 | 障害扶助金又ハ打切扶助金 | 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者防空従事者扶助令ニ依リ扶助金ヲ給スベキトキニ限ル |
| | 打切給與金 | 打切扶助金 | |
| | 遺族給與一金 | 遺族扶助金 | |
| | 葬祭給與金 | 葬祭費 | |

【防衛】

## ●防空救護組織要綱ニ關スル件

昭和十四年十月十四日
內務省發警第一二四號

防空救護ニ關シ今般別紙ノ通之ガ組織要綱決定相成候ニ付テハ左記事項ニ留意ノ上速ニ防空救護組織ヲ整備シ空襲ニ因ル傷病者ノ救護上遺憾ナキヲ期セラレ度依命此段及通牒候也

追テ本件ニ關シテハ別添ノ通日本醫師會長、日本齒科醫師會長、日本藥劑師會長宛通牒致置候條御了知相成度

一　本要綱ハ防空救護組織ノ一標準ヲ示セルモノナルニ付各地方ノ實情ニ鑑ミ之ニ適應スル如ク計畫スルコト

二　防空救護組織ニ付テハ道縣防空計畫ニ其ノ大綱ヲ規定シ之ニ基キ警察署長又ハ市町村長ヲシテ細目的具體的事項ヲ定メシムルコト

三　本要綱ニ基ク計畫ノ實施ニ當リテハ關係方面特ニ醫師會、齒科醫師會、藥劑師會等トノ連絡協調ヲ緊密ニシ其ノ積極的協力ヲ得ルニ努ムルコト

四　防空救護機關ノ業務要領ニ關シテハ道テ之カ指導要領ヲ定メ通牒ノ見込ナルモ取敢ヘス各道府縣ニ於テ適宜之ヲ定メ指導敎養ノ徹底ニ努ムルコト

### 防空救護組織要綱

#### 第一　總則

一　空襲ニ因ル傷病者（毒瓦斯被毒者ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ救護ハ左ノ救護機關ニ於テ之ヲ行フコト

（一）警防團救護部（班）

（二）救護所

（三）特設救護班

二　各救護機關ノ組織、編成、擔任區域、業務等ニ關シテハ法令及本要綱ニ依ルノ外道府縣防空計畫又ハ市町村防空計畫ノ定ムル所ニ依ルコト

三　本要綱ハ原則トシテ防空法第二條ノ規定ニ依ル指定市町村ノ區域ニ之ヲ適用スルモノナルコト

#### 第二　警防團救護部（班）

一　警防團救護部（班）ハ空襲時現場ニ於ケル傷病者ノ救急處置、收容等ノ應急救護業務ニ從事スルコト

二　警防團救護部（班）ハ必要ニ應ジ其ノ區域內ニ應急處置所ヲ設置スルコト

三　警防團救護班（班）ハ常ニ救護所、特設救護班等ト緊密ナル連絡ヲ保持シ傷病者ノ救護上遺漏ナキヲ期スルコト

四　警防團救護部（班）ハ消防機關、防毒機關ト特ニ緊密ナル連絡ヲ保持スルコト

五　地方長官ハ道府縣醫師會ト協議ノ上警防團救護部（班）ノ部（班）長等ニハ成ルベク醫師ヲ以テ之ニ充ツルコト

#### 第三　救護所

一　救護所ハ主トシテ空襲ニ因ル傷病者ノ治療、收容ヲ擔當スルコト

二　救護所ハ成ルベク既存ノ救護所防護室、官公署ノ管理スル診療所、一般診療所及之ニ所屬スル醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦等ヲ以テ之ニ充ツルコト

尙一時ニ多數患者ノ救護ヲ要スル場合アルベキヲ豫想シ學校、寺院其ノ他適當ト認ムル場所ヲ救護所トシテ指定シ置クコト

三　救護所ハ敏速ニ救護ノ處置ヲ講ジ得ル樣成ルベク多數之ヲ配置スルコト

【防衛】



四　警察署長又ハ市町村長ハ道府縣防空計畫又ハ地方長官ノ指示ニ基キ關係官公署及醫師會、齒科醫師會又ハ藥劑師會ト協議シ當該市町村ノ區域內適當ナル箇所ニ救護所ヲ開設シ區域內ノ醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦其ノ他ノ者ヲシテ救護ニ從事セシムル計畫ヲ設定スルコト

五　警察署長又ハ市町村長ハ前項ノ計畫ニ基キ看護婦會、女子青年團等ト空襲時救護ニ從事スベキ者ノ出動等ニ關シ豫メ協議ヲ爲シ置クコト

六　醫師會、齒科醫師會ハ第四項ノ計畫ニ基キ所屬ノ醫師、齒科醫師ヲシテ救護所ヲ開設セシメ救護業務ニ從事セシムルコト

藥劑師會ハ第四項ノ計畫ニ基キ所屬ノ藥劑師ヲシテ救護所ニ於テ調劑ノ業務ニ從事セシムルコト

七　救護所ノ所有者又ハ管理者ハ警戒警報發令アリタルトキハ直ニ救護所ヲ開設シ何時ニテモ救護ヲ爲シ得ル如ク設備資材其ノ他諸般ノ準備ヲ爲スコト

八　救護所ノ所有者又ハ管理者前項ノ準備完了シタルトキハ救護所ノ所在及入口ヲ署明ニ標示シ夜間ハ標識燈ヲ揭ゲルコト

#### 第四　特設救護班

一　道府縣、市町村竝ニ地方長官又ハ市町村長ヨリ指定セラレタル者ハ救護所ニ於テ救護ニ從事スル者以外ノ所屬ノ現有機關ヲ以テ直屬救護班ヲ設ケ地方長官、警察署長又ハ市町村長ノ指示ヲ受ケ警防團救護部（班）又ハ救護所ノ應援ニ從事セシムルコト

二　醫師會、齒科醫師會ハ警防團救護部（班）又ハ救護所ニ於テ救護ニ從事スル者以外ノ所屬ノ醫師、齒科醫師ヲ以テ適宜救護班ヲ設ケ地方長官、警察署長又ハ市町村ノ指示ヲ受ケ他ノ救護機關ノ應援其ノ他救護業務ニ從事セシムルコト

【防衛】

# 第四編　建築關係

# 第四編　建築關係

## 第一章　建築一般

### 第一節　市街地建築物法關係

### ●市街地建築物法

大正八年四月五日
法律第三十七號

改正　昭和九年第四六號、一三年第二九號

**第一條**　主務大臣ハ本法ヲ適用スル區域内ニ住居地域、商業地域又ハ工業地域ヲ指定スルコトヲ得

**第二條**　建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ住居地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ住居地域内ニ住居專用地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル住宅以外ノ建築物ノ建築ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

**第三條**　建築物ニシテ商業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

**第四條**　工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衞生上有害若ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衞生上有害又ハ保安上危險ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工業地域内ニ於テ其ノ建築ニ付特別地區ヲ指定スルコトヲ得

主務大臣必要ト認ムルトキハ工業地域内ニ工業專用地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル工場、倉庫其ノ他之ニ準ズベキモノ以外ノ建築物ノ建築ノ禁止又ハ制限ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

**第五條**　第二條第一項、第三條及前條第一項ニ規定スル建築物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第六條**　前四條ノ規定ノ適用ニ付テハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築スルモノト看做ス

**第七條**　道路幅ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

**第八條**　建築物ハ其ノ敷地ガ命令ノ定ムル所ニ依リ道路敷地ニ接スルニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第九條**　建築物ハ建築線ヨリ突出シテ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ建築物ノ地盤面下ニ在ル部分ハ此ノ限ニ在ラズ

**第十條**　行政官廳ハ市街ノ計畫上必要ト認ムルトキハ建築線ニ面シテ建築スル建築物ノ壁面ノ位置ヲ指定スルコトヲ得

**第十一條**　建築物ヲ建築スル場合ニ於ケル其ノ高又ハ其ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關シテハ地方ノ狀況、地域及地區ノ種別、土地ノ情態、建築物ノ構造、前面道路ノ幅員等ヲ參酌シ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

主務大臣必要ト認ムルトキハ高度地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付高ノ最低限度若ハ最高限度ヲ定メ又ハ空地地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ニ付床面積ノ敷地面積ニ對スル割合及敷地ノ境界線ヨ

リノ距離ノ限度ヲ定ムルコトヲ得

**第十二條**　主務大臣ハ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ衞生上、保安上又ハ防空上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

**第十三條**　主務大臣ハ火災豫防上必要ト認ムルトキハ防火地區ヲ指定シ其ノ地區內ニ於ケル防火設備又ハ建築物ノ防火構造ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

防火地區內ニ於テハ建物ノ部分ヲ爲ス防火壁ハ土地ノ境界線ニ接シ之ヲ設クルコトヲ得

**第十四條**　主務大臣ハ學校、集會場、劇場、旅館、工場、倉庫、病院、市場、屠場、火葬場其ノ他命令ヲ以テ指定スル特殊建築物ノ位置、構造、設備又ハ敷地ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

**第十五條**　主務大臣ハ美觀地區ヲ指定シ其ノ地區內ニ於ケル建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ美觀上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

**第十六條**　主務大臣ハ建築物ノ工事執行ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

**第十七條**　行政官廳ハ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ除却、改築、修繕、使用禁止、使用停止其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一　保安上危險ト認ムルトキ

二　衞生上有害ト認ムルトキ

三　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ建築物ヲ建築シタルトキ

**第十八條**　本法適用區域ノ設定若ハ變更、地域若ハ地區ノ指定若ハ變更其ノ他ノ場合ニ於テ從來存在スル建築物カ其ノ後新ニ建築セラレタリトセハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ建築物ヲ建築シタルトキ

**第十九條**　建築主、建築工事請負人、建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若ハ占有者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

**第二十條**　前條ノ規定ハ前條ニ揭クル者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者其ノ營業ニ關シ前條ノ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條ニ揭クル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

前條ニ揭クル者法人ナルトキハ明治三十三年法律第五十二號ヲ準用ス

**第二十一條**　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

**第二十二條**　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

【防衞】

**第二十三條**　本法適用ノ區域ハ主務大臣ノ指定スル市街地トス

特別ノ必要アル場合ニ於テハ主務大臣ハ前項ノ市街地ノ外ニ亙リ本法適用ノ區域ヲ指定スルコトヲ得

**第二十四條**　本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築工事中ノ建築物、建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物又ハ建築物ニ非サル工作物ニ之ヲ準用スルコトヲ得

**第二十五條**　本法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要トセサル建築物ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二十六條**　本法ニ於テ道路ト稱スルハ幅員四メートル以上ノモノヲ謂フ

幅員四メートル未滿二・七メートル以上ノ道路及道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於ケル其ノ計畫ノ道路ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ道路ト看做ス

## 附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（大正九年勅令第五百三十九號ヲ以テ大正九年十二月一日ヨリ施行ス）

附　則　（昭和九年法律第四十六號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（昭和九年勅令第三百三十九號ヲ以テ昭和十年二月一日ヨリ施行）

附　則　（昭和十三年法律第二十九號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（昭和十四年勅令第十號ヲ以テ昭和十四年二月一日ヨリ施行）

本法施行前市街地建築物法施行令第十一條ノ規定ニ依リ指定シタル區域及其ノ區域內ニ於ケル建築物ニ付定メタル高ノ最低限度ハ各之ヲ本法第十一條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル高度地區及其ノ地區內ニ於ケル建築物ニ付定メタル高ノ最低限度ト看做ス

【防衞】

# ●市街地建築物法施行令

大正九年九月三十日
勅令第四百三十八號

改正　大正一二年第三九五號、一三年第一五二號、第三〇四號、昭和四年第一一三號、六年第二九四號、八年第三三七號、九年第三四〇號、一四年第一一號

**第一條**　建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ住居地域內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ第一號乃至第四號ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳住居ノ安寧ヲ害スル虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得ズト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　常時使用スル原動機馬力數ノ合計三ヲ超過スル工場

二　左ニ揭グル事業ヲ營ム工場

イ　玩具用普通火工品ノ製造

ロ　「アセチレンガス」ヲ用フル金屬ノ工作（溶解「アセチレンガス」ヲ用フルモノヲ除ク）

ハ　引火性溶劑ヲ用フル「ドライクリーニング」又ハ「ドライダイング」

ニ　「セルロイド」ノ加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工

ホ　印刷用「インキ」又ハ繪具ノ製造

ヘ　塗料ノ吹付

ト　亞硫酸「ガス」ヲ用フル物品ノ漂白

チ　骨炭其ノ他動物質炭ノ製造

リ　羽又ハ毛ノ洗滌、染色又ハ漂白

ヌ　靈棟、屑綿、屑紙、屑絲、屑毛ノ類ノ消毒、選別、洗滌又ハ漂白ヲ爲ス製綿、古綿ノ再製、起毛、反毛又ハ「フエルト」ノ製造ニシテ原動機ヲ用フルモノ

ヲ　骨、角、牙、蹄、貝殼ノ挽割若ハ乾燥研磨又ハ金屬ノ乾燥研磨ニシテ原動機ヲ用フルモノ

ワ　鑛物、岩石、土砂、硫黄、金屬、硝子、煉瓦、陶磁器、骨又ハ貝殼ノ粉碎ニシテ原動機ヲ用フルモノ

カ　墨、懷爐灰又ハ煉炭ノ製造

ヨ　活字又ハ金屬工藝品ノ鑄造

タ　瓦、煉瓦、土器類、陶磁器、人造砥石、坩堝又ハ琺瑯鐵器ノ製造

レ　硝子ノ製造又ハ砂吹

ソ　動力機ヲ用フル鍛冶

三　室面積ノ合計五十平方メートルヲ超過スル自動車ノ車庫

四　劇場、活動寫眞館、演藝場又ハ觀物場

五　待合又ハ貸座敷

六　倉庫業ヲ營ム倉庫

七　火葬場又ハ産穢物處理場

八　屠場又ハ死畜處理場

九　塵芥又ハ汚物ノ處理場

十　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外行政官廳住居ノ安寧ヲ害スル虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スルモノ

**第二條**　建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商業地域內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ第一號又ハ第二號ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳商業ノ利便ヲ害スル虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得ズト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　常時使用スル原動機馬力數ノ合計十五ヲ超過スル工場但シ日刊新聞印刷所ヲ除ク

二　前條第二號ニ該當スルモノ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ヲ營ムモノヲ除ク

イ　容量三十リツトル以下ノ「アセチレンガス」發生器ヲ用フル金屬ノ工作

ロ　馬力數ノ合計〇・二五以下ノ原動機ヲ用フル塗料ノ吹付

ハ　原動機ヲ使用スル二臺以下ノ研磨機ニ依ル金屬ノ乾燥研磨

三　前條第七號乃至第九號ニ該當スルモノ

四　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外行政官廳商業ノ利便ヲ害スル虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スルモノ

**第三條**　建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工業地域內ニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ第一號、第二號又ハ第四號ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳衞生上有害ノ若ハ保安上危險ノ虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得ズト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　常時使用スル原動機馬力數ノ合計五十ヲ超過スル工場但シ印刷工場、精密機器製作工場、製氷工場及冷凍工場ヲ除ク

二　左ニ揭グル事業ヲ營ム工場

イ　銃砲火藥類取締法ノ火藥類ノ製造

ロ　鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類、硝酸鹽類、黃燐、赤燐、硫化燐、金屬「カリウム」、金屬「ナトリウム」、「マグネシウム」、過酸化水素水、過酸化「カリ」、過酸化「ソーダ」、過酸化「バリウム」、二硫化炭素、「メタノール」、「アルコール」、「エーテル」、「アセトン」、醋酸「エステル」類、「ニトロセルロース」、「ベンゾール」、「トルオール」、「キシロール」、「ピクリン」酸、「ピクリン」酸鹽類、「テレビン」油又





ハ　石油類ノ製造

ニ　燐寸ノ製造

ホ　「セルロイド」ノ製造

ヘ　「ニトロセルロース」製品ノ製造

ト　「ビスコース」製品ノ製造

チ　合成染料若ハ其ノ中間物、顏料又ハ塗料ノ製造（漆又ハ水性塗料ノ製造ヲ除ク）

リ　溶劑ヲ用フル「ゴム」製品又ハ芳香油ノ製造

ヌ　乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造

ル　溶劑ヲ用フル塗料ノ加熱乾燥又ハ鍍付

ヲ　石炭「ガス」類又ハ「コークス」ノ製造

ワ　壓縮「ガス」又ハ液體「ガス」ノ製造（製氷又ハ冷凍ヲ目的トスルモノヲ除ク）

カ　電氣用「カーボン」ノ製造

ヨ　金屬厚板又ハ形鋼ノ工作ニシテ鉚打又ハ塡隙作業ヲ伴フモノ

タ　鐵釘類又ハ鋼球ノ製造

レ　伸線、伸管又ハ「ロール」ヲ用フル金屬ノ壓延

ソ　製紙

ツ　製革、製膠又ハ毛皮若ハ骨ノ精製

ネ　「アスファルト」ノ精製

ナ　「アスファルト」、「コールタール」、木「タール」、石油蒸溜產物又ハ其ノ殘渣ヲ原料トスル製品

ラ　「セメント」、石膏、消石灰、生石灰又ハ「カーバイド」ノ製造

ム　金屬ノ熔融又ハ精煉（活字又ハ金屬工藝品ノ製造ヲ目的トスルモノヲ除ク）

ウ　電氣用「カーボン」ノ製造

キ　金屬厚板又ハ形鋼ノ工作ニシテ鉚打又ハ塡隙作業ヲ伴フモノ

ノ　鐵釘類又ハ鋼球ノ製造

オ　伸線、伸管又ハ「ロール」ヲ用フル金屬ノ壓延

三　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外行政官廳衞生上有害ノ又ハ保安上危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル事業ヲ營ム工場

四　第二號イ、ロ、ハ、ニ及ヘノ物品、可燃性「ガス」又ハ「カーバイド」ノ貯藏又ハ處理ニ供スルモノ

五　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外行政官廳衞生上有害ノ又ハ保安上危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ貯藏又ハ處理ニ供スルモノ

**第三條ノ二**　前三條ノ規定ニ依リ現在ノ地ニ建築スルコトヲ得ザル種類ニ屬スル建築物ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ左記各號ニ規定スル制限內ニ於テ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

一　建築物ノ敷地ヲ擴張セザルコト

二　建築物ノ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ增加スベキ建築面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ建築面積ノ二分ノ一ヲ超過セザルコト

三　建築物ノ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ增加スベキ床面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ床面積ヲ超過セザルコト

四　工場ノ常時使用スル原動機馬力數ヲ增加スル場合ニ於テ增加スベキ馬力數ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際常時使用スル馬力合計數ヲ超過セザルコト

五　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外用途ノ變更ニ付テハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ用途ニ類似スル用途又ハ設備ヲ變更セズ若ハ之ニ些少ノ變更ヲ加フルニ依リ替ムコトヲ得ル用途ニ限ルコト

行政官廳ハ地域ノ種別、土地ノ狀況、事業ノ種類、作業ノ方法、建築物ノ構造設備、除害ノ設備又ハ裝置等ヲ參酌シ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ前項第二號乃至第四號ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

第二十六條ノ規定ニ依リ建築ノ許可ヲ受ケタル建築物ハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ト看做ス

**第四條**　建築物ノ高ハ住居地域內ニ於テハ二十メートルヲ、住居地域外ニ於テハ三十一メートルヲ超過スルコトヲ得ス但シ建築物ノ用途ニ類似スル用途ニ供スル公園、廣場、道路其ノ他ノ空地アル場合ニ於テ行政官廳交通上、衞生上及保安上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第五條**　煉瓦造建築物、石造建築物及木造建築物ハ高十三メートル軒高九メートルヲ、木骨煉瓦造建築物及木骨石造建築物ハ高八メートル軒高五メートルヲ超過スルコトヲ得

前項ノ石造ニハ人造石造及「コンクリート」造ヲ、木造ニハ土藏造ヲ包含ス

第一項ノ木骨煉瓦造建築物トハ厚十センチメートル以上ノ煉瓦積ヲ以テ木骨ヲ被覆又ハ塡充シテ外壁ヲ構成スルモノヲ謂ヒ木骨石造建築物トハ厚十センチメートル以上ノ石、人造石又ハ「コンクリート」ヲ以テ木骨ヲ被覆又ハ塡充シテ外壁ヲ構成スルモノヲ謂フ

一建築物ニシテ外壁二種以上ノ構造ヨリ成ルモノニ付テハ第一項ノ規定ノ適用ニ關シ制限ノ最嚴ナルモノニ依ル、

**第六條**　前二條ニ規定スル建築物ノ高トハ地盤面ヨリ建築物ノ最高部迄ノ高ヲ謂フ

前條第一項ノ軒高トハ地盤面ヨリ建築物ノ外壁上端迄ノ高、外壁上端ニ扶欄、扶壁又ハ軒蛇腹アルトキハ其ノ最高部迄ノ高、田軒ノ場合ニハ軒桁上端迄ノ高ヲ謂フ但シ切妻ノ部分ハ軒高ニ之ヲ算入セス

前二項ノ地盤面ニ高低アルトキハ行政官廳其ノ地盤面ヲ認定ス

**第七條**　建築物各部分ノ高ハ其ノ部分ヨリ建築物ノ敷地ノ前面道路ノ對側境界線迄ノ水平距離ノ一倍四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス且其ノ前面道路幅員ノ一倍四分ノ一ニ八メートルヲ加ヘタルモノヲ限度トス但シ住居地域外ニ在ル建築物ニ付テハ一倍四分ノ一ヲ一倍二分ノ一トス

前項ノ高トハ前面道路ノ中央ヨリノ高ヲ謂ウ

**第八條**　建築物ノ敷地カ幅員同シカラサル二以上ノ道路ニ接スル場合ニ於テ一ノ道路ノ境界線迄ノ水平距離カ其ノ道路幅員ノ一倍二分ノ一以內ニシテ且二十五メートル以內ノ區域ノ內ニ在ル建築物各部分ノ高ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ニ關シ其ノ道路ヲ前面道路ト看做ス

前項ノ規定ニ依ル前面道路二以上アル場合ニ於テ其ノ幅員同シカラサルトキハ幅員小ナル前面道路ハ幅員最大ナル前面道路ト同一ノ幅員ヲ有スルモノト看做ス

第一項ノ場合ニ於テ同項ニ規定スル區域ノ外ニ在ル建築物各部分ニ付テハ幅員最大ナル道路ヲ前面道路ト看做ス

【防衞】

**第九條**　道路境界線カ建築線ト一致セサル場合ニ於テハ道路境界線又ハ道路幅員ニ關スル前二條ノ規定ノ適用ニ關シ建築線ヲ其ノ道路境界線ト看做ス

**第十條**　建築物ノ敷地左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前三條ノ規定ニ拘ラス行政官廳別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一　公園、廣場、河、海ノ類ニ接スルトキ

二　前面道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類アルトキ

三　其ノ地盤面ト前面道路ノ路面トノ高低ノ差著シキトキ

四　高低ノ差著シキ二以上ノ道路ニ接スルトキ

五　道路ノ終端ニ位スルトキ

**第十一條**　削除

**第十二條**　煙突、棟飾、避雷針、旗竿、風見竿等建築物ノ屋上ニ突出スルモノノ高ハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セス

裝飾塔、物見塔、屋窓、昇降機塔、水槽等建築物ノ屋上突出部ノ高ハ行政官廳命令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ高ニ之ヲ算入セサルコトヲ得

**第十三條**　本令中高ニ關スル規定ハ煙突、物見塔、扛重機、水槽、氣槽、無線電信用電柱ノ類及工業用建築物ニシテ行政官廳其ノ用途ニ依リ已ムヲ得スト認メ許可シタルモノニ付之ヲ適用セス

本令中高ニ關スル規定ハ社寺建築物ニシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ付之ヲ適用セス

**第十四條**　建築物ノ建築面積ハ建築物ノ敷地ノ面積ニ對シ商業地域內ニ於テハ十分ノ八、商業地域外ニ於テハ十分ノ六ヲ超過スルコトヲ得ス但シ行政官廳特ニ指定シタル角地其ノ他ノ區域ニ於ケル建築物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス



**第十五條**　本令ニ於テ建築面積トハ建築物ノ水平斷面ニ於ケル外壁ノ又ハ之ニ代ルヘキ柱ノ中心線內面積中最大ナルモノヲ謂フ但シ地階ニシテ其ノ外壁ノ高地盤面上二メートル以下ノモノノ部分ノ面積ハ之ヲ建築面積ト看做サス

軒、庇、桔出縁ノ類カ前項ノ中心線ヨリ突出スルコト一メートルヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ外端ヨリ一メートルヲ後退スル線ヲ以テ前項ノ中心線ト看做ス

第十四條ノ建築物ノ敷地ノ面積トハ建築物ノ敷地ノ水平斷面ノ面積中最大ナルモノヲ謂フ

**第十六條**　本令ニ於テ建築物ノ敷地トハ一棟ノ建築物ニ屬スル一團ノ土地ヲ謂フ

**第十六條ノ二**　建築物ノ敷地カ二以上ノ地域又ハ地區ニ跨ル場合ニ於テ第一條乃至第三條若ハ第十四條ノ規定又ハ住居專用地區、工業地域內特別地區、工業專用地區若ハ空地地區ニ關スル制限ノ適用ニ關シテハ制限ノ最嚴ナルモノニ依ル但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第十七條**　市街地建築物法第十八條第二項ノ規定ニ依リ損失ヲ補償スヘキ場合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限ル

一　地域、住居專用地區、工業地域內特別地區又ハ工業專用地區ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物ノ使用禁止又ハ建築物主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

二　美觀地區ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

三　建築線ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物ノ主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

【防衞】

四　建築線ニ面スル建築物ノ壁面ノ位置ノ指定ニ基キ建築物主要構造部ノ變更又ハ除却ヲ命シタル場合

五　建築物ノ高又ハ建築物ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關スル規定ニ基キ建築物主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

**第十八條**　市街地建築物法第十八條第二項ノ規定ニ依リ補償スヘキ損失ハ通常生スヘキ損失ニ限ル

**第十九條**　前二條ノ規定ニ依ル損失補償ノ請求ハ市街地建築物法第十八條第一項ノ措置ヲ命セラレタル者之ヲ命セラレタル日ヨリ起算シ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ得

**第二十條**　市街地建築物法第十八條第二項ノ公共團體トハ同法第二十三條ノ規定ニ依ル同法適用區域ノ關スル市町村トス

**第二十一條**　補償義務ノ有無及補償ノ金額ハ補償審査會之ヲ裁定ス

**第二十二條**　補償審査會ハ第二十條ニ規定スル市街地建築物法第十八條第二項ノ公共團體毎ニ之ヲ置ク

補償審査會ハ會長一人及委員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス

**第二十三條**　會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

| | |
|---|---|
| 一　關係各廳高等官 | 四人 |
| 二　前條第一項ノ公共團體ノ吏員 | 二人 |
| 三　前號ノ公共團體ノ議會ノ議員 | 四人 |
| 四　學識經驗アル者 | 二人 |

前項第一號、第二號及第四號ノ委員ハ主務大臣之ヲ命シ第三號ノ委員ハ其ノ議會ニ於テ之ヲ選舉ス

**第二十四條**　補償審査會ニ關シテハ土地收用法第二十七條乃至第三十一條、第三十七條、第三十九條、第四十條第一項、第二項、第四十二條乃至第四十五條、第六十九條、第七十二條及第八十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十條ノ公共團體ノ二以上ニ亙ル建築物ニ關シテハ關係補償審査會合同シテ會議ヲ開クヘシ

**第二十五條**　市街地建築物法第十八條ノ規定ハ建築工事中ノ建築物及建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物ニ之ヲ準用ス

**第二十六條**　行政官廳ハ建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物ニシテ其ノ建築竣成ノ後ニ於テ市街地建築物法第十八條第一項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スル必要ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

**第二十六條ノ二**　建築物ノ敷地ヲ造成スル爲ニスル擁壁ニ對シテハ市街地建築物法第九條、第十二條、第十五條乃至第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ準用ス

**第二十七條**　市街地建築物法ハ國寶保存法又ハ史蹟名勝天然紀念物保存法ノ適用ヲ受クル建築物ニ付之ヲ適用セス

**第二十八條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳支障ナシト認ムルモノニ對シテハ市街地建築物法第二條乃至第六條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

一　鳥居、形像、紀念塔ノ類
二　交通信號塔、公共便所ノ類
三　陸橋ノ類
四　地下停車場ノ類
五　高架工作物内ニ設クル倉庫、店舖ノ類

**第二十九條**　博覽會建築物、觀覽場、飾門、飾塔、足代、棧橋其ノ他ノ假設建築物ニシテ行政官廳支障ナシト認ムルモノニ對シテハ市街地建築物法第二條乃至第六條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

【防衛】

**第二十九條ノ二**　市街地建築物法第二十六條第二項ノ規定ニ依リ道路ト看做サレタル計畫ノ道路ノ境域内ニ於テ行政官廳支障ナシト認ムルトキハ同法第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラス存續期限ヲ附シ假設建築物ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

**第三十條**　幅員四メートル未滿二・七メートル以上ノ道路ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ之ヲ市街地建築物法ノ道路ト看做ス

一　行政官廳市街地ノ狀況ニ依リ特ニ指定シタルモノ

二　土地區劃整理設計又ハ行政官廳ノ指定シタル建築線ニ基キ築造セラレタルモノ

幅員四メートル以上ノ道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於テ行政廳其ノ計畫ヲ告示シタルトキハ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ市街地建築物法ノ道路ト看做ス

## 附則

本令ハ市街地建築物法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# ●市街地建築物法施行規則

大正九年十一月九日
内務省令第三十七號

改正　大正一一年第二一號、一二年第二六號、一三年第一五號、第三〇號、一四年第一號、一五年第五三號
昭和七年第一號、九年第三八號、一二年第二五號、一四年第一號、一八年第五三號、第七六號

## 第一章　通則

**第一條**　本則ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一　居室トハ居住ノ用ニ供スル室ヲ謂フ

支關、廊下、階段室、外套室、便所、手洗所、浴室、物置、納戸、暗室ノ類ハ居室ト看做サス

二　地階トハ其ノ床面地盤面下ニ在ル階ヲ謂フ但シ天井高ノ三分ノ二以上ガ地盤面上ニ在ル階ハ之ヲ第一階ト看做ス

三　屋階トハ屋根裏ニ設ケタル階ヲ謂フ但シ地方長官其ノ構造、用途、床面積其ノ他ノ狀況普通階ト大差ナシト認ムルモノヲ除ク

四　床高トハ床面ヨリ其ノ直下地面迄ノ距離ヲ謂フ

五　階高トハ其ノ階ノ床面ヨリ其ノ直上階ノ床面迄ノ高ヲ謂フ但シ最上階ニ在リテハ其ノ天井高ヲ謂フ

六　天井高トハ室ノ床面ヨリ天井迄ノ高ヲ謂フ一室ニシテ天井高異ル部分アルトキハ其ノ室ノ床面積ヲ以テ容積ヲ除シタルモノヲ謂フ

七　外壁トハ建築物ノ外側ヲ構成スル壁體ヲ謂フ

八　間壁トハ建築物ノ内部ヲ區劃スル壁體ヲ謂フ

九　削除

十　不燃材料トハ煉瓦、石、人造石、「コンクリート」、石綿盤、瓦、金屬、陶磁器、硝子、「モルタル」、漆喰ノ類ヲ謂フ

十一　耐水材料トハ煉瓦、石、人造石、「コンクリート」、鉛、「アスファルト」、陶磁器ノ類ヲ謂フ

十二　石造トハ石造、人造石造及「コンクリート」造ヲ謂フ

十三　壁體ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　厚一尺以上ノ煉瓦造又ハ石造

ロ　厚四寸以上ノ鐵筋「コンクリート」造

ハ　厚一尺以上ノ孔煉瓦造、厚六寸以上ノ鐵筋「コンクリート」、ホロブロック」造、厚五寸以上ノ鐵筋「コンクリート」、「ブロック」造ノ類ニシ

ヲ地方長官本號イ又ハロニ規定スル壁體ト同等以上ノ耐火的效力アリト認ムルモノ

十四　床又ハ屋根ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵筋「コンクリート」造

ロ　鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造

ハ　煉瓦造又ハ石造

ニ　最下階ノ床ニ在リテハ土間、叩、石敷ノ類

ホ　鐵骨ヲ有シ「メタルラス、コンクリート」、網入硝子ノ類ヲ以テ葺スル屋根ニシテ地方長官ノ承認セルモノ

十五　柱ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　煉瓦造又ハ「コンクリート」造

ロ　鐵筋「コンクリート」造

ハ　鐵柱ニシテ耐火的ニ有效ナル被覆ヲ爲シタルモノ

ニ　石造ニシテ地方長官ノ承認セルモノ

十六　階段ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造

ロ　鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造

ハ　鐵造

十七　防火戸ハ甲種防火戸及乙種防火戸ノ二種トス

甲種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵製ニシテ鐵板ノ厚一・五ミリメートル以上ノモノ

ロ　鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚三・五センチメートル以上ノモノ

ハ　厚十五センチメートル以上ノ土藏扉

ニ　其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

乙種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵製ニシテ鐵板ノ厚一・五ミリメートル未滿ノモノ

ロ　鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚三・五センチメートル未滿ノモノ

ハ　木造又ハ鐵造ニシテ屋外ニ面スル部分ヲ厚三センチメートル以上ノ「モルタル」、漆喰又ハ適當ナル厚ノ石綿盤ノ類ヲ以テ被覆シタルモノ

ニ　其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

十八　削除

十九　建築物ノ大修繕トハ壁體、柱、小屋若ハ基礎ノ過半ノ修繕又ハ之ニ準スル構造上主要ナル部分ノ修繕ヲ謂フ

二十　大變更トハ壁體、柱、床、小屋、基礎等構造上主要ナル部分ノ變更ヲ謂フ

二十一　階數トハ地階及屋階ヲ除キタル階數ヲ謂フ

第二條　本則ノ適用ニ關シ土地又ハ建築物ニ關スル測算方法、呼稱等ニ付疑義ヲ生シタルトキハ地方長官之ヲ決定ス

第三條　本則ニ規定セル建築物ノ採光、換氣、防火、避難、淸潔、强度ニ關スル構造設備ハ常ニ有效ニ保持スヘシ

## 第二章　專用地區及特別地區

第三條ノ二　建築物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セザルモノハ住居專用地區內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ

一　住宅

二　住宅ニシテ事務所ノ類ヲ兼ヌルモノ

三　共同住宅、寄宿舍又ハ下宿屋

四　神社





五　學校、圖書館ノ類

六　養育院、託兒所ノ類

七　寺院、敎會所ノ類

八　彫像、記念塔ノ類

九　物品販賣業ヲ營ム店舖（床面積十平方メートル以下ノモノヲ）、旅館、俱樂部、診療所、農業用建築物ノ類ニシテ地方長官土地ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルモノ

十　前各號ノ一ニ該當スル建築物ニ附隨スルモノニシテ地方長官支障ナシト認ムルモノ

十一　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外地方長官支障ナシト認メ又ハ公益上已ムヲ得ズト認ムルモノ

第三條ノ三　工業地域內ニ特別地區ヲ指定シタル場合ニ於テ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ特別地區內ニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ地方長官保安上危險ノ又ハ衞生上有害ノ虞ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　銃砲火藥類取締法施行規則ノ火藥庫

二　左ニ揭グル事業ヲ營ム工場

イ　銃砲火藥類取締法ノ火藥類ノ製造但シ銃砲火藥類取締法施行規則第四十四條第二項ノ火工品ヲ除ク

ロ　硝化纖維素、「セルロイド」、鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類、「ピクリン」酸、「ピクリン」酸鹽類、黃燐、過酸化「カリウム」、過酸化「ナトリウム」、硫化炭素、「エーテル」、「アセトン」、「ベンゾール」、「キシロール」、「トルオール」又ハ「テレビン」油ノ製造

ハ　石油類、鹽化硫黃、硫酸、硝酸、弗化水素、「クロール」石灰、「チアシ」化合物、砒素化合物、水銀化合物、亞硫酸鹽類及動物質肥料ノ製造竝動物質原料ノ化製

三　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外地方長官著シク保安上危險ノ又ハ衞生上有害ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ製造、貯藏又ハ處理ニ供スルモノ

第三條ノ四　工業地域內特別地區ノ全部又ハ一部ヲ甲種特別地區ニ指定シタル場合ニ於テ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ甲種特別地區內ニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ

一　前條第一號又ハ第二號イ若ハロニ該當スルモノ

二　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外地方長官著シク保安上危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ製造、貯藏又ハ處理ニ供スルモノ

第三條ノ五　工業地域內特別地區ノ全部又ハ一部ヲ乙種特別地區ニ指定シタル場合ニ於テ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ乙種特別地區內ニ非ザレバ之ヲ建築スルコトヲ得ズ

一　第三條ノ三第二號ハニ該當スルモノ

二　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外地方長官著シク衞生上有害ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ製造、貯藏又ハ處理ニ供スルモノ

第三條ノ六　前三條中二條ノ規定ノ適用ヲ併セ受クル建築物ヲ建築セントスル場合ニ在リテハ地方長官其ノ建築スベキ地區ヲ指定ス

第三條ノ七　建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工業專用地區內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ地方長官公益上已ムヲ得ズト認ムルモノ又ハ工場、倉庫其ノ他之ニ準ズベキモノニ附隨スル建築物ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　住宅

二　共同住宅、寄宿舍、下宿屋又ハ旅館

三　物品販賣業ヲ營ム店舖

四　劇場、活動寫眞館、演藝場又ハ觀物場
五　料理屋、飲食店、待合又ハ貸座敷
六　學校、圖書館ノ類
七　前各號ニ揭グルモノヲ除クノ外地方長官支障アリト認メ命令ヲ以テ指定スルモノ

**第三條ノ八**　市街地建築物法第二條第二項又ハ第四條第二項若ハ第三項ノ規定ニ依リ現在地ニ建築スルコトヲ得ザル種類ニ屬スル建築物ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ左記各號ニ規定スル制限內ニ於テ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

一　建築物ノ敷地ヲ擴張セザルコト
二　建築物ノ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ增加スベキ建築面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ建築面積ノ二分ノ一ヲ超過セザルコト
三　建築物ノ增築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ增加スベキ床面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ床面積ヲ超過セザルコト
四　工場ノ常時使用スル原動機馬力數ヲ增加スル場合ニ於テ增加スベキ馬力合計數ヲ超過セザルコト

五　前號ニ揭グルモノヲ除クノ外用途ノ變更ニ付テハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ用途ニ類似スル用途又ハ設備ヲ變更セズ若ハ之ニ些少ノ變更ヲ加フルニ依リ督ムコトヲ得ル用途ニ限ルコト

行政官廳地區ノ種別、土地ノ狀況、事業ノ種類、作業ノ方法、建築物ノ構造設備、除害ノ設備又ハ裝置等ヲ參酌シ特ニ支障ナシト認ムルモノニ付テハ前項第二號乃至第四號ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

市街地建築物法施行令第二十六條ノ規定ニ依リ建築ノ許可ヲ受ケタル建築物ハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ト看做ス

## 第二章　建築物ノ敷地及高

**第四條**　建築物ノ敷地ハ長二メートル以上道路敷地ニ接セシムベシ

地方長官ハ土地ノ情態、建築物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

**第五條**　削除

**第六條**　裝飾塔、物見塔、屋窻、昇降機塔、水槽等建築物ノ屋上突出部ニ付テハ市街地建築物法施行令第四條乃至第九條ノ適用ニ關シ其ノ部分ノ高ノ最高限ノ五分ノ一迄ハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セズ但シ其ノ算入セザル部分ノ最大面積ノ合計ハ建築面積ノ十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ

昇降機塔ニ付テハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケ前項ノ五分ノ一ヲ九メートル迄增加スルコトヲ得

**第六條ノ二**　空地地區內ニ於ケル建築物ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合ノ限度ハ十分ノ二乃至十分ノ七ノ範圍ニ於テ土地ノ狀況ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

空地地區指定又ハ變更ノ際現ニ存在スル建築物ニシテ其ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合前項ノ規定ニ依ル制限ヲ超ユルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ地區指定又ハ變更ノ際ニ於ケル割合ヲ超エザル範圍ニ於テ改築又ハ再築ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ床面積ハ內務大臣ノ定ムル所ニ依リ屋階及地階ヲ除キタル部分又ハ第一階ノ部分ニ付之ヲ算ス

【防衞】



**第六條ノ三**　空地地區內ニ於ケル建築物ノ其ノ敷地ノ境界線ヨリノ距離ノ限度ハ地方ノ狀況ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニ付テハ地方長官ハ前項ノ規定ニ依ル制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

一　道路、公園、廣場、河、海ノ類ニ面スルモノ
二　軒高二・五メートル以下ノモノ
三　敷地疆界線ニ面スル部分ノ長二メートル以下ノモノ

## 第三章　建築物ノ構造設備

### 第一節　一般構造設備

**第七條**　建築物ノ敷地ハ其ノ接スル道路境界ニ於ケル路面ヨリ高カラシメ建築物ノ床下ノ地盤面ハ周圍ノ地盤面ヨリ高カラシムベシ但シ建築物ノ用途又ハ土地ノ狀況ニ依リ地方長官本條ノ規定ニ依リ難シト認メ又ハ必要ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第八條**　建築物ノ敷地濕潤ナルトキ、出水汎濫ノ虞アルモノナルトキ又ハ塵芥ノ類ヲ以テ埋立テラレタルモノナルトキハ地方長官ハ地盤面ノ地揚高、建築物ノ床高又ハ地盤ノ改良等ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

**第九條**　建築物ノ敷地ニハ其ノ敷地內ニ於ケル雨水及汚水ヲ排泄又ハ處理スヘキ適當ナル設備ヲ爲スヘシ

**第九條ノ二**　高四メートルヲ超ユル崖ニ近接シテ建築物ヲ建築シ又ハ建築敷地ヲ造成セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

地方長官ハ前項ノ崖及之ニ接スル建築敷地ニ付保安上必要ト認ムルトキハ斜面ノ勾配、擁壁ノ設置、建築物ノ位置等ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

**第十條**　下水溝ヲ下水管、溜枡ノ類ハ耐水材料又ハ當該官吏又ハ吏員ノ承認スル材料ヲ以テ構造スヘシ

**第十一條**　便所、畜舍等ヨリ排出スル汚物ニ對シ汚物溜ヲ設ケムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

汚物溜ハ耐水材料ヲ以テ構造シ適當ナル防水裝置ヲ施シ且覆蓋ヲ設クヘシ

**第十二條**　便所、畜舍等ヨリ排出スル汚物ハ地方長官ノ指定スル下水道ニ非サレハ之ニ放流スヘカラス但シ地方長官ノ承認スル汚物處理槽ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ下水道ノ設備アル地區ニシテ地方長官特ニ指定スル區域內ニ在リテハ便所ハ汲取便所ト爲スヘカラス

**第十三條**　汲取便所ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　糞尿溜、尿樋、糞尿壺及其ノ上口周圍ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ造ルコト

二　床下ニ於テハ耐水材料ヲ以テ他ノ部分ト遮斷スルコト

三　汲取口ハ密閉シ得ル裝置ヲ爲シ地盤面ヨリ十センチメートル以上高カラシメ且之ヲ直接道路ニ面セシメザルコト

**第十四條**　井戶ト汲取便所及汚物溜トノ距離ハ三間以上ヲ有セシムヘシ但シ地方長官其ノ構造設備又ハ土地ノ狀況ニ依リ衞生上支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

地方長官ハ井戶、汲取便所又ハ汚物溜ノ位置、構造、設備等ニ關シ前三條及前項ノ外必要ナル規定ヲ設ケ又ハ措置ヲ命スルコトヲ得

**第十五條**　建築物ノ壁體ニシテ直接土壤ニ接觸スル部分ハ耐水材料ヲ以テ構造スヘシ但シ門、障壁其ノ他輕微ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

**第十六條**　居室ノ床地盤面下ニ在ル建築物ニ在リテハ最下階ノ居室ノ床又ハ其ノ床下ハ耐水材料ヲ以テ構成シ其ノ壁體及床下ニハ適當ナル防濕方

【防衞】

法ヲ施スヘシ

**第十七條**　居室ノ床高ハ一尺五寸以上ト爲スヘシ但シ床又ハ床下ニ「コンクリート」叩其ノ他適當ナル防濕方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

居室ノ床木造ナルトキハ其ノ床下ニハ適當ナル換氣方法ヲ講スヘシ

**第十八條**　居室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スヘシ

**第十九條**　居室ハ其ノ室面積ノ十分ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有スヘシ

前項ノ採光面幅三尺以上ノ緣側ヲ距ツル場合ハ其採光面積ノ二分ノ一ヲ有效面積ト看做ス此ノ場合ニ於テ簾緣ハ緣側ト看做サス

第一項ノ採光面積ハ左ノ各號ニ該當スル部分ニ限リ有效ナルモノト看做ス但シ道路、公園、廣場等ノ空地ニ面スルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一　其ノ部分ヨリ直上屋根面（直上屋根面ナキトキハ壁頂迄以下同シ）ニ至ル高ハ住居地域內ニ於テハ其ノ面スル隣地境界線迄ノ水平距離ノ二倍半ヲ、商業地域內ニ於テハ五倍ヲ、住居地域及商業地域外ニ於テハ四倍ヲ超過セサルコト

二　其ノ部分ヨリ直上屋根面ニ至ル高ハ住居地域內ニ於テハ同一敷地內ニ在ル對向壁迄ノ水平距離ノ二倍半ヲ、商業地域內ニ於テハ五倍ヲ、住居地域及商業地域外ニ於テハ四倍ヲ超過セサルコト但シ其ノ部分ヲ含ム水平面ヨリ對向壁直上ノ屋根面ニ至ル高カ住居地域內ニ於テハ對向壁迄ノ水平距離ノ二倍半ヲ、商業地域內ニ於テハ五倍ヲ、住居地域及商業地域外ニ於テハ四倍ヲ超過セサルコト

**第二十條**　居室ニ於テハ直接外氣ニ面シテ室面積ノ二十分ノ一以上ニ相當スル面積ヲ開放シ得ヘカラシムヘシ但シ之ニ代ルヘキ適當ノ換氣裝置アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條第四項、第六項及第七項ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

**第二十一條**　特殊ノ用途ニ充ツル居室ニシテ已ムヲ得サルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ第十七條第十九條及第二十條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

**第二十二條**　浴室及便所ニハ採光換氣ノ爲直接外氣ニ面シ適當ナル窓ヲ設ケ又ハ之ニ代ルヘキ設備ヲ爲スヘシ

**第二十三條**　地方長官ハ建築物ニ對シ防疫上必要ナル防鼠其ノ他ノ設備ヲ命スルコトヲ得

**第二十四條**　出入口及窓ノ扉ハ路面上三メートル以上ニ在ルモノヲ除クノ外開閉ノ際ト雖建築線ヨリ突出セサル構造ト爲スヘシ

**第二十五條**　階段ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ專ラ特殊ノ用途ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　階段及踊場ノ幅ハ內法七十五センチメートル以上ト爲スコト

二　蹴上二十三センチメートル以下踏面十五センチメートル以上ト爲スコト但シ多人數ノ使用ニ供スルモノハ蹴上十八センチメートル以下踏面二十六センチメートル以上ト爲スコト

【防衛】

三　高四・五メートルヲ超ユルモノニ在リテハ高四・五メートル以內毎ニ踊場ヲ設クルコト

階段ノ用途又ハ構造ニ依リ危險ナリト認ムルトキハ地方長官ハ前項ノ規定ニ拘ラズ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

**第二十六條**　地方長官保安上必要ト認ムルトキハ階段ノ設置ヲ命シ又ハ其ノ配置若ハ設備ノ變更ヲ命スルコトヲ得

**第二十七條**　屋根ハ耐火構造ニ非サルトキハ不燃材料ヲ以テ覆葺スヘシ但シ「モルタル」塗、漆喰塗ノ類ヲ以テ覆葺セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラズ

瓦葺屋根ニ在リテハ引掛桟瓦ノ類ヲ使用シ又ハ瓦ヲ野地ニ緊結スヘシ

神社建築物ノ屋根、茶室、四阿ノ類ノ屋根又ハ輕微ナル庇ノ類ハ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ區域ヲ指定シ第一項ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

**第二十八條**　地方長官ハ物干、物見臺等屋上工作物ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

**第二十九條**　建築面積二百坪以上ノ建築物ニハ建築面積二百坪以內毎ニ防火壁ヲ設クヘシ但シ外壁、床、屋根、柱及階段耐火構造ナルトキ若ハ壁體、床、屋根、天井、小屋、柱及階段不燃材料ヲ以テ構成セラレタルモノナルトキ又ハ地方長官其ノ用途ニ依リ已ムヲ得スト認ムルトキ若ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第二十九條ノ二**　地方長官ハ建築物ノ配置、構造又ハ用途ニ依リ危險ナリト認ムルモノニ付防火壁ノ設置其ノ他防火上必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得



【防衛】

**第三十條**　前二條ノ防火壁ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　耐火構造ト爲スコト但シ木造又ハ木骨造建築物ニ在リテハ煉瓦造、石造其ノ他之ニ類スル構造ト爲サザルコト

二　兩端ハ外壁ニ達スルコト但シ木造建築物ニ在リテハ之ニ近接スル木部ヨリ一尺以上屋外ニ突出セシムルコト

三　上端ハ屋根面ニ直角ニ測リ一尺五寸以上屋上ニ突出セシムルコト但シ耐火構造ノ屋根ニ在リテハ屋上ニ突出セシメサルコトヲ得

四　各開口ノ幅及高ハ九尺以下ニシテ甲種防火戸ノ設備ヲ有スルコト但シ特殊ノ用途ニ充ツル建築物ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ幅及高ヲ十二尺迄ト爲スコトヲ得

五　四壁薄ヲ設クル場合ト雖モ其ノ部分ノ壁厚ハ煉瓦造及石造ニ在リテハ七寸以上、鐵筋「コンクリート」造ニ在リテハ三寸五分以上ト爲スコト

**第三十一條**　防火壁ハ木骨造建築物ノ防火壁ニ在リテハ前項第一號ノ規定ニ拘ラズ中央ニ金屬板ヲ有スル厚六センチメートル以上ノ鐵網「モルタル」造ノ類ニシテ倒壞ノ虞ナキ構造ト爲スコトヲ得

防火壁ハ建築物ニ於テ屋寮、裝飾塔等ノ屋上突出部木造ニシテ延燒ノ虞アリト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ構造ニ對シ防火上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

**第三十二條**　削除

**第三十三條**　壁附煖爐ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一、煖爐ハ堅牢ナル基礎ノ上ニ築造シ木造建物ニ在リテハ上部ヲ積出シト爲ササルコト

二　薪炭ヲ使用スル壁附煖爐ニ在リテハ焚口下及其ノ前方一尺以上左右各五寸以上ノ部分ノ床ヲ、其ノ他ノ壁附煖爐ニ在リテハ焚口下ノ部分

ノ床ヲ不燃材料ニテ構造シ其ノ下方八寸以内ニハ燃材料ヲ取付ケサルコト

第四編　建築關係

第一章　建築一般

第一節　通則

第一款　用語

第百二十條　本編ニ於テ左ノ用語ノ意義ハ夫々左ノ通リトス

一　建築物　土地ニ定著スル工作物ニシテ屋根及柱又ハ壁ヲ有スルモノ之ニ附帶スル門又ハ塀ヲ含ム

二　主要構造部　壁、柱、床、梁、屋根又ハ階段ヲ謂フ但シ建築物ノ構造上重要ナラサル間仕切壁、間柱、附壁、附柱、揚床、最下階ノ床、廻縁、小梁、屋根ノ造作及ヒ建築物ノ外部ノ造作ニ於テ建築物ノ主要ナラサル部分ハ此ノ限ニ在ラス

三　耐火構造　鉄筋コンクリート造、煉瓦造、コンクリートブロック造、石造、鉄骨造又ハ之等ノ構造ニ準ズル耐火性能ヲ有スル構造ニシテ主要構造部ノ外壁ノ開口部ニ防火戸其ノ他ノ防火設備ヲ有スルモノヲ謂フ

四　準耐火構造　主要構造部ヲ防火被覆ヲ施シタル鉄骨造又ハ之ニ準ズル耐火性能ヲ有スル構造ニシテ外壁ノ開口部ニ防火戸其ノ他ノ防火設備ヲ有スルモノヲ謂フ

五　防火構造　建築物ノ外壁又ハ軒裏ニ於テ防火上必要ナル性能ヲ有スル構造ニシテ主務大臣ノ指定シタルモノ又ハ主務大臣ノ認定シタルモノヲ謂フ

六　防火被覆　建築物ノ主要構造部ノ表面ヲ耐火構造ノ被覆ヲ以テ覆フコトヲ謂フ

七　防火壁　建築物ノ部分ヲ区画シ火災ノ延焼ヲ防止スル為ニ設ケラルル壁ニシテ第百二十三條ノ規定ニ適合スルモノヲ謂フ

八　防火床　建築物ノ部分ヲ区画シ火災ノ延焼ヲ防止スル為ニ設ケラルル床ニシテ第百二十三條ノ規定ニ適合スルモノヲ謂フ

九　防火区画　防火壁又ハ防火床ニ依リ区画セラルル建築物ノ部分ヲ謂フ

十　延焼ノ恐アル部分　隣地境界線、道路中心線又ハ同一敷地内ニ在ル二以上ノ建築物ニ於テ其ノ外壁間ノ中心線ヨリ一階ニ在リテハ三メートル二階以上ニ在リテハ五メートル以内ノ距離ニ在ル建築物ノ部分ヲ謂フ但シ防火上有効ナル公園、広場、川其ノ他ノ空地ニ面スル部分又ハ耐火構造ノ壁其ノ他延焼ノ恐ナキモノト認メラルル部分ハ此ノ限ニ在ラス

十一　特殊建築物　学校、体育館、病院、劇場、観覧場、集会場、展示場、百貨店、市場、ダンスホール、遊技場、公衆浴場、旅館、共同住宅、寄宿舎、下宿、工場、倉庫、自動車車庫、危険物ノ貯蔵場又ハ処理場其ノ他建築物ノ用途ニシテ衛生上又ハ防火上特別ノ構造ヲ必要トスルモノトシテ命令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

十二　大規模ノ木造建築物　木造ニシテ延面積三千平方米ヲ超エ又ハ高サ十三米若ハ軒高九米ヲ超エ又ハ階数三以上ニシテ延面積千五百平方米ヲ超エ又ハ高サ十三米若ハ軒高九米ヲ超エ又ハ階数三以上ニシテ延面積千五百平方米ヲ超ユルモノヲ謂フ

十三　大規模ノ木造建築物ノ主要構造部　大規模ノ木造建築物ノ主要構造部ニシテ防火上有効ナル措置ヲ為サザルモノヲ謂フ

十四　大規模ノ修繕　建築物ノ主要構造部ノ一種以上ニ対シ行フ過半ノ修繕ヲ謂フ

十五　大規模ノ模様替　建築物ノ主要構造部ノ一種以上ニ対シ行フ過半ノ模様替ヲ謂フ

十六　居室　居住、執務、作業、集会、娯楽其ノ他ノ目的ノ為ニ継続的ニ使用スル室ヲ謂フ

十七　地階　床面ガ地盤面ヨリ低キ階ニシテ其ノ床面ヨリ地盤面ニ至ル高サガ其ノ階ノ天井高ノ三分ノ一以上ノモノヲ謂フ

十八　主務大臣　第一号ニ掲ケル建築物ニ関シテハ文部大臣、第二号ニ掲ケル建築物ニ関シテハ厚生大臣、第三号ニ掲ケル建築物ニ関シテハ逓信大臣、第四号ニ掲ケル建築物ニ関シテハ鉄道大臣、第五号ニ掲ケル建築物ニ関シテハ商工大臣、第六号ニ掲ケル建築物ニ関シテハ農林大臣、第七号ニ掲ケル建築物ニ関シテハ拓務大臣、第八号ニ掲ケル建築物ニ関シテハ内務大臣ヲ謂フ

十九　地方長官　北海道庁長官、府県知事、東京都長官、樺太庁長官、台湾総督、朝鮮総督、関東庁長官、南洋庁長官又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ヲ謂フ

二十　地方庁　北海道庁、府県庁、東京都庁、樺太庁、台湾総督府、朝鮮総督府、関東庁又ハ南洋庁ヲ謂フ

二十一　市街地　都市計画法第二條ノ規定ニ依リ都市計画ヲ以テ定メラレタル区域又ハ之ニ準ズル区域ヲ謂フ

二十二　準防火地域　都市計画法第九條ノ規定ニ依リ都市計画ヲ以テ定メラレタル地域ヲ謂フ

二十三　防火地域　都市計画法第九條ノ規定ニ依リ都市計画ヲ以テ定メラレタル地域ヲ謂フ

第二款　建築物ノ敷地、構造及建築設備

第百二十一條　建築物ノ敷地ハ排水良好ニシテ且湿潤ナラサル様ニ土地ノ高ヲ為シ又ハ擁壁ヲ設ケ其ノ他衛生上支障ナキ様ニスルコトヲ得

第百二十二條　建築物ノ敷地ハ道路ニ二メートル以上接スルコトヲ得

第百二十三條　建築物ノ敷地ハ道路ニ接スル部分ニ於テ建築物ノ出入ノ為ニ必要ナル門又ハ塀ヲ設クル場合ヲ除クノ外其ノ道路ニ面スル部分ニ接シテ高サ一米ヲ超エル石、煉瓦、コンクリートブロック其ノ他ノ組積造ノ門又ハ塀ヲ築造スルトキハ其ノ高サ六十分ノ一以上ノ勾配ヲ有スル控壁ヲ設ケ又ハ鉄筋コンクリート造ノ門又ハ塀ヲ築造スルトキハ其ノ高サ四十分ノ一以上ノ勾配ヲ有スル控壁ヲ設ケ又ハ其ノ高サ二米以下ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第百二十四條　建築物ノ敷地ハ地盤面ヨリ高キ位置ニ之ヲ設ケ且地盤ノ高低差甚シキ場合ニ於テハ擁壁ヲ設ケ又ハ土地ノ状況ニ依リ本節ノ規定ニ準ジ必要ナル措置ヲ講ズルコトヲ得

第百二十五條　建築物ノ基礎ハ地盤ニ応ジ異同沈下ヲ生ジ難キ様ニ之ヲ設ケ且地盤ノ支持力ニ応ジ建築物ノ荷重ヲ安全ニ支持スル様ニスルコトヲ得

第百二十六條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭、場所打コンクリート杭又ハ其ノ他ノ杭ヲ以テ支持スル場合ニ於テハ杭ノ種類ニ応ジ杭ノ支持力ヲ考慮シ且杭ノ配置ニ応ジ杭ノ相互ノ間隔ヲ適当ニ保タシメ又ハ杭ノ周囲ニ適当ニ砂利ヲ充填スル等ノ措置ヲ講ズルコトヲ得

第百二十七條　建築物ノ基礎ハ木杭ニ在リテハ其ノ頭部ヲ、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百二十八條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百二十九條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十一條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十二條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十三條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十四條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十五條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十六條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十七條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十八條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百三十九條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十一條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十二條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十三條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十四條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十五條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十六條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十七條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十八條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百四十九條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十一條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十二條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十三條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十四條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十五條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十六條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十七條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十八條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百五十九條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十一條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十二條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十三條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十四條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十五條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十六條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十七條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十八條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百六十九條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十一條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十二條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十三條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十四條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十五條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十六條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十七條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十八條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百七十九條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十一條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十二條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十三條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十四條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十五條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十六條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十七條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十八條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百八十九條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十一條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十二條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十三條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十四條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十五條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十六條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十七條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十八條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第百九十九條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第二百條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス





第二百一條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第二百二條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第二百三條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第二百四條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第二百五條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭又ハ場所打コンクリート杭ニ在リテハ其ノ杭頭ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外常水面下ニ在ラシムルコトヲ要ス

第二百六條　建築物ノ基礎ハ木杭、鉄筋コンクリート杭、鋼杭、コンクリート杭、鋼管杭

壁長ハ其ノ壁體ニ接著スル對隣壁ノ接著部分ノ中心距離ヲ以テ之ヲ定ル

地方長官適當ト認ムル補强方法ヲ施シタル控壁ハ前項ノ適用ニ關シ之ヲ對隣壁ト看做ス

壁高ハ其ノ壁體ノ接著スル地盤面ヨリ之ヲ定ル

**第六十二條**　建物ノ壁體石造又ハ煉瓦造ナルトキハ其ノ壁頂ニ鐵又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁ヲ設クヘシ

**第六十三條**　建物ノ外壁煉瓦造ナルトキハ其ノ壁厚ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　長十八尺以下ノモノニ在リテハ一尺以上ト爲スコト

二　長十八尺ヲ超過シ三十尺以下ノモノニ在リテハ一尺三寸以上ト爲スコト

**第六十四條**　煉瓦造間壁ノ厚ハ前條ノ厚ヨリ三寸ヲ減スルコトヲ得

**第六十五條**　建物ノ壁體煉瓦造ナルトキ或ル階ニ於ケル出入口、窓其ノ他ノ開口ノ幅ノ總和カ壁長ノ二分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ壁厚ハ前二條ノ厚ニ三寸ヲ加フヘシ但シ其ノ壁體ニ幅三尺以上ノ柱形（控壁ヲ含ム以下同シ）ヲ有スル場合ニ於テ其ノ柱形間及之ト對隣壁トノ中心距離十五尺以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第六十六條**　建物ノ壁體煉瓦造ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニハ各階ノ壁厚ハ第六十三條及第六十四條ノ厚ヨリ三寸ヲ減スルコトヲ得

一　其ノ階ノ床及其ノ階ノ直上階ノ床又ハ屋根鐵筋「コンクリート」造ナルトキ

二　地方長官適當ト認ムル控壁、鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁其ノ他ノ補强方法アルトキ

**第六十七條**　建物ノ壁體煉瓦造ニシテ其ノ壁厚ハ第六十三條乃至第六十六條ノ規定ニ依ルヘシ

六條ノ規定ニ拘ラズ其ノ階高ノ十五分ノ一未滿ト爲スヘカラス

**第六十八條**　建物ノ壁體煉瓦造ナルトキ其ノ階高ノ四分ノ三以上ノ高ヲ通シテ壁體ニ竪壁溝ヲ設クル場合ニハ其ノ壁溝部ノ壁厚ハ第六十條、第六十三條乃至第六十七條ノ厚ノ三分ノ二未滿ト爲スヘカラス

橫壁溝ハ深三寸長九尺ヲ超過スヘカラス

**第六十九條**　煉瓦造壁體ニ於ケル出入口及窓相互間ノ直上垂直距離ハ二尺以上ト爲スヘシ但シ鐵又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁ヲ以テ適當ナル補强ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

**第七十條**　煉瓦造二重壁ニ於テハ其ノ一方ノ壁ハ第五十九條乃至第六十九條ノ規定ニ依ルヘシ

**第七十一條**　建物ノ壁體「コンクリート」造ナルトキハ第六十三條乃至第七十條ノ適用ニ關シ之ヲ煉瓦造ト看做ス

**第七十二條**　建物ノ壁體「コンクリート」造以外ノ石造ナルトキ其ノ厚ハ第六十三條乃至第六十五條及第六十七條ノ厚ニ其ノ十分ノ二ヲ加フヘシ

第六十六條及第六十八條乃至第七十條ノ規定ハ之ヲ前項ノ壁體ニ準用ス

**第七十三條**　貼石、貼瓦ノ類ハ之ヲ壁厚ニ算入セス

**第七十四條**　鐵骨造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニ於ケル石、煉瓦「コンクリート」等ノ帳壁ニハ第五十九條、第六十條、第六十二條乃至第七十二條ノ規定ヲ適用セス

**第七十五條**　高十二尺未滿ノ間壁其ノ他構造上輕微ナル壁體ニ對シテハ第六十條乃至第七十二條ノ規定ヲ適用セス

**第七十六條**　石造又ハ煉瓦造ノ塔壁ハ特殊ノ補强方法ヲ施シタル場合ノ外左ノ規定ニ依ルヘシ

一　壁厚ハ其ノ部分ヨリ壁頂迄ノ垂直距離ノ十分ノ一以上ト爲スコト

二　削除

【防衞】

三　長二間未滿毎ニ適當ナル控壁ヲ設クルコト但シ其ノ壁厚第一號ノ規定ノ最小限ノ一倍半以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第七十七條**　同一建築物ノ壁體二種以上ノ構造ヨリ成ルトキハ其ノ壁長及壁厚ニ付テハ地方長官之ヲ定ム

**第七十八條**　切妻壁體又ハ高三尺ヲ超過スル扶欄若ハ扶壁ハ石造又ハ煉瓦造ト爲スヘカラス但シ切妻壁體ニシテ其ノ頂部ヲ鐵筋「コンクリート」造屋根ニ緊結シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

**第七十九條**　廣間五尺以上ノ開口上ニ架スル石造又ハ煉瓦造ノ迫持ハ其ノ迫高ノ張間ノ十分ノ一以上ト爲スヘシ但シ適當ナル補强ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

**第八十條**　壁體ノ隅角、蛇腹、窓、出入口脇其ノ他之ニ類スル部分ニ使用スル石、人造石ノ類ハ適當ナル方法ヲ以テ之ヲ其ノ接スル壁體ノ部分ニ緊結スヘシ

**第八十一條**　石造又ハ煉瓦造ノ桔出窓、桔出縁等ニ在リテハ鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」ヲ以テ適當ナル補强ヲ爲スヘシ

## 第四　鐵構造及鐵骨構造

**第八十二條**　削除

**第八十三條**　建物ノ構造ニ使用スル鋼又ハ鍊鐵ノ主要ナル構材ノ接合ニハ地方長官ニ於テ之ヲ得ズト認ムル場合又ハ支障ナシト認ムル場合ノ外「リベット」ヲ使用スヘシ

接合用「リベット」又ハ「ボールト」ノ中心距離ハ其ノ直徑ノ二倍半未滿ト、其ノ中心ト材端ト距離ハ其ノ直徑ノ二倍未滿ト爲スヘカラス

**第八十四條**　建物ノ構造ニ使用スル鐵柱ハ其ノ斷面ノ最小二次率半徑ヲ其ノ主要ナル支點間距離ニ對シ鋼又ハ鍊鐵ニ在リテハ百五十分ノ一以上ト、鑄鐵ニ在リテハ六十五分ノ一以上ト爲スヘシ



柱以外ノ應壓鋼材又ハ應壓鍊鐵材ニ在リテハ前項ノ百五十分ノ一ヲ二百分ノ一トス

**第八十五條**　鋼柱又ハ鍊鐵柱ノ接合ニハ其ノ小ナル柱ト同等以上ノ强ヲ有スル添鈑ヲ用ヰ柱ノ全應力ヲ傳フルニ足ルヘキ數ノ「リベット」ヲ使用スヘシ

**第八十六條**　鐵骨造建物ニ於ケル主要ナル柱ハ之ヲ基礎ニ緊結スヘシ

**第八十六條ノ二**　鐵骨造建物ニ在リテハ梁其ノ他ノ橫架材ト柱トノ接合ニハ適當ナル方杖、腰板ノ類ヲ使用シ之ヲ緊結スヘシ但シ筋違又ハ鐵筋「コンクリート」ノ壁體ヲ設ケタル部分ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

**第八十六條ノ三**　鐵骨造建物ニハ適當ニ筋違又ハ鐵筋「コンクリート」ノ壁體ヲ設クヘシ

**第八十七條**　鐵骨造建物ノ帳壁ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　鐵骨ニ緊結スルコト

二　「ホロタイル」ノ類ヲ使用セサルコト但シ間壁ニシテ適當ナル補强ヲ施シタル場合又ハ堅牢ナル壁體ノ表積若ハ裏積トシテ適當ニ之ニ連結シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

## 第五　鐵筋「コンクリート」構造

**第八十八條**　鐵筋「コンクリート」構造ニ使用スル「コンクリート」ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ其ノ用途ニ依リ已ムヲ得ス且構造上支障ナキモノニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ第三號ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

一　砂、砂利又ハ碎石ハ泥土、鹽分、有機物等ヲ含マザルモノナルコト

二　砂利又ハ碎石ハ硬質ニシテ二センチメートル二分ノ一目篩ヲ通過シ且鐵筋相互間及鐵筋ト假構トノ間ヲ自由ニ通過スルモノナルコト

三　煉瓦屑、石炭殻ノ類ハ之ヲ使用セサルコト

四　飲料ハ均質ナル「コンクリート」ヲ得ルニ適當ナルモノナルコト

【防衞】

ル コトヲ得

第百六條 節ヲ獨立壁突

第九十五條 高サ十尺ヲ超過スル壁突ハ鐵筋「コンクリート」構造ニ支線ヲ要セサルヘカラス但シ假設的ノモノニシテ强度ニ關シ支障ナキ場合ニ限リ鐵筋「コンクリート」造ト雖モ壁突ノ一部ヲ構成スルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 壁突ノ構造上必要ナル支線ト地盤トノ連結ニハ緊着スヘシ

第九十七條 壁突ノ構造ニ當リテハ他ノ腐朽セル部分ヲ取リ去リ適當ナル補强ヲ爲スヘシ

第九十八條 土管壁突ハ高サ三十尺ヲ超過スヘカラス但シ堅固ナル鐵製又ハ木枠ニ有効ニ地線ヲ施シタルモノハ地上五十尺迄ヲ限リ之ヲ適用スルコトヲ得

第九十九條 土管壁突ハ其ノ接合部ニ「モルタル」ヲ用ヰ又枠ニ緊結スヘシ

第百條 第九十五條乃至第九十八條ノ規定ハ壁突ノ高サ二十尺ヲ超ユル場合ニ之ヲ準用ス

## 第七 强度計算

第百一條 强度計算ニ適用スル各種材料ノ單位ノ最小限左ノ如シ

| 材料 | 單位 | 重量（近似） |
|---|---|---|
| 煉瓦積 | 一立方米ニ付 | 一九〇〇・〇 |
| 花崗岩及安山岩 | 一立方米ニ付 | 二五〇〇・〇 |
| 砂利又ハ碎石ヲ用ヰ「セメント」ヲ以テ「コンクリート」ヲ造ル場合ニ於ケル砂利又ハ碎石 | 一立方米ニ付 | 二三〇〇・〇 |
| 「ベスギ」、「イギスベ」、「ミジ」、「ツマ」、「ドマ」、「ツヒ」 | 一立方米ニ付 | 四五〇・〇 |





第八十九條 鐵筋「コンクリート」構造ニ於テハ鐵筋ノ周圍ヲ他ノ構造部ニ緊着スルカ又ハ之ヲ曲ケテ適當ニ「コンクリート」中ニ碇着スヘシ

第八十九條ノ二 鐵筋「コンクリート」構造ニ於ケル主筋ノ繼手ノ長ハ之ヲ主筋直徑ノ二十五倍以上トスヘシ

第九十條 削除

第九十條ノ二 鐵筋「コンクリート」ノ主要ナル梁ニハ全部ニ亘リ複筋及其ノ配置ヲスヘシ

第九十一條 鐵筋「コンクリート」柱ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一、主筋ハ四本以上トスルコト

二、繫筋ノ中心距離ハ一尺以下トシ且主筋直徑ノ十五倍ヲ超過セサルコト

三、柱ノ小徑ハ其ノ主要支點間距離ノ十五分ノ一以上ナルコト

四、主筋ノ斷面積ノ和ハ「コンクリート」ノ全斷面積ノ百分ノ一以上ナルコト但シ地方長官構造强度ニ關シ支障ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十一條ノ二 第八十六條ノ三及第八十七條ノ規定ハ「コンクリート」造建物ニ準用ス

第九十二條 鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ主筋ニ對スル「コンクリート」ノ被覆厚ハ版ニ在リテハ二糎未滿ト、梁及柱ニ在リテハ三糎未滿ト、基礎ニ在リテハ五糎未滿トス

第九十三條 鐵筋「コンクリート」ノ床、屋根其ノ他ノ横架材ノ上ニ假構ヲ設ケ「コンクリート」ヲ打チ其ノ硬化ニ先チ其ノ下階ノ主要假構ヲ除去スルハ假構ヲ除去スヘカラス但シ「コンクリート」施工後二月ヲ經過セルモノニ付キ又ハ特ニ强度ノ關係ナキモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第九十四條 高サ十二尺未滿ノ壁體其ノ他建築物ノ上部ニ在リテハ當該部分ノ荷重ヲ受ケ第八十六條乃至第九十二條ノ規定ニ依ラサルモノニ付テハ當該部分ノ荷重ヲ受ケ第八十六條乃至第九十二條ノ規定ニ依ルヘシ

第九十五條 高サ十尺ヲ超過スル壁突ハ鐵筋「コンクリート」造トシ支線ヲ要セサル構造ト雖モ壁突ノ一部ヲ鐵筋「コンクリート」造ト爲スヘキ場合ニ於テ鐵筋「コンクリート」造ノ部分ノ高サ三十尺ヲ超過スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十六條 削除

第九十七條 壁突ノ構造上必要ナル支線ト地盤トノ連結ニハ緊着スヘシ

第九十八條 土管壁突ハ高サ三十尺ヲ超過スヘカラス但シ堅固ナル鐵製又ハ木枠ニ有効ニ地線ヲ施シタルモノハ地上五十尺迄ヲ限リ之ヲ適用スルコトヲ得

第九十九條 土管壁突ハ其ノ接合部ニ「モルタル」ヲ用ヰ又枠ニ緊結スヘシ

第百條 第九十五條乃至第九十八條ノ規定ハ壁突ノ高サ二十尺ヲ超ユル場合ニ之ヲ準用ス

## 第七 强度計算

第百一條 强度計算ニ適用スル各種材料ノ單位ノ最小限左ノ如シ

| 材料 | 單位 | 重量（近似） |
|---|---|---|
| ベスギ、イギスベ、ミジ、マツ、ドマ、ツヒ、ヒノキ、モミ | 一立方米ニ付 | 五〇〇・〇 |
| アカマツ、クロマツ、ツガ、ベイマツ | 一立方米ニ付 | 五五〇・〇 |
| 鋼 | 百立方糎ニ付 | 〇・七八五 |
| 瓦葺（葺土ヲ除ク） | 一平方米ニ付 | 六〇・〇 |
| 葺土、壁土及漆喰 | 一立方米ニ付 | 一六〇〇・〇 |

第百二條 强度計算ニ於ケル地震ノ水平震度ハ之ヲ〇・一以上トシ其ノ建築物ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ增加ヲ命シ又ハ其ノ低下ヲ許可スルコトヲ得

第百三條 强度計算ニ於テ建築物ノ各部分ニ生スヘキ應力度ハ各種材料ニ付左ノ限度ヲ超過スヘカラス

| 材料 | | 應力度 | 壓縮 | 引張 | 曲 | 剪 | 支壓 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 鐵 | 鐵 | 一平方糎ニ付キログラム | 八五〇 | 八五〇 | 八五〇 | 七〇 | 一二七五 |
| 鑄鐵 | 鑄鐵 | 一平方糎ニ付キログラム | 八五〇 | 四〇〇 | | | |
| 鋼 | 鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | 一二〇〇 | 一二〇〇 | 一二〇〇 | 九〇〇 | 二七〇〇 |
| 鋼 | 鋲 | 一平方糎ニ付キログラム | 一〇二〇 | 八五〇 | 一〇二〇 | 七六五 | 二二九五 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | 四二五 | | | | |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | 四二五 | | | |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 二七〇〇 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 二二九五 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 二一四〇 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 一九八五 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 一七一〇 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 一四二五 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 一一四〇 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 八五五 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 五七〇 |
| 鋼 | 鋲ヲ以テ「コンクリート」ニ埋メタル鋼 | 一平方糎ニ付キログラム | | | | | 二八五

品質特ニ劣等ナリト認ムルモノニ對シテハ地方長官ハ前項ノ限度ヲ低下セシムルコトヲ得

**第百二條**　鐵筋コンクリート構造ノ頭度計算ニ於テ鐵筋コンクリート構造ノ各部分ニ生ズベキ壓力度ハ左ノ限度ヲ超過スベカラズ

| 應壓力度 | 應壓力度 | 應剪力度 |
|---|---|---|
| 且應壓頭度ノ三分ノ一・〇 | 一應壓且頭度ノ三十分ノ七・〇 | 一應壓且頭度ノ三十分ノ七・〇 |
| 一平方糎ニ付キ瓲 | 二平方糎ニ付キ瓲 | 二平方糎ニ付キ瓲 |

鐵筋コンクリート造ニ使用スル「コンクリート」ハ一平方センチメートルニ付九十キログラム以上ノ應壓頭度ヲ有スルモノタルベシ

第一項ノ應壓頭度ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超過スベカラズ但シ適當ナル試驗方法ニ依リ「コンクリート」ノ頭度ヲ試驗シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

$$F=\frac{2K}{2+\nu}$$

F　「コンクリート」ノ應壓頭度
K　商工省告示日本標準規格第二十八號又ハ第二十九號ノ試驗方法ニ依リ試驗セル砂入「セメント」ノ四週間後ノ應壓頭度
ν　水ト「セメント」ノ重量比

寒冷ノ季節ニ施工スル「コンクリート」ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ從ヒ前項ノ應壓頭度ヲ減ズルモノトス

地方長官ハ前三項ノ適用ニ關シ「コンクリート」ノ調合ニ付必要ナル規定ヲ設ケ又ハ措置ヲ命ズルコトヲ得

**第百三條ノ三**　地方長官必要ト認ムルトキハ建築材料ノ提出又ハ頭度試驗ノ施行ヲ命ズルコトヲ得

**第百三條**　鐵筋「コンクリート」構造ノ頭度計算ニ於テハ鐵「コンクリート」ノ彈性比ヲ十五トシ鋼ノ彈性比ヲ鐵

$$P = A f_c\left(1-0.02\frac{1}{d}\right)$$

P　荷重
A　斷面積
$f_c$　第百二條ノ木材ニ對スル應壓力度
1　主要ナル支點間ノ距離
d　斷面ノ最小徑

**第百九條**　應壓鐵筋「コンクリート」材ニ對スル荷重ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

$$P = f_c(A_c + 15A_s)$$

P　荷重
$f_c$　第百二條ノ二ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度
$A_c$　「コンクリート」ノ有效斷面積
$A_s$　主筋ノ斷面積

前項有效斷面積ハ其ノ主筋ノ外側線內ノ面積トス

適當ナル卷筋ヲ有スル應壓「コンクリート」材ニ在リテハ第一項ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度ヲ十分ノ二以內增加スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル卷筋ノ中心距離ハ八糎ヲ超過スヘカラス

應壓鐵筋「コンクリート」材ニシテ其ノ主要ナル支點間ノ距離其ノ最小徑ノ十五倍ヲ超過スルモノニ在リテハ別ニ適當ナル算式ニ依リ之ヲ算定スヘシ

**第百十條**　應曲材ニ對スル曲能率ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

$$M = f_b S$$

M　曲能率
$f_b$　第百二條ノ應曲力度
S　斷面率

**第百十一條**　鐵筋「コンクリート」ノ單筋矩形梁又ハ版內ニ中軸ヲ有スル單筋丁梁ニ對スル曲能率ハ左ノ各式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

$$M = \frac{n_1(3-n_1)}{6} f_c\, bd^2$$

$$M = \frac{3-n_1}{3m} f_t\, bd^2$$

M　曲能率
$n_1$　中軸比（梁ノ應壓端ヨリ中軸迄ノ距離ト梁ノ有效丈トノ比）
$f_c$　第百二條ノ二ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度
$f_t$　第百二條ノ鐵筋ニ對スル應張力度
m　對筋比
b　梁ノ幅
d　梁ノ有效丈

前項ノ中軸比ハ左式ニ依ル

$$n_1 = \frac{15}{m}\left(\sqrt{1+\frac{2m}{15}}-1\right)$$





**第百十二條**　應壓力ト曲能率トヲ併有スル構材ノ合成應力度ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ下ルヘカラス

$$f_c = \frac{M}{S} + \frac{P}{A} \times \frac{1}{1 - C\frac{1}{r}}$$

$f_c$　合成應壓力度
M　曲能率
S　應壓側ニ對スル斷面率
P　應壓力
A　斷面積
1　主要ナル支點間ノ距離
r　曲能率ニ依ル斷面ノ中軸ニ對スル二次率半徑但シ木材ニ在リテハ曲能率ニ依ル斷面ノ中軸ニ直角ナル徑
C　第百七條ニ定數但シ木材ニ在リテハ之ヲ〇・〇二トス

前項ノ合成應壓力度ハ第百二條ノ應壓力度ヲ超過スヘカラス

**第百十二條ノ二**　鐵筋「コンクリート」ノ梁、版等ノ主筋ヲ橫斷スル面ニ於テ左式ニ依リ算定セル應剪力度ハ「コンクリート」ノ應壓強度ノ十二分ノ一以下ニシテ且一平方センチメートルニ付十八キログラムヲ超過セザルモノナルコトヲ要ス

$$f_s = \frac{S}{b\,j}$$

$f_s$　「コンクリート」ノ應剪力度
S　剪力
b　梁又ハ版ノ幅但シT梁ニ在リテハ梁腹ノ幅
j　應壓中心ヨリ應張中心迄ノ距離

**第百十二條ノ三**　鐵筋「コンクリート」ノ梁、版等ニ生ズル應剪力度第百二條ノ二ノ規定ノ應剪力度ヲ超過スルトキハ其ノ部分ニ左ノ規定ニ依リ繫筋ヲ配置スベシ

一　繫筋ハ應剪力ノ分布ニ從ヒ適當ニ之ヲ配置シ其ノ間隔ハ梁、版等ノ厚ノ三分ノ二ヲ超過セザルコト

二　繫筋ハ應張鐵筋外側ヨリ應壓端ニ近ク達セシメ且適當ニ之ヲ硬著スルコト

主筋ヲ適當ニ曲ゲタルモノハ其ノ部分ヲ繫筋ト看做ス

**第百十三條**　鐵筋「コンクリート」構造ニ於ケル梁又ハ版ノ張間ハ其ノ支承物間ト中心距離ヲ以テ之ヲ度ルモノトス但シ支承物間ノ內法距離ニ梁ノ丈又ハ版ノ厚ヲ加ヘタルモノヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

梁又ハ版ノ支端ニ持送アル場合ニ於ケル張間ハ持送ノ厚カ梁又ハ版ノ下端ヨリ度リ梁ノ丈又ハ版ノ厚ノ〇・五倍ニ達スル部分ヨリ之ヲ起算ス但シ地方長官ハ其ノ持送ノ形狀、傾斜ノ狀態等ニ依リ張間起算位置ヲ變更スルコトヲ得

**第百十四條**　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ梁ト版トヲ適當ニ連結シタル場合ニ在リテハ之ヲT梁ト看做スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケルT梁ハ其ノ張間ノ四分ノ一以內、版ノ厚ノ十二倍以內ノ幅ヲ有スルモノトシテ之ヲ算定スヘシ

**第百十五條**　鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ縱橫ニ鐵筋ヲ有スル長方形版四邊ヲ通シテ支承物ヲ有スル場合ニ於テハ左式ニ依リ算定シタルモノヲ下ラサル範圍內ニ於テ其ノ荷重ヲ兩張間ニ分賦スルコトヲ得

$$W_b = \frac{l^4}{l^4 + b^4} W$$

$$W_l = \frac{l^4}{l^4 + b^4} W$$

W　等布荷重
l　一方ノ張間
b　l ニ直角ナル張間
$W_b$　l ヲ張間トスルモノニ分賦スル等布荷重
$W_l$　b ヲ張間トスルモノニ分賦スル等布荷重

第百十六條　削除
第百十七條　削除

第四章　防火地區

第百十八條　防火地區ハ甲種防火地區及乙種防火地區ノ二種トス
第百十九條　甲種防火地區内ニ在ル建物ハ其ノ外壁ヲ耐火構造ト爲スヘシ
第百二十條　甲種防火地區内ニ在ル建物ノ軒、軒蛇腹、屋窻、裝飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ
第百二十一條　甲種防火地區内ニ在ル建物ニシテ道路ニ面セサルモノハ其ノ一ニ該當スルトキハ甲種防火戸ヲ設クヘシ但シ鐵骨網入硝子造ニシテ其ノ面積三十平方尺以内ノ窻若ハ出入口又ハ屋根、床、柱及階段耐火構造ナル建物ノ窻若ハ出入口ニシテ地方長官周圍ノ狀況ニ依リ防火上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
一　其ノ面スル道路ノ對側境界線ヨリ六間未滿ノ距離ニ在ルトキ但シ建築線道路境界線ト一致セサル場合ニ在リテハ建築線ヲ以テ道路境界線ト看做ス
二　隣地境界線又ハ隣接建物ニ面シ其ノ水平距離六間未滿ナルトキ
三　隣地境界線又ハ隣接建物ヨリノ水平距離六間未滿ノ位置ニ在ルトキ但シ枠、組子、桟及鏡板鐵造又ハ金屬板ヲ以テ被覆セルモノハ此ノ限ニ在ラス
公園、廣場、河、海等ノ空地ニ面スル窻又ハ出入口ニ付テハ前項ノ規定ノ適用ニ於テ其ノ空地ヲ道路ト看做ス
第百二十二條　甲種防火地區内ニ在ル建物ノ屋根ハ耐火構造ト爲スヘシ但シ厚一寸五分以上ノ不燃材料ヲ以テ構成シタル野地ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラス
第百二十三條　甲種防火地區内ニ在ル建物ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ床、柱及階段ヲ耐火構造ト爲スヘシ
一　建築面積二百坪以上ニシテ階數二以上ノモノ
二　建築面積百坪以上ニシテ階數三以上ノモノ
三　階數四以上ノモノ
第百二十四條　甲種防火地區内ニ在ル建物ニシテ道路ニ面セサルモノハ其ノ高十八尺ヲ、軒高十二尺ヲ、建築面積十二坪ヲ超過セサル場合ニ限リ乙種防火地區内ニ在ル建物ニ關スル規定ニ依ルコトヲ得但シ地方長官建物ノ用途ニ依リ火災豫防上危險ノ虞アリト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
第百二十五條　甲種防火地區内ニ在ル壁ハ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ
第百二十六條　乙種防火地區内ニ在ル建物ハ其ノ外壁ヲ耐火構造又ハ準耐火構造ト爲スヘシ
第百二十七條　乙種防火區内ニ在ル建物ノ軒、庇、軒蛇腹、屋窻、裝飾塔ノ類ハ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ準耐火構造ト爲スヘシ
第百二十八條　前二條ノ準耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スル構造ヲ謂フ
一　鐵骨造ニシテ外部ヲ生子板張ト爲シタルモノ
二　鐵骨造又ハ木造ニシテ外部ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル被覆ヲ爲シタルモノ
イ　外面ニ石、煉瓦又ハ人造石ノ類ヲ用ヰ其ノ厚三寸以上ノモノ
ロ　瓦貼ノ上ニ「セメント、モルタル」塗トシ厚合計一寸二分以上ノモノ
ハ　厚一寸二分以上ノ「セメント、モルタル」塗又ハ「コンクリート」塗ニ「セメント、モルタル」塗ノ上ニ化粧煉瓦貼トシ厚合計一寸二分以上ノモノ
ホ　木骨土藏造ニシテ塗土、漆喰等ノ厚合計三寸以上ノモノ

【防衞】

三　其ノ他地方長官之ニ準スト認メタルモノ
第百二十九條　乙種防火地區内ニ在ル建物ノ窻又ハ出入口ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ甲種防火戸又ハ乙種防火戸ヲ設クヘシ但シ鐵骨網入硝子造ニシテ其ノ面積四十平方尺以内ノ窻若ハ出入口又ハ其ノ屋根、床、柱及階段耐火構造ナル建物ノ窻若ハ出入口又ハ地方長官周圍ノ狀況ニ依リ防火上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
一　其ノ面スル道路ノ對側境界線ヨリ二間未滿ノ距離ニ在ルトキ但シ建築線道路境界線ト一致セサル場合ニ在リテハ建築線ヲ以テ道路境界線ト看做ス
二　隣地境界線又ハ隣接建物ニ面シ其ノ水平距離二間未滿ナルトキ
三　隣地境界線又ハ隣接建物ヨリノ水平距離三間未滿ノ位置ニ在ルトキ但シ枠、組子、桟及鏡板鐵造又ハ金屬板ヲ以テ被覆セルモノハ此ノ限ニ在ラス
公園、廣場、河、海等ノ空地ニ面スル窻又ハ出入口ニ付テハ前項ノ適用ニ於テ其ノ空地ヲ道路ト看做ス
第百三十條　乙種防火地區内ニ在ル建物ノ屋根ヲ金屬板ヲ以テ被覆スルトキハ其ノ野地ヲ厚一寸以上ノ不燃材料ヲ以テ構成スヘシ
第百三十一條　削除
第百三十二條　建物防火地區ノ境界線外ニ亙ル場合ニ於テハ其ノ全部ニ對シ防火地區内ノ建物ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ建物ノ部分ヲ成ス防火壁ニシテ防火地區外ニ在ルトキハ其ノ防火壁外ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第百三十三條　建物甲種防火地區及乙種防火地區ニ亙ル場合ニ在リテハ其ノ全部ニ對シ甲種防火地區内ノ建物ニ關スル規定ヲ適用ス但シ其ノ建物ノ部分ヲ成ス防火壁ニシテ甲種防火地區外ニ在ルトキハ其ノ防火壁外ノ部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第百三十四條　前二條ノ防火壁ニ付テハ第三十條ノ規定ヲ準用ス
第百三十五條　地方長官ハ防火地區内ニ在ル建築物ニ關シ本令ノ規定ノ外火災豫防上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
第百三十五條ノ二　地方長官ハ防火地區内ニ在ル建築物ニシテ一時ノ使用ニ供スルモノニ付第百十九條乃至第百三十五條ノ規定ニ拘ラス必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五章　美觀地區

第百三十六條　地方長官ハ美觀地區内ニ在ル建築物ニシテ環境ノ風致ヲ害シ又ハ街衢ノ體裁ヲ損スト認ムルトキハ其ノ除却、改修其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得
第百三十七條　地方長官ハ美觀地區内ニ建築スル建築物ノ意匠ニ關スル設計ニシテ環境ノ風致ヲ害シ又ハ街衢ノ體裁ヲ損スト認ムルトキハ其ノ設計ノ變更ヲ命スルコトヲ得
第百三十八條　地方長官美觀上必要アリト認ムルトキハ美觀地區内ニ一定ノ區域ヲ指定シ其ノ區域内ノ建築物ノ高、軒高又ハ外壁ノ材料及主色ヲ指定スルコトヲ得
第百三十九條　地方長官前三條ノ措置又ハ指定ニシテ重要ナリト認ムル事項ニ關シテハ美觀審査委員會ノ意見ヲ徵スベシ
美觀審査委員會ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム
第百四十條　美觀地區内ニ在ル建築物ノ外部汚損セルトキハ速ニ之ヲ修理スヘシ
第百四十一條　美觀地區内ニ在ル建築物ノ排水管、排氣管、煖房鐵管、瓦斯管及煙突ノ類ハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ヲ道路、廣場又ハ公園ニ面スル壁面ニ露出セシムルコトヲ得ス

【防衞】

**第百四十二條**　美觀地區內ニ在ル建築敷地ニシテ未タ建築物ナキモノ又ハ建築工事著手中ノモノハ板塀ノ類ヲ以テ體裁ヨク之ヲ圍繞スヘシ但シ適當ナル整理ヲ爲シ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

## 第六章　工事執行

**第百四十三條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ノ新築、增築、改築又ハ移轉ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ建築物ノ用途ヲ變更シテ第一號又ハ第五號ニ充テムトスルトキ亦同ジ

一　市街地建築物法第十四條ノ建築物

二　防火地區及美觀地區內ノ建築物

三　鐵筋「コンクリート」造、鐵骨造、鐵造、石造、煉瓦造、木骨造其ノ他木造ニ非ザル建築物

四　階數三以上ノ建築物

五　前各號ニ揭グルモノノ外地方長官ノ指定スル建築物

高四メートルヲ超ユル擁壁ノ築造ヲ爲サムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

**第百四十四條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ地方長官ニ屆出ヅベシ

一　前條ニ該當セザル建築物ノ新築

二　前條ニ該當セザル建築物ノ增築、改築又ハ移轉

三　前條第一項第一號乃至第四號ノ建築物ニシテ其ノ床面積百平方メートルヲ超ユルモノノ大修繕又ハ大變更

四　高二メートルヲ超ユル擁壁ノ築造

**第百四十四條ノ二**　地方長官ハ輕微ナル事項ニ付前二條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

**第百四十五條**　地方長官第百四十三條ノ認可申請ニ付支障ナシト認ムルトキハ建築認可證ヲ交付スヘシ

地方長官ハ前項ノ建築認可證ノ交付ニ際シ建築物使用認可證ヲ受クルニ非ザレバ使用シ得ザル建築物ヲ指定スルコトヲ得

**第百四十六條**　第百四十三條及第百四十四條ノ建築工事竣功シタルトキ及地方長官ノ特ニ指定シタル工程ニ達シタルトキハ地方長官ニ屆出ヅヘシ

**第百四十七條**　地方長官ハ第百四十五條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル建築物ニ付竣功ノ屆出ヲ受ケタル場合ニ於テ支障ナシト認メタルトキハ遲滯ナク建築物使用認可證ヲ交付スベシ

地方長官ハ申請者ノ請求ニ依リ前項ノ建築物ノ竣功セル部分ニ對シ建築物使用認可證ヲ交付スルコトヲ得

**第百四十八條**　地方長官ハ當該官吏又ハ吏員ヲ派シ建築物及建築工事ヲ臨檢セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ臨檢者ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ建築主、建築工事請負人、建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若ハ占有者檢査ニ必要ナル準備ヲ命セラレタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項準備ノ費用ハ建築主又ハ建築物所有者ノ負擔トス

**第百四十九條**　地方長官ハ建築工事ノ認可申請、屆出又ハ其ノ變更ノ手續其ノ他建築工事ノ取締ニ關シ本則ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

**第百四十九條ノ二**　第七條乃至第二十三條、第二十五條、第二十六條、第二十七條第二項、第二十八條乃至第百十五條、第百三十六條乃至第百四十二條及第百四十四條第二號乃至第四號ノ規定ハ內務大臣ノ指定スル區域ニ之ヲ適用セズ

地方長官特別ノ事由アリト認メ內務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ前項ノ指定區域ニ付命令ヲ以テ建築物ノ種類又ハ地區ヲ指定シ前項ニ揭グル條項ノ規定ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ妨グズ

【防衞】

### 附　則

**第百五十條**　削除

**第百五十一條**　本則ハ市街地建築物法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條乃至第三條ノ六、第六條、第七條乃至第二十六條、第二十八條、第二十九條、第三十條乃至第百十五條、第百二十六條乃至第百三十條、第百三十三條、第百三十四條、第百三十六條乃至第百四十二條、第百四十五條及第百四十七條ノ規定ハ當分ノ內之ヲ適用セズ

### 附　則　（昭和七年內務省令第一號）

本令ハ昭和七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前市街地建築物法施行令第三十一條ノ規定ニ依ル指定アリタル區域ハ第百四十九條ノ二ノ規定ニ依ル內務大臣ノ指定アリタルモノト看做ス

### 附　則　（昭和十四年內務省令第一號）

本令ハ昭和十三年法律第二十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

市街地建築物法第四條第二項ノ規定ニ依ル工業地域內特別地區規則ハ之ヲ廢止ス

# ●防空建築規則

昭和十四年二月十七日
內務省令第五號

改正　昭和一七年第一五號、一八年第五三號

**第一條**　市街地建築物法第十二條ノ規定ニ依ル建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ防空上必要ナル事項ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

**第二條**　削除

**第三條**　本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

## 第四編　建築關係　第一章　建築一般

イ　耐火木材トハ耐火液ヲ注入シタル木材ニシテ內務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノ（甲種耐火木材又ハ乙種耐火木材）ヲ謂フ

ロ　防火塗料トハ木材等ニ塗布スル塗料ニシテ內務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノヲ謂フ

ハ　床又ハ屋根ノ耐彈構造トハ鐵筋「コンクリート」造（鐵骨鐵筋「コンクリート」造ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　版ノ厚ハ四十センチメートル以上ニシテ各部分ニ於ケル鐵ト「コンクリート」トノ容積比ハ〇・〇四以上且複筋及繫筋ヲ配置シ主筋ノ間隔ハ十五センチメートル以下トシ上下ノ鐵筋ハ千鳥ニ配シ適當ニ熔接シタルモノ

ロ　版ノ厚特ニ大ナルモノ等ニシテ地方長官前號ト同等以上ノ耐彈效力アリト認ムルモノ

四　防護扉トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵製ニシテ鐵板ノ厚ノ合計三ミリメートル以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ロ　木造ニシテ厚六センチメートル以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ハ　其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

五　防彈扉トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ　鐵製ニシテ鐵板ノ厚ノ合計十ミリメートル以上ノモノ

ロ　「コンクリート」製ニシテ「コンクリート」ノ厚十センチメートル以上ノモノ

ハ　其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

六　防護壁トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

【防衞】

| | | |

メートル以内ノ部分ハ十五センチメートル）以上突出セシムルコト

三　上端ハ屋根面ニ直角ニ測リ四十五センチメートル以上屋上ニ突出セシムルコト

**第八條**　木造建物ノ開口ニシテ隣地境界線ニ面シ且隣地境界線ヨリノ水平距離一メートル未滿ノモノニ付テハ地方長官防火上ノ必要ニ依リ之ガ設置ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

金屬板ヲ以テ屋根ヲ被覆シタル木造建物ニ在リテハ前項ノ距離ヲ二メートル未滿トス

**第八條ノ二**　木造建物ニ在リテハ防火庫ノ用ニ供シ得ベキ容積一立方メートル以上ノ地窖ヲ設クベシ但シ地方長官建物ノ用途若ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ナシト認メ又ハ之ニ代ルベキ適當ナル設備アルトキハ此ノ限ニアラズ

**第九條**　鐵筋「コンクリート」造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數六以上ノモノ又ハ階數五且其ノ床面積三千平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲スベシ但シ最上階ニ集會室ノ類アル爲其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲シ難キ場合ニ於テハ其ノ部分ニ付テハ床ヲ耐彈構造ト爲シ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ建物又ハ建物ノ部分ニハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室ヲ設クベシ

**第十條**　鐵筋「コンクリート」造ノ建物ニシテ其ノ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室又ハ準防護室ヲ設クベシ

**第十一條**　外壁木造又ハ鐵造ノ建物ニシテ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ面積ヲ有シ且周壁鐵筋「コンクリート」造若ハ之ト同等以上ノ防彈效力ヲ有スル室、地窖其ノ他防護ノ施設ヲ設クベシ

**第十二條**　壁體ヲ以テ區劃セラルル建物ニ付テハ第九條乃至第十一條ノ規定ハ其ノ區劃セラルル部分ニ付之ヲ適用ス

**第十三條**　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニ付防護室準防護室其ノ他防護ノ施設ニ關シ第十條又ハ第十一條ノ規定ニ準ジ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

一　公共團體ノ公用ニ供スルモノ
二　學校
三　病院
四　停車場、停留場又ハ航空機若ハ汽船ノ發著場
五　卸賣市場
六　常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場
七　劇場、映畫館、演藝場、觀物場、公會堂又ハ集會場
八　前各號ニ揭グルモノノ外地方長官命令ヲ以テ指定スルモノ

**第十四條**　防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　收容室ト前室トニ區劃シ又ハ臨時區劃ノ設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト但シ地方長官防護室ノ位置其ノ他ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　收容室ノ床面積ハ百平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

三　上部ノ床又ハ屋根ハ耐彈構造ト爲スコト但シ防護室ノ上部ニ二以上ノ阪アル場合ニ於テ地方長官支障ナシト認ムルトキハ耐彈構造ノ條件

【防衛】

ヲ輕減スルコトヲ得

四　周壁ハ鐵筋「コンクリート」造ト爲スコト

周壁ニシテ建物ノ第一階以下ノ階ノ外壁ヲ爲スモノニ在リテハ特ニ耐彈效力大ナル構造ト爲スコト但シ其ノ周壁地中ニ在ル場合ニ於テ地盤面ニ周壁ヨリノ水平距離四メートル以上ニ亙リ耐彈構造ノ阪ヲ設クル等適當ナル防護施設ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

五　防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護上支障ナキ距離ヲ隔テ防護壁ヲ設ケ又ハ之ヲ在リテハ其ノ前面ニ出入ニ支障ナキ距離ヲ隔テ防護壁ヲ設ケ又ハ之ヲ設クル準備裝置ヲ爲スコト

前項ノ防護壁ノ高ハ出入口ノ高以上幅ハ出入口ノ幅ニ出入口ト防護壁トノ水平距離ノ二倍ヲ加ヘタルモノ以上ト爲スコト

六　外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ト爲シ且前號ニ該當スルモノヲ除クノ外防彈扉ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得

建物ノ第一階ニ在リテハ外壁ノ窓ハ床面ヨリ高一・五メートル未滿ノ位置ニ之ヲ設クルコトヲ得ザルコト

七　外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニハ防護扉ヲ設クルコト

八　出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

九　防毒上有效ナル構造ト爲スコト

**第十五條**　準防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　收容室ノ床面積ハ五十平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　上部ノ床又ハ屋根及周壁ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ之ト同等以上ノ耐彈效力アルモノト爲スコト

三　防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護上支障ナキ位置ニ在ルモノヲ除クノ外防護扉ヲ設クルコト

四　外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ノ階ノ外壁ヲ爲スモノニ在リテハ特ニ耐彈效力大ナル構造ト爲スコト但シ其ノ周壁地中ニ在ル場合ニ於テ地盤面ニ周壁ヨリノ水平距離四メートル以上ニ亙リ耐彈構造ノ阪ヲ設クル等適當ナル防護施設ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

五　防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護扉ヲ設ケ且外氣ニ面スルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト

六　出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脫出口ヲ設クルコト

七　防毒上有效ナル構造ト爲スコト

**第十六條**　地方長官ハ建物ノ用途其ノ他ノ狀況又ハ特別ナル事由ニ因リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ第九條乃至第十一條ノ耐彈構造、防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設ニ關スル制限ヲ輕減スルコトヲ得

**第十七條**　地方長官ハ第九條乃至第十一條ノ防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設ノ配置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

**第十七條ノ二**　地方長官ハ內務大臣ノ指定スル種類ニ屬スル重要ナル工場又ハ事業場ニ於ケル動力設備其ノ他作業上特ニ重要ナル設備ヲ收容スル建築物ニ付テハ其ノ周壁及屋根又ハ床ヲ特ニ耐彈效力大ナル構造ト爲サシムルコトヲ得

地方長官ハ前項ノ建築物ニ付重要設備ノ防護ニ關シ防護壁ノ設置其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

**第十七條ノ三**　地方長官ハ燈火管制ノ爲建築物ノ開口部ノ隱蔽其ノ他ノ設備ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

**第十八條**　地方長官ハ僞裝ノ爲建築物ノ形態、色彩又ハ僞裝準備裝置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

**第十九條**　石油「タンク」ニシテ其ノ容積三千キロリットルヲ超ユルモノハ

之ヲ地下ニ設クベシ但シ地方長官土地ノ狀況又ハ適當ナル防護施設ノ設置ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第二十條**　一時ノ使用ニ供スル建築物ニシテ地方長官支障ナシト認ムルモノニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラズ存續期限ヲ附シ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

**第二十一條**　第四條乃至第十二條、第十六條及第十七條ノ規定ハ內務大臣ノ指定スル區域ニハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則　（昭和十七年內務省令第十五號）

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

從前ノ第二條ノ規定ニ基キ指定セラレタル區域ヲ除キタル區域ハ第二十一條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

## ●特殊建築物規則

昭和十一年九月十一日
內務省令第三十一號

改正　昭和一八年第五三號、第七六號

**第一章**　總則

**第一條**　本令ハ市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依リ左ノ各號ノ建物ニ之ヲ適用ス建物ノ一部ヲ左ノ各號ノ用途ニ供スルモノニ在リテハ其ノ部分ニ付亦同ジ

一　學校

二　住戶又ハ住室ノ床面積ノ合計百五十平方メートル以上ノ共同住宅

三　床面積千平方メートル以上ニシテ建物ノ第三階以上ノ階ニ賣場ヲ有スル百貨店

四　自動車車庫但シ床面積二十平方メートル以下ニシテ專ラ小型自動車ヲ格納スルモノヲ除ク

建物ニシテ其ノ一部ヲ前項各號ノ用途ニ供スルモノニ付テハ地方長官ハ其ノ他ノ部分ニ對シ保安上相當ナル構造設備ヲ命ズルコトヲ得

**第二條**　避難階段ハ屋內避難階段、準屋內避難階段及屋外避難階段ノ三種トス

屋內避難階段ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ地上階ニ設クルモノニ付最上部ニ在リテハ第一號、第二號、第四號又ハ第五號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一　屋內トノ連絡ニハ露臺又ハ外氣ニ開放スル附室ヲ設クルコト

二　階段室及附室ハ耐火構造ノ壁體ヲ以テ之ヲ圍繞スルコト

三　階段室ニハ外氣又ハ附室ニ面シ適當ナル窓又ハ之ニ代ルベキ採光面ヲ設クルコト

四　階段室、露臺及附室ニハ屋內ニ面シ出入口以外ノ開口ヲ設ケザルコト

五　屋內ヨリ露臺又ハ附室ニ通ズル出入口ニハ自動閉鎖ノ甲種防火戶ヲ設クルコト

六　前號ノ出入口及露臺又ハ附室ヨリ階段室ニ通ズル出入口ニ設クル扉ハ地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外第一階ニ向フ避難ノ方向ニ開ク設備ト爲スコト

七　階段ハ耐火構造ト爲シ第一階迄直通セシメ第一階ニ於テハ直接非常口ニ通ズルコト

準屋內避難階段ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ地上階ニ設クルモ



ノニ付最上部又ハ第一階ニ在リテハ第一號、第三號又ハ第四號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一　階段室ハ外氣ニ面スル部分ヲ除クノ外耐火構造ノ壁體又ハ甲種防火戶ヲ以テ之ヲ圍繞スルコト

二　階段室ニハ外氣ニ面シ適當ナル窓又ハ之ニ代ルベキ採光面ヲ設クルコト

三　階段室ノ屋內ニ面スル壁面ニ窓ヲ設クル場合ニハ其ノ面積ハ各一平方メートル以內ニシ且鐵骨網入硝子造ノ嵌殺戶又ハ之ニ代ルベキ設備ノ戶ヲ設クルコト

四　屋內ヨリ階段室ニ通ズル出入口ニハ防火戶又ハ鐵骨網入硝子戶ヲ設ケ且地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外自動閉鎖ノ設備ヲ爲スコト

五　前號ノ出入口ニ設クル扉ハ前項第六號ノ規定ニ準ズルコト

六　階段ハ耐火構造ト爲シ第一階迄直通セシメ第一階ニ於テハ適當ニ非常口ニ連絡スルコト

屋外避難階段ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ地上階ニ設クルモノニ付最上部ニ在リテハ第三號又ハ第四號ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

一　建物ノ外側ニ設クルコト

二　階段及踊場ノ有效幅員ハ六十センチメートル以上ト爲スコト

三　階段、踊場又ハ露臺ニ近接スル部分ノ壁面ニ窓ヲ設クル場合ニハ其ノ面積ハ各一平方メートル以內ニシ且鐵骨網入硝子造ノ嵌殺戶又ハ之ニ代ルベキ設備ノ戶ヲ設クルコト

四　屋內ヨリ階段ニ通ズル出入口ニハ自動閉鎖ノ防火戶又ハ鐵骨網入硝子戶ヲ設クルコト

五　前號ノ出入口ニ設クル扉ハ第二項第六號ノ規定ニ準ズルコト

六　階段ハ耐火構造ト爲シ地盤面迄直通セシメ道路、廣場ノ類ニ適當ニ連絡スルコト

**第三條**　非常口トハ左ノ構造設備ヲ有スル出入口ヲ謂フ

一　有效幅員ハ七十五センチメートル以上ナルコト

二　扉ハ內開ナラザルコト

三　道路、廣場ノ類ニ適當ニ連絡スルコト

**第四條**　壁體ヲ以テ遮斷セラルル建物又ハ防火壁、防火戶ノ類ヲ以テ區劃セラルル建物ニ付テハ階段、出入口又ハ此等ニ代ルベキ設備ニ關スル規定ハ遮斷又ハ區劃セラルル部分ニ對シ各別ニ之ヲ適用ス

防火壁、甲種防火戶ノ類ヲ以テ區劃セラルル建物ノ部分ニシテ隣接スル區劃ニ適當ニ連絡スル設備アルモノニ在リテハ地方長官ハ保安上支障ナシト認ムル場合ニ限リ其ノ部分ニ設クル出入口ヲ以テ避難階段又ハ非常口ト看做スコトヲ得

**第五條**　地方長官保安上必要アリト認ムルトキハ第一條各號ノ建物ニ對シ非常警報機、屋上水槽、貯水槽、消火栓、「スプリンクラー」ノ類ノ設備其ノ他防火上又ハ避難上必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

**第六條**　假設的ノ建物ニ付テハ地方長官支障ナシト認ムルトキハ本令ノ規定ニ拘ラズ存續期限ヲ附シ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

**第七條**　本令ハ市街地建築物法施行規則第百四十九條ノ二ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定スル區域ニ對シテハ之ヲ適用セズ但シ同條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル建物又ハ地區ニ對シテハ地方長官ハ命令ヲ以テ本令ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ妨ゲズ

**第二章**　學校

**第八條**　建物ノ第三階以上ノ階ニ教室其ノ他生徒（學生、兒童ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヲ收容スル室ヲ設クル學校ノ建物ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根（屋根ナキトキハ直上階ノ床以下之ニ同ジ）及階段ヲ耐火構造ト爲ス

ベシ

**第九條**　小學校（小學校ニ類スル各種學校ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ在リテハ建物ノ第四階以上ノ階ニ教室其ノ他兒童ヲ收容スル室ヲ設クルコトヲ得ズ

**第十條**　校舍ノ本屋ト隣地境界線トノ距離ハ地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外四メートル以上ト爲スベシ

**第十一條**　小學校ニ在リテハ兒童全員ノ避難用ニ供スル爲講堂、屋內體操場又ハ校舍ノ一部ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

前項ノ耐火構造ノ部分ト耐火構造ニ非ザル部分トノ境界ニ設クル出入口ニハ甲種防火戸ヲ設クベシ

**第十二條**　教室其ノ他生徒ヲ收容スル室ニハ廊下、廣間ノ類又ハ屋外ニ面シ二以上ノ出入口ヲ設クベシ

**第十三條**　小學校ニ在リテハ兒童ノ常用ニ供スル階段ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　第一階又ハ地盤面迄直通スル階段ノ數ハ各階ニ付教室數八以內ノトキハ二以上トシ教室數四又ハ其ノ端數ヲ增ス每ニ一ヲ加フルコト但シ教室數三以內ノ場合ニ於テ一ノ階段ヲ設ケ別ニ避難上有效ナル設備ヲ有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二　階段及踊場ノ有效幅員ハ一・四メートル以上ヲ爲スコト

三　直階段ニ於ケル踊場ノ踏幅ハ一・二メートル以上ト爲スコト

四　蹴上ハ十六センチメートル以下ト爲スコト

五　高三メートルヲ超ユルトキハ高三メートル以內每ニ踊場ヲ設クルコト

六　有效幅員二メートルヲ超ユル階段ニハ中間ニ手摺ヲ設クルコト

**第十四條**　木造校舍ノ第一階ニハ生徒ノ常用ニ供スル階段ニ近接シテ運動場其ノ他ノ空地ニ適當ニ連絡スル出入口ヲ設クベシ

**第十五條**　生徒ノ常用ニ供スル廊下ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　片廊下ニ在リテハ其ノ有效幅員ヲ一・八メートル以上ト爲スコト

二　中廊下ニ在リテハ其ノ有效幅員ヲ二・三メートル以上ト爲スコト

三　勾配ハ八分ノ一ヲ超エザルコト

**第十六條**　屋上運動場ノ周圍ニハ高一・一メートル以上ノ扶壁ヲ設クベシ

**第十七條**　木造校舍ノ構造强度ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ特別ノ手法ニ依ルモノ又ハ教室其ノ他ノ室ノ規模小ナルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　外壁ニハ堅固ナル筋違ヲ用フルコト

二　桁行十二メートルヲ超ユルトキハ間隔十二メートル以內每ニ堅固ナル筋違ヲ用ヒテ構成シタル通壁ノ間壁ヲ設クルコトヲ以テ足リ難キ場合ニ於テハ適當ナル間隔ニ控柱、控壁ノ類ヲ設クルコト

三　特別ノ場合ヲ除クノ外桁行間隔二メートル以內每ニ柱、梁及小屋組ヲ配シ堅固ナル方杖ヲ用ヒテ之ヲ繫結スルコト

四　床組及小屋梁組ハ堅固ナル材其ノ他ノ斜材ヲ用ヒテ構成シ第一號及第二號ノ壁體ニ緊著スルコト

五　二階建ニ於ケル柱ニシテ主要ナルモノハ通柱ト爲スコト

六　主要ナル柱ノ大サハ十五センチメートル角以上又ハ之ニ相當スル强度ヲ有スルモノト爲スコト

七　主要ナル柱ハ其ノ斷面積ノ四分ノ一以上ヲ缺取ラザルコト

八　主要ナル柱、梁、桁、土臺、筋違、方杖、燈材ノ類ノ繼手及仕口ハ「ボールト」、羽子板金物、短冊金物ノ類ヲ用ヒ適當ナル方法ニ依リ緊著スルコト

**第十八條**　地方長官學校ノ種類、校舍若ハ敎室ノ規模構造又ハ周圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキ又ハ特別ノ事由ニ依リ已ムヲ得ズト認ムルトキハ第九條又ハ第十一條乃至第十五條ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

## 第三章　共同住宅

**第十九條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル共同住宅ノ建物ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

一　建物ノ第二階ニ於テ共同住宅ノ用ニ供スル部分ノ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノ

二　建物ノ第三階以上ノ階ニ住戶又ハ住室ヲ設クルモノ

**第二十條**　住戶又ハ住室ノ居室（賣場、仕事場及炊事場ヲ除ク）ノ床ハ地盤面下ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ

**第二十一條**　有效採光面積ノ計算ニ付市街地建築物法施行規則第十九條第三項ノ規定ノ適用ニ關シテハ住戶又ハ住室ノ居室ハ住居地域內ニ在ルモノト雖モ住居地域外ニ在ルモノト看做ス

**第二十二條**　住戶又ハ住室ノ居室（賣場及仕事場ヲ除ク）ニハ外氣又ハ廊下、廣間ノ類ニ通ズル適當ナル換氣口ヲ設クベシ但シ地方長官其ノ構造設備ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第二十三條**　共用ノ便所ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　外氣ニ面シ開放シ得ル窓ヲ設クルコト

二　床及床面ヨリ十センチメートル迄ノ部分ノ周壁ハ不滲透質ノ材料ヲ以テ構成又ハ被覆スルコト

**第二十四條**　主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段耐火構造ノ共同住宅ニ在リテハ床面積六百平方メートルヲ超ユル階ハ六百平方メートル以內每ニ防火壁、甲種防火戸ノ類ヲ以テ之ヲ區劃スベシ

前項ノ構造ニ該當セザル共同住宅ニシテ其ノ建築面積三百平方メートルヲ超ユルモノハ三百平方メートル以內每ニ防火壁ヲ以テ之ヲ區劃スベシ

**第二十五條**　共同住宅ト共同住宅ニ非ザル部分トノ境界ヲ成ス壁體耐火構造ニ非ザルトキハ鐵網「モルタル」塗、漆喰塗、土塗其ノ他之ニ類スル構造ト爲スベシ住戶又ハ住室ノ境界ヲ成ス壁體ニ付亦同ジ

共同住宅ノ屋根耐火構造ニ非ザル場合ニ於テ桁行又ハ張間十二メートルヲ超ユルトキハ間隔十二メートル以內每ニ防火上有效ナル設備ヲ以テ屋根裏ヲ區劃スベシ

**第二十六條**　建物ノ第二階ニ設クル別棟ノ住戶又ハ住室ノ床面積ノ合計百平方メートル以上ノ場合ニ於テ其ノ床耐火構造ニ非ザルトキハ其ノ直下階ノ天井ハ鐵網「モルタル」塗、耐火木材張其ノ他之ニ類スル構造ト爲スベシ

自動警報機ノ類ノ設備ヲ爲ス場合ニ於テ地方長官保安上支障ナシト認ムルトキハ前項ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

**第二十七條**　共同住宅ニ於テ常時火氣ヲ使用スル箇所ニハ防火上適當ナル設備ヲ爲スベシ

**第二十八條**　建物ノ第一階ニ住戶又ハ住室ヲ設クル共同住宅ニハ適當ノ箇所ニ其ノ階ノ各住戶又ハ住室ヨリ連絡スル二以上ノ非常口ヲ設クベシ但シ其ノ階ノ主要ナル壁體、床、柱及屋根耐火構造ニシテ地方長官保安上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第二十九條**　建物ノ第二階ニ別棟ノ住戶又ハ住室ヲ設クル共同住宅ニハ適當ノ箇所ニ其ノ階ノ各住戶又ハ住室ヨリ連絡スル二以上ノ階段ヲ設クベシ但シ第二階ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段耐火構造ノ場合又ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ階段ハ建物ノ外側ニ設クルモノヲ除クノ外左ノ規定ニ依ルベシ

一　階段室ノ壁體ハ三方面以上ニ於テ鐵網「モルタル」塗、漆喰塗、土盆

【防衞】

又ハ之ト同等以上ノモノト爲スコト

二　階段室ニハ外氣ニ面シ適當ナル窓又ハ之ニ代ルベキ採光面ヲ設クルコト

三　第一階ニ於テハ各別ノ非常口ニ適當ニ連絡スルコト

四　階段及階段ヨリ非常口ニ至ル部分ノ周圍ハ地方長官保安上支障ナシト認ムル場合ヲ除クノ外常時火氣ヲ用フル用途ニ供セザルコト

**第三十條**　建物ノ第三階以上ノ階ニ別棟ノ住戸又ハ住室ヲ設クル共同住宅ニハ適當ノ箇所ニ第三階以上ノ各階ノ各住戸又ハ住室ヨリ連絡スル二以上ノ避難階段ヲ設クベシ但シ第三階又ハ第四階左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ階ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　第三階ニ於ケル住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計四百平方メートル以下ノ場合ニ於テ適當ノ箇所ニ前條第二項ノ規定ニ依ル二以上ノ直通階段ヲ有スルトキ

二　第三階ニ於ケル住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計二百平方メートル以下ノ場合又ハ第四階ニ於ケル住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計百五十平方メートル以下ノ場合ニ於テ一ノ避難階段ヲ設ケ別ニ避難上有效ナル設備ヲ有スルトキ

**第三十一條**　共同住宅ノ敷地內ノ通路ニシテ非常口又ハ避難階段ニ連絡スルモノノ有效幅員ハ一・二メートル以上ト爲スベシ

**第三十二條**　住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計百平方メートル以上ノ階ヨリ連絡スル常用ノ共用階段ノ有效幅員ハ一メートル以上ト爲スベシ

**第三十三條**　住戸又ハ住室ノ床面積ノ合計百平方メートル以上ノ階ニ設クル常用ノ共用廊下ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　廊下ノ有效幅員ハ片廊下ニ在リテハ一・二メートル以上中廊下ニ在リテハ一・五メートル以上ト爲スコト

二　廊下ニハ其ノ各部分ヨリ十メートル以內ニ採光換氣上適當ナル窓其ノ他ノ開口ヲ設クルコト但シ天窓又ハ廊下ノ端部ニ設クル窓其ノ他ノ開口ニ付テハ地方長官ノ認定ニ依リ十メートルヲ三十メートル迄ト爲スコトヲ得

三　前號ノ窓其ノ他ノ開口（天窓ヲ除ク）ノ面積ハ一平方メートル以上ト爲スコト

廊下ニ接スル階段室、廣間等ニシテ採光換氣上適當ナル窓其ノ他ノ開口ヲ有スルモノアル場合ニ於テハ地方長官ノ認定ニ依リ之ニ通ズル部分ヲ以テ前項ノ窓其ノ他ノ開口ニ代フルコトヲ得

**第三十四條**　地方長官保安上必要アリト認ムルトキハ主要ナル壁體、床、柱、直上階ノ床及階段耐火構造ニ非ザル工場、倉庫、市場、料理店、飲食店其ノ他地方長官ノ指定スル用途ニ供スル建物ノ上階ニハ共同住宅ノ建築ヲ禁止スルコトヲ得

共同住宅ハ高架工作物內ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ

## 第四章　百貨店

**第三十五條**　床面積五千平方メートル以上ノ百貨店ハ二方面以上ニ於テ道路ニ面スベシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ前項ノ百貨店ニ付駐車若ハ操車ノ用ニ供スル適當ナル餘地ノ存置又ハ之ニ代ルベキ設備ヲ命ズルコトヲ得

**第三十六條**　建物ノ第三階以上ノ階ニ賣場ヲ有スル百貨店ノ建物ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

**第三十七條**　床面積千五百平方メートルヲ超ユル階ハ千五百平方メートル以內毎ニ防火壁、甲種防火戶ノ類ヲ以テ之ヲ區劃スベシ但シ些少ノ超過ニシテ地方長官保安上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第三十八條**　建物ノ第一階ニ賣場ヲ設クル百貨店ニハ適當ノ箇所ニ其ノ階





ノ賣場ヨリ連絡スル二以上ノ非常口ヲ設クベシ

**第三十九條**　建物ノ第五階以上ノ階ニ賣場ヲ設クル百貨店ニハ避難ノ用ニ供シ得ル適當ナル屋上廣場ヲ設クベシ

**第四十條**　百貨店ノ階段ハ特ニ地方長官ノ承認スル場合ヲ除クノ外避難階段ト爲スベシ

賣場ノ各部分ヨリ避難階段ニ至ル步行距離ハ三十メートル以內ニ爲スベシ

**第四十一條**　百貨店ニハ各階ノ賣場及第三十九條ノ規定ニ依ル屋上廣場ヨリ連絡スル二以上ノ避難階段ヲ設クベシ

建物ノ第五階以上ノ階ノ賣場ヨリ連絡スル避難階段ハ其ノ一以上ヲ屋內避難階段ト爲スベシ

建物ノ第五階以上ノ階ニシテ其ノ階ノ床面積三千平方メートルヲ超ユルモノニハ超過面積三千平方メートル以內毎ニ第四階以下ノ階ノ用ニ供セザル屋內避難階段ヲ設クベシ此ノ場合ニ於テハ第四條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

**第四十二條**　避難階段ノ有效幅員ノ合計ハ左ノ規定ニ依ルベシ

一　地上階ニ在リテハ其ノ避難階段ヲ通ジ避難スベキ其ノ階以上ノ各階ノ床面積ノ合計百平方メートルニ付六センチメートル以上且其ノ階ノ床面積百平方メートルニ付三十センチメートル以上ト爲スコト

二　地階ニ在リテハ其ノ階ノ床面積百平方メートルニ付四十センチメートル以上ト爲スコト

避難階段ニ通ズル出入口ノ有效幅員ノ合計ハ各階毎ニ其ノ階ノ床面積百平方メートルニ付地上階ニ在リテハ二十七センチメートル以上地階ニ在リテハ三十六センチメートル以上ト爲スベシ

前二項ノ所要最小有效幅員ノ計算ニ關シテハ專ラ一又ハ二ノ階（地階ヲ除ク）ノ用ニ供スル避難階段又ハ之ニ通ズル出入口ニ付テハ其ノ有效幅員ニ一・五ヲ乘ジタルモノニ依ルモノトス

第一階ニ設クル非常口ノ有效幅員ノ合計ハ地上階及地階ノ床面積ノ合計百平方メートルニ付六センチメートル以上且地上階及地階中最大ノ階ノ床面積百平方メートルニ付四十センチメートル以上ト爲スベシ

**第四十三條**　前二條ノ規定ノ適用ニ關シテハ屋上廣場ハ之ヲ階ト看做ス

**第四十四條**　百貨店ニ在リテハ第四條第二項ノ規定ニ依リ出入口ヲ避難階段又ハ非常口ト看做ス場合ハ其ノ出入口ノ外第四十二條第一項又ハ第三項ノ所要最小有效幅員ノ三分ノ二以上ノ有效幅員ヲ有スル避難階段又ハ非常口アル場合ニ限ルモノトス

**第四十五條**　地方長官各階ノ床面積又ハ利用狀況、階段ノ數又ハ種類、露臺又ハ附室ノ面積等ニ依リ保安上支障ナシト認ムルトキハ第四十一條、第四十二條又ハ前條ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

**第四十六條**　床面積一萬平方メートル以上ノ百貨店ニハ適當ニ「スプリンクラー」ノ設備ヲ爲スベシ

「スプリンクラー」ノ設備ヲ爲ス場合ニ於テ地方長官保安上支障ナシト認ムルトキハ第三十七條、第四十一條、第四十二條又ハ第四十四條ノ制限ヲ輕減スルコトヲ得

**第四十七條**　賣場ノ天井ハ之ヲ吹拔ト爲スコトヲ得ズ但シ第一階ノ天井ハ此ノ限ニ在ラズ

**第四十八條**　中間階ニシテ其ノ床面積直下階ノ床面積ノ五分ノ一以上ノモノハ之ヲ階ト看做ス

**第四十九條**　餘興場、展覽場、客用食堂其ノ他多人數來集スル室ハ之ヲ賣場ト看做ス

## 第五章　自動車車庫

第五十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場所ニ面スル敷地ニハ地方長官ハ自動車車庫ノ規模、格納スベキ自動車ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ自動車車庫ノ建築ヲ禁止スルコトヲ得

一　幅員六メートル未滿ノ道路

二　道路ノ交叉點、曲角又ハ急坂

三　道路上ニ設クル電車停留場若ハ引返場、安全地帶、橫斷歩道、橋詰又ハ路切附近ノ道路

四　公園、小學校、幼稚園其ノ他地方長官ノ指定スル施設ノ出入口附近ノ道路

五　前各號ノ外交通上支障アリト認メ地方長官ノ指定スル道路

第五十一條　地方長官自動車車庫ノ規模、格納スベキ自動車ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ車庫ノ前面ニ適當スル餘地ヲ存セシムルコトヲ得

第五十二條　建物ノ第二階以上ノ階又ハ地盤面ヨリ六メートル以上ニ在ル箇所ニ設クル自動車車庫ノ建物ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スベシ

第五十三條　建物ノ第一階ニ設クル自動車車庫ノ建物ハ左ノ構造ト爲スベシ

一　床面積三百平方メートル以上ノモノハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スコト

二　床面積百平方メートル以上ノモノハ其ノ主要ナル壁體ヲ耐火構造ト爲シ且柱、小屋及屋根又ハ天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成スルコト

三　床面積五十平方メートル以上ノモノハ其ノ主要ナル壁體、柱、小屋及屋根又ハ天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成スルコト

四　床面積十五平方メートル以上ノモノハ其ノ主要ナル壁體ヲ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ壁體ノ內面ヲ鐵網「モルタル」塗其ノ他地方長官ノ承認スル構造ト爲シ且屋根又ハ天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成又ハ被覆スルコト

五　床面積十五平方メートル未滿ノモノハ其ノ主要ナル壁體ノ內面及屋根又ハ天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成又ハ被覆スルコト

六　前五號ノ規定ニ依ルノ外直上ニ二以上ノ階アル部分又ハ床面積五十平方メートル以上ノ直上階アル部分ハ其ノ主要ナル壁體、床、柱、屋根及階段ヲ耐火構造ト爲スコト

七　第一號乃至第五號ノ規定ニ依ルノ外床面積五十平方メートル未滿ノ直上階アル部分ハ其ノ主要ナル壁體及天井ヲ不燃材料ヲ以テ構成シ又ハ其ノ內面ヲ鐵網「モルタル」塗其ノ他地方長官ノ承認スル構造ト爲スコト

第五十四條　自動車車庫ノ構造設備ハ前二條ノ外左ノ規定ニ依ルベシ

一　床及地窖ハ耐水材料ヲ以テ構成シ汚水排除ノ設備ヲ爲スコト

二　車庫ノ床地盤面下ニ在ル場合ニハ二方面以上ニ於テ外氣ニ通ズル適當ナル換氣口ヲ設ケ又ハ之ニ代ルベキ設備ヲ爲スコト

三　傾斜路ノ縱斷勾配ハ七分ノ一ヲ超エザルコト

四　外壁ノ窓又ハ出入口ニシテ隣地境界線又ハ隣接建物ニ面シ其ノ水平距離五メートル未滿ノ位置ニアルモノニハ左ニ揭グル設備ヲ爲スコト但シ公園、廣場等ノ空地ニ面スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

イ　第五十二條又ハ前條第一號、第二號若ハ第六號ニ該當スルモノノ窓又ハ出入口ニハ甲種防火戶ヲ設クルコト

ロ　前條第三號、第四號又ハ第七號ニ該當スルモノノ窓又ハ出入口ニハ防火戶又ハ鐵骨網入硝子戶ヲ設クルコト

ハ　前條第五號ニ該當スルモノノ出入口ニハ不燃材料ヲ以テ構成又ハ被覆シタル戶ヲ設クルコト

五　建物ノ第三階以上ノ階又ハ地盤面ヨリ十メートル以上ニ在ル箇所ニ設クルモノニ在リテハ之ヨリ連絡スル階段ヲ設ケ又ハ之ニ代ルベキ設備ヲ爲スコト

第五十五條　自動車車庫ニシテ建物ノ部分ニ設クルモノニ在リテハ前三條ノ外左ノ規定ニ依ルベシ

一　車庫ト車庫ニ非ザル部分トノ境界ニ設クル出入口其ノ他ノ開口ニハ前條第四號ノ規定ニ準ズル設備ヲ爲スコト

二　車庫ノ最下階ノ床及最上階ノ天井ニハ車庫ニ非ザル部分ニ通ズル開口ヲ設ケザルコト

三　車庫ニ非ザル部分ノ爲設クル非常用出入口ハ車庫內ニ之ヲ設ケザルコト

第五十六條　商品タル自動車又ハ揮發油ヲ使用セザル自動車ヲ格納スル自動車車庫ニ付テハ地方長官ハ前四條ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

## 雜則

本令ハ市街地建築物法適用前ヨリ存在スル建物及同法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ建築シタル建物ニ關シテハ增築、改築、修繕、用途ノ變更其ノ他現狀ニ變更ヲ加ヘザル限リ之ヲ適用セズ

本令ハ當分ノ內之ヲ適用セズ

# ●市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則

大正十二年六月一日
內務省令第十五號

改正　大正一三年第三一號
昭和七年第二號、一一年第三二號、一八年第五三號、第七六號

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建物ヲ建築スルトキハ其ノ壁體、床、柱、屋根、階段等主要構造部ヲ耐火構造ト爲スヘシ

一　劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場及之ニ類スル建物ニシテ觀客定員七百五十人以上ノモノ

二　集會場、公會堂及之ニ類スル建物ニシテ收容定員千人以上ノモノ

三　旅館、下宿屋、寄宿舍、貸座敷、常設展覽會場、勸工場及之ニ類スル建物ニシテ階數四以上ノモノ

四　削除

五　倉庫ニシテ階數三以上ノモノ

六　市街地建築物法施行令第三條第二號ロ、ハ又ハニノ物品ノ製造、貯藏又ハ處理ニ供スル建物

前項第一號及第二號ノ建物內ニ設クル舞臺ノ床及屋根竝第六號ノ建物ノ屋根ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ耐火構造ト爲ササルコトヲ得

第一項第六號ノ建物ニ付テハ地方長官物品ノ數量及周圍ノ狀況ニ依リ制限ヲ輕減シ又ハ免除スルコトヲ得

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル建物ヲ建築スルトキハ其ノ外壁ヲ耐火構造ト爲スヘシ

一　劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場及之ニ類スル建物ニシテ觀客定員五百人以上ノモノ

二　集會場、公會堂及之ニ類スル建物ニシテ收容定員七百五十人以上ノモノ

三　旅館、下宿屋、寄宿舍、貸座敷、常設展覽會場、勸工場及之ニ類スル建物ニシテ階數三ノモノ

被覆シタル戶ヲ設クルコト

四　削除

五　倉庫ニシテ階數二且建築面積百坪以上ノモノ但シ地方長官用途ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ建物ニ付テハ市街地建築物法施行規則第百二十條及第百二十一條ヲ準用ス

**第三條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル建物ヲ建築スルトキハ其ノ外壁ヲ耐火構造又ハ準耐火構造ト爲スヘシ

一　劇場、活動寫眞館、演藝場、觀物場及之ニ類スル建物ニシテ觀客定員二百五十人以上ノモノ

二　集會場、公會堂及之ニ類スル建物ニシテ收容定員五百人以上ノモノ

三　削除

前項ノ建物ニ付テハ市街地建築物法施行規則第百二十八條及第百二十九條ヲ準用ス

**第四條**　建物ニシテ其ノ一部ヲ第一條乃至第三條ノ建物ト同種ノ用途ニ供スルモノニ付テハ其ノ部分ニ對シ第一條乃至第三條ノ規定ヲ準用ス但シ地方長官必要ト認ムルトキハ其ノ他ノ部分ニ對シ防火上相當ナル構造設備ヲ命スルコトヲ得

**第五條**　假設的ノ建物ニ付テハ地方長官支障ナシト認ムルトキハ期限ヲ付シ本則ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

**第六條**　本則ノ規定ノ適用ニ付テハ新ニ建物ノ用途ヲ定メ又ハ建物ヲ他ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建物ヲ建築スルモノト看做ス

**第七條**　本令ハ市街地建築物法施行規則第百四十九條ノ二ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定スル區域ニ對シテハ之ヲ適用セズ但シ同條第二項ノ規定ニ依リ指定シタル建物又ハ地區ニ對シテハ地方長官ハ命令ヲ以テ本令ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ妨ゲズ

附則

本則ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ當分ノ內之ヲ適用セズ

附則（昭和七年內務省令第二號）

本令ハ昭和七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前市街地建築物法施行令第三十一條ノ規定ニ依ル指定アリタル區域ハ市街地建築物法施行規則第百四十九條ノ二ノ規定ニ依ル內務大臣ノ指定アリタルモノト看做ス

## ●市街地建築物法施行令第三十條第一項第一號ノ規定ニ依リ道路指定ノ件

昭和十四年二月一日
警視廳告示第三十三號

昭和十三年法律第二十九號施行ノ際現ニ存在スル幅員二・七メートル以上四メートル未滿ノ道路ニシテ左記各號ノ一ニ該當シ側溝其ノ他適當ナル標識ニ依リ道路敷地ノ境界明確ナルモノハ市街地建築物法施行令第三十條第一項第一號ノ道路トス

記

一　麹町區、神田區、日本橋區、京橋區、芝區、麻布區、赤坂區、四谷區、牛込區、小石川區、本郷區、下谷區、淺草區、本所區及深川區內ノ道路

二　其ノ他ノ區域ニ於ケル道路ニシテ附近ノ狀況前號ノ道路ニ準スト認ムルモノ

三　耕地整理法ニ基キ築造シタル道路



## ●高層建築物ノ防火、避難設備ニ關スル取扱方法

昭和八年六月
警視廳告示第二百十三號

改正　昭和一一年一二月告示第四六〇號

階數五以上ノ建物ノ防火、避難設備ニ關スル取扱方左ノ如シ但シ特殊ノ用途ニ供スル建物ニシテ其ノ構造設備ニ關シ他ノ法令ニ依リ別段ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　床面積千五百平方メートル以內毎ニ適當ナル防火區劃ヲ爲スコト但シ特ニ支障ナシト認ムルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二　前號ノ區劃內ニハ屋內又ハ屋外避難階段若ハ避難上有效ナル階段ニ通ズル區劃ノ區劃內ノ床面積特ニ小ナルモノ又ハ避難上有效ト認ムル水平通路ヲ有スルモノニ在リテハ其ノ制限ヲ斟酌スルコトアルヘシ

三　階段ニシテ防火、避難上必要アリト認ムルモノニ在リテハ防火戶又ハ之ニ代ルヘキ適當ナル設備ヲ爲サシムルコトアルヘシ

四　床面積ノ合計三千メートル以上ノ建物ニ在リテハ必要ト認ムルトキハ床面積五百平方メートル以內毎ニ一箇所以上ノ消火栓ヲ設置セシムルコトアルヘシ

五　適當ノ位置ニ消火器ヲ配備シ有效ニ之ヲ保持スルコト

六　救助袋其ノ他適當ナル避難用具ヲ配備シ且窓其ノ他適當ノ場所ニ之カ取付裝置ヲ設クルコト

階數四以下ノ建物ニシテ多數ヲ收容スルモノニ在リテハ必要ト認ムルトキハ前項各號ニ準シ措置ヲ爲サシムルコトアルヘシ

## ●防空建築規則第十七條ノ二ノ規定ニ依ル重要工場竝事業場ノ種類指定

昭和十七年十二月
內務省告示第七百二十四號

一、鑛業
　(1)　採鑛業
　(イ)　金屬鑛業
　(ロ)　石炭鑛業
　(ハ)　石油鑛業
二、金屬工業
　(2)　金屬精鍊業及材料品製造業
　(3)　鑄物業
　(4)　鍛金業
　(5)　其ノ他ノ金屬工業
　(イ)　鏈鎖製造業
　(ロ)　バネ製造業
　(ハ)　鋼索製造業
　(ニ)　金網製造業
　(ホ)　ボルト、ナット、座金及鋲製造業
　(ヘ)　釘類製造業
　(ト)　金屬板製品製造業
　(チ)　蹄鐵及蹄釘製造業
　(リ)　火造(鍛冶)業
　(ヌ)　金屬切斷業

（ル）　熔接業

三、機械器具工業

（6）　原動機類製造業

（7）　電氣機械器具類製造業

（8）　電線及電纜製造業

（9）　電池製造業

（10）　工作機械器具製造業

（11）　採鑛選鑛及精錬機械器具製造業

（12）　化學工業用機械器具製造業

（13）　鐵道車輛製造業

（14）　自動車製造業

（15）　船舶及船舶部分品製造業

（16）　航空機及航空機部分品製造業

（17）　運搬機械製造業

（18）　ポンプ、水壓機、送風機及氣體壓縮機製造業

（19）　計測器類製造業

（20）　學術及醫療機械器具製造業

（イ）　醫療用機械器具製造業

（21）　光學機械器具製造業

（22）　兵器及兵器部分品製造業

（23）　其ノ他ノ機械器具工業

（イ）　軸受製造業

（ロ）　齒車製造業

（ハ）　ベルト車、車輪及車軸製造業

四、化學工業

（24）　製藥業

（25）　工業藥品製造業

（26）　染料及中間物製造業

（27）　塗料及顏料製造業

（イ）　塗料製造業

（28）　發火物製造業

（29）　鑛物油製造業

（30）　代用液體燃料製造業

（31）　ゴム製品（人造ゴムヲ含ム）製造業

（32）　パルプ製造業

（33）　セルロイド製造業

（34）　肥料製造業

（イ）　鑛物質肥料製造業

五、ガス業、電氣業及水道業

（35）　ガス業

（36）　電氣業

（37）　水道業

六、窯業及土石工業

（38）　ガラス及ガラス製品製造業

（39）　セメント製造業

七、交通業

（40）　運輸業

（イ）　鐵道、軌道業

（41）　通信業

（イ）　ラヂオ放送業



【訪書】

## ●東京都市計畫住居專用地區指定

昭和十五年一月十八日
內務省告示第二十號

東京都市計畫住居專用地區左ノ通指定ノ件昭和十四年十二月二十八日內閣ヲ認可ヲ受ケ昭和十五年二月七日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ關係圖面ハ警視廳及東京市役所ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

東京都市計畫住居專用地區

| 名稱 | 位置 | 地積（約）「ヘクタール」 |
|---|---|---|
| 田園調布住居專用地區 | 大森區田園調布二丁目、同三丁目及同四丁目ノ各一部<br>世田谷區玉川田園調布一丁目、同二丁目及玉川尾山町ノ各一部 | 一四七・一七 |

別紙圖面表示ノ通（圖面省略）

## ●東京都市計畫美觀地區指定ノ件

昭和八年四月
內務省告示第八十九號

東京都市計畫美觀地區指定ノ件昭和八年三月三十一日內閣ノ認可ヲ得タリ

其ノ地區ヲ表示シタル圖面ハ警視廳ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

## ●東京都市計畫美觀地區內ニ於ケル建築物ノ高指定ノ件

昭和九年四月
警視廳告示第九十九號



東京都市計畫美觀地區內ニ於テ建築物ノ高ノ最高限度ヲ指定スル區域左ノ如シ其ノ表示シタル圖面ハ警視廳ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

一　高三十一メートルヲ限度トスル區域

二　高二十八メートルヲ限度トスル區域

三　高二十六メートルヲ限度トスル區域

四　高二十五メートルヲ限度トスル區域

五　高二十メートルヲ限度トスル區域

六　高十五メートルヲ限度トスル區域

裝飾塔、昇降機塔、水槽等建築物ノ屋上突出物ニ付テハ美觀上支障ナシト認ムルモノニ限リ前項各號ノ高ノ五分ノ一マデハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セザルコトヲ得但シ其ノ算入セザル部分ノ最大面積ノ合計ハ建築面積ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

昇降機塔ニ付テハ美觀上支障ナシト認ムルモノニ限リ前項ノ五分ノ一ヲ九メートル迄增加スルコト得

煙突、無線電信用電柱ノ類及社寺建築物ニシテ美觀上支障ナシト認メ許可シタルモノハ第一項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

## ●東京都市計畫區域內ニ於ケル建物ノ高ノ最低限度指定ノ件

昭和十二年十二月二十三日
警視廳告示第四百七十二號

東京都市計畫區域內ニ於テ建物ノ高ノ最低限度ヲ指定スル區域及高左ノ如シ

一　軒高十七メートルヲ限度トスル區域

二　軒高十一メートルヲ限度トスル區域



【訪書】

別紙圖面ノ通（圖面省略）

玄關、出入口ノ類及前項第二號ノ區域ニシテ道路又ハ廣場ノ境界線ヨリ奥行十一メートルヲ超ユル區域ニ存スル建物若ハ建物ノ部分ニシテ支障ナシト認ムルモノハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第一項ノ高ニ付テハ市街地建築物法施行令第六條ノ規定ヲ準用ス

一時ノ使用ニ供スル建物ニシテ特別ノ事由アリト認ムルモノニ對シテハ第一項ノ制限ニ拘ラズ存續期間ヲ附シ特ニ其ノ建築ヲ許可スルコトアルベシ

昭和十二年法律第九十二號第二條ノ規定ニ依ル鐵鋼ノ使用制限ヲ受クルモノニシテ同法廢止後第一項ノ制限ニ適合セシムベキ計畫アルモノニ付テハ第一項ノ制限ニ拘ラズ其ノ建築ヲ許可スルコトアルベシ

## ●東京都市計畫空地地區指定ノ件

昭和十五年九月二十五日
內務省告示第五百二十二號

東京都市計畫空地地區指定ノ件昭和十五年九月二日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十五年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス其ノ地區ヲ表示シタル圖面ハ警視廳及東京市役所ニ備置キ縱覽ニ供ス

昭和十六年七月二十六日
內務省告示第四百六七十號

東京都市計畫空地地區追加指定ノ件昭和十六年七月十五日內閣ノ認可ヲ受ケ昭和十六年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス其ノ地區ヲ表示シタル圖面ハ警視廳及東京市役所ニ備置キ縱覽ニ供ス

## ●東京都市計畫空地地區內ニ於ケル建築物ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合及建築物ノ其ノ敷地疆界線ヨリノ距離ノ限度

昭和十五年九月二十五日
內務省告示第五百二十一號

東京都市計畫空地地區內ニ於ケル建築物ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合及建築物ノ其ノ敷地疆界線ヨリノ距離ノ限度ヲ左ノ通定ム

| 空地地區ノ種別 | 床面積ノ敷地面積ニ對スル割合 | 建築物ノ外壁面ヨリ敷地疆界線ニ至ル距離 | |
|---|---|---|---|
| | | 一般壁面 | 第二階以上ノ階ノ北向壁面（北向壁面トハ東北乃至西北ノ方位ニ面スル壁面ヲ謂フ） |
| 第一種空地地區 | 十分ノ二以下 | 一・五米以上 | 三・五米以上 |
| 第二種空地地區 | 十分ノ三以下 | 一・五米以上 | 三・五米以上 |
| 第三種空地地區 | 十分ノ四以下 | 一・〇米以上 | 二・〇米以上 |
| 第四種空地地區 | 十分ノ五以下 | 一・〇米以上 | 二・〇米以上 |
| 第五種空地地區 | 十分ノ六以下 | —— | —— |
| 第六種空地地區 | 十分ノ七以下 | —— | —— |

前項ノ床面積ハ屋階及地階ヲ除キタル部分ニ付之ヲ算ス

【防衛】

## ●市街地建築物法及同法施行令戰時特例

昭和十八年十二月二十七日
勅令第九百四十二號

**第一條**　戰時行政特例法ノ規定ニ基ク市街地建築物法ノ特例及大東亞戰爭中ニ於ケル市街地建築物法施行令ノ特例ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

**第二條**　市街地建築物法第二條第一項、第三條及第四條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

**第三條**　市街地建築物法施行令第一條乃至第十條、第十二條、第十三條、第二十五條及第二十六條ノ二ノ規定ハ之ヲ適用セズ

**附　則**

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# 第二節　都市計畫法關係

## ●都市計畫法

大正八年四月五日
法律第三十六號

改正　大正一二年第二七號、一五年第三八號
昭和六年第一五號、第三〇號、八年第二二號、九年第五四號、一五年第六〇號、第七六號

**第一條**　本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衞生、保安、防空、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ副利ヲ增進スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市若ハ主務大臣ノ指定スル町村ノ區域內ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ亙リ施行スヘキモノヲ謂フ

**第二條**　都市計畫區域ハ市又ハ前條ノ町村ノ區域ニ依リ主務大臣之ヲ決定

主務大臣必要ト認ムルトキハ關係市町村及都市計畫委員會ノ意見ヲ聞キ前項ノ區域ニ拘ラズ都市計畫區域ヲ決定スルコトヲ得

**第三條**　都市計畫、都市計畫事業及每年度執行スヘキ都市計畫事業ハ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決定シ內閣ノ認可ヲ受クヘシ

**第四條**　都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第五條**　都市計畫事業ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳之ヲ執行ス

主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ非サル者ヲシテ其ノ出願ニ依リ都市計畫事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

**第六條**　都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

**第七條**　主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公共團體ノ負擔スヘキ每年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ得

**第八條**　削除

**第九條**　都市計畫區域內ニ存スル國有河岸地ニシテ公共ノ用ニ供セサルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下付スルコトヲ得

**第十條**　都市計畫區域內ニ於テ市街地建築物法ニ依ル地域又ハ地區ノ指定、變更又ハ廢止ヲ爲ストキハ都市計畫ノ施設トシテ之ヲ爲スヘシ

【防衛】

都市計畫區域內ニ於テハ市街地建築物法ニ依ル地域及地區ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定スルコトヲ得

**第十一條**　第十六條第一項ノ土地ノ境域內又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ指定スル地區內ニ於ケル建築物、土地ニ關スル工事又ハ權利ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十一條ノ二**　都市計畫トシテ內閣ノ認可ヲ受ケタル公園、綠地若ハ廣場ノ境域內又ハ都市計畫トシテ內閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ノ區域內ニ於ケル建築物ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

**第十二條**　都市計畫地域內ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ增進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

**第十三條**　都市計畫トシテ內閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ハ認可後一年內ニ其ノ施行ニ著手スル者ナキ場合ニ於テハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム但シ災害其ノ他特別ノ事情ニ因リ特ニ急施ヲ要スル場合ニ於テハ認可後一年內ト雖モ之ヲ施行セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

**第十四條**　地方長官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

**第十五條**　土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃貸價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム

**第十五條ノ二**　土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス建物アル宅地又ハ墳墓地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得

**第十五條ノ三**　土地區劃整理ノ施行ニ因リ道路、廣場、運河、公園其ノ他ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國又ハ公共團體ノ所有地ニ之ヲ編入ス

**第十六條**　道路、廣場、河川、港灣、公園、綠地其ノ他勅令ヲ以テ指定スル施設ニ關スル都市計畫事業ニシテ內閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナル土地ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

前項土地附近ノ土地ニシテ都市計畫事業トシテノ建築敷地造成ニ必要ナルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

**第十七條**　土地區劃整理ノ爲又ハ衞生上若ハ保安上ノ必要ニ依ル建築物ノ整理ノ爲必要アルトキハ建築物其ノ他ノ工作物ヲ收用スルコトヲ得

**第十八條**　前二條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外土地收用法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依ル土地收用法ノ適用ニ付テハ前條ノ工作物ハ之ヲ土地ト看做ス

**第十九條**　第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ付テハ第三條ノ規定ニ依ル都市計畫ノ認可ヲ以テ土地收用法ニ依ル事業ノ認定ト看做ス

**第二十條**　土地收用法第二十二條第一項ノ協議調ハサル場合又ハ其ノ協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事業執行者ハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ收用審查會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得ス

前二項ノ規定ハ損失ノ補償ノ協議ニ關シテハ之ヲ適用セス

**第二十一條**　第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ處分及管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

【訪書】



**第二十二條**　都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理ニ付特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ管理ヲ定ム

**第二十三條**　行政執行法第五條及第六條ノ規定並之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳カ强制スル場合ニ之ヲ準用ス

**第二十四條**　本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其ノ他ノ費用ハ行政廳國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位竝其ノ追徵還付及時效ニ付テハ行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

**第二十五條**　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

**第二十六條**　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附　則

**第二十七條**　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年勅令第四百八十一號ヲ以テ大正九年一月一日ヨリ施行）

**第二十八條**　東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號竝之ニ基キテ發シタル命令ハ之ヲ廢止ス

**第二十九條**　東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ヲ受クル市ハ第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

**第三十條**　東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號ニ依リ內閣ノ認可ヲ受ケタル設計又ハ議定シタル事業ハ各本法ニ依リ內閣ノ認可ヲ受ケタル都市計畫又ハ都市計畫事業ト看做ス

**第三十一條**　東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則若ハ大正七年法律第三十六號又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ爲シタル處分ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限リ本法ニ依リ爲シタル處分ト看做ス

**第三十二條**　東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ關シテハ同規則第一條第二項乃至第四項ハ仍其ノ效力ヲ有ス

**第三十三條**　東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第百八十四號ニ依リ下付ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下付ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス

第一項ノ河岸地ノ下付ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則（昭和八年法律第二十二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和八年勅令第八十三號ヲ以テ昭和八年五月十日ヨリ施行）

附　則（昭和十五年法律第七十六號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十五年勅令第九百三十七號ヲ以テ昭和十六年一月一日ヨリ施行）

【訪書】

# ●都市計畫法施行令

大正八年十一月二十八日
勅令第四百八十二號

改正　大正一〇年第四一六號
昭和四年第三九五號、六年第四五號、八年第八四號、一〇年第一一一號、一五年第九三八號

**第一條**　都市計畫事業ハ市又ハ都市計畫法第一條ノ規定ニ依リ指定スル町村ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行ス

**第二條**　市又ハ前條ノ町村ノ區域外ニ於テ又ハ區域外ニ亙リ都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ於テ內務大臣區域外ニ於ケル事業カ主トシテ區域外ノ公共團體ノ利害ニ關スト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス其ノ公共團體ヲシテ區域外ニ於ケル事業ヲ執行セシムルコトヲ得

**第三條**　內務大臣都市計畫事業カ分割シテ之ヲ執行スルコト困難又ハ不利益ト認ムルトキ其ノ他特別ノ事情アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス事業ヲ執行スヘキ行政廳ヲ指定スルコトヲ得

**第四條**　前三條ノ規定ハ行政官廳都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ之ヲ適用セス

**第五條**　行政廳ニ非サル者ヲシテ執行セシムルコトヲ得ル都市計畫事業ノ種類及範圍ハ關係行政廳ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ內務大臣之ヲ定ム

**第六條**　行政廳ニ非サル者都市計畫事業ヲ執行セムトスルトキハ內務大臣ニ特許ヲ申請スヘシ

**第七條**　內務大臣ハ前條ノ特許ニ都市計畫上其ノ他公益上必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

**第八條**　第六條ノ特許ヲ受ケタル者事業ヲ實施セムトスルトキハ設計書ヲ添附シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

**第九條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

一　行政官廳ノ執行スル事業ニ因リ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

二　事業地ノ公共團體以外ノ公共團體ヲ又ハ上級公共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル事業ニ因リ事業地ノ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

三　事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ又ハ其ノ營造物ヲ利用スルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ

四　前各號ノ外都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニシテ內務大臣ヨリ指定セラレタルモノアルトキ

**第十條**　都市計畫法第六條第二項ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ金額及其ノ負擔方法ニ付テハ關係市町村長ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ內務大臣之ヲ定ム

**第十一條**　都市計畫法第十六條第一項ノ土地ノ境域內ニ於テ工作物ヲ新築改築若ハ增築若ハ除却シ、土地ノ形質ヲ變更シ又ハ地方長官ノ指定シタル竹木土石ノ類ヲ採取セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セスト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第十一條ノ二**　都市計畫法第十一條ノ二ノ公園、綠地若ハ廣場ノ境域內又ハ同條ノ土地區劃整理ノ區域內ニ於テ建築物ヲ新築、改築又ハ增築セントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セスト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

**第十二條**　地方長官ハ前二條ノ許可ニ都市計畫上必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

【防衞】

**第十三條**　風致維持ノ爲指定スル地區內ニ於ケル工作物ノ新築改築增築若ハ除却、土地ノ形質ノ變更、竹木土石ノ類ノ採取其ノ他風致維持ニ影響ヲ及ホス虞アル行爲ハ地方長官內務大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

**第十四條**　地方長官ハ第十一條若ハ第十一條ノ二ノ規定ニ、前條ノ命令ニ又ハ第十二條ノ條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命スルコトヲ得

**第十五條**　都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依ル公共團體ノ土地區劃整理ノ施行ハ內務大臣之ヲ命ス

**第十六條**　前條ノ土地區劃整理ノ施行ニ要スル費用ニ整理地區內ノ土地所有者又ハ關係人ノ負擔トス

前條ノ土地區劃整理ノ地區外ノ土地所有者又ハ關係人ニシテ其ノ施行ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ內務大臣ノ定ムル區域ニ依リ之ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

**第十七條**　公共團體第十五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ノ施行ヲ命セラレタルトキハ設計書、費用負擔方法及耕地整理法ニ基ク規約ニ代ルヘキ必要事項ヲ定メテ之ヲ告示シ十日間土地所有者及關係人ノ縱覽ニ供シタル後地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

土地所有者又ハ關係人前項ノ規定ニ依リ定メタル設計書、費用負擔方法其ノ他ノ事項ニ關シ異議アルトキハ前項ニ揭クル期間內ニ地方長官ニ之ヲ申出ツルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル異議ノ申出アリタルトキハ地方長官ハ都市計畫委員會ノ議決ニ付スヘシ

地方長官ハ前項ノ議決カ第一項ノ規定ニ依リ定メタル設計書、費用負擔方法其ノ他ノ事項ノ變更ヲ必要トスルトキハ公共團體ニ其ノ變更ヲ命ス

【防衞】

ヘシ公共團體カ變更ヲ爲シタルトキハ其ノ變更シタル部分ニ付第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

**第十八條**　前二條ノ土地所有者及關係人ノ意義ニ關シテハ耕地整理法ノ定ムル所ニ依ル

**第十九條**　第十五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テノ耕地整理法ノ準用ニ關シテハ同法第四十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ土地區劃整理ヲ施行スル公共團體トシ同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ土地區劃整理ノ地區トス

**第二十條**　土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃貸價格ニ關シテハ耕地整理法第十二條乃至第十三條ノ二、第十四條第二項、第三項、第十四條ノ二乃至第十六條及第十六條ノ三乃至第十六條ノ八ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ大正七年法律第四十三號ノ規定ニ依ル地種變更免租年期ヲ有スル土地及同法第一條第一項各號ニ揭ケル土地ハ之ヲ耕地整理法第十五條第一項ニ揭ケル免租年期ヲ有スル土地ト看做ス

土地區劃整理ノ施行ニ依リ開墾、地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地域ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ修正シ修正賃貸價格ヲ以テ耕地整理法第十三條第二項ノ現賃貸價格トス

第一項ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ耕地整理法第十四條第二項、第三項及第十四條ノ三、第十五條、第十六條、第十六條ノ八中ノ同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

**第二十條ノ二**　前條第一項ノ規定ニ依ル耕地整理法第十三條ノ規定ノ準用ニ付テハ同條第二項但書中第十一條第二項ノ規定ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ地積トアルハ都市計畫法第十五條ノ三ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入シタル土地ノ地積トシ整理施行地區內ノ土地ノ現

賃貸價格トアルハ整理施行地區內ノ土地中前條第二項ノ土地ノ從前ノ賃貸價格及其ノ他ノ土地ノ現賃貸價格トス

**第二十條ノ三**　都市計畫法第十五條ノ三ノ公共ノ用ニ供スベキモノト爲リタル土地トハ土地區劃整理ノ施行ニ因リ新設又ハ擴築シタル道路、廣場、墓地、溝渠、運河、河川、公共物揚場、公園又ハ緑地ノ用ニ供スベキセノト爲リタル土地ヲ謂フ

**第二十條ノ四**　前條ニ揭グル土地ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ國又ハ公共團體ノ所有地ニ之ヲ編入ス

一　耕地整理法第十一條第一項ノ廢止シタルモノニ代ルベキモノノ用ニ供スル土地ハ國ノ所有地ニ之ヲ編入ス

二　前號ノ規定ニ該當スル土地以外ノ土地ハ行政廳ニ於テ土地區劃整理ヲ施行シタル場合ニ在リテハ國ノ所有地ニ、公共團體ニ於テ土地區劃整理ヲ施行シタル場合ニ在リテハ其ノ公共團體ノ所有地ニ、其ノ他ノ者ニ於テ土地區劃整理ヲ施行シタル場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ土地區劃整理施行者ノ申請ニ依リ特別ノ事情アリト認メタル場合ヲ除クノ外其ノ土地所在市町村ノ所有地ニ之ヲ編入ス

**第二十一條**　鐵道、軌道、運河、飛行場、水道、下水道、土地區劃整理、運動場、一團地ノ住宅經營、市場、屠場、墓地、火葬場、塵埃燒却場及防風、防火、防水、防砂又ハ防潮ノ施設ハ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ指定ス

**第二十二條**　都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ハ土地區劃整理ヲ施行スル必要アル場合ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

**第二十三條**　前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ハ土地區劃整理ノ工事完了後ニ非サレハ之ヲ賣却シ又ハ貸付スルコトヲ得ス

**第二十四條**　前條ノ規定ニ依ル土地ノ賣却又ハ貸付ハ左ニ揭クル者ニ對シ每筆競爭入札ニ依リテ之ヲ行フ

一　其ノ土地ノ附近地カ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ收用セラレタル場合ニ於テ其ノ收用セラレタル附近地ノ全部又ハ一部ヲ收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

二　前號ノ附近地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ附近地收用ノ際所有シタル者

三　其ノ土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

四　其ノ土地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者

前項ニ揭クル者一人ナルトキハ其ノ者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

**第二十五條**　前條ノ規定ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得サル土地ノ賣却又ハ貸付ニ付テハ一般ノ競爭入札ニ依ル

**第二十六條**　一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘地ハ隣地所有者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

**第二十七條**　都市計畫事業ニ要スル國有地ハ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔スル公共團體ヲシテ無償ニテ之ヲ供用セシメ其ノ地ニ存スル國有ノ建築物ハ無償ニテ其ノ公共團體ニ之ヲ交付ス

**第二十八條**　都市計畫法第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地ハ都市計畫事業ノ財源ト爲ス爲基本財產トシテ管理スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

**第二十九條**　公共團體ハ第二十三條ノ土地ノ賣却若ハ貸付ニ付又ハ都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地若ハ前二條ノ土地ノ管理方法ニ付必要ナル規定ヲ定メ地方長官ヲ經由シ內務大臣ノ認可ヲ受ク（シ

【訪書】

**第三十條**　內務大臣必要ト認ムルトキハ都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理者ヲ指定スルコトヲ得

附　則

本令ハ都市計畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和六年勅令第四十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年法律第二十九號附則第三條、第五條、第九條乃至第十四條及第十八條ノ規定ハ土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃貸價格ニ付之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二十條第二項ノ改正規定ヲ耕地整理法附則第九條、第十條及第十八條中ノ同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

附　則（昭和十年勅令第百十一號）

第二十條第一項ノ改正規定ハ本令施行前土地區劃整理ノ工事ニ著手シタル土地ニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ耕地整理法第十五條第一項ノ規定ノ準用ニ付テハ同項中工事著手ノトキトアルハ工事著手ノ時ノ現況ニ依リトス

附　則（昭和十五年勅令第九百三十八號）

本令ハ昭和十五年法律第七十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前土地區劃整理ニ付耕地整理法第三十條第四項ノ告示アリタル土地ノ賃貸價格ノ配賦ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

## ●東京都市計畫區域內ニ於ケル都市計畫法第十條第二項ノ規定ニ依ル風致地區指定ノ件

昭和五年十月
內務省告示第二百六號

東京都市計畫區域內ニ於ケル都市計畫法第十條第二項ノ規定ニ依ル風致地區左ノ通指定シ昭和五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス（圖面省略）

東京都市計畫風致地區

一　洗足風致地區

荏原郡池上町大字池上、大字道々橋、大字雪ヶ谷、馬込町字長原、字

石原、字八幡丸ノ一部（圖面表示）
面積約三〇・一二ヘクタール

二　善福寺風致地區
豐多摩郡井荻町大字上井草、北豐島郡石神井村大字關ノ一部（圖面表示）
面積約六〇・三九ヘクタール

三　石神井風致地區
北豐島郡石神井村大字上石神井、大字下石神井、大字田中ノ一部（圖面表示）
面積約九三・九三ヘクタール

四　江戸川風致地區
南葛飾郡金町大字金町、大字柴又、水元村大字上小合、大字下小合、大字小合新田、大字猿ケ又ノ一部（圖面表示）
面積約三二四・六三ヘクタール

昭和八年一月
內務省告示第十七號

東京都市計畫風致地區左ノ通指定シ昭和八年二月七日ヨリ之ヲ施行ス其ノ地區ヲ表示シタル圖面ハ東京府廳ニ備ヘ置キ縱覽ニ供ス

一、多摩川風致地區（圖面表示）
一、和田堀風致地區（圖面表示）
一、野方風致地區（圖面表示）
一、大泉風致地區（圖面表示）

「圖面省略」

## ●都市計畫法及同法施行令戰時特例

昭和十八年十二月二十七日
勅令第九百四十一號

**第一條**　戰時行政特例法及許可認可等臨時措置法ノ規定ニ基ク都市計畫法ノ特例竝ニ大東亞戰爭中ニ於ケル都市計畫法施行令ノ特例ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

**第二條**　左ニ揭グル認可又ハ許可ハ之ヲ受クルヲ要セズ

一　都市計畫法第三條ノ規定ニ依ル內閣ノ認可
二　都市計畫法第十四條ノ規定ニ依ル主務大臣ノ認可
三　都市計畫法第三十三條第三項但書ノ規定ニ依ル主務大臣ノ認可
四　都市計畫法施行令第十一條ノ二本文ノ規定ニ依ル地方長官ノ許可
五　都市計畫法施行令第二十八條但書ノ規定ニ依ル內務大臣ノ認可
六　都市計畫法施行令第二十九條ノ規定ニ依ル內務大臣ノ認可
都市計畫法第十三條第一項、第十六條第一項及第十九條ノ規定ノ適用ニ關シテハ同法第三條ノ規定ニ依ル都市計畫又ハ都市計畫事業ノ決定アリタルトキハ內閣ノ認可アリタルモノト看做ス

**第三條**　都市計畫法施行令第十三條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

**第四條**　左ニ揭グル主務大臣ノ職權ハ地方長官之ヲ行フ

一　都市計畫法第五條第二項及之ニ基ク同法施行令第五條乃至第七條ノ規定ニ依ル都市計畫事業執行ノ特許ニ關スルモノ
二　都市計畫法第六條第二項及之ニ基ク同法施行令第九條第四號若ハ第十條又ハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル受益者負擔ニ關スル措置ニ關スルモノ
三　都市計畫法第七條ノ規定ニ依リ公共團體ノ負擔スベキ每年度ノ金額ノ最低限度ノ決定ニ關スルモノ

【防衛】

四　都市計畫法施行令第二條ノ規定ニ依ル行政廳ノ都市計畫事業執行ノ命令ニ關スルモノ
五　都市計畫法施行令第三條ノ規定ニ依ル行政廳ノ指定ニ關スルモノ
六　都市計畫法施行令第十五條ノ規定ニ依ル公共團體ノ土地區劃整理施行ノ命令ニ關スルモノ
七　都市計畫法施行令第三十條ノ規定ニ依ル營造物管理者ノ指定ニ關スルモノ

**附則**

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前主務大臣ニ對シ爲シタル出願ニシテ第四條第一號ニ係ルモノノ處理ニ關スル職權ニ付亦同條ノ例ニ依ル

第四條第二號ノ規定ハ本令施行前同號ニ揭グル規定ニ基キ主務大臣ノ發シタル命令ノ效力ヲ妨グルコトナシ但シ地方長官命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

# 第三節　戰時法令關係

## ●工作物築造統制規則

昭和十八年四月一日
商工省令第十七號

改正　昭和一八年第四二號、軍需省令第一號、第八號

**第一條**　物資統制令ニ依ル工作物ノ築造（新築、增築、改築、移轉、修繕又ハ變更ヲ謂フ以下同ジ）ノ統制ニ付テハ本則ノ定ムル所ニ依ル

**第二條**　工作物ハ軍需大臣ノ指定シタル鐵鋼ヲ材料トシテ使用シテ之ヲ築造スルコトヲ得ズ但シ左ニ揭グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四編　建築關係　第一章　建築一般

一　軍需大臣築造ヲ統制スルノ要ナシトシテ指定シタル場合
二　軍需大臣ガ緊要工作物トシテ指定シタルモノノ築造ニ付軍需大臣（軍需大臣特ニ定メタルトキハ地方長官）ノ許可ヲ受ケタル場合

**第三條**　前條ニ規定スル場合ヲ除クノ外工作物ヲ築造セントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ軍需大臣築造ヲ統制スルノ要ナシトシテ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ許可ノ申請ハ軍需大臣不急ノ築造トシテ指定シタル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

**第四條**　軍需大臣又ハ地方長官ハ第二條第二號又ハ前條第一項ノ許可（以下築造許可ト稱ス）ニ條件ヲ附スルコトヲ得

**第五條**　築造許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ軍需大臣又ハ地方長官ニ提出スベシ

一　工作物ノ位置
二　敷地ノ面積
三　工作物ノ用途
四　築造ヲ必要トスル事由
五　工作物ノ規模及構造
六　設計及工事計畫ノ概要（配置圖、平面圖及資材ノ使用場所ヲ明示シタル圖面ヲ添附スベシ）
七　資材ノ使途別品種別所要數量
八　工事費
九　工事着手及完了ノ豫定時期
十　工事請負人トアルトキハ其ノ氏名名稱及住所

前項ノ許可申請書ノ提出アリタル場合ニ於テ軍需大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ前項各號ニ揭グル事項以外ノ事項ヲ記載シタル書面

【防衛】

ヲ提出セシムルコトヲ得

第一項第六號及第七號ノ資材ハ軍需大臣之ヲ指定ス

**第六條**　築造許可ヲ受ケタル者工事完了前前條第一項第一號、第三號又ハ第五號乃至第七號ニ揭グル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ當該築造許可ヲ爲シタル行政官廳ノ許可ヲ受クベシ

**第七條**　削除

**第八條**　築造許可ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ第五條第一項ノ許可申請書ニ記載シタル工事著手及完了ノ豫定時期迄ニ工事ニ著手セズ又ハ工事ヲ完了セザルトキハ軍需大臣又ハ地方長官ハ當該築造許可ヲ取消スコトヲ得

**第九條**　築造許可ヲ受ケ工作物ヲ築造シタル者又ハ當該工作物ノ承繼人ハ當該工作物ヲ第五條第一項ノ許可申請書ニ記載シタル用途以外ノ用途ニ供スルコトヲ得ズ但シ當該築造許可ヲ爲シタル行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

**第十條**　軍需大臣又ハ地方長官ハ本則又ハ本則ニ基キテ爲ス處分ニ違反シテ工作物ヲ築造シタル者ニ對シ當該工作物ノ除却、改築若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ使用ヲ制限若ハ禁止スルコトヲ得

**第十一條**　軍需大臣工作物ノ築造ニ付其ノ規格ヲ指定シタル場合ニ於テハ當該工作物ハ當該規格ニ依ルニ非ザレバ之ヲ築造スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ軍需犬臣前項ノ規定ニ依リ規格ヲ指定シタル際現ニ築造工事中ノ工作物ニハ之ヲ適用セズ

**第十二條**　地方長官必要アリト認ムルトキハ工作物ノ築造主又ハ工事請負人ヨリ必要ナル報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、作業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ工事ノ狀況若ハ工作物、書類、帳簿等ヲ檢査セシムルコトヲ得

**第十三條**　物資統制令第二十條第二項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

**第十四條**　本則ノ規定ニ依リ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ地方長官ヲ經由スベシ

**第十五條**　削除

## 附　則

**第十六條**　本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**第十七條**　鐵鋼工作物築造許可規則及木造建物建築統制規則ハ之ヲ廢止ス

**第十八條**　本則施行ノ際既ニ築造工事ヲ完了シ又ハ現ニ築造工事中ノ工作物ニシテ其ノ築造ニ付從前ノ鐵鋼工作物築造許可規則第一條ノ許可ヲ受ケ又ハ同則第七條ノ屆出ヲ爲シタルモノニ付テハ本則ノ規定（第二十二條乃至第二十四條ヲ除ク）ニ拘ラズ仍從前ノ鐵鋼工作物築造許可規則ノ規定ヲ適用ス

**第十九條**　本則施行ノ際既ニ築造工事ヲ完了シ又ハ現ニ築造工事中ノ工作物ニシテ其ノ築造ニ付從前ノ木造建物建築統制規則第一條第一項若ハ第二條第一項ノ許可ヲ受ケ又ハ同則第一條第二項若ハ第二條第二項ノ屆出ヲ爲シタルモノニ付テハ本則ノ規定ニ拘ラズ仍從前ノ木造建物建築統制規則ノ規定ヲ適用ス

**第二十條**　第二條ノ規定ノ適用ヲ受クベキ工作物ニシテ本則施行ノ際現ニ築造工事中ノモノ（第十八條ニ揭グルモノヲ除ク）ニ付テハ第二十二條乃至第二十四條ノ規定ヲ除クノ外本則ノ規定ハ之ヲ適用セズ

**第二十一條**　第三條ノ規定ノ適用ヲ受クベキ工作物ニシテ本則施行ノ際現ニ築造工事中ノモノ（第十八條及第十九條ニ揭グルモノヲ除ク）ニ付テハ本則ノ規定ハ之ヲ適用セズ

**第二十二條**　第二條ノ規定ノ適用ヲ受クベキ工作物、（商工大臣ガ緊要工作物トシテ指定シタルモノヲ除ク）ニシテ本則施行ノ際現ニ築造工事中ノモノニ付當該築造工事ハ昭和十八年六月一日ヨリ同年十一月三十日ニ至ル期間（商工大臣築造主ニ對シ別段ノ期間ヲ指示シタルトキハ其ノ指示シタル期間）ハ之ヲ繼續スルコトヲ得ズ但シ商工大臣築造主ニ對シ當該築造工事ヲ繼續スルコトヲ得ル旨ノ指示ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

商工大臣必要アリト認ムルトキハ築造主ニ對シ第二條ノ規定ノ適用ヲ受クベキ工作物ニシテ本則施行ノ際現ニ築造工事中ノモノニ付當該築造工事ヲ廢罷スベキコトヲ命ズルコトアルベシ

前項ノ規定ニ依ル命令ハ特別ノ場合ヲ除クノ外昭和十八年十一月三十日ヲ限リ之ヲ爲スモノトス

**第二十三條**　前條第二項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者物資統制令第十八條第一項ノ損失ノ補償ノ請求ヲ爲サントスルトキハ當該命令アリタル日ヨリ三月以內ニ之ヲ請求スベシ但シ商工大臣ノ承認ヲ受ケタルトキハ別段ノ時期ニ之ヲ請求スルコトヲ得

**第二十四條**　築造主ハ第二條ノ規定ノ適用ヲ受クベキ工作物ニシテ本則施行ノ際現ニ築造工事中ノモノニ付左ニ揭グル事項ヲ記載シタル屆書ヲ本則施行後十四日以內ニ商工大臣ニ提出スベシ

一　第五條第一項各號ニ揭グル事項（同條同項第七號ニ揭グル事項ニ付テハ使用濟ノモノト然ラザルモノトニ區別シテ記載スベシ）

二　工事進捗ノ程度

別記樣式（用紙ノ大サハ日本標準規格A7トシテ中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲ス）

第四編　建築關係　第一章　建築一般

（表面）

物資統制令第二十條ノ規定ニ依ル證票

【防衞】

（裏面）

第　號　昭和　年　月　日交付

軍需省又ハ廳府縣ノ印　官職氏名

國家總動員法第三十一條　政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢セシムルコトヲ得

第四十二條　第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

物資統制令第二十條　主務大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ關係者ヨリ統制物資ニ關スル統制又ハ其ノ統制事務ニ付テノ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事業場、店舖、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ統制物資、帳簿等ヲ檢査セシムルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

工作物統制規則第十二條　主務大臣ハ工作物ノ築造又ハ工事請負人ヨリ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、作業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ工事ノ狀況若ハ工作物、帳簿等ヲ檢査セシムルコトヲ得

地方長官必要アリト認ムルトキハ工作物ノ築造又ハ工事ニ關シ必要ナル報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ工作物、書類、帳簿等ヲ檢査セシムルコトヲ得（第十三條ハ別記樣式ニ依ル）

物資統制令第二十條ノ規定ニ依リ商工大臣ノ指定シタル資材ノ使用箇所ヲ明示シタル圖面

四　防空法、企業許可令、臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ主務大臣ノ許可又ハ認可ヲ要スル事業又ハ施設ノ用ニ供スル工作物ノ築造ニ付テハ當該主務大臣又ハ東京府知事ノ許可、認可ノ見込確實ニシテ支障ナシト認ムルモノニ在リテハ其ノ手續經過ヲ詳記シタル書面

五　規則第五條第一項第七號ノ資材ニシテ行政官廳又ハ統制團體ヨリ割當ヲ受クベキモノニ付テハ當該行政官廳又ハ統制團體ノ割當見込書其ノ他ノ資材ニ付テハ入手見込調書

【防衞】

## ●工作物築造統制規則施行細則

昭和十八年四月
警視廳令第六號

**第一條**　工作物築造統制規則（以下單ニ規則ト稱ス）又ハ本令ニ依ル許可申請書ニシテ商工大臣ノ許可ヲ要スルモノ及同書ニシテ商工大臣ニ提出スベキモノニ在リテハ都長官ヲ、其ノ他ノ許可申請書又ハ同書ニ在リテハ工作物築造地所轄區長、地方事務所長（八王子市ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所長、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所長）又ハ支廳長及市町村長ヲ經由スベシ

**第二條**　規則第五條ノ許可申請書ハ別記第一號樣式ニ依リ左ノ各號ノ圖書ヲ添附シ正副二通（商工大臣ノ許可ヲ要スルモノニ在リテハ三通、以下之ニ倣フ）ヲ提出スベシ

一　配置圖（周圍ノ狀況ヲ明示スルコト）

二　工作物概要圖（平面圖及立面圖又ハ斷面圖ノ類）

三　規則第五條第三項ノ規定ニ依リ商工大臣ノ指定シタル資材ノ使用箇所ヲ明示シタル圖面

四　防空法、企業許可令、臨時資金調整法其ノ他ノ法令ニ依リ主務大臣ノ許可又ハ認可ヲ要スル事業又ハ施設ノ用ニ供スル工作物ノ築造ニ付テハ當該主務大臣又ハ東京府知事ノ許可、認可ノ見込確實ニシテ支障ナシト認ムルモノニ在リテハ其ノ手續經過ヲ詳記シタル書面

五　規則第五條第一項第七號ノ資材ニシテ行政官廳又ハ統制團體ヨリ割當ヲ受クベキモノニ付テハ當該行政官廳又ハ統制團體ノ割當見込書其ノ他ノ資材ニ付テハ入手見込調書

【防衞】



規則第二條第二號ノ許可申請書ニハ前項各號ニ揭グル圖書ノ外構造計算書及左ノ各號ノ圖面ヲ添附スベシ但シ配管設備ノ築造ニ付許可ヲ申請スルモノナルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　斷面圖
二　立面圖
三　主要構造部ノ詳細圖

都長官必要アリト認ムルトキハ前二項ノ外必要ナル圖書ヲ提出セシムルコトアルベシ

**第三條**　規則第六條ノ規定ニ依ル許可申請書ハ前條ニ準ジ之ヲ提出スベシ

**第四條**　規則第七條ノ規定ニ依ル屆書ハ商工大臣ニ提出スルモノニ在リテハ正副二通ヲ、都長官ニ提出スルモノニ在リテハ一通ヲ提出スベシ

**第五條**　規則第九條但書ノ規定ニ依ル許可申請書ハ工作物築造許可年月日、工作物ノ位置、現在及變更セントスル用途竝ニ用途變更ヲ必要トスル事由ヲ具シ提出スベシ

**第六條**　規則ニ依ル許可申請ニシテ支障ナシト認ムルモノニ付テハ商工大臣ノ許可ヲ要スルモノノ外許可申請書ノ副本ニ別記第二號樣式ニ依ル許可證印ヲ押捺シテ申請者ニ交付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年十一月　警視廳令第二十一號鐵鋼工作物築造許可規則施行細則及昭和十四年十一月　警視廳令第三十六號木造建物建築統制規則施行細則ハ之ヲ廢止ス

規則第二條第一項ノ工作物ニシテ本令施行ノ際現ニ工事中ノモノニ在リテハ本令施行後三十日以內ニ工作物ノ位置及規模、着工、竣工期日及工事進捗ノ程度其ノ他必要ナル事項ヲ具シ警視總監ニ届出ヅベシ

【防衞】

規則第二十四條ノ規定ニ依ル届書ハ正副二通ヲ提出スベシ但シ副本ニハ圖面ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

樣式略

## ●銅使用制限規則

昭和十三年八月一日
商工省令第七十三號

改正　昭和一五年第六二號、一六年第八八號、一八年第四五號、軍需省令第一號

**第一條**　本則ニ於テ銅合金トハ黃銅（眞鍮）、青銅（砲金ヲ含ム）、四分一（臍銀）及赤銅ヲ謂フ

**第二條**　銅（屑及故ヲ含ム以下同ジ）又ハ銅合金（屑及故ヲ含ム以下同ジ）ハ之ヲ建築物ノ門、柵、屋根、庇、水切、雨押、木口隱、樋、化粧張（羽目張、下見張及扶壁ヲ含ム）、煙突、排氣筒、枠、扉、鎧板、押板、破損止金物（保護金物）、方立、コーナービード、仕切用金物（カウンタースクリーンヲ含ム）、手摺、格子、之止、目地、炊事臺（調理臺ヲ含ム）、流場（流臺ヲ含ム）又ハ柱、壁、天井、庇廻シ等ノ裝飾金物（グリルヲ含ム）トシテ使用スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

**第三條**　前條但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ地方長官ニ提出スベシ

一　銅又ハ銅合金ノ種類別使用數量（前條ニ規定スル用途別ニ記載スベシ）
二　銅又ハ銅合金ヲ使用セントスル事由
三　建築物ノ位置

四　建築物ノ用途
五　建築物ヲ建築スル場合ニ在リテハ工事著手及竣工ノ豫定時期
六　請負人アルトキハ請負人ノ氏名名稱

**第四條**　銅又ハ銅合金ハ之ヲ軍需大臣ノ指定スル物品又ハ其ノ部分品ニシテ輸出品（關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ輸出スルモノヲ除ク以下同ジ）又ハ其ノ部分品ニ非ザルモノノ製造（加工ヲ含ム以下同ジ）ニ使用スルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合及特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　法令ニ依リ製造ヲ要スルモノノ製造ニ使用スルトキ
二　學術研究、試驗又ハ標本ノ用ニ供スルモノノ製造ニ使用スルトキ
三　鐵金用又ハ箔、紙、絲、粉若ハ液トシテ使用スルトキ

**第四條ノ二**　前條ノ規定ハ同條ノ規定ニ依リ軍需大臣ノ指定スル物品又ハ其ノ部分品ニシテ其ノ指定ノ際現ニ製造中ノモノニ付テハ之ヲ適用セズ但シ指定ノ日ヨリ一週間以內ニ第五條各號ニ揭グル事項ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ

**第五條**　第四條但書ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ地方長官ニ提出スベシ

一　製造スル物品ノ名稱及數量
二　銅又ハ銅合金ノ種類別使用數量
三　銅又ハ銅合金ヲ使用セントスル事由

**第六條**　輸出品又ハ其ノ部分品トシテ銅又ハ銅合金ヲ使用シテ第四條ノ規定ニ依リ軍需大臣ノ指定スル物品又ハ其ノ部分品ヲ製造セントスル者ハ豫メ左ニ揭グル事項ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ

一　製造工場ノ名稱及所在地
二　製造スル物品ノ名稱及數量
三　銅又ハ銅合金ノ種類別使用數量
四　製造スル物品ノ相手方別販賣豫定數量

**第七條**　第四條ノ規定ニ依リ軍需大臣ノ指定スル物品又ハ其ノ部分品ニシテ輸出品又ハ其ノ部分品トシテ銅又ハ銅合金ヲ使用シテ製造シタルモノヲ讓受ケタル者ハ之ヲ本邦、關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ於ケル消費ニ充ツル爲販賣スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

本則ハ昭和十三年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本則公布ノ際現ニ第二條ノ規定ニ依リ新ニ制限ヲ受クルニ至リタル用途ニ銅又ハ銅合金ヲ使用中ノ者ニハ其ノ使用ニ付本則第二條ノ規定ヲ適用セズ但シ本則施行ノ日ヨリ一週間以內ニ第三條ニ揭グル事項ヲ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）ニ屆出ヅルコトヲ要ス

從前ノ第四條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル者本則施行ノ日ノ前日迄ニ當該物品又ハ部分品ノ製造ヲ完了セザルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ

## ●銅使用制限ニ依ル手續等ニ關スル件

昭和十二年十一月十日
警視廳令第二十二號

改正　昭和一三年五月總令第八號

**第一條**　銅使用制限規則（以下單ニ規則ト稱ス）第三十條ニ依ル申請書又ハ同附則第二項ニ依ル屆書ハ建築地所轄區、地方事務所（八王子市ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所）又ハ支廳ヲ經由シ都ニ提出スベシ





**第二條**　前條ノ申請、屆書ハ別記第一號樣式ニ依リ正副二通ヲ提出スベシ

**第三條**　工事竣工シタルトキハ直ニ其ノ旨屆出ヅベシ

**第四條**　削除

**第五條**　規則第三條ニ依ル許可申請又ハ同附則第二項ニ依ル屆ニシテ支障ナシト認ムルトキハ許可申請ニ在リテハ別記第二號樣式ノ使用許可證印ヲ、屆ニ在リテハ同第三號樣式ノ調査濟證印ヲ副本ニ押捺シ建築主ニ交付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式（第二條ノ規定ニ依ルモノ）

正
副
本

| | |
|---|---|
| 建築課受付印 | 區、地方事務所（八王子市ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所）又ハ支廳印及進達月日 |
| | 區、地方事務所（八王子市ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所）又ハ支廳受付印 |

銅、銅合金使用許可申請

| | | | |
|---|---|---|---|
| 建築地地名番號 | 區 | 町 | |
| | 郡 | 村 | 番地 |
| 建築ノ要旨 | | 建築物ノ用途 | |
| 銅、銅合金ヲ使用セントスル事由 | | | |

右及（申請、屆）候也

年　月　日

東京都長官　殿

| | | | |
|---|---|---|---|
| 申請、屆人ノ住所氏名 | | 電話 | |
| 請負人ノ住所氏名 | | 電話 | |
| 用途別 | 銅、銅合金ノ數量 | 備考 | 用途別 | 銅、銅合金ノ數量 | 備考 |
| 屋根 | | 扉 | 樋 | | 窓格子 |
| 庇 | | 手摺 | 化粧張 | | 階段之止 |
| 煙突 | | 日除金具 | 排氣筒 | | |
| 枠 | | 計 | | | |

注意

本申請、屆ハ一棟ノ建築物ニ付作成スルコト

備考欄ニハ使用スル銅鋲銅合金等ノ種類、大サ、寸法等ヲ記入スルコト

第二號樣式（第五條ノ規定ニ依ルモノ）

第三號樣式（第五條ノ規定ニ依ルモノ）

第　號
年　月　日
使用許可證
東京都

第　號
年　月　日
調査濟證
東京都

## ●建築物資配給統制要綱

昭和十七年十月
警視廳東京府告示第五號

改正　昭和一八年三月第一號、六月第五號

一　取扱物資ノ範圍

本要綱ニ依リ取扱フ物資ハ左ノ各號ノ物資トス但シ床面積百平方米以下ノ修繕、變更及床面積二十平方米以下ノ新築、增築、改築竝ニ災害復舊等ノ爲使用スル物資ニシテ別段ノ配給方法ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

イ　木材、合板、釘（特殊釘ヲ含ム）、針金、鐵線、亞鉛鐵板、石綿スレート、セメント、板硝子、セメント瓦、厚型スレート、粘土瓦、アスファルト及アスファルト又ハコールタールヲ浸透セシメタル防水紙

ロ　防火建築用ワイヤーラス、網入硝子、メタルラス、木毛セメント板及耐火木材

二　物資需要申告

（一）「一」ノ物資ヲ取得セントスル者ハ別記第一號樣式ノ建築用物資需要申告書（以下單ニ申告書ト稱ス）ニ當該建築物ノ配置圖平面圖ヲ添附シ正副二通ヲ警視總監ニ提出スベシ

建築ニ關シ警視總監ノ認許可又ハ承認ヲ要スルモノニ在リテハ當該法令ニ依ル申請、屆ニ先立チ申告書ヲ提出スベシ但シ防空法施行規則第一條第二項、第三條第一項及第四條第二項ノ許可ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

建築ニ關シ法令ニ依ル警視總監ノ認許可又ハ屆出承認ヲ要セザルモノ（市街地建築物法適用區域以外ノモノ）ニ在リテハ前項ノ圖面ノ外物資ノ使用箇所ヲ表示シタル圖面ヲ添附スベシ

（二）「一」ニ揭グル物資ニシテ需要者又ハ建築業者ノ保有スルモノヲ使用セントスルトキハ申告書ニ當該物資ノ種類、數量ヲ記載シ査定ヲ受クベシ

前項ノ物資ノ使用ヲ不適當ト認メタルトキハ申告シタル他ノ物資ハ之ヲ指定セズ

一　建築ニ使用スル物資ノ全部ガ手持品ナルトキハ（一）ニ準ジ其ノ種類數量ヲ申告シ査定ヲ受クベシ

（三）建築物ノ用途其ノ他ニ依リ建築用物資ノ指定ヲ不適當ト認ムルトキハ申告書ヲ受理セザルコトアルベシ

三　物資指定書

（一）需要申告ニシテ支障ナシト認ムルトキハ各物資ノ所要量ヲ査定シ別記第二號樣式ノ建築用物資指定書（指定證印ヲ押捺シタルモノヽ以下單ニ指定書ト稱ス）ヲ申告者ニ交付ス但シ建築ニ關シ警視總監ノ認許可又ハ屆出承認ヲ要スルモノニ在リテハ指定書交付前申告者ニ對シ

【防衞】

建築申請、屆書ノ提出期日ヲ指定シタル物資指定見込通知書ヲ交付ス

（二）建築ニ關シ警視總監ニ申請又ハ屆出ヲ爲ス場合ハ當該申請、屆書ニ物資指定見込通知書又ハ手持物資査定書ヲ添附スベシ

物資指定見込通知書ニ依リ指定シタル期日內ニ當該申請、屆ヲ爲サザルトキハ申告書ハ其ノ效力ヲ失フ

四　物資ノ給付

（一）指定書ハ之ヲ當該物資配給機關ニ提示シ配給所又ハ販賣業者ノ指定ヲ受クベシ（東京府取扱ニ係ルセメントニ在リテハ東京府ニ指定書ヲ提出シ割當證明書ノ交付ヲ受クルモノトス）

（二）配給所又ハ販賣業者ノ指定ヲ受ケタルトキハ當該配給所又ハ販賣業者ニ指定書ヲ提出シ物資ノ給付ヲ受クベシ

（三）配給所又ハ販賣業者ハ指定書ノ提出ヲ受クルニ非ザレバ「一」ニ揭グル物資ノ給付ヲ爲サザルモノトス

五　其ノ他

（一）指定書交付前申告書記載事項ニ變更アリタルトキハ速ニ屆出ヅベシ

指定書交付後建築物ノ用途、規模、使用箇所等ノ變更ニ依リ使用物資ノ種類數量ヲ增加セントスルトキハ其ノ增加數量ニ付新ニ申告スベシ

前項ノ規定ニ依ル變更ノ結果使用物資ノ種類、數量ヲ減少セントスルトキハ指定書又ハ割當證明書ヲ添附（既ニ物資ヲ取得シタルトキハ其ノ旨附記）申告シ指定書ノ再交付ヲ受クベシ物資ノ種類、數量ニ增減ナキ建物ノ用途、物資使用箇所ノ變更ニ付亦同ジ

（二）指定書ノ交付ヲ受ケタル建築工事ニ着手シタルトキ及竣功シタルトキハ屆出ヅベシ工事ヲ廢罷シタルトキ亦同ジ但シ市街地建築物法合



又ハ工作物築造統制規則ニ依リ屆出ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ工事廢罷屆ニハ指定書又ハ割當證明書（物資ヲ取得シタルモノハ其ノ返還受領書）ヲ添附スベシ

（三）指定書及指定書ニ依リ取得シタル物資ハ之ヲ他人ニ讓渡シ若ハ指定以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得ズ

（四）左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ指定書又ハ取得シタル物資ハ之ヲ返還セシム

1　虛僞ノ申告ニ依リ指定書ノ交付ヲ受ケタルトキ

2　指定以外ノ用途ニ物資ヲ使用シ若ハ使用セントシタルトキ

3　故ナクシテ工事ニ着手セズ又ハ工事ヲ中止シ竣功ノ見込ナシト認メラルルトキ

4　申告事項變更ノ結果物資ノ指定ヲ不適當ト認メラルルニ至リタルトキ又ハ物資ノ一部ヲ變更指定セラレタルトキ

本要綱ハ昭和十七年十一月一日ヨリ實施ス

工作物築造統制規則第四條ノ規定ニ基ク條件トシテ物資（他ノ需要部門ニ依ル配給ヲ受クルモノヲ除ク）ノ指定又ハ査定ヲ爲ス場合ハ本要綱ノ定ムル所ニ依ル

本要綱ハ建築物以外ノ工作物ニシテ工作物築造統制規則ノ適用ヲ受クルモノニ之ヲ準用ス

本要綱實施ノ際現ニ建築物資配給機關ニ對シ「一」ノ物資ノ給付又ハ割當證明書ノ發行ニ付申込ヲ爲シ未ダ證明書又ハ指圖書等ノ交付ヲ受ケザル者ハ三十日以內ニ「二」ノ規定ニ依ル申告書（工事中ノモノニ在リテハ其ノ工程ヲ附記）ヲ提出スベシ、建築ニ關シ警視總監ノ認許可ヲ受ケ又ハ屆出ヲ爲シタルモノニシテ未ダ物資ノ給付ニ付配給機關ニ申込ヲ爲サザルモノ亦同ジ

| | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 農家附帶設備 | 乳牛舍 | 三〇 | 二、〇 |
| | 役牛舍 | 三〇 | 八 |
| | 豚舍 | 二〇 | 五 |
| | サイロ | 一〇 | 五 |
| | 收納舍又ハ作業所 | 三〇 | 二 |
| 右各欄ニ揭グル工作物以外ノ工作物 | | 一〇 | 一〇 |
| （備考） | 本表ニ於テ薄鋼板トハ厚一粍未滿ノ鋼板（金屬ヲ鍍シタルモノヲ含ム）ヲ謂フモノトス | | |

六　第三條第二項ノ規定ニ依リ不急ノ築造ノ場合左ノ通指定ス

臨時資金調整委員會ニ於テ決定シタル臨時資金調整法ニ基ク事業資金調整標準ノ丙ニ屬スル事業ノ用ニ供スル工作物ヲ新築、增築又ハ改築スル場合（商工大臣ノ定メタル地域ニ於テ新築、增築又ハ改築スル場合及法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指示ニ基キ新築、增築又ハ改築スル場合ヲ除ク）

七　第五條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項第六號及第七號ノ資材左ノ通指定ス

鐵鋼、鐵鋼製品、セメント、セメント瓦、厚型スレート、石綿スレート、本毛セメント板、粘土瓦、網入ガラス、板ガラス、木材、合板、耐火木材、アスファルト、アスファルト又ハコールタールヲ浸透セシメタル防水紙

八　第十一條第一項ノ規定ニ依リ規格左ノ通指定ス

普通住宅ニシテ一戸當ノ床面積八十平方米ヲ超エザルモノ、共同住宅及寄宿舍ノ新築ニ付テハ臨時日本標準規格第三百四十六號（第一條、第四條、第五條及第十一條乃至第十三條ヲ除ク）

九　第二十二條第一項ノ規定ニ依リ緊要工作物左ノ通指定ス

左ニ揭グル事業又ハ施設ノ用ニ供スル作業場、鐵塔、煙突、軌道、索道、起重機、タンク、配管設備及貯藏庫

(一)　鑛業（銅、鉛、水銀、亞鉛、鐵、マンガン又ハ石油ヲ目的トスルモノニ限ル）

(二)　製鐵業

(三)　銅、鉛又ハ亞鉛ノ製鍊業

(四)　輕金屬製造業

(五)　輕合金製造業

(六)　兵器製造業

(七)　工作機械製造事業法第三條及重要機械製造事業法第二條ノ許可ヲ受ケタル工作機械製造業及重要機械製造業

(八)　造船業（造機業ヲ含ム）

(九)　航空機製造業

(十)　石油精製業（廢油再生業ヲ除ク）及人造石油又ハ代用液體燃料ノ製造業

(十一)　アルコール製造業

(十二)　重要化學工業品（硫酸アンモニヤ、硝酸、鹽化加里、酸素、航空燃料助劑、非鐵物油性潤滑油、タール系中間物、カーバイド、合成樹脂、メタノール及同誘導品、アセチレン系誘導品、醱酵ブチルアルコール又ハ醱酵アセトンニ限ル）製造業

(十三)　電力施設

(十四)　瓦斯施設

(十五)　通信施設



【防衛】

# ●建築物ノ構造種別選定規準及居住用建物ニ關スル臨時日本標準規格

昭和十八年四月一日
內閣告示第三號

號外　昭和一八年第二七號、第二九號

臨時日本標準規格　第三四五號

類別　A

建築物ノ構造種別選定規準

本規格ハ時局ニ鑑ミ臨時的ニ制定シタルモノニシテ當分ノ內之ニ依ルモノトス

## 第一章　總則

**第一條**　本規格ハ統制物資就中鐵鋼ノ節約ヲ圖ル目的ヲ以テ建築物（其ノ他ノ工作物ニシテ土木工作物ニ非ザルモノヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ設計ニ當リテノ構造種別選定ノ規準ヲ制定シタルモノトス

**第二條**　建築物ノ構造種別ハ次ノ八種トス

一　鐵骨鐵筋コンクリート構造
二　鐵筋コンクリート構造
三　鐵骨構造
四　鐵構造
五　石構造
六　煉瓦構造
七　コンクリート構造
八　木構造

## 第二章　鐵鋼構造

**第三條**　本規格ニ於テ鐵鋼構造トハ前條第一號乃至第四號ノ構造ヲ以テ主要構造部ヲ築造スル構造ヲ謂フ

**第四條**　次ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニシテ第二條第五號乃至第八號ノ構造ト爲スコト著シク困難ナルモノニ限リ之ヲ鐵鋼構造ト爲スモノトス

一　附表ニ揭グル危險物ノ製造、貯藏又ハ處理ノ用ニ供スル建築物又ハ建築物ノ部分

二　次ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ防護、收容又ハ支持スル建築物又ハ建築物ノ部分

(一)　其ノ破壞ニ因リ當該業務ニ重大ナル支障ヲ來ス虞アリ又ハ重大ナル災害ヲ誘發スル虞アルモノ

(二)　特ニ樞要ナル施設ニシテ復舊甚シク困難ナルモノ

三　次ノ各號ノ一ニ該當スル建築物又ハ建築物ノ部分

(一)　荷重著シク大ナルモノ

(二)　特ニ振動防止ノ要アルモノ又ハ甚シキ振動ヲ受クルモノ

(三)　著シク大ナル高又ハ飛間ヲ必要トスルモノ

四　作業等ノ性質上高熱ヲ受クル建築物又ハ建築物ノ部分

五　防空上緊要ナル建築物又ハ建築物ノ部分

六　鐵鋼構造ト爲スニ非レバ保安上其ノ他ニ重大ナル支障ヲ來ス虞アルモノ

【防衛】

附表

| | | | |
|---|---|---|---|
| 火藥 | 金屬カリウム | セルロイド | 過酸化バリウム |
| 爆藥 | 金屬ナトリウム | 壓縮ガス | 二硫化炭素 |
| 銃用實包空包 | キシロール | 液體ガス | メタノール |
| 銃用雷管 | ピクリン酸 | 石炭ガス | アルコール |
| 工業用雷管 | ピクリン酸鹽類 | 可燃性ガス | エーテル |

| | |
|---|---|
| 硫化鉄 | 硫黄、硝酸塩類、亜硝酸塩類 |
| 赤燐 | 燐寸三種 |
| 黄燐 | 燐寸二種 |
| 硝酸塩類 | 石油 |
| 過マンガン酸塩類 | 過酸化水素 |
| 過酸化ソーダ | 過マンガン酸ソーダ |
| トルエン | 硝化綿 |
| オゾケライト | ベイキット |
| ナフタリン | ロケット |
| ピクリン酸 | 雷汞 |

備考

一　石油トハ原油、原油ノ分溜製品（残渣ヲ含ム）及其ノ天然「ガス」ノ分離製品ニシテ常温ニ於テ液状ヲ為スモノヲ分ケ「ガソリン」類ノ分溜油、頁岩油、石炭液化油其ノ他之ニ類スル燃料油ヘ之ヲ石油トス

石油ニシテ「アーベル」又ハ「ペンスキー」マルテンス「閉鎖引火試験器」ヲ用ヒ760mmノ気圧ニ於テ21°C未満ノ温度ニテ引火スルモノヲ第一種、21°C以上70°C未満ニテ引火スルモノヲ第二種、70°C以上ノ温度ニ達セザレバ引火セザルモノヲ第三種トス

二　「セルロイド」中ニハ「フイルム」以外ノ加工品ヲ含マズ

三　「アルコール」中ニハ揮発性「アルコール」ヲ含ム

四　可燃性「ガス」トハ石炭「ガス」以外ノ「ガス」ニシテ例ヘバ水素「ガス」、天然「ガス」、「メタンガス」等ノ如キモノヲ謂フ

臨時日本標準規格　第三四六號　類別A

## 第1章　建築一般則

### 居住用建物

本規格ハ時局ニ鑑ミ臨時的ニ制定シタルモノニシテ当分ノ内之ニ依ルモノトス

### 第1節　通則

**第1條**　本規格ハ拡制緊ノ節約ヲ図ル目的ヲ以テ普通住宅、共同住宅、寄宿舎及移住農家住宅ノ設計基準ヲ制定シタルモノトス

### 第2節　建物ノ形式

**第2條**　建物ハ平家建及二階建ノ二種トス

**第3條**　普通住宅ハ一戸建、二戸建及長屋建（六戸建以下）ノ三種トス

### 第3節　建物ノ規模

**第4條**　建物ノ規模別種類ハ第1表ニ依ル

**第5條**　普通住宅ハ一戸當リノ床面積八〇$m^2$以下トス

**第6條**　長屋建ハ一戸當リ床面積二四$m^2$以上トス

**第7條**　二戸建ハ一戸當リノ床面積二八$m^2$以上トス

**第8條**　一戸建ハ床面積三六$m^2$以上トス

**第9條**　共同住宅ハ一世帯當リノ床面積二五$m^2$以上二八$m^2$以下トス

**第10條**　寄宿舎ハ一人當リノ床面積一〇$m^2$以下トス

### 第4節　就寝ニ供シ得ル居室

**第11條**　就寝ニ供シ得ル居室数ノ最小限ハ第1表ニ依ル

**第12條**　普通住宅ノ就寝ニ供シ得ル居室ノ床面積ノ合計ノ総床面積ハ標準ハ五五%、二戸建ニ在リテハ五二%、一戸建ニ在リテハ五〇%トス

**第13條**　共同住宅ノ就寝ニ供シ得ル居室ノ床面積ノ合計ノ総床面積ニ対スル比率ノ標準ハ五〇%トス

**第14條**　寄宿舎ノ就寝ニ供シ得ル居室ハ一人當リノ床面積二・五$m^2$以上トス





**第15條**　二階ノ住宅ニ於テ本規格ニ於ケル主屋ノ隣棟間隔ハ一階建地ニ在リテハ七m以上、二階建地ニ在リテハ一〇m以上、南北方向ニ在リテハ五m以上トシ南側空地ノ奥行ハ一階建地ニ在リテハ七m以上、二階建地ニ在リテハ一〇m以上トス

前項ニ於テ一階建地及二階建地ノ床面積ノ総地面積ニ対スル比率ノ標準ハ四〇%以下トス

### 第5章　集団住宅

**第16條**　集団住宅ヲ建設スル當該一団ノ土地ノ総面積ノ合計ノ比率ノ標準ハ七五%トス

**第17條**　集団住宅ノ東西方向ニ於ケル隣棟間隔ハ四m以上、南北方向ニ於ケル隣棟間隔ハ一階建地ニ在リテハ七m以上、二階建地ニ在リテハ一〇m以上トス

**第18條**　集団住宅ノ標準ハ第一図ノ甲類ヲ採ルヲ可トス必要ア為サ必要ニ応ジ第二図ノ乙類ニ依ルコトヲ得

**第19條**　集団住宅ノ矩計寸法ハ第二表ニ依ル

**第20條**　集団住宅ノ構造及外部仕上ハ第三表ニ依ル

**第21條**　集団住宅ノ内部仕上ハ第四表ニ依ル

**第22條**　集団住宅ノ小屋切妻（勾配4.5/10）、不燃材料葺

| 種別 | 規模 | 呼称 | 総ノ床面積一戸又ハ一世帯當リノ標準 | 就寝ニ供シ得ル居室数ノ最小限 |
|---|---|---|---|---|
| 共同住宅 | 長屋建 | 二戸建 | 一戸建 | |
| 共同住宅 | 長屋建 | 二戸建 | 一戸建 | |
| 共同住宅 | 長屋建 | 二戸建 | 一戸建 | |
| 共同住宅 | 長屋建 | 二戸建 | 一戸建 | |
| 共同住宅 | 長屋建 | 二戸建 | 一戸建 | |
| 共同住宅 | 長屋建 | 二戸建 | 一戸建 | |
| 共同住宅 | 長屋建 | 二戸建 | 一戸建 | |

第二表

| 備考 | 内法 | 天井 | 床 | 軸 | 個所 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第二表中軸高ハ土表下端ヨリ敷桁上端迄ノ高サヲ謂フ | 高 | 高 | 高 | 高 | 矩計寸法（単位m） |
| | 一、七五 | 二、二五 | 〇、四五 | 二、七五 | |

第三表

| 部位 | 種別 | 規格 |
|---|---|---|
| 基礎 | 壁 | 壱瑠玉石又ハ切石類、土蔵変木杭打、便所裸積 |
| 壁 | 塗 | 木造真壁、土塗壁、但シ一部ハ真壁又ハ大壁ノ板張ト為スコトヲ得 |
| 屋根 | 葺 | 和小屋切妻（勾配4.5/10）、不燃材料葺 |

第四表

| 室名 | 床 | 壁 | 天井 | 窓建具 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 就寝ニ供シ得ル居室 | 薄縁敷又ハ畳敷 | 土塗壁 | 棒縁天井 | 雨戸付ノ硝子戸、雨戸硝子戸付ノ硝子戸 | 口外ニ建具 |
| | | | | | 口内ニ建具 |

第六表

| 防火貯水槽 | 日用品配給施設 | 入浴施設 | 兒童遊園 |
|---|---|---|---|
| 半徑八〇m圏内ニ付容量四〇m³ノモノ一ケ所ヲ代ルベキ施設ニ付テハ第六表ニ依ル | 住宅一戸當リ床面積〇、四m² | 住宅一戸當リ床面積〇、四m² | 住宅一戸當リ敷地面積四、〇m² |

第三十三條　築園住宅ニ共同施設ヲ附設スル場合ノ規模ハ第六表ニ依ル

| 便所 | 排水 | 給水 | 照明 |
|---|---|---|---|
| 汲取便所 | 炊事場汚水ハ木製開渠ニ依リ敷地外ニ誘導 | 堰井戸又ハ水道ヨリ各住戸ニ至ル四戸乃至八戸ニ付一個所ノ共用給水栓ヲ設ケ但シ第五表ニ依ル | 同表ニ依ル第一種及第二種ノ灯具ヲ使用スル |

第三十四條　第一表ニ依ル一號ノ共同住宅ハ住戸ヨリナル廣間式トス

第三十五條　共同住宅ノ炊事場、洗面洗濯所及便所ノ標準ハ第七表ニ依ル

第七表

| 區分 | 一號 | 二號 |
|---|---|---|
| 炊事場 | ○共同住室ニ付床面積八m²ノ割合ヲ以テ算出シタル面積ヲ有スルモノトス | 各住戸ニ設ケ、但シ共同住戸一戸ニ付床面積〇、六m²ノ場合ハ此ノ限リニアラズ |
| 洗面洗濯所 | 各住戸ニ設ケ但シ共同住室五m²ニ付流シノ割合ヲ以テ算出シタル面積ヲ有スルモノトス | 各住戸ニ設ケ、但シ共同住戸一戸ニ付床面積〇、六m²ノ場合ハ此ノ限リニアラズ |
| 便所 | 各住戸ニ設ケ但シ共同住室五m²ニ付便房一ノ割合ヲ以テ算出シタル面積ヲ有スルモノトス | 各住戸ニ便房ヲ設ケ便器ハ大小共用トスルモノトス |

第三十六條　共同住宅ノ寢室ハ第八表ニ依ル

第八表

| 個所 | 矩計寸法（單位m） | |
|---|---|---|
| | 平家建 | 二階建 |
| 軸高 | 二、七五 | 五、八〇 |
| 一階床高 | 〇、四五 | 〇、四五 |
| 天井高 | 二、二五 | 二、四〇（各階） |
| 内法高 | 一、七五 | 一、七五 |

第三十七條　共同住宅ノ構造及外部仕上ハ第九表ニ依ル

第九表

| 基礎 | 壁體 | 屋根 |
|---|---|---|
| 煉瓦ニ捕玉石又ハ割栗石ヲ使用シ土臺ノ切斷面ヨリ高サ一、二m以上ノ基礎ヲ設ケ但シ一部ハ鐵筋混凝土造ト爲スコトヲ得 | コンクリート造、土藏造、木造ノ壁ニ付テハ第十表ニ依ル | 和小屋（勾配4.5/10）、不燃材料葺 |

第三十八條　共同住宅ノ内部仕上ハ第十表ニ依ル

第十表

| 室名 | ル仕上ゲ | 押入 | 階段下及廊下 | 便所 | 洗面所及浴室 | 炊事場 | 玄關 | 縁側 | 物置 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 床 | 疊敷 | 板張 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 壁 | 土藏造 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 天井 | 燃性在縁板ヲ張リ天井、廣間ニ天井ヲ張リ天井、其ノ他ハ第十一表ニ依ル | 板張又ハ板 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 窓建具 | 内子付戸外ハ硝子戸又ハ雨戸 | 内子紙障子 | 硝子戸 | 硝子戸及内子紙障子 | 硝子戸 | 硝子戸 | 硝子戸 | 硝子戸 | 戸棚又ハ板戸 |
| 出入口建具 | 板戸 | 板戸 | 戸棚又ハ板戸 | 板戸 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 戸棚又ハ板戸 |

第三十九條　共同住宅ノ殿備ハ第十一表ニ依ル

第十一表

| 照明 | 給水 | 排水 | 便所 |
|---|---|---|---|
| 電灯コード吊リトシ各住室及住戸ニ一灯、其ノ他ハ要所 | 炊事場、洗面洗濯所ニ水栓ヲ設ク | 洗面洗濯所及炊事場汚水ハ敷地外ニ誘導 | 汲取便所 |

第四十條　工員寄宿舍ノ寢室ハ短期假設的設備ノモノヲ除ク外本規格ニ於テ工員寄宿舍トハ勞務者ヲ收容スル寄宿舍ヲ謂フ但シ第四十二條ニ依ル

第四十一條　工員寄宿舍ノ收容定員一人當リノ床面積ノ標準ハ第十二表ニ依ル

第十二表

| 區分 | 收容定員 | 寢室部分 | 附屬部分 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 丙 | 一〇人ノ場合 | 六、二m² | 三、八m² | 九、〇m² |
| | 二〇人ノ場合 | 六、〇m² | 二、五m² | 八、五m³ |
| | 五〇人ノ場合 | 五、八m² | 二、二m² | 八、〇m³ |
| | 一〇〇人ノ場合 | 五、六m² | 一、九m² | 七、五m³ |

第四十二條　工員寄宿舍ノ寢室ハ一棟當リ收容定員ハ二五〇人以下、一室ノ收容定員ハ一六人以下トス

第四十三條　工員寄宿舍ノ寢室ノ形式ハ收容定員ノ大ナル寢室ノ寢舍ニ在リテハ廊下、收容定員ノ小ナル寢室ノ寢舍ニ在リテハ中廊下トス

**第三十四條**　工員寄宿舍、寮舍ニ附屬スル便所及洗面洗濯所ノ標準ハ第十三表ニ依ル

第十三表

| 區分＼定員 | 五〇人ノ場合 | 一〇〇人ノ場合 | 一五〇人ノ場合 | 二〇〇人ノ場合 | 二五〇人ノ場合 |
|---|---|---|---|---|---|
| 男子便房數 | 五 | 八 | 一〇 | 一二 | 一三 |
| 女子便房數 | 七 | 一〇 | 一二 | 一四 | 一五 |
| 男子小便所延長 | 三m | 五m | 六m | 七m | 八m |
| 洗面洗濯所延長 | 六m | 一〇m | 一二m | 一四m | 一五m |

**第三十五條**　工員寄宿舍ノ附屬部分ノ一人當リノ床面積ノ標準ハ第十四表ニ依ル

第十四表

| 區分＼收容定員 | 一〇〇人ノ場合 | 二〇〇人ノ場合 | 五〇〇人ノ場合 | 一〇〇〇人ノ場合 |
|---|---|---|---|---|
| 內容 | | | | |
| 管理部分 | 事務室、面會室、休養室、修養室、管理者住戸等 | 一、〇〇㎡ | 〇、九〇㎡ | 〇、八〇㎡ | 〇、七五㎡ |
| 食事部分 | 食堂、配膳室、炊事場、倉庫等 | 一、三〇㎡ | 一、三〇㎡ | 一、三〇㎡ | 一、一〇㎡ |
| 浴場部分 | 浴室、脫衣室、釜場等 | 〇、四〇㎡ | 〇、三〇㎡ | 〇、三〇㎡ | 〇、二五㎡ |
| 合計 | | 二、三〇㎡ | 二、三〇㎡ | 二、三〇㎡ | 二、一〇㎡ |

**第三十六條**　工員寄宿舍ノ寮室部分ノ矩計寸法ハ第八表ニ依ル但シ平家建ノ天井高ハ二、三五mトス

**第三十七條**　工員寄宿舍ノ寮舍ノ構造及外部仕上ハ第十五表ニ依ル

第十五表

| 室名＼床 | 天井 | 壁 | 窓建具 | 出入口建具 |
|---|---|---|---|---|
| 寮室 | 疊敷又ハ薄縁敷 | 土塗壁 | 外硝子戶內板戶 | 板戶 |
| 寮押入 | 同上 | 同上 | ナシ | ナシ |
| 寮舍廊下 | 階段同上 | 土塗壁又ハ大壁ノ板張トス | 硝子戶 | 腰高硝子戶 |
| 寮舍便所 | 叩キ | 野小屋表シ | 同上 | 同上 |
| 寮舍便房 | 板張 | 同上 | 無双障子 | 板戶 |
| 寮舍洗濯所 | 叩キ | 同上 | 硝子戶 | 腰高硝子戶 |
| 管理部分玄關 | 叩キ一部板張 | 土塗壁 | 同上 | 同上 |
| 管理部分事務室等 | 板張 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 管理部分渡廊下 | 叩キ砂利敷又ハ板張 | 野小屋表シ | 腰板張 | ナシ |

**第三十八條**　工員寄宿舍ノ內部仕上ハ第十六表ニ依ル

第十六表

| 室名＼床 | 天井 | 壁 | 窓建具 | 出入口建具 |
|---|---|---|---|---|
| 基礎 | 壽堰東石類据、土臺受木杭打、便所廻腰積 | | | |
| 壁體 | 木造眞壁、土塗壁、但シ一部ハ眞壁又ハ大壁ノ板張トナスコトヲ得 | | | |
| 屋根 | 和小屋（勾配4.5/10）、但シ張間五m ヲ超ユルモノハ洋小屋（勾配7/10）、不燃材料葺 | | | |



**第三十九條**　工員寄宿舍ノ設備ハ第十七表ニ依ル

第十七表

| 浴場部分＼食事部分 | 食堂 | 炊事場 | 食品庫 | 炊夫室 |
|---|---|---|---|---|
| 浴室 | 叩キ又ハ板張 | 土塗壁 | 疊敷又ハ薄縁敷 | 棹縁天井 |
| 脫衣室 | 板張 | 棹縁天井 | 同上 | 同上 |
| 釜場 | 叩キ | 土塗壁 | 同上 | 同上 |
| 野小屋表シ | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 |
| 土塗壁又ハ板張 | 同上 | 同上 | 同上 | 障子 |
| 腰高硝子戶 | 硝子戶 | 腰高硝子戶 | 板戶 | 腰高硝子戶 |

| 規模別種類＼照明 | 給水 | 便所 | 換氣 | 暖房 | 炊事場及浴場 |
|---|---|---|---|---|---|
| 電灯コード吊、寮室ハ八人ニ付一灯、其ノ他ハ要所 | 便所、洗面洗濯所、浴場、食堂及炊事場ニ水栓ヲ設備ス | 汲取便所 | 寮室食堂等ニハ空氣拔ヲ設置ス | 設備セズ | 直火式 |

**第八章**　移住農家住宅

**第四十條**　本規格ニ於テ移住農家住宅トハ農地開發其ノ他ノ目的ヲ以テ計畫的ニ移住スル農家ノ住宅ヲ謂フ

**第四十一條**　移住農家住宅ノ形式、規模及就寢ニ供シ得ル居室ニ關シテハ第二章乃至第四章ノ規定ニ拘ラズ本章ノ規定スル所ニ依ル

**第四十二條**　移住農家住宅ノ一戶當リノ總床面積ハ一三〇㎡以下トシ其ノ規模別種類ハ第十八表ニ依ル

前項ノ總床面積ハ作業ニ必要ナル床面積ヲ含ムモノトス

第十八表

| 規模別稱呼 | 一戶當リノ標準總床面積 |
|---|---|
| 一號 | 五〇㎡ |
| 二號 | 七〇㎡ |
| 三號 | 九〇㎡ |
| 四號 | 一一〇㎡ |
| 五號 | 一三〇㎡ |

**第四十三條**　移住農家住宅ノ就寢ニ供シ得ル居室ノ床面積ハ一八㎡以上四〇㎡以下トス

**第九章**　應急工員住宅

**第四十四條**　本規格ニ於テ應急工員住宅トハ工員ヲ收容スル目的ヲ以テ應急ニ建設シタル住宅ヲ謂フ

應急工員住宅ノ形式、規模及就寢ニ供シ得ル居室ニ關シテハ第二章乃至第四章ノ規定ニ拘ラズ本章ノ規定スル所ニ依ル

**第四十五條**　應急工員住宅ノ形式ハ平家建トシ其ノ規模及平面ハ第二圖ノ甲類ニ依ル但シ地方ノ事情ニ依リ必要アル場合ニ於テハ當分ノ內第二圖

ノ乙類ニ依ルコトヲ得

**第四十六條**　應急工員住宅ノ矩計寸法ハ第十九表ニ依ル

第十九表

| 個所 | 矩計寸法(單位m) |
|---|---|
| 軸高 | 二、三五 |
| 床高 | 〇、四五 |
| 內法高 | 一、七五 |

**第四十七條**　應急工員住宅ノ仕上ハ第二十表ニ依ル

第二十表

| | |
|---|---|
| 居室 | 床疊敷又ハ板張薄縁敷、天井ナシ |
| 土間 | 床叩キ、天井ナシ |
| 便所 | 天井ナシ |
| 押入 | 建具ナシ、天井アリ |

**第十章　雜則**

**第四十八條**　業務ニ供用セラルル住宅ニ在リテハ其ノ專ラ居住ノ用ニ供スル部分ニ付テノミ第二章乃至第四章ノ規定ヲ適用ス

**第四十九條**　寒冷又ハ多雪地方ニ於テハ集團住宅ニ付テハ第十八條乃至第二十二條、共同住宅ニ付テハ第二十六條乃至第二十九條、工員寄宿舍ニ付テハ第三十六條乃至第三十九條、應急工員住宅ニ付テハ第四十五條乃至第四十七條ノ規定ハ各之ヲ適用セズ

**第五十條**　重ネ建住宅ニ付テハ第二十六條乃至第二十九條ノ規定ヲ準用スルモノトス

（圖略ス）

# ●土木工作物ノ構造種別選定規準ニ關スル臨時日本標準規格

昭和十八年四月一日
內閣告示第四號

第三五五號
類別A

臨時日本標準規格

土木工作物ノ構造種別選定規準

本規格ハ時局ニ鑑ミ臨時的ニ制定シタルモノニシテ當分ノ內之ニ依ルモノトス

**第一章　總則**

**第一條**　本規格ハ鐵鋼ノ節約ヲ圖ル目的ヲ以テ土木工作物ノ設計ニ當リテノ構造種別選定ノ規準ヲ制定シタルモノトス

**第二條**　土木工作物ノ構造種別ハ次ノ三種トス

一　鋼構造（鐵構造ヲ含ム）
二　鐵筋コンクリート構造
三　其ノ他ノ構造

**第二章　鐵鋼構造**

**第三條**　本規格ニ於テ鐵鋼構造トハ前條第一號又ハ第二號ノ構造ヲ以テ主要構造部ヲ築造スル構造ヲ謂フ

**第四條**　土木工作物ニシテ其ノ工作物ノ機能上當然鐵鋼構造タルベキモノ又ハ次ノ各號ノ一ニ該當シ第二條第三號ノ構造ト爲スコト著シク困難ナ

【防衞】



ルモノニ限リ之ヲ鐵鋼構造ト爲スモノトス

一　其ノ破壞ニ因リ當該工作物ノ機能ニ重大ナル支障ヲ來ス虞アリ又ハ重大ナル災害ヲ誘發スル虞アルモノ

二　次ノ各號ノ一ニ該當スル重要工作物又ハ重要工作物ノ部分

(一)　水壓、波壓、風壓、土壓又ハ上載荷重著シク大ナルモノ
(二)　海水、潮風又ハ藥品等ノ影響著シク大ナルモノ
(三)　著シク軟弱ナル地盤ニ施工スルモノ
(四)　著シク大ナル徑間又ハ高ト爲スヲ要スルモノ
(五)　大ナル斷面ト爲スヲ要スル隧道
(六)　復舊甚シク困難ナルモノ
(七)　特ニ振動防止ノ要アルモノ又ハ甚シキ振動ヲ受クル虞アルモノ

三　防空上緊要ナル工作物又ハ工作物ノ部分

**第一條**　本規格ハ統制物資ノ節約ヲ圖ル目的ヲ以テ工場建物ノ設計規準ヲ制定シタルモノニシテ作業ノ性質上其ノ單張間一八mヲ超エ又ハ特殊ノ形式構造等ヲ必要トスルモノ以外ノ一般木造平家建工場建物ニ適用スルモノトス

**第二章　柱ノ配置**

**第二條**　張間ハ第一表ニ依ルモノトシ作業目的ニ應ジ必要以上ニ大ナラザルモノヲ選定スルモノトス但シ規模特ニ小ナル工場建物又ハ特殊ノ用ニ供スル工場建物ニ在リテハ八mヲ基準トシ八m以下一m刻ミノ張間ト爲スコトヲ得

連續梁間ノ工場建物ニ於ケル單位張間ニシテ作業ノ流等ノ必要ニ依リ特ニ大ト爲スヲ要スルモノニ在リテハ第一表下段ノ數値ノ二倍ノ數値ニ依ル張間ト爲スコトヲ得

第一項ノ規定ハ下屋ノ張間ニ之ヲ準用ス

第一表　張間（柱眞々寸法、單位m）

| | |
|---|---|
| 單張間ノ工場建物（下屋ノ接續セルモノヲ含ム）ニ於ケル張間 | 九、一〇、一二、一四、一五、一六、一八 |
| 連續張間ノ工場建物ニ於ケル單位張間 | 九、一〇、一二 |

**第三條**　桁行柱間ハ第二表ニ依ル但シ出入口又ハ据附機械ノ大サ、作業ノ橫流等ノ必要ニ依リ特ニ柱間ヲ大ト爲スヲ要スル部分ハ同表ニ依ラザルコトヲ得

第二表　桁行柱間（柱眞々寸法、單位m）

| | | |
|---|---|---|
| 外柱 | 二、三 | |
| 中柱 | 二、三、四、六 | |





# ●木造工場建物ニ關スル臨時日本標準規格

昭和十八年四月十五日
內閣告示第六號

第三五七號
類別A

木造工場建物ニ關スル臨時日本標準規格左ノ通定ム

木造工場建物

本規格ハ時局ニ鑑ミ臨時的ニ制定シタルモノニシテ當分ノ內之ニ依ルモノトス

**第一章　總則**

| 番號 | 名稱 | 位置 | 地積（坪） |
|---|---|---|---|
| 第二 | 空地帶 | 別紙圖面表示ノ通（面省略） | 約二四六、〇〇〇 |
| (一)一 | 放射線地帶 | 第二百三十五號乃至第二百三十七號、第二百四十四號乃至第二百四十六號乃至第二百六十五號乃至第二百六十七號乃至第二百七十四號乃至第二百七十六號乃至第二百七十八號乃至第二百八十五號乃至第二百八十七號乃至第二百九十四號乃至第二百九十六號乃至第二百九十八號乃至第三百五號乃至第三百七號乃至第三百十四號乃至第三百十六號乃至第三百二十三號乃至第三百二十五號乃至第三百二十七號乃至第三百三十四號乃至第三百三十六號乃至第三百三十八號乃至第三百四十五號乃至第三百四十七號乃至第三百五十四號乃至第三百五十六號乃至第三百六十三號乃至第三百六十五號乃至第三百六十七號乃至第三百七十四號乃至第三百七十六號乃至第三百七十八號乃至第三百八十五號乃至第三百八十七號乃至第三百九十四號乃至第三百九十六號乃至第三百九十八號乃至第四百五號乃至第四百七號乃至第四百十四號乃至第四百十六號乃至第四百二十三號乃至第四百二十五號乃至第四百二十七號乃至第四百三十四號乃至第四百三十六號乃至第四百三十八號乃至第四百四十五號乃至第四百四十七號乃至第四百五十四號乃至第四百五十六號乃至第四百五十八號乃至第四百六十五號乃至第四百六十七號乃至第四百七十四號乃至第四百七十六號乃至第四百七十八號乃至第四百八十五號乃至第四百八十七號乃至第四百九十四號乃至第四百九十六號乃至第四百九十八號乃至第五百五號乃至第五百七號乃至第五百十四號乃至第五百十六號乃至第五百二十三號乃至第五百二十五號乃至第五百二十七號乃至第五百三十四號乃至第五百三十六號乃至第五百三十八號乃至第五百四十五號乃至第五百四十七號乃至第五百五十四號乃至第五百五十六號乃至第五百五十八號乃至第五百六十五號乃至第五百六十七號乃至第五百七十四號乃至第五百七十六號乃至第五百七十八號乃至第五百八十五號乃至第五百八十七號乃至第五百九十四號乃至第五百九十六號乃至第五百九十八號乃至第六百五號乃至第六百七號乃至第六百十四號乃至第六百十六號乃至第六百二十三號乃至第六百二十五號乃至第六百二十七號乃至第六百三十四號乃至第六百三十六號乃至第六百三十八號乃至第六百四十五號乃至第六百四十七號乃至第六百五十四號乃至第六百五十六號乃至第六百五十八號乃至第六百六十五號乃至第六百六十七號乃至第六百七十四號乃至第六百七十六號乃至第六百七十八號乃至第六百八十五號乃至第六百八十七號乃至第六百九十四號乃至第六百九十六號乃至第六百九十八號乃至第七百五號乃至第七百七號乃至第七百十四號乃至第七百十六號乃至第七百二十三號乃至第七百二十五號乃至第七百二十七號乃至第七百三十四號乃至第七百三十六號乃至第七百三十八號乃至第七百四十五號乃至第七百四十七號乃至第七百五十四號乃至第七百五十六號乃至第七百五十八號乃至第七百六十五號乃至第七百六十七號乃至第七百七十四號乃至第七百七十六號乃至第七百七十八號乃至第七百八十五號乃至第七百八十七號乃至第七百九十四號乃至第七百九十六號乃至第七百九十八號乃至第八百五號乃至第八百七號乃至第八百十四號乃至第八百十六號乃至第八百二十三號乃至第八百二十五號乃至第八百二十七號乃至第八百三十四號乃至第八百三十六號乃至第八百三十八號乃至第八百四十五號乃至第八百四十七號乃至第八百五十四號乃至第八百五十六號乃至第八百五十八號乃至第八百六十五號乃至第八百六十七號乃至第八百七十四號乃至第八百七十六號乃至第八百七十八號乃至第八百八十五號乃至第八百八十七號乃至第八百九十四號乃至第八百九十六號乃至第八百九十八號乃至第九百五號乃至第九百七號乃至第九百十四號乃至第九百十六號乃至第九百二十三號乃至第九百二十五號乃至第九百二十七號乃至第九百三十四號乃至第九百三十六號乃至第九百三十八號乃至第九百四十五號乃至第九百四十七號乃至第九百五十四號乃至第九百五十六號乃至第九百五十八號乃至第九百六十五號乃至第九百六十七號乃至第九百七十四號乃至第九百七十六號乃至第九百七十八號乃至第九百八十五號乃至第九百八十七號乃至第九百九十四號乃至第九百九十六號乃至第九百九十八號乃至第一千五號乃至第一千七號乃至第一千十四號乃至第一千十六號乃至第一千二十三號乃至第一千二十五號乃至第一千二十七號乃至第一千三十四號乃至第一千三十六號乃至第一千三十八號乃至第一千四十五號乃至第一千四十七號乃至第一千五十四號乃至第一千五十六號乃至第一千五十八號乃至第一千六十五號乃至第一千六十七號乃至第一千七十四號乃至第一千七十六號乃至第一千七十八號乃至第一千八十五號乃至第一千八十七號乃至第一千九十四號乃至第一千九十六號乃至第一千九十八號乃至第二千五號乃至第二千七號乃至第二千十四號乃至第二千十六號乃至第二千二十三號乃至第二千二十五號乃至第二千二十七號乃至第二千三十四號乃至第二千三十六號乃至第二千三十八號乃至第二千四十五號乃至第二千四十七號乃至第二千五十四號乃至第二千五十六號乃至第二千五十八號乃至第二千六十五號乃至第二千六十七號乃至第二千七十四號乃至第二千七十六號乃至第二千七十八號乃至第二千八十五號乃至第二千八十七號乃至第二千九十四號乃至第二千九十六號乃至第二千九十八號乃至第三千五號乃至第三千七號乃至第三千十四號乃至第三千十六號乃至第三千二十三號乃至第三千二十五號乃至第三千二十七號乃至第三千三十四號乃至第三千三十六號乃至第三千三十八號乃至第三千四十五號乃至第三千四十七號乃至第三千五十四號乃至第三千五十六號乃至第三千五十八號乃至第三千六十五號乃至第三千六十七號乃至第三千七十四號乃至第三千七十六號乃至第三千七十八號乃至第三千八十五號乃至第三千八十七號乃至第三千九十四號乃至第三千九十六號乃至第三千九十八號乃至第四千五號乃至第四千七號乃至第四千十四號乃至第四千十六號乃至第四千二十三號乃至第四千二十五號乃至第四千二十七號乃至第四千三十四號乃至第四千三十六號乃至第四千三十八號乃至第四千四十五號乃至第四千四十七號乃至第四千五十四號乃至第四千五十六號乃至第四千五十八號乃至第四千六十五號乃至第四千六十七號乃至第四千七十四號乃至第四千七十六號乃至第四千七十八號乃至第四千八十五號乃至第四千八十七號乃至第四千九十四號乃至第四千九十六號乃至第四千九十八號乃至第五千五號乃至第五千七號乃至第五千十四號乃至第五千十六號乃至第五千二十三號乃至第五千二十五號乃至第五千二十七號乃至第五千三十四號乃至第五千三十六號乃至第五千三十八號乃至第五千四十五號乃至第五千四十七號乃至第五千五十四號乃至第五千五十六號乃至第五千五十八號乃至第五千六十五號乃至第五千六十七號乃至第五千七十四號乃至第五千七十六號乃至第五千七十八號乃至第五千八十五號乃至第五千八十七號乃至第五千九十四號乃至第五千九十六號乃至第五千九十八號乃至第六千五號乃至第六千七號乃至第六千十四號乃至第六千十六號乃至第六千二十三號乃至第六千二十五號乃至第六千二十七號乃至第六千三十四號乃至第六千三十六號乃至第六千三十八號乃至第六千四十五號乃至第六千四十七號乃至第六千五十四號乃至第六千五十六號乃至第六千五十八號乃至第六千六十五號乃至第六千六十七號乃至第六千七十四號乃至第六千七十六號乃至第六千七十八號乃至第六千八十五號乃至第六千八十七號乃至第六千九十四號乃至第六千九十六號乃至第六千九十八號乃至第七千五號乃至第七千七號乃至第七千十四號乃至第七千十六號乃至第七千二十三號乃至第七千二十五號乃至第七千二十七號乃至第七千三十四號乃至第七千三十六號乃至第七千三十八號乃至第七千四十五號乃至第七千四十七號乃至第七千五十四號乃至第七千五十六號乃至第七千五十八號乃至第七千六十五號乃至第七千六十七號乃至第七千七十四號乃至第七千七十六號乃至第七千七十八號乃至第七千八十五號乃至第七千八十七號乃至第七千九十四號乃至第七千九十六號乃至第七千九十八號乃至第八千五號乃至第八千七號乃至第八千十四號乃至第八千十六號乃至第八千二十三號乃至第八千二十五號乃至第八千二十七號乃至第八千三十四號乃至第八千三十六號乃至第八千三十八號乃至第八千四十五號乃至第八千四十七號乃至第八千五十四號乃至第八千五十六號乃至第八千五十八號乃至第八千六十五號乃至第八千六十七號乃至第八千七十四號乃至第八千七十六號乃至第八千七十八號乃至第八千八十五號乃至第八千八十七號乃至第八千九十四號乃至第八千九十六號乃至第八千九十八號乃至第九千五號乃至第九千七號乃至第九千十四號乃至第九千十六號乃至第九千二十三號乃至第九千二十五號乃至第九千二十七號乃至第九千三十四號乃至第九千三十六號乃至第九千三十八號乃至第九千四十五號乃至第九千四十七號乃至第九千五十四號乃至第九千五十六號乃至第九千五十八號乃至第九千六十五號乃至第九千六十七號乃至第九千七十四號乃至第九千七十六號乃至第九千七十八號乃至第九千八十五號乃至第九千八十七號乃至第九千九十四號乃至第九千九十六號乃至第九千九十八號乃至第一萬五號乃至第一萬七號乃至第一萬十四號乃至第一萬十六號乃至第一萬二十三號乃至第一萬二十五號乃至第一萬二十七號乃至第一萬三十四號乃至第一萬三十六號乃至第一萬三十八號乃至第一萬四十五號乃至第一萬四十七號乃至第一萬五十四號乃至第一萬五十六號乃至第一萬五十八號乃至第一萬六十五號乃至第一萬六十七號乃至第一萬七十四號乃至第一萬七十六號乃至第一萬七十八號乃至第一萬八十五號乃至第一萬八十七號乃至第一萬九十四號乃至第一萬九十六號乃至第一萬九十八號乃至第二萬五號乃至第二萬七號乃至第二萬十四號乃至第二萬十六號乃至第二萬二十三號乃至第二萬二十五號乃至第二萬二十七號乃至第二萬三十四號乃至第二萬三十六號乃至第二萬三十八號乃至第二萬四十五號乃至第二萬四十七號乃至第二萬五十四號乃至第二萬五十六號乃至第二萬五十八號乃至第二萬六十五號乃至第二萬六十七號乃至第二萬七十四號乃至第二萬七十六號乃至第二萬七十八號乃至第二萬八十五號乃至第二萬八十七號乃至第二萬九十四號乃至第二萬九十六號乃至第二萬九十八號乃至第三萬五號乃至第三萬七號乃至第三萬十四號乃至第三萬十六號乃至第三萬二十三號乃至第三萬二十五號乃至第三萬二十七號乃至第三萬三十四號乃至第三萬三十六號乃至第三萬三十八號乃至第三萬四十五號乃至第三萬四十七號乃至第三萬五十四號乃至第三萬五十六號乃至第三萬五十八號乃至第三萬六十五號乃至第三萬六十七號乃至第三萬七十四號乃至第三萬七十六號乃至第三萬七十八號乃至第三萬八十五號乃至第三萬八十七號乃至第三萬九十四號乃至第三萬九十六號乃至第三萬九十八號乃至第四萬五號乃至第四萬七號乃至第四萬十四號乃至第四萬十六號乃至第四萬二十三號乃至第四萬二十五號乃至第四萬二十七號乃至第四萬三十四號乃至第四萬三十六號乃至第四萬三十八號乃至第四萬四十五號乃至第四萬四十七號乃至第四萬五十四號乃至第四萬五十六號乃至第四萬五十八號乃至第四萬六十五號乃至第四萬六十七號乃至第四萬七十四號乃至第四萬七十六號乃至第四萬七十八號乃至第四萬八十五號乃至第四萬八十七號乃至第四萬九十四號乃至第四萬九十六號乃至第四萬九十八號乃至第五萬五號乃至第五萬七號乃至第五萬十四號乃至第五萬十六號乃至第五萬二十三號乃至第五萬二十五號乃至第五萬二十七號乃至第五萬三十四號乃至第五萬三十六號乃至第五萬三十八號乃至第五萬四十五號乃至第五萬四十七號乃至第五萬五十四號乃至第五萬五十六號乃至第五萬五十八號乃至第五萬六十五號乃至第五萬六十七號乃至第五萬七十四號乃至第五萬七十六號乃至第五萬七十八號乃至第五萬八十五號乃至第五萬八十七號乃至第五萬九十四號乃至第五萬九十六號乃至第五萬九十八號乃至第六萬五號乃至第六萬七號乃至第六萬十四號乃至第六萬十六號乃至第六萬二十三號乃至第六萬二十五號乃至第六萬二十七號乃至第六萬三十四號乃至第六萬三十六號乃至第六萬三十八號乃至第六萬四十五號乃至第六萬四十七號乃至第六萬五十四號乃至第六萬五十六號乃至第六萬五十八號乃至第六萬六十五號乃至第六萬六十七號乃至第六萬七十四號乃至第六萬七十六號乃至第六萬七十八號乃至第六萬八十五號乃至第六萬八十七號乃至第六萬九十四號乃至第六萬九十六號乃至第六萬九十八號乃至第七萬五號乃至第七萬七號乃至第七萬十四號乃至第七萬十六號乃至第七萬二十三號乃至第七萬二十五號乃至第七萬二十七號乃至第七萬三十四號乃至第七萬三十六號乃至第七萬三十八號乃至第七萬四十五號乃至第七萬四十七號乃至第七萬五十四號乃至第七萬五十六號乃至第七萬五十八號乃至第七萬六十五號乃至第七萬六十七號乃至第七萬七十四號乃至第七萬七十六號乃至第七萬七十八號乃至第七萬八十五號乃至第七萬八十七號乃至第七萬九十四號乃至第七萬九十六號乃至第七萬九十八號乃至第八萬五號乃至第八萬七號乃至第八萬十四號乃至第八萬十六號乃至第八萬二十三號乃至第八萬二十五號乃至第八萬二十七號乃至第八萬三十四號乃至第八萬三十六號乃至第八萬三十八號乃至第八萬四十五號乃至第八萬四十七號乃至第八萬五十四號乃至第八萬五十六號乃至第八萬五十八號乃至第八萬六十五號乃至第八萬六十七號乃至第八萬七十四號乃至第八萬七十六號乃至第八萬七十八號乃至第八萬八十五號乃至第八萬八十七號乃至第八萬九十四號乃至第八萬九十六號乃至第八萬九十八號乃至第九萬五號乃至第九萬七號乃至第九萬十四號乃至第九萬十六號乃至第九萬二十三號乃至第九萬二十五號乃至第九萬二十七號乃至第九萬三十四號乃至第九萬三十六號乃至第九萬三十八號乃至第九萬四十五號乃至第九萬四十七號乃至第九萬五十四號乃至第九萬五十六號乃至第九萬五十八號乃至第九萬六十五號乃至第九萬六十七號乃至第九萬七十四號乃至第九萬七十六號乃至第九萬七十八號乃至第九萬八十五號乃至第九萬八十七號乃至第九萬九十四號乃至第九萬九十六號乃至第九萬九十八號乃至第十萬五號乃至第十萬七號乃至第十萬十四號乃至第十萬十六號乃至第十萬二十三號乃至第十萬二十五號乃至第十萬二十七號乃至第十萬三十四號乃至第十萬三十六號乃至第十萬三十八號乃至第十萬四十五號乃至第十萬四十七號乃至第十萬五十四號乃至第十萬五十六號乃至第十萬五十八號乃至第十萬六十五號乃至第十萬六十七號乃至第十萬七十四號乃至第十萬七十六號乃至第十萬七十八號乃至第十萬八十五號乃至第十萬八十七號乃至第十萬九十四號乃至第十萬九十六號乃至第十萬九十八號乃至第十一萬五號乃至第十一萬七號乃至第十一萬十四號乃至第十一萬十六號乃至第十一萬二十三號乃至第十一萬二十五號乃至第十一萬二十七號乃至第十一萬三十四號乃至第十一萬三十六號乃至第十一萬三十八號乃至第十一萬四十五號乃至第十一萬四十七號乃至第十一萬五十四號乃至第十一萬五十六號乃至第十一萬五十八號乃至第十一萬六十五號乃至第十一萬六十七號乃至第十一萬七十四號乃至第十一萬七十六號乃至第十一萬七十八號乃至第十一萬八十五號乃至第十一萬八十七號乃至第十一萬九十四號乃至第十一萬九十六號乃至第十一萬九十八號乃至第十二萬五號乃至第十二萬七號乃至第十二萬十四號乃至第十二萬十六號乃至第十二萬二十三號乃至第十二萬二十五號乃至第十二萬二十七號乃至第十二萬三十四號乃至第十二萬三十六號乃至第十二萬三十八號乃至第十二萬四十五號乃至第十二萬四十七號乃至第十二萬五十四號乃至第十二萬五十六號乃至第十二萬五十八號乃至第十二萬六十五號乃至第十二萬六十七號乃至第十二萬七十四號乃至第十二萬七十六號乃至第十二萬七十八號乃至第十二萬八十五號乃至第十二萬八十七號乃至第十二萬九十四號乃至第十二萬九十六號乃至第十二萬九十八號乃至第十三萬五號乃至第十三萬七號乃至第十三萬十四號乃至第十三萬十六號乃至第十三萬二十三號乃至第十三萬二十五號乃至第十三萬二十七號乃至第十三萬三十四號乃至第十三萬三十六號乃至第十三萬三十八號乃至第十三萬四十五號乃至第十三萬四十七號乃至第十三萬五十四號乃至第十三萬五十六號乃至第十三萬五十八號乃至第十三萬六十五號乃至第十三萬六十七號乃至第十三萬七十四號乃至第十三萬七十六號乃至第十三萬七十八號乃至第十三萬八十五號乃至第十三萬八十七號乃至第十三萬九十四號乃至第十三萬九十六號乃至第十三萬九十八號乃至第十四萬五號乃至第十四萬七號乃至第十四萬十四號乃至第十四萬十六號乃至第十四萬二十三號乃至第十四萬二十五號乃至第十四萬二十七號乃至第十四萬三十四號乃至第十四萬三十六號乃至第十四萬三十八號乃至第十四萬四十五號乃至第十四萬四十七號乃至第十四萬五十四號乃至第十四萬五十六號乃至第十四萬五十八號乃至第十四萬六十五號乃至第十四萬六十七號乃至第十四萬七十四號乃至第十四萬七十六號乃至第十四萬七十八號乃至第十四萬八十五號乃至第十四萬八十七號乃至第十四萬九十四號乃至第十四萬九十六號乃至第十四萬九十八號乃至第十五萬五號乃至第十五萬七號乃至第十五萬十四號乃至第十五萬十六號乃至第十五萬二十三號乃至第十五萬二十五號乃至第十五萬二十七號乃至第十五萬三十四號乃至第十五萬三十六號乃至第十五萬三十八號乃至第十五萬四十五號乃至第十五萬四十七號乃至第十五萬五十四號乃至第十五萬五十六號乃至第十五萬五十八號乃至第十五萬六十五號乃至第十五萬六十七號乃至第十五萬七十四號乃至第十五萬七十六號乃至第十五萬七十八號乃至第十五萬八十五號乃至第十五萬八十七號乃至第十五萬九十四號乃至第十五萬九十六號乃至第十五萬九十八號乃至第十六萬五號乃至第十六萬七號乃至第十六萬十四號乃至第十六萬十六號乃至第十六萬二十三號乃至第十六萬二十五號乃至第十六萬二十七號乃至第十六萬三十四號乃至第十六萬三十六號乃至第十六萬三十八號乃至第十六萬四十五號乃至第十六萬四十七號乃至第十六萬五十四號乃至第十六萬五十六號乃至第十六萬五十八號乃至第十六萬六十五號乃至第十六萬六十七號乃至第十六萬七十四號乃至第十六萬七十六號乃至第十六萬七十八號乃至第十六萬八十五號乃至第十六萬八十七號乃至第十六萬九十四號乃至第十六萬九十六號乃至第十六萬九十八號乃至第十七萬五號乃至第十七萬七號乃至第十七萬十四號乃至第十七萬十六號乃至第十七萬二十三號乃至第十七萬二十五號乃至第十七萬二十七號乃至第十七萬三十四號乃至第十七萬三十六號乃至第十七萬三十八號乃至第十七萬四十五號乃至第十七萬四十七號乃至第十七萬五十四號乃至第十七萬五十六號乃至第十七萬五十八號乃至第十七萬六十五號乃至第十七萬六十七號乃至第十七萬七十四號乃至第十七萬七十六號乃至第十七萬七十八號乃至第十七萬八十五號乃至第十七萬八十七號乃至第十七萬九十四號乃至第十七萬九十六號乃至第十七萬九十八號乃至第十八萬五號乃至第十八萬七號乃至第十八萬十四號乃至第十八萬十六號乃至第十八萬二十三號乃至第十八萬二十五號乃至第十八萬二十七號乃至第十八萬三十四號乃至第十八萬三十六號乃至第十八萬三十八號乃至第十八萬四十五號乃至第十八萬四十七號乃至第十八萬五十四號乃至第十八萬五十六號乃至第十八萬五十八號乃至第十八萬六十五號乃至第十八萬六十七號乃至第十八萬七十四號乃至第十八萬七十六號乃至第十八萬七十八號乃至第十八萬八十五號乃至第十八萬八十七號乃至第十八萬九十四號乃至第十八萬九十六號乃至第十八萬九十八號乃至第十九萬五號乃至第十九萬七號乃至第十九萬十四號乃至第十九萬十六號乃至第十九萬二十三號乃至第十九萬二十五號乃至第十九萬二十七號乃至第十九萬三十四號乃至第十九萬三十六號乃至第十九萬三十八號乃至第十九萬四十五號乃至第十九萬四十七號乃至第十九萬五十四號乃至第十九萬五十六號乃至第十九萬五十八號乃至第十九萬六十五號乃至第十九萬六十七號乃至第十九萬七十四號乃至第十九萬七十六號乃至第十九萬七十八號乃至第十九萬八十五號乃至第十九萬八十七號乃至第十九萬九十四號乃至第十九萬九十六號乃至第十九萬九十八號乃至第二十萬五號乃至第二十萬七號乃至第二十萬十四號乃至第二十萬十六號乃至第二十萬二十三號乃至第二十萬二十五號乃至第二十萬二十七號乃至第二十萬三十四號乃至第二十萬三十六號乃至第二十萬三十八號乃至第二十萬四十五號乃至第二十萬四十七號乃至第二十萬五十四號乃至第二十萬五十六號乃至第二十萬五十八號乃至第二十萬六十五號乃至第二十萬六十七號乃至第二十萬七十四號乃至第二十萬七十六號乃至第二十萬七十八號乃至第二十萬八十五號乃至第二十萬八十七號乃至第二十萬九十四號乃至第二十萬九十六號乃至第二十萬九十八號乃至第二十一萬五號乃至第二十一萬七號乃至第二十一萬十四號乃至第二十一萬十六號乃至第二十一萬二十三號乃至第二十一萬二十五號乃至第二十一萬二十七號乃至第二十一萬三十四號乃至第二十一萬三十六號乃至第二十一萬三十八號乃至第二十一萬四十五號乃至第二十一萬四十七號乃至第二十一萬五十四號乃至第二十一萬五十六號乃至第二十一萬五十八號乃至第二十一萬六十五號乃至第二十一萬六十七號乃至第二十一萬七十四號乃至第二十一萬七十六號乃至第二十一萬七十八號乃至第二十一萬八十五號乃至第二十一萬八十七號乃至第二十一萬九十四號乃至第二十一萬九十六號乃至第二十一萬九十八號乃至第二十二萬五號乃至第二十二萬七號乃至第二十二萬十四號乃至第二十二萬十六號乃至第二十二萬二十三號乃至第二十二萬二十五號乃至第二十二萬二十七號乃至第二十二萬三十四號乃至第二十二萬三十六號乃至第二十二萬三十八號乃至第二十二萬四十五號乃至第二十二萬四十七號乃至第二十二萬五十四號乃至第二十二萬五十六號乃至第二十二萬五十八號乃至第二十二萬六十五號乃至第二十二萬六十七號乃至第二十二萬七十四號乃至第二十二萬七十六號乃至第二十二萬七十八號乃至第二十二萬八十五號乃至第二十二萬八十七號乃至第二十二萬九十四號乃至第二十二萬九十六號乃至第二十二萬九十八號乃至第二十三萬五號乃至第二十三萬七號乃至第二十三萬十四號乃至第二十三萬十六號乃至第二十三萬二十三號乃至第二十三萬二十五號乃至第二十三萬二十七號乃至第二十三萬三十四號乃至第二十三萬三十六號乃至第二十三萬三十八號乃至第二十三萬四十五號乃至第二十三萬四十七號乃至第二十三萬五十四號乃至第二十三萬五十六號乃至第二十三萬五十八號乃至第二十三萬六十五號乃至第二十三萬六十七號乃至第二十三萬七十四號乃至第二十三萬七十六號乃至第二十三萬七十八號乃至第二十三萬八十五號乃至第二十三萬八十七號乃至第二十三萬九十四號乃至第二十三萬九十六號乃至第二十三萬九十八號乃至第二十四萬五號乃至第二十四萬七號乃至第二十四萬十四號乃至第二十四萬十六號乃至第二十四萬二十三號乃至第二十四萬二十五號乃至第二十四萬二十七號乃至第二十四萬三十四號乃至第二十四萬三十六號乃至第二十四萬三十八號乃至第二十四萬四十五號乃至第二十四萬四十七號乃至第二十四萬五十四號乃至第二十四萬五十六號乃至第二十四萬五十八號乃至第二十四萬六十五號乃至第二十四萬六十七號乃至第二十四萬七十四號乃至第二十四萬七十六號乃至第二十四萬七十八號乃至第二十四萬八十五號乃至第二十四萬八十七號乃至第二十四萬九十四號乃至第二十四萬九十六號乃至第二十四萬九十八號乃至第二十五萬五號乃至第二十五萬七號乃至第二十五萬十四號乃至第二十五萬十六號乃至第二十五萬二十三號乃至第二十五萬二十五號乃至第二十五萬二十七號乃至第二十五萬三十四號乃至第二十五萬三十六號乃至第二十五萬三十八號乃至第二十五萬四十五號乃至第二十五萬四十七號乃至第二十五萬五十四號乃至第二十五萬五十六號乃至第二十五萬五十八號乃至第二十五萬六十五號乃至第二十五萬六十七號乃至第二十五萬七十四號乃至第二十五萬七十六號乃至第二十五萬七十八號乃至第二十五萬八十五號乃至第二十五萬八十七號乃至第二十五萬九十四號乃至第二十五萬九十六號乃至第二十五萬九十八號乃至第二十六萬五號乃至第二十六萬七號乃至第二十六萬十四號乃至第二十六萬十六號乃至第二十六萬二十三號乃至第二十六萬二十五號乃至第二十六萬二十七號乃至第二十六萬三十四號乃至第二十六萬三十六號乃至第二十六萬三十八號乃至第二十六萬四十五號乃至第二十六萬四十七號乃至第二十六萬五十四號乃至第二十六萬五十六號乃至第二十六萬五十八號乃至第二十六萬六十五號乃至第二十六萬六十七號乃至第二十六萬七十四號乃至第二十六萬七十六號乃至第二十六萬七十八號乃至第二十六萬八十五號乃至第二十六萬八十七號乃至第二十六萬九十四號乃至第二十六萬九十六號乃至第二十六萬九十八號乃至第二十七萬五號乃至第二十七萬七號乃至第二十七萬十四號乃至第二十七萬十六號乃至第二十七萬二十三號乃至第二十七萬二十五號乃至第二十七萬二十七號乃至第二十七萬三十四號乃至第二十七萬三十六號乃至第二十七萬三十八號乃至第二十七萬四十五號乃至第二十七萬四十七號乃至第二十七萬五十四號乃至第二十七萬五十六號乃至第二十七萬五十八號乃至第二十七萬六十五號乃至第二十七萬六十七號乃至第二十七萬七十四號乃至第二十七萬七十六號乃至第二十七萬七十八號乃至第二十七萬八十五號乃至第二十七萬八十七號乃至第二十七萬九十四號乃至第二十七萬九十六號乃至第二十七萬九十八號乃至第二十八萬五號乃至第二十八萬七號乃至第二十八萬十四號乃至第二十八萬十六號乃至第二十八萬二十三號乃至第二十八萬二十五號乃至第二十八萬二十七號乃至第二十八萬三十四號乃至第二十八萬三十六號乃至第二十八萬三十八號乃至第二十八萬四十五號乃至第二十八萬四十七號乃至第二十八萬五十四號乃至第二十八萬五十六號乃至第二十八萬五十八號乃至第二十八萬六十五號乃至第二十八萬六十七號乃至第二十八萬七十四號乃至第二十八萬七十六號乃至第二十八萬七十八號乃至第二十八萬八十五號乃至第二十八萬八十七號乃至第二十八萬九十四號乃至第二十八萬九十六號乃至第二十八萬九十八號乃至第二十九萬五號乃至第二十九萬七號乃至第二十九萬十四號乃至第二十九萬十六號乃至第二十九萬二十三號乃至第二十九萬二十五號乃至第二十九萬二十七號乃至第二十九萬三十四號乃至第二十九萬三十六號乃至第二十九萬三十八號乃至第二十九萬四十五號乃至第二十九萬四十七號乃至第二十九萬五十四號乃至第二十九萬五十六號乃至第二十九萬五十八號乃至第二十九萬六十五號乃至第二十九萬六十七號乃至第二十九萬七十四號乃至第二十九萬七十六號乃至第二十九萬七十八號乃至第二十九萬八十五號乃至第二十九萬八十七號乃至第二十九萬九十四號乃至第二十九萬九十六號乃至第二十九萬九十八號乃至第三十萬五號乃至第三十萬七號乃至第三十萬十四號乃至第三十萬十六號乃至第三十萬二十三號乃至第三十萬二十五號乃至第三十萬二十七號乃至第三十萬三十四號乃至第三十萬三十六號乃至第三十萬三十八號乃至第三十萬四十五號乃至第三十萬四十七號乃至第三十萬五十四號乃至第三十萬五十六號乃至第三十萬五十八號乃至第三十萬六十五號乃至第三十萬六十七號乃至第三十萬七十四號乃至第三十萬七十六號乃至第三十萬七十八號乃至第三十萬八十五號乃至第三十萬八十七號乃至第三十萬九十四號乃至第三十萬九十六號乃至第三十萬九十八號乃至第三十一萬五號乃至第三十一萬七號乃至第三十一萬十四號乃至第三十一萬十六號乃至第三十一萬二十三號乃至第三十一萬二十五號乃至第三十一萬二十七號乃至第三十一萬三十四號乃至第三十一萬三十六號乃至第三十一萬三十八號乃至第三十一萬四十五號乃至第三十一萬四十七號乃至第三十一萬五十四號乃至第三十一萬五十六號乃至第三十一萬五十八號乃至第三十一萬六十五號乃至第三十一萬六十七號乃至第三十一萬七十四號乃至第三十一萬七十六號乃至第三十一萬七十八號乃至第三十一萬八十五號乃至第三十一萬八十七號乃至第三十一萬九十四號乃至第三十一萬九十六號乃至第三十一萬九十八號乃至第三十二萬五號乃至第三十二萬七號乃至第三十二萬十四號乃至第三十二萬十六號乃至第三十二萬二十三號乃至第三十二萬二十五號乃至第三十二萬二十七號乃至第三十二萬三十四號乃至第三十二萬三十六號乃至第三十二萬三十八號乃至第三十二萬四十五號乃至第三十二萬四十七號乃至第三十二萬五十四號乃至第三十二萬五十六號乃至第三十二萬五十八號乃至第三十二萬六十五號乃至第三十二萬六十七號乃至第三十二萬七十四號乃至第三十二萬七十六號乃至第三十二萬七十八號乃至第三十二萬八十五號乃至第三十二萬八十七號乃至第三十二萬九十四號乃至第三十二萬九十六號乃至第三十二萬九十八號乃至第三十三萬五號乃至第三十三萬七號乃至第三十三萬十四號乃至第三十三萬十六號乃至第三十三萬二十三號乃至第三十三萬二十五號乃至第三十三萬二十七號乃至第三十三萬三十四號乃至第三十三萬三十六號乃至第三十三萬三十八號乃至第三十三萬四十五號乃至第三十三萬四十七號乃至第三十三萬五十四號乃至第三十三萬五十六號乃至第三十三萬五十八號乃至第三十三萬六十五號乃至第三十三萬六十七號乃至第三十三萬七十四號乃至第三十三萬七十六號乃至第三十三萬七十八號乃至第三十三萬八十五號乃至第三十三萬八十七號乃至第三十三萬九十四號乃至第三十三萬九十六號乃至第三十三萬九十八號乃至第三十四萬五號乃至第三十四萬七號乃至第三十四萬十四號乃至第三十四萬十六號乃至第三十四萬二十三號乃至第三十四萬二十五號乃至第三十四萬二十七號乃至第三十四萬三十四號乃至第三十四萬三十六號乃至第三十四萬三十八號乃至第三十四萬四十五號乃至第三十四萬四十七號乃至第三十四萬五十四號乃至第三十四萬五十六號乃至第三十四萬五十八號乃至第三十四萬六十五號乃至第三十四萬六十七號乃至第三十四萬七十四號乃至第三十四萬七十六號乃至第三十四萬七十八號乃至第三十四萬八十五號乃至第三十四萬八十七號乃至第三十四萬九十四號乃至第三十四萬九十六號乃至第三十四萬九十八號乃至第三十五萬五號乃至第三十五萬七號乃至第三十五萬十四號乃至第三十五萬十六號乃至第三十五萬二十三號乃至第三十五萬二十五號乃至第三十五萬二十七號乃至第三十五萬三十四號乃至第三十五萬三十六號乃至第三十五萬三十八號乃至第三十五萬四十五號乃至第三十五萬四十七號乃至第三十五萬五十四號乃至第三十五萬五十六號乃至第三十五萬五十八號乃至第三十五萬六十五號乃至第三十五萬六十七號乃至第三十五萬七十四號乃至第三十五萬七十六號乃至第三十五萬七十八號乃至第三十五萬八十五號乃至第三十五萬八十七號乃至第三十五萬九十四號乃至第三十五萬九十六號乃至第三十五萬九十八號乃至第三十六萬五號乃至第三十六萬七號乃至第三十六萬十四號乃至第三十六萬十六號乃至第三十六萬二十三號乃至第三十六萬二十五號乃至第三十六萬二十七號乃至第三十六萬三十四號乃至第三十六萬三十六號乃至第三十六萬三十八號乃至第三十六萬四十五號乃至第三十六萬四十七號乃至第三十六萬五十四號乃至第三十六萬五十六號乃至第三十六萬五十八號乃至第三十六萬六十五號乃至第三十六萬六十七號乃至第三十六萬七十四號乃至第三十六萬七十六號乃至第三十六萬七十八號乃至第三十六萬八十五號乃至第三十六萬八十七號乃至第三十六萬九十四號乃至第三十六萬九十六號乃至第三十六萬九十八號乃至第三十七萬五號乃至第三十七萬七號乃至第三十七萬十四號乃至第三十七萬十六號乃至第三十七萬二十三號乃至第三十七萬二十五號乃至第三十七萬二十七號乃至第三十七萬三十四號乃至第三十七萬三十六號乃至第三十七萬三十八號乃至第三十七萬四十五號乃至第三十七萬四十七號乃至第三十七萬五十四號乃至第三十七萬五十六號乃至第三十七萬五十八號乃至第三十七萬六十五號乃至第三十七萬六十七號乃至第三十七萬七十四號乃至第三十七萬七十六號乃至第三十七萬七十八號乃至第三十七萬八十五號乃至第三十七萬八十七號乃至第三十七萬九十四號乃至第三十七萬九十六號乃至第三十七萬九十八號乃至第三十八萬五號乃至第三十八萬七號乃至第三十八萬十四號乃至第三十八萬十六號乃至第三十八萬二十三號乃至第三十八萬二十五號乃至第三十八萬二十七號乃至第三十八萬三十四號乃至第三十八萬三十六號乃至第三十八萬三十八號乃至第三十八萬四十五號乃至第三十八萬四十七號乃至第三十八萬五十四號乃至第三十八萬五十六號乃至第三十八萬五十八號乃至第三十八萬六十五號乃至第三十八萬六十七號乃至第三十八萬七十四號乃至第三十八萬七十六號乃至第三十八萬七十八號乃至第三十八萬八十五號乃至第三十八萬八十七號乃至第三十八萬九十四號乃至第三十八萬九十六號乃至第三十八萬九十八號乃至第三十九萬五號乃至第三十九萬七號乃至第三十九萬十四號乃至第三十九萬十六號乃至第三十九萬二十三號乃至第三十九萬二十五號乃至第三十九萬二十七號乃至第三十九萬三十四號乃至第三十九萬三十六號乃至第三十九萬三十八號乃至第三十九萬四十五號乃至第三十九萬四十七號乃至第三十九萬五十四號乃至第三十九萬五十六號乃至第三十九萬五十八號乃至第三十九萬六十五號乃至第三十九萬六十七號乃至第三十九萬七十四號乃至第三十九萬七十六號乃至第三十九萬七十八號乃至第三十九萬八十五號乃至第三十九萬八十七號乃至第三十九萬九十四號乃至第三十九萬九十六號乃至第三十九萬九十八號乃至第四十萬五號乃至第四十萬七號乃至第四十萬十四號乃至第四十萬十六號乃至第四十萬二十三號乃至第四十萬二十五號乃至第四十萬二十七號乃至第四十萬三十四號乃至第四十萬三十六號乃至第四十萬三十八號乃至第四十萬四十五號乃至第四十萬四十七號乃至第四十萬五十四號乃至第

| | | | |
|---|---|---|---|
| 二 | 池上空地帶 | 東京市大森區地內 | 約　三一七、〇〇〇 |
| 三 | 大岡山空地帶 | 東京市大森區　目黑區　世田谷區各地內 | 約　三三八、〇〇〇 |
| 四 | 駒澤空地帶 | 東京市目黑區　世田谷區各地內 | 約　四二五、〇〇〇 |
| 五 | 和田堀空地帶 | 東京市世田谷區　杉並區各地內 | 約　六四一、〇〇〇 |
| 六 | 中野空地帶 | 東京市杉並區　中野區各地內 | 約　三四三、〇〇〇 |
| 七 | 江古田空地帶 | 東京市中野區　豐島區　板橋區各地內 | 約　五三七、〇〇〇 |
| 八 | 下石神井川空地帶 | 東京市板橋區　練馬川區　王子區各地內 | 約　四一七、〇〇〇 |
| (三) | 外放射空地帶 | | |
| 一 | 上蛇崩川空地帶 | 東京市世田谷區地內 | 約　六三二、〇〇〇 |
| 二 | 瓢箪谷空地帶 | 東京市世田谷區地內 | 約　一、〇一四、〇〇〇 |
| 三 | 上神田上水空地帶 | 東京市世田谷區　杉並區各地內 | 約　一、七二五、〇〇〇 |
| 四 | 上妙正寺川空地帶 | 東京市中野區　杉並區各地內 | 約　六四六、〇〇〇 |
| 五 | 上石神井川空地帶 | 東京市板橋區地內 | 約　七四二、〇〇〇 |
| 六 | 小菅空地帶 | 東京市足立區　葛飾區各地內 | 約　五六四、〇〇〇 |
| 七 | 奥戸空地帶 | 東京市江戸川區　葛飾區各地內 | 約　四一一、〇〇〇 |
| 八 | 小松川空地帶 | 東京市江戸川區地內 | 約　三四一、〇〇〇 |
| (四) | 外環狀空地帶 | | |
| 一 | 多摩空地帶 | 東京市世田谷區地內　東京府北多摩郡狛江村　神代村　三鷹町　武藏野町各地內 | 約　五、〇八八、〇〇〇 |
| 二 | 板橋空地帶 | 東京市杉並區　板橋區各地內 | 約　五、八八一、〇〇〇 |
| 三 | 足立空地帶 | 東京市足立區　葛飾區各地內 | 約　六、七九五、〇〇〇 |
| 四 | 江戸川空地帶 | 東京市江戸川區地內 | 約　一、〇七〇、〇〇〇 |

別紙圖面表示ノ通(圖面省略)

備考　右地區ハ大東亞戰爭ニ鑑ミ大都市防衞强化ノ爲選定シタルモノトス

【防衞】

# 第五節　其ノ他

## ●防火地區建築補助規則

大正十三年八月二日
內務省令第十九號

改正　昭和二年第二二號、第四五號、四年第五號、五年第一一號、六年第二七號、七年第五號、一一年第三三號、一八年第五三號

**第一條**　東京都及神奈川縣ノ市街地建築物法適用地域內ニ於ケル大正十二年九月ノ震災ニ因リ火災ニ罹リタル地區ノ中甲種防火地區內ニ於テ市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ建物ノ新築又ハ增築ヲ爲ス建築主ニ對シ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ本令ニ依リ補助金ヲ交付ス

前項ノ火災ニ罹リタル地區トハ大正十二年內務省令第三十三號第一條ニ定ムル地區ヲ謂フ

**第二條**　補助金額ハ左ノ區分ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

一　建物(第三號ニ揭グル建物及建物ノ地階ノ部分ヲ除ク)ノ外壁、床及柱ヲ耐火構造トスルトキ

床面積一坪ニ付　金五拾圓以內

二　建物(第三號ニ揭グル建物及建物ノ地階ノ部分ヲ除ク)ノ外壁ヲ耐火構造トスルトキ

床面積一坪ニ付　金四拾圓以內

三　市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則第一條及第二條ニ揭グル建物並ニ特殊建築物規則第八條、第十一條、第十九條、第三十六條、第五十二條及第五十三條第一號、第二號、第六號ノ規定ヲ適用スル建物ノ部分ニ對シテハ前項第三號及第四號ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ床面積トハ建物各階ノ建築面積中床ヲ有スル部分(階段室、昇降機室等ニ付テハ床ヲ有スルモノト看做ス)ヲ謂フ但シ屋階ノ床面積ヲ除ク

二　揭グル建物(建物ノ地階ノ部分ヲ除ク)ニ對スル補助金額ハ左ノ區分ニ依ル

イ　特殊建築物規則第八條、第十一條及第十九條ニ揭グル建物
床面積一坪ニ付　金四拾圓以內

ロ　市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則第一條竝ニ特殊建築物規則第三十六條、第五十二條及第五十三條第一號、第六號ニ揭グル建物
床面積一坪ニ付　金貳拾圓以內

ハ　市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則第二條及特殊建築物規則第五十三條第二號ニ揭グル建物
建物ノ外壁、床及柱ヲ耐火構造トスルトキ
床面積一坪ニ付　金參拾圓以內
建物ノ外壁ヲ耐火構造トスルトキ
床面積一坪ニ付　金貳拾圓以內

四　建物ノ地階ノ外壁、床(直上階ノ床ヲ含ム)及柱ヲ耐火構造トスルトキ
床面積一坪ニ付　金貳拾圓以內

市街地建築物法第十四條ノ規定ニ依ル特殊建築物耐火構造規則第四條ノ規定ニ依リ同規則第一條及第二條ノ規定ヲ準用スル建物ノ部分竝ニ特殊建築物規則第一條ノ規定ニ依リ同規則第八條、第十一條、第十九條、第三十六條、第五十二條及第五十三條第一號、第二號、第六號ノ規定ヲ適用スル建物ノ部分ニ對シテハ前項第三號及第四號ノ規定ヲ準用ス

第一項ノ床面積トハ建物各階ノ建築面積中床ヲ有スル部分(階段室、昇降機室等ニ付テハ床ヲ有スルモノト看做ス)ヲ謂フ但シ屋階ノ床面積ヲ除ク

【防衞】

補助金額ノ算定ニ付テハ一ノ建物ノ床面積ニ一坪未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ

建物ノ構造特ニ簡易ナル部分ニ付テハ第一項ノ補助金額ヲ減ズルコトヲ得

**第二條ノ二**　一團ノ土地ニ付所有權又ハ借地權ヲ有スル者數人共同シテ其ノ土地ニ第一條ニ該當スル建物ノ建築ヲ爲ス場合ニ於テ土地ノ利用上著シク有利ト認メラルルトキハ前條ノ補助金額ヲ床面積一坪ニ付金二十五圓以內ニ於テ增加スルコトヲ得

復興建築助成株式會社カ前項ニ該當スル建物ノ建築ヲ爲サムトスル者ノ申込ヲ受ケ割賦販賣ノ方法ニ依リ之ニ賣却スル爲其ノ建築ヲ爲ス場合亦前項ニ同シ

**第三條**　市街地建築物法施行規則第四十三條ノ規定ヲ適用スル建物ノ床面積中床面カ地盤面上四寸五尺ヲ超ユルモノハ前條第一項ノ床面積ニ算入セス

**第四條**　都縣市區及學區ニ對シテハ補助金ヲ交付セス

**第四條ノ二**　特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理施行ノ爲移轉スルコトヲ要スル外壁耐火構造ノ建物ノ敷地ノ換地又ハ換地豫定地內ニ於テ第一條ニ該當スル建物ノ新築又ハ增築ヲ爲ストキハ補助金額ヲ減シ又ハ補助金ヲ交付セサルコトヲ得

**第四條ノ三**　建物ノ建築費ヲ負擔スル者ノ資產ノ狀況ニ依リ必要ナシト認メラルルトキハ補助金ヲ交付セス

建物ノ建築費ヲ負擔スル者ニ變更アリタル場合ニ於テ新ニ建築費ヲ負擔スル者ノ資產ノ狀況ニ依リ補助金交付ノ必要ナシト認メラルルトキハ補助金交付ノ認可ヲ取消スコトヲ得

**第四條ノ四**　補助金ノ交付アリタル後三年以內ニ建物ノ用途ヲ變更シ補助金ノ一部ヲ返納セシムルコトヲ得

前項ノ用途變更アリタルトキハ補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ其ノ旨ヲ內務大臣ニ屆出ツヘシ

**第五條**　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル日ヨリ六十日以內ニ別記樣式ニ依ル願書ヲ內務大臣ニ提出シ認可ヲ受クヘシ建物ノ設計又ハ用途ノ變更アリタルニ因リ補助金額ニ增減ヲ生スルトキ亦同シ

前項ノ願書ニハ市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル申請書ノ副本ヲ添付スヘシ

同一ノ建物ニ付建築主數人アル場合ニ於テハ代表者一人ヲ定メ其ノ正當ナルコトヲ證スル書面ヲ願書ト共ニ提出スヘシ

**第六條**　建築主ニ變更アリタルトキハ其ノ事實ノ生シタル日ヨリ二十日以內ニ內務大臣ニ補助金交付認可書ヲ提出シ其ノ名義變更ヲ請求スヘシ但シ其ノ變更カ補助金交付ノ認可前ナルトキハ內務大臣ニ補助金交付願ノ名義變更ヲ屆出ツヘシ

**第六條ノ二**　建物ノ建築費ヲ負擔スル者ニ變更アリタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ內務大臣ニ屆出ツヘシ

**第七條**　補助金交付ノ認可ヲ受ケタル者ハ建物使用認可證ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ內務大臣ニ補助金ヲ請求スヘシ

**第八條**　內務大臣前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ建物檢查ノ上補助金ヲ支拂フ

**第九條**　建物ノ新築又ハ增築ニ關スル地方長官ノ認可效力ヲ失ヒ又ハ取消サレタルトキハ補助金交付ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

**第十條**　市街地建築物法施行規則第百三十二條又ハ第百三十三條ノ規定ニ依リ甲種防火地區內ノ建物ニ關スル規定ヲ適用スル建物ニ付テハ本令ヲ準用ス



**第十一條**　本令ニ依リ內務大臣ニ提出スヘキ書類ハ東京都ニ於テハ東京都長官、神奈川縣ニ於テハ神奈川縣知事ヲ經由スヘシ

**附則**

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ神奈川縣ニ付テハ別ニ施行期日ヲ定ム

（大正十三年內務省令第二十號ヲ以テ大正十三年九月一日ヨリ神奈川縣ニ施行）

本令施行前市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル者本令ニ依ル補助金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ本令施行ノ日ヨリ六十日以內ニ第五條ノ規定ニ依ル願書ヲ提出スヘシ

本令施行ノ際又ハ防火地區變更ノ際第一條ノ甲種防火地區內ニ於テ新築又ハ增築工事中ノ建物ニ付テハ本令ヲ準用ス

**附則**（昭和六年內務省令第二十七號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行ノ日以後ニ於テ建物ノ用途ヲ變更スル場合ニ之ヲ適用ス

**附則**（昭和十一年內務省令第三十三號）

本令ハ本令施行ノ日以後ニ於テ建物ノ用途ヲ變更スル場合ニ之ヲ適用ス

本令ハ本令施行ノ日以後ニ於テ市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル建物ニ付之ヲ適用ス

（別記）

補助金交付願樣式

防火地區建築補助金交付願

防火地區建築補助規則ニ依リ補助金交付認可相成度左記書類添付及出願候也

【大正】年　月　日

住所

建築主　氏名㊞

內務大臣　殿

建物坪數計算

建築敷地ノ地名　市區　町　番地

| 階別 | 用途 | 構造 | 坪數（床面積）坪合 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 第一階 | | | | |
| 第二階 | | | | |
| 第三階 | | | | |
| 第四階 | | | | |
| 第五階 | | | | |
| 計 | | | | |

添附書類

一市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル申請書ノ副本

一第二條ノ二ニ該當スヘキ場合ニハ之ヲ證スル書類

一建築費ヲ負擔スル者ノ氏名及住所、建築費ヲ負擔スルモノ法人ナルトキハ最近ノ社員又ハ株主名簿

補助金額變更願樣式

防火地區建築補助金額變更願

【大正】年　月　日　號ヲ以テ補助金交付認可相受候處今般建物用途ノ設計ノ變更アリタルニ因リ補助金額變更ノ義認可相受度左記書類添付及出願候

也

【大正】年　月　日　　住所　　建築主　氏名㊞

内務大臣　殿

補助金額變更計算

建築敷地ノ地名　　市　區　町　番地

| 階別 | 用途 | 構造 | 坪數（床面積） | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 第一階 | 現在 | | 坪合 | |
| | 變更 | | | |
| 第二階 | 現在 | | | |
| | 變更 | | | |
| 第三階 | 現在 | | | |
| | 變更 | | | |
| 第四階 | 現在 | | | |
| | 變更 | | | |
| 第五階 | 現在 | | | |
| | 變更 | | | |
| 計 | 現在 | | | |
| | 變更 | | | |

添附書類

一　設計變更ニ關シ市街地建築物法施行規則第百四十三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル申請書ノ副本

## ●耐火木材取締規則

昭和十六年六月二十七日
内務省令第十九號

改正　昭和一八年第五三號、第七四號、第八二號

**第一條**　防空建築規則第三條ノ規定ニ依ル耐火木材ヲ製造セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ、輸入又ハ移入セントスル者ハ第一號及第二號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所所在地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）、商號及業務所所在地

二　製造所ノ名稱及所在地

三　注入セントスル耐火液ノ内容及調製法

四　製造方法及製造設備（製品檢査設備ヲ含ム）ノ概要竝ニ一年ノ製造能力

五　主任技術者ノ氏名及履歷

前項第三號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ内務大臣ニ届出ヅベシ

**第二條**　前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル耐火木材ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル耐火木材ニ付防空總本部防空研究所ノ檢定ヲ受クベシ



前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ別記第一號樣式ノ檢定申請書ヲ内務省防空研究所ニ提出スベシ

第一項ノ檢定ニ合格シタル耐火木材ニハ別記第二號樣式乃至第五號樣式ノ檢定證印ヲ附ス

**第三條**　檢定ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ木材一石ニ付金十二錢ヲ納付スベシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ檢定申請書ニ之ヲ貼附スベシ

既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ

**第四條**　第二條ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ木材ハ之ヲ耐火木材ト稱シ又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ用ヒテ販賣スルコトヲ得ズ

**第五條**　地方長官ハ當該吏員ヲシテ耐火木材ヲ製造、貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ耐火木材ヲ檢査セシムルコトヲ得

**第六條**　耐火木材ノ製造者、輸入者又ハ移入者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ内務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

**第七條**　第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第八條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條第二項又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者

二　第五條ノ規定ニ依ル巡視又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

**第九條**　第一條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

**第十條**　耐火木材ノ製造者、輸入者、移入者又ハ販賣者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

**第十一條**　本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

**第十二條**　本令ハ陸海軍ノ用ニ供スル耐火木材ニ付テハ之ヲ適用セズ

附則

本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令公布ノ際現ニ耐火木材ヲ製造スル者ハ本令施行後一月以内ニ第一條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ申請シタル者ニ付テハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄第二條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

本令施行ノ際現ニ存スル耐火木材又ハ第二項ノ規定ニ依リ第一條ノ許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄ニ製造シタル耐火木材ニ付テハ昭和十六年十二月三十一日迄第四條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

別記

第一號樣式

檢定申請書

一、耐火木材ノ品種別及材種別ノ數量

一、耐火木材ノ製造所ノ名稱及所在地

右ニ依リ耐火木材ノ檢定相受ケ度耐火木材取締規則第二條第一項ノ規定ニ依リ及申請候

年　月　日

業務所所在地

申請者　商號　氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱）　印

防空總本部防空研究所長宛

備考　輸入又ハ移入スル耐火木材ニ付テハ製造所ノ記載箇所ニ輸入先又ハ移入先ヲ記載スルコト

第二號標式

（外圓直徑六十粍）

第三號標式




（外圓直徑六十粍）

備考　檢定證印ハ黑色ヲ以テ表ハスコト

## ●屋內用防火塗料規格

昭和十七年六月
內務省告示第四百七十八號

**第一條**　本規格ハ防空建築規則第三條第二號ノ防火塗料ニ之ヲ適用ス

**第二條**　屋內用防火塗料ハ製品所定ノ仕樣書ニ從ヒ所定ノ厚ニ塗裝シタル左ノ氣乾供試體ニ付第三條乃至第五條ノ試驗ヲ各二回宛行ヒ其ノ各々ガ之ニ合格スルコトヲ要ス但シ塗膜厚ハ〇・七ミリメートルヲ超過セザルモノトス

一　厚一センチメートル、幅二センチメートル、長七十センチメートルノ杉心材ノ全面ニ塗裝セルモノ（第一號供試體）

第四號標式

（外圓直徑二十粍）

第五號標式

（外圓直徑二十粍）



二　厚〇・五センチメートル、幅十五センチメートル、長三十センチメートルノ杉心材ノ片面ニ塗裝セルモノ（第二號供試體）

**第三條**　第一號供試體ヲ攝氏五十度ニテ二十四時間乾燥シタル後第一號試驗裝置（形狀寸法ハ附圖第一ニ之ヲ示ス）ノ火管ノ中心ニ垂直ニ懸垂シ內徑十一ミリメートルノ「ブンゼンバーナー」ニテ下方ヨリ一分間加熱シ殘焰ノ全ク消滅シタル後ニ於ケル供試體ノ重量ノ減率ハ百分ノ四十以下トス

前項ノ試驗ニ於ケル加熱ハ火管ノ下端中心ニ於ケル溫度ヲ攝氏一千度、上端中心ニ於ケル溫度ヲ攝氏四百度ニ保ツモノトス

**第四條**　第二號供試體ヲ攝氏二十五度ノ淸水中ニ二十四時間浸漬シ直ニ攝氏五十度ニテ四十八時間乾燥シタル後ニ於テ塗膜ニ變化ヲ生ゼザルモノトス

**第五條**　前條ノ試驗ヲ爲シタル第二號供試體ヲ第二號試驗裝置（形狀寸法ハ附圖第二ニ之ヲ示ス）ノ上端ニ塗裝面ヲ下向ニシテ置キ內徑十一ミリメートルノ「ブンゼンバーナー」ニテ下方ヨリ加熱シタル場合加熱後二十秒以內ニ塗裝面ヨリ焰ヲ發生セザルモノトス

前項ノ試驗ニ於ケル加熱ハ裝置ノ上端中心ニ於ケル溫度ヲ攝氏八百度ニ保ツモノトス

**第六條**　製品所定ノ仕樣書ニ從ヒ幅二十五センチメートル、長五十センチメートルノ木板ノ下向面ニ塗裝シタル場合第二條ノ塗厚ヲ得ラルヽモノタルコトヲ要ス

**第七條**　容器ノ外面ニハ製品名、製造者名竝ニ所定ノ仕樣書及塗厚ヲ明記スルモノトス

（附圖省略）

## ●耐火木材規格

昭和十六年十二月二十二日
內務省告示第六百七十號

**第一條**　耐火木材ハ之ヲ甲種耐火木材及乙種耐火木材ノ二種トス

**第二條**　甲種耐火木材トハ左ノ各號ニ該當スル木材ヲ謂フ

一　材料ノ中心部ヨリ厚及幅各五ミリメートルノ棒狀ノ試料ヲ採リ攝氏七十度ニテ二十四時間乾燥シ其ノ端部ヲ「ブンゼンバーナー」ノ靑色還元焰ノ最頂部ニ十秒間挿入シ靜カニ取出シタル後ニ於テ之ニ焰ノ殘ヲザルコト

二　長三十センチメートルノ材料ヲ二十四時間攝氏二十五度ノ淸水中ニ浸漬セシメタル後長ノ中央部ニ於ケル表面ヨリ深五ミリメートル乃至十ミリメートルノ部分ガ前號ニ該當スルコト

三　五センチメートル角厚二センチメートルノ板狀ノ試料ヲ採リ同寸法ノ無處理試料ト共ニ攝氏五十度ニテ四十八時間乾燥シタル後二十四ミリメートル乃至三十ミリメートルノ鐵釘各五本ヲ垂直ニ頭部迄打込ミタルモノヲ淸水ヲ入レタル「デシケーター」中ニ鐵釘ノ頭部ヲ上ニシテ靜置シ攝氏六十度ニテ十日間放置シタル後鐵釘ヲ試料ヨリ取出シ五十パーセント苛性「ソーダ」溶液中ニテ十分間同一條件ノ下ニ煮沸シタル後鐵錆ヲ充分除去シ此ノ場合鐵釘ノ減量ガ無處理ノモノニ比シ同量以下タルコト

**第三條**　乙種耐火木材トハ左ノ各號ニ該當スル木材ヲ謂フ

一　前條第一號及第三號ニ該當スルコト

二　前條第二號ニ於テ浸漬時間ヲ八時間トナシタルモノニ該當スルコト

**第四條**　乙種耐火木材ニ別ニ防水處理ヲ施シタルモノニシテ第二條第二號



【防衞】

ニ該當スルモノハ之ヲ甲種耐火木材ト見做ス

## ●建築事務取扱規程

昭和十八年十月三十日
東京都訓令甲第百八十四號

防衛局　區役所
地方事務所　支廳

**第一條**　左ノ各號ノ法令ノ施行其ノ他建築ニ關スル區役所、地方事務所及支廳ノ事務取扱ニ付テハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

一　市街地建築物法
二　工作物築造統制規則
三　防空法施行規則（第一條、第三條及第四條）
四　鋼使用制限規則（第一條乃至第三條）
五　共同住宅建築規則
六　昇降機取締規則
七　水槽便所取締規則
八　屋上取締規則
九　建築代理士規則

**第二條**　前條各號ノ法令（以下法令ト稱ス）ニ依ル申請、届書ノ提出アリタルトキハ直ニ調査シ所定ノ事項ヲ具備セルモノハ之ヲ受理シ前條第一號乃至第三號ノ法令ニ依ル申請、届ニ在リテハ之ヲ別記第一號樣式ノ文書件名簿ニ登錄スベシ

前項ノ申請、届ニシテ二以上ノ區役所又ハ地方事務所ノ管轄區域ニ關係アル場合ハ關係區長又ハ事務所長協議ノ上受理スベキ區役所又ハ地方事務所ヲ決定スベシ

**第三條**　區長、地方事務所長及支廳長ハ左ノ各號ノ願用紙及書式ヲ備ヘ置キ請求者アリタルトキハ之ヲ交付シ又ハ閱覽セシムヘシ

一　工作物築造許可申請書（工作物築造統制規則第一號樣式）（公給）
二　建築申請、届書　前號ノ樣式ヲ併用ス（公給）
三　建築用物資需要申告書　前號ニ同ジ（公給）
四　防空法ニ依ル許可申請書　別記第二號樣式（公給）
五　建築線指定（變更、廢止）申請書　別記第三號樣式（公給）
六　甲號建築線明細圖（第六條ニ依ルモノ）　別記第四號樣式（公給）
七　乙號建築線明細圖（第七條ニ依ルモノ）　別記第五號樣式（公給）
八　工程届　別記第六號樣式
九　竣功届　別記第七號樣式
十　申請、届事項變更届　別記第八號樣式
十一　建築敷地分割變更届　別記第九號樣式
十二　建築線査定申請書　別記第十號樣式

**第四條**　申請ニ依ル建築線ノ指定（變更、廢止ヲ含ム）アリタルトキハ其ノ都度防衛局ニ於テ指定圖ヲ作成シ關係區役所、地方事務所ニ送付スベキヲ以テ區長及地方事務所長ハ之ヲ編綴シ索引ヲ附シ甲號建築線臺帳トシテ保存スベシ

第七條ニ依リ提出セシメタル建築線明細圖ニ基キ區役所、地方事務所ニ於テ當該建築線ノ位置ヲ定メタルトキハ明細圖ヲ編綴シ索引ヲ附シ乙號建築線臺帳トシテ保存スベシ

指定建築線又ハ道路ノ變更、廢止ニ依リ前二項ノ建築線ニ異動ヲ生ジタ

【防衛】

ルトキハ臺帳ニ其ノ旨記載シ整理スベシ

第一項及第二項ノ建築線臺帳ハ關係者ノ請求アリタルトキハ之ヲ閱覽セシムベシ

**第五條**　區長、地方事務所長又ハ支廳長ハ共同住宅建築規則第八條ノ設置届アリタルトキハ之ヲ編綴シ索引ヲ附シ共同住宅臺帳トシテ保存スベシ

共同住宅ノ變更又ハ廢罷アリタルトキハ其ノ旨臺帳ニ記載シ整理スベシ

**第六條**　市街地建築物法施行細則第十條第二項ノ承諾書及圖面ハ別記第四號樣式ニ據ラシムベシ

**第七條**　建築申請、届ニシテ市街地建築物法施行細則第九條ノ道路ニ關係アル場合ハ別記第五號樣式ノ建築線明細圖ヲ提出セシムベシ

**第八條**　建築申請、届ニ關シ指定建築線ノ位置ヲ明確ナラシムル爲現場ニ付査定ヲ爲スヲ必要トスル場合ハ建築主ヲシテ別記第十號樣式ノ建築線査定申請書ヲ當該區役所、地方事務所ヲ經由提出セシムベシ

**第九條**　建築申請、届書又ハ築造申請書ハ其ノ副本トシテ建築用物資配給統制要綱ニ依ル物資指定見込通知書又ハ手持物資査定書ヲ添附セシムベシ但シ軍需、生産擴充産業其ノ他行政官廳又ハ統制團體等ヨリ建築用資材ノ割當ヲ受クルモノハ此ノ限ニ在ラズ

**第十條**　建築申請、届又ハ築造申請ニシテ其ノ建築又ハ築造ニ關シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當該法令ニ依ル許可又ハ認可ヲ證スベキ書類ヲ提出セシムベシ但シ當該法令ニ依ル申請事項ヲ建築申請書又ハ築造申請書ニ併記出願スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　企業許可令ニ依ル許可ヲ要スルモノ
二　臨時農地等管理令ニ依ル許可ヲ要スルモノ
三　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ付臨時資金調整法ニ依ル許可ヲ要スルモノ
四　機械設備ニ關シ機械設備制限規則ニ依ル許ヲ要スルモノ

**第十一條**　法令ニ依ル申請、届書ノ經由進達ヲ爲ス場合ハ申請、届書（正本）ノ餘白適宜ノ箇所ニ別記第十一號樣式ノ進達印ヲ捺押シ年月日ヲ記載シ進達スベシ

**第十二條**　申請ニ依ル建築物（區長、地方事務所長限リ處理スルモノヲ除ク）又ハ工作物ノ工事ニ付竣工届出アリタルトキハ之ヲ申請書正本ニ添附シ（電話又ハ口頭届出ノ場合ハ第十三條第二項ニ依ル）進達スベシ

**第十三條**　法令ニ依ル竣工届、工程届ハ主務大臣ニ届出ヲ要スル場合ヲ除クノ外電話又ハ口頭ヲ以テ爲サシムルコトヲ得但シ竣工届ニシテ使用認可ヲ要スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

區長、地方事務所長又ハ支廳長ハ前項ノ届出ニ關シ別記第十二號樣式ノ受理簿ヲ備ヘ置キ届出ノ都度記載シ且建築申請、届書又ハ築造申請書正本ノ餘白ノ賭易キ箇所ニ其ノ旨附記スベシ

**第十四條**　市街地建築物法施行細則第三十六條第二項但書ニ依リ起工期日ヲ延期セシムル必要アル場合ハ豫メ届出人ニ其ノ旨通告シ請書ヲ徵シ置クベシ

**第十五條**　法令ニ依ル申請ニ對シ主務大臣又ハ都長官ノ許可又ハ認可アリタルトキハ許可、認可指令書（副本ニ依ルモノヲ含ム）ヲ關係申請書類ト共ニ當該區役所、地方事務所又ハ支廳ニ送付スベキヲ以テ區長、地方事務所長又ハ支廳長ハ指令書（副本ニ依ルモノヲ含ム）ヲ申請者ニ交付シ申請書正本ハ當該建築物又ハ工作物ノ竣工ニ至ル迄之ヲ保管シ取締ニ便スベシ

**第十六條**　區長、地方事務所長又ハ支廳長ハ建築物又ハ工作物ノ工事ニ付

【防衛】

其ノ竣工ニ亘ル迄係員ヲシテ隨時檢査ヲ行ハシメ其ノ要領ヲ申請、屆書（正本）ノ該當欄ニ記載セシメ置クベシ

**第十七條**　法令ニ依ル申請、屆ニ付許可、認可又ハ調査濟證ノ發行アリタルトキハ別記第十三號樣式ノ指令下付證印簿ニ登錄シ遽ニ交付ノ取扱ヲ爲スベシ

**第十八條**　法令ニ依ル申請、屆ノ處理ニ關シ稟議ヲ爲ス場合ハ別記第十四號樣式ノ稟議書ニ其ノ要領ヲ簡明ニ記載シ關係申請、屆書ニ添附シ提出スベシ

**第十九條**　法令ニ依ル申請、屆ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ稟議ノ上處理スベシ

一　市街地建築物法施行令第二十九條ヲ適用セントスルモノ但シ足代、繩梯其ノ他輕易ナルモノハ此ノ限ニ在ラズ

二　市街地建築物法施行細則第九條本文ノ適用ニ付疑義アルモノ

三　同一計畫ニ基ク集團住宅ヲ建築セントスルモノ

四　建築物ノ附屬設備タル便房、冷房、換氣、發變電、避雷、給排水設備等ノ新設、增設又ハ變更ヲ爲サントスルモノ

五　其ノ他法令ノ適用ニ付疑義アルモノ又ハ重要、異例ニ屬スルモノ

**第二十條**　第十一條ノ通達書類ニシテ他ノ法令ニ依ル許可、認可ニ關シ區長、支廳長ノ權限ニ屬スル事項又ハ地方事務所長ノ代決處理ニ屬スル事項ヲ含ムモノニ在リテハ其ノ事項ニ對スル許否ノ意見ヲ副申スベシ

**第二十一條**　市街地建築物法施行細則第五十三條第四號ニ依ル承認ハ左ノ各號ノ事項ニ付調査ヲ爲シ且必要アル場合ハ所轄警察署ト協議ヲ遂ゲ支障ナシト認ムルモノニ限リ之ヲ爲スベシ

一　夜間作業ヲ爲サザルベカラザル事由

二　附近ノ安寧ヲ甚ダシク妨害スルモノニ非ザルコト

三　危害ヲ防止スルニ足ルベキ照明其ノ他ノ設備ヲ有スルコト

**第二十二條**　市街地建築物法施行細則第五十五條第二項ニ依ル承認ヲ爲ス場合ハ所轄警察署ト協議ノ上處理スベシ

**第二十三條**　法令ニ違反セル建築物又ハ工作物ノ措置ニ關シテハ違反ノ事實輕微ニシテ單ニ戒告ヲ與フルニ止ムルモノヲ除キ稟議ノ上處理スベシ

**第二十四條**　法令ニ違反セル者ニシテ違反ノ事實重大ナルモノ又ハ惡質ナルモノニ付司法處分ニ附スルノ要アリト認メタルトキハ遽ニ報告スベシ

**第二十五條**　區長、地方事務所長又ハ支廳長ハ建築物、工作物又ハ其ノ工事ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノアリタルトキハ直ニ其ノ概要ヲ報告スベシ

一　火災ヲ起シ又ハ火災ニ罹リタルトキ

二　水害ニ罹リタルトキ

三　地震又ハ暴風ノ爲著シク損壞シタルトキ

四　戰災ニ依ル被害アリタルトキ

五　其ノ他重大ナル事故ヲ生ズル虞アルトキ

前項各號ノ事項ニ付應急措置ノ要アリト認ムルトキハ所轄警察署ト連絡協調ヲ遂ゲ遽ニ必要ナル措置ヲ講ジ其ノ旨併セテ報告スベシ

**第二十六條**　區長、地方事務所長又ハ支廳長ハ建築物、工作物又ハ其ノ工事ニ關シ重大ナル社會的紛議ヲ生ズル虞アルトキハ遲滯ナク其ノ旨報告スベシ

**第二十七條**　區長、地方事務所長及支廳長ハ每月十日迄ニ前月中ノ事務成績ヲ別記第二十五樣式ニ依リ報告スベシ

**第二十八條**　區長、地方事務所長ハ其ノ專管ニ屬スル建築認可、屆濟建築物ノ工事竣工シタルモノニ付別記第十六號樣式ノ統計小票ヲ作成シ翌月十日迄ニ前月分ヲ取纏メ報告スベシ

【防衞】

**第二十九條**　區長、地方事務所長ハ工作物築造統制規則ニ依リ許可ヲ受ケタル工作物ノ工事ニ著手シタルモノニ付別記第十七號樣式ニ依ル調査票ヲ作成シ翌月十日迄ニ前月分ヲ取纏メ報告スベシ

附　則

昭和七年六月警視廳訓令甲第四十四號市街地建築物法令執行心得ハ之ヲ廢止ス

（別記）

第一號樣式　文書件名簿

| 了日結月 | | 工出日月號局年 | | 要摘 | 又濟書號可查日認調月許ハ年 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

第二號樣式　建築關係

| 工定月竣豫年 | | 物建延 | 積面坪 | 地敷 | 積面坪 | 階數 | | 要旨 | 用途 | 構造 | 地名號敷地番 | 主名造築氏 | 申請、屆 | 號番 | 日月 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事工費 | | 建延 | 坪坪 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 建延 | 坪坪 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 建延 | 坪坪 | | | | | | | | | | | | | |

【防衞】

第二號樣式

本（正カ副カ）

防空法施行規則第　條ニ依ル申請

昭和　年　月　日

東京都長官殿

| | |
|---|---|
| 命令事項 | ※ |
| 敷地ノ地名地番號 | |
| 建築物ノ名稱又ハ工場名 | |
| 建築物主要用途又ハ事業種別 | 工事ノ要旨 |
| 申請者ノ住所氏名 | 印　電話（　）番 |
| 代理人ノ住所氏名 | 印　電話（　）番 |
| 地域、地區 | |
| 防空空地帶又ハ空地地帶ノ名稱、種別 | |
| 都市計畫關係（道路、公園、廣場、綠地、河川等） | |
| 四隣道路及建築線ノ關係 | |
| 附近ノ重要建築物、土地ノ高低等 | |

建築課受付印

區、地方事務所受付印

【防衞】

※印ハ記入セザルコト

1號用紙





注意

一　本用紙ハ防空法施行規則第一條ニ依ル申請ニ使用スルモノトス

二　保存物品ノ名稱、數量ノ單位ハ別表ニ掲グルモノヲ使用スルコト

三　保有物品數量ノ第一數量及第二數量トノ比ハ小數ヲ用フルコト[0.06:2.15]ノ類

四　其ノ他必要ナル事項アル場合ハ適宜別紙ニ記載スルコト

| 敷地番號 | | 防空法施行規則第一條第一項ニ該當スル第一種建築物（既存建築物ヲモ記入スルコト） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 棟別番號 | 工事ノ要旨 | 用途 | 建築面積 | 保有物品ノ種類 | 保有物品最大數量 | 第一數量ノ第二數量トノ比 |
| | | | 平方米 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| | | | 〃 | | | |
| 保有物品合計數量ノ第二數量トノ比 | | 合計 | 〃 | | | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 敷地面積 | 敷地内ノ棟數 | 敷地内建築面積合計 | 敷地内床面積ノ合計 | 建築面積ノ敷地ニ對スル百分比 | 床面積ノ敷地ニ對スル百分比 |
| 平方米 | | 平方米 | 平方米 | % | % |

| | |
|---|---|
| 敷地所有者及使用者ノ住所氏名 | |
| 敷地權利者住所氏名 | |
| 起工及竣工豫定期日 | 昭和　年　月　日起工ヨリ　日後起工シ　日間ニ竣工 |
| 所要資金　土地 | 圓 |
| 建築物 | 圓 |
| 設備 | 圓 |
| 合計 | 圓 |
| 防空法關係許可及許可ノ年月日及番號 | |
| 他ノ法令ニ依ル許可認可ハ申請ノ年月日及番號 | |
| 建築ニ關スル事由 | |

添附圖面　葉

2號用紙1（危險物關係）

【防衞】

| 敷地番號 | | 工場規制區域指定當時 | 現在 | 本願ニ依ル用途變更及移轉增減 | 差引合計 | 棟數 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 敷地面積 | | 平方米 | 平方米 | 平方米 | 平方米 | ／ |
| 總建築面積 | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 棟 |
| 總床面積 | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 用途別建築面積 | 業作場 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 事務所 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 倉庫 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 教育施設 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 厚生施設 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | 其ノ他 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 馬力數 | 電動機 | 馬力 | 馬力 | 馬力 | 馬力 | 建築面積ニ百分ノ對スル敷地面積比 |
| | 內燃機關 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| | 蒸氣機關 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | |
| | 計 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | % |
| 從業員數 | 男 | 人 | 人 | 人 | 人 | 床面積ニ百分ノ對スル敷地面積比 |
| | 女 | 人 | 人 | 人 | 人 | |
| ※工場規制區域指定當時ニ於ケル敷地ニ對スル百分比 | | 敷地面積 | 建築面積 | 床面積 | 馬力數 | |
| | | % | % | % | % | % |
| 敷地所有者及使用權者ノ住所氏名 | | | | | | |
| 敷地ヲ擴張シタルモノハ其ノ年月日及其ノ事由 | | | | | | |
| 起工及竣工豫定期日 | | 昭和　年　月　日起工　日間ニ竣工 | | 昭和　年　月　日竣工　日後ニ起工シ許可ノ日ヨリ | | |
| 所要資金 | 土地 | 圓 | | 關可及號 | | |
| | 建物 | 圓 | | 法許日 | | |
| | 設備 | 圓 | | 空ノ月 | | |
| | 合計 | 圓 | | 防係年 | | |
| 他ノ法令ニ依ル許可認可申請ノ狀況 | | | | | | |
| 建築セントスル事由 | | | | | | |

注意

一　本用紙ハ防空法施行規則第三條ニ依ル申請ニ使用スルモノトス

二　敷地二以上アルトキハ敷地面積、建築面積、床面積、馬力數、從業員數ニ關シ上表ニ準ジ各敷地毎ニ番號ヲ附シ別紙トシテ記載添附スルコト

三　事業ノ內容ヲ知ルニ足ル事項其ノ他必要ト認ムル事項ハ適宜別紙ニ記載添附スルコト

添附圖面　業

2號用紙ノ2（工場規制）





| 敷地番號 | | 防空地指定當時 | 現在 | 本願ニ依ル用途變更、移轉增減 | 差引計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 敷地面積 | | 平方米 | 平方米 | 平方米 | 平方米 |
| 總建築面積 | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 總床面積 | | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 棟數 | | | | | |
| 敷地面積ノ建築面積ニ對スル百分比 | | % | % | % | % |
| 建築面積ノ敷地面積ニ對スル百分比 | | % | % | % | % |
| ※防空地指定當時ニ於ケル合計ノ增減ニ對スル百分比 | | 敷地面積 | 建築面積 | 床面積 | |
| | | % | % | % | |
| 敷地ハ又ハ使用權者ノ住所氏名 | | | | | |
| 敷地擴張アルトキハ其ノ年月日及事由 | | | | | |
| 起工及竣工豫定期日 | | 昭和　年　月　日起工　日間ニ竣工 | | 昭和　年　月　日竣工　日後ニ起工シ許可ノ日ヨリ | |
| 所要資金 | 土地 | 圓 | | 關可及號 | |
| | 建物 | 圓 | | 法許日 | |
| | 設備 | 圓 | | 空ノ月 | |
| | 合計 | 圓 | | 防係年番 | |
| 他ノ法令ニ依ル許可認可申請ノ狀況 | | | | | |
| 空地ノ利用計畫 | | | | | |
| 建築セントスル事由 | | | | | |
| 備考 | | | | | |

【防衛】

（テリトコトスル入記ニ在リ申請ルニ依ル第三條建築物ヲ既存モノニ規則施行セル法空防接隣ハ防）要概ノ物築建ルニ係ル申請ニ

| 番棟 | 別號 | 工要 | 事旨 | 途用 | 造構 | 及高軒高 | 數階 | 及積面建築床面 | 數力馬 | 數築建 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 外壁 | 高 米 | | 建面 米 | | 個 |
| | | | | | 屋根 | 軒高 米 | | 床面 米 | 馬力 | |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | | | | 〃 | 〃 〃 | | 〃 | 〃 | 〃 |

備考

注意　一　建築物番號ハ配置圖ニ於ケルモノト同一番號ヲ附スルコト

二　防空法施行規則第一條ニ依ル申請建築物ニ在リテハ其ノ仕樣ノ大要及保有スル物品ノ製造貯藏又ハ處理ニ關スル設備及作業ノ概要ヲ備考欄又ハ適宜別紙ニ記載添附スルコト

〔防衞〕





第三號樣式　建築線指定申請書

本申請書ハ正副二通提出ノコト
副本ハ調査濟ノ上本人ニ交付ス
建築線ノ指定アリタルトキハ施行細則第十二條ニ依リ其ノ位置ヲ標示スルコト
所定欄內ニ所要事項ノ全部ヲ記入シ難キトキハ適宜別紙ヲ用ヒ所定欄ニ其ノ旨附記スルコト

本（正本カ副本カ）

建築線申請（指定カ、變更カ、廢止カ）

| | |
|---|---|
| 關係土地ノ地名番號 | |
| 申請ノ理由 | |
| 右關係圖書相添ヘ、及申請候也 | |
| 申請者ノ住所氏名 | 番地 |
| 代理人アルトキハ其ノ住所氏名 | 番地 |
| 申請年月日 | 年　月　日 |
| 東京都長官　殿 | |

| | |
|---|---|
| 建築課受付印 | |
| 所轄支廳印及進達年月日 | 年　月　日進達 |
| 所轄支廳受付印 | |

印　電話　番

印　電話　番

〔防衞〕

第四號樣式　甲號建築線明細圖

第　號

注意

一、建築線ノ幅及長ノ單位ハ「メートル」（小數點以下二位迄）ヲ用フルコト

二、圖中ニ地名番號、土地所有者及土地使用權者氏名（管理者アル場合ハ其ノ住所氏名）ヲ記入スルコト

| 帳臺線築建號甲 | |
|---|---|
| 告示年月日 | 年　月　日 |
| 告示番號 | 第　號 |
| 建築番號 | 第　號 |
| 調査濟年月日 | 年　月　日 |
| 調査濟番號 | 第　號 |

承諾書

本圖面ノ通建築線指定ノ儀承諾候也

年　月　日

東京都長官　殿

| 申請人住所氏名 | 住所 | 氏名　印 |
|---|---|---|
| 土地所有者、管理者、使用權者ノ別 | 住所 | 氏名　印 |
| 土地所有者、管理者、使用權者ノ別 | 住所 | 氏名　印 |

凡例

| | |
|---|---|
| 線築建請申止廢 | |
| 線築建請申指定 | |
| 線築建定豫 | |
| 線築建濟定指 | |
| 線路道計畫市都 | |
| 路道存既 | |
| 界村町 | |
| 界郡 | |
| 界字 | |
| 界大字 | |
| 地番敷 | |
| 界物築建定豫 | |
| 物築建存既 | |
| 水 | |
| 塀 | |
| 位下方 | |

【防衛】



第五號樣式　乙號建築線明細圖

第　號

帳臺線築建號乙

（ノモルル依ニ條九第則細）

| 建築敷地ノ地名番號 | | |
|---|---|---|
| 申請屆者住所氏名 | | |
| 公私道路ノ別竝道路副員 | 道路副員 | 尺 |
| 申請（主管別）屆年月日番號 | 第　號 | |
| 作製年月日 | 年　月　日 | |
| 調査員氏名 | | |

注意ノ上製作面圖

一、建築線ヲ記入ス可キ範圍ハ當該建築敷地竝對側ノ土地ニ接スル部分トス

二、圖中ニ地名番號、土地所有者及土地使用權者ノ住所氏名ヲ記入スベシ

三、建築線ニ面スル部分ニ在ル建物、塀、下水溝、標示杭等ト建築線トノ距離ヲ明記スベシ

四、縮尺ハ成ル可ク百分ノ一又ハ二百分ノ一トスベシ

五、本圖ノ外附近ノ道路系統見取圖ヲ添フベシ

第六號樣式

工程屆

一、建築許可（認可）年月日及番號
又ハ建築屆出年月日及調査濟番號

一、敷地ノ地名番號

一、敷地內建築物ノ主要用途

一、構造種別

一、工程

右工程及御屆候也

昭和　年　月　日

建築主　住所

氏名　印

東京都長官　殿

第七號樣式

竣工屆

凡例

| | |
|---|---|
| 線界物築建 | |
| 線界境路道 | |
| 界番築建 | |
| 物築建存既 | |
| 塀下 | |
| 水位 | |
| 方 | |

【防衛】

一　建築（築造）許可（認可）年月日及番號
　　又ハ建築届出年月日及調査濟番號
一　敷地ノ地名番號
一　申請、届ノ要旨
一　敷地内ノ建築物ノ主要用途
右竣工ニ付及御届候也
　昭和　年　月　日
　　建築主　住所　氏名　印
　東京都長官　殿

第八號樣式

建築申請（届）事項變更届

一　建築許可（認可）年月日及番號
　　又ハ建築届出年月日及調査濟番號
一　敷地ノ地名番號
一　變更アリタル事項　變更前　變更後
右及御届候也
　昭和　年　月　日
　　建築主　住所

第十號樣式



東京都長官　殿

第九號樣式

建築敷地分割（變更）届
（市街地建築物法施行細則第四十六條ノ二ニ依ルモノ）

一　建築許可、認可年月日番號
　　又ハ建築届出年月日及調査濟番號
一　敷地ノ地名番號
一　敷地地所有者及使用權者住所氏名
一　敷地内ノ建築物ノ主タル用途
一　分割（變更）モントスル事由
一　敷地面積　變更前　建築物ノ合計床面積　變更後
一　空地地區ノ種別
右敷地分割（變更）ニ付別紙圖面相添及御届候也
　昭和　年　月　日
　　届出人　住所　氏名　印
東京都長官　殿

〔訪簿〕

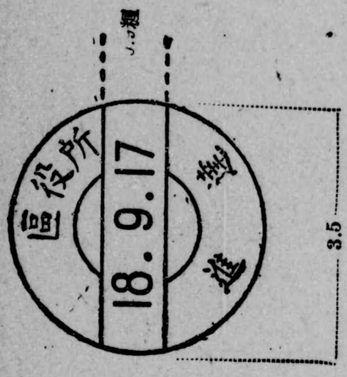


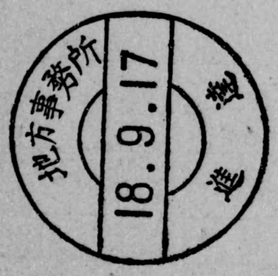
| | | |

| 見取圖 | 主定經過報告 |
| --- | --- |
| | |
| | 立會者 |
| | 區 |



第十一號樣式






第十二號樣式

電話、口頭届受理簿

| 受理月日 | 要旨 | 住所 | 氏名 | 取扱者 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 日 | | | | |
| 月 日 | | | | |
| 月 日 | | | | |
| 月 日 | | | | |

第十三號樣式

指令下付證印簿

| 月日 | 指令番號 | 件名 | 住所 | 氏名 | 交付月日 | 認印 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 日 | | | | | | |
| 月 日 | | | | | | |
| 月 日 | | | | | | |
| 月 日 | | | | | | |

第十四號樣式

| 第　號 | 昭和　年　月　日 | | |
|---|---|---|---|
| 稟 | 區長（地方事務所長）防衛課長（土木課長）建築係長　取扱者 | | |
| | ニ關スル件 | 建築主氏名 | |
| | | 敷地地名番號 | |

| 議 | 要旨 | |
|---|---|---|
| | 防衛局長殿　區地方事務所長 | |

| 答 | 第　號 | |
|---|---|---|
| | 防衛局長　建築課長　技師　主任 | |

| 回 | 旨要 | |
|---|---|---|
| | 區地方事務所長殿　防衛局長 | |

稟議要旨ノ記載詳細ニ亘ル場合ハ裏面ヲ使用スルコト

| 稟議要旨 | 圖面 |
|---|---|
| | |

措置案





第十五號樣式

年　月　日

防衛局長殿

區地方事務所長

事務成績報告

| 種別 | 取扱件數 前月分未決 | 取扱件數 受理 | 取扱件數 處理件數 區又ハ地方事務所處理 | 取扱件數 處理件數 本廳進達 | 未決件數 |
|---|---|---|---|---|---|
| 築造申請 | | | | | |
| 同竣工届 | | | | | |
| 建築申請 | | | | | |
| 同竣工届 | | | | | |
| 建築届 | | | | | |
| 同竣工届 | | | | | |
| 工程届 | | | | | |
| 其ノ他ノ申請、届 | | | | | |
| 合計 | | | | | |

一　併願ニ係ルモノハ一件トシテ主タル申請（築造申請ニ併願セルモノハ當該欄ニノミ計上スルノ類）ニ計上スルコト

二　區、地方事務所處理ノ欄ニハ區長委任條項又ハ地方事務所長代決規程ニ基キ處理シタルモノヲ計上スルコト

三　設計變更ニ關スル申請ハ新ニ一件トシテ計上スルコト

四　廢屋届、取下願其ノ他ノ届書類及市街地建築物法、工作物築造統制規則以外ノ法令ニ依ルモノハ「其ノ他ノ申請、届」ノ欄ニ一括計上スルコト

第十六號樣式

| 區、地方事務所名 | | 備考 | |
|---|---|---|---|
| 用途 | | 要旨 申請 | |
| 構造 | | 階數 | |
| 建面 | | 延面 | |

# ●建築代理士規則

昭和十八年六月十五日　勅令第八百五號

第一條　本令ニ於テ建築代理士ト稱スルハ他人ノ委任ヲ受ケ官公署ニ對シ建築ニ關スル願届ヲ爲スヲ業務トスル者ヲ謂フ

建築設計業者、建築請負業者又ハ建築業者ヲシテ其ノ業務ニ關シ官公署ニ對シ前項ノ願届ヲ爲サシムル者ハ之ヲ建築代理士ト看做ス

第二條　本令ニ於テ所轄廳舍ト稱スルハ事務所所在地所轄廳舍ヲ謂フ

第三條　本令ニ依リ廳舍ニ提出スル願届ハ所轄廳舍ヲ經由スベシ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當シ廳舍ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ第一條ノ業務ヲ爲スコトヲ得ズ

一　建築代理士試驗ニ合格シタル者

二　專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於テ建築ニ關スル學科ヲ專攻シ卒業シタル者

三　法人ニシテ前二號ノ一ノ資格ヲ有スル者ヲシテ建築代理士ノ業務ヲ代理（以下單ニ業務代理者ト稱ス）セシムル者ヲシ業務代理者トスル者

第五條　建築代理士タラントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ廳舍ニ願出デ許可ヲ受クベシ

一　本籍、住所、氏名、生年月日（法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所所在地、代表者ノ氏名及定款ノ寫）

二　事務所所在地名番地（從タル事務所ヲ有スル者ハ從タル事務所ノ所在地名番地）

三　名稱



四　業務ニ關スル他ノ職業ヲ有スル者ハ其ノ職業

五　第四條ノ資格ヲ證スベキ書類ノ寫（法人ニ在リテハ業務代理者ニ關スルモノ）

六　戸籍抄本

七　履歷書

從タル事務所ヲ開設セントスルトキハ前項第一號乃至第四號ノ事項ノ外左ノ事項ヲ具シ廳舍ノ認可ヲ受クベシ

第六條　建築代理士試驗ヲ受ケントスル者ハ本籍、住所、氏名、生年月日及履歷ヲ具シ廳舍ニ願出ヅベシ

前項ノ試驗ニ合格シタル者ニ對シテハ別記第一號樣式ニ依ル合格證ヲ附與ス

第七條　建築代理士試驗ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

一　建築法規

二　建築技術

三　建築手續

四　其ノ他建築上必要ナル事項

第八條　建築代理士試驗ハ每年五月及十月ニ之ヲ行ヒ其ノ施行ノ日時、場所、其ノ他受驗ニ必要ナル事項ハ試驗期日三十日前ニ之ヲ告示ス

第九條　建築代理士補助員ヲ置カントスルトキハ其ノ本籍、住所、氏名、生年月日及履歷ヲ具シ廳舍ニ願出デ認可ヲ受クベシ

補助員ノ住所、氏名ニ變更アリタルトキハ七日以內ニ廳舍ニ屆出ヅベシ

補助員死亡シタルトキ亦同ジ

第十條　建築代理士ハ補助員名簿ヲ備ヘ補助員ノ本籍、住所、氏名、生年月日及履歷ヲ記載シ廳舍ノ認可ヲ受ケタル每ニ整理スベシ

第十一條　建築代理士ハ組合規約ニ定ムル料金ノ外其ノ業務ニ關シ報酬ヲ





水戸川

別紙第十六號

秘

## 工作物調査票

| | | | |
|---|---|---|---|
| 區役所<br>地方事務所 | 第　號 | 3 工作物所在地 | |
| 1 第2條、第3條 | 許可年月日 | 4 築造主氏名 | |
| 2 豫定工事期間 | ケ月 | | |

| 5 工事種別 | | | 6 構造種別 | | 7 工作物ノ屬スル事業又ハ施設ノ種類 | 11 指定資材量 | 別表記載ノ分類ヲ參照ノ上當該所要資材ヲ記入スルコト | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 土木 | 建築 | 配管 | 鐵骨鐵筋コンクリート造 | | 別表記載事項ヲ參照ノ上記入スルコト | 資材名 | 資材入手別 | 數量 |
| 新築 | | 築 | 鐵筋コンクリート造（外壁ノミ鐵筋コンクリート造ノモノヲ含ム） | | | | | |
| 增築 | | 築 | | | | | | |
| 改築 | | 築 | | | | | | |
| 移轉 | | 轉 | 鐵骨造（外壁鐵筋コンクリート造ニ非ラザルモノ） | | 8 工作物用途 | | | |
| 修繕 | | 繕 | | | | | | |
| 變更 | | 更 | 鐵造 | | 別表記載事項ヲ參照ノ上其ノ主タル用途ニ付記入スルコト | | | |
| 9 建物床面積 | | | 木造 | 煉瓦造 | | | | |
| 平方米 | | | 石造 | コンクリート造 | | | | |
| 10 工事費 | | | 土藏造 | 木骨煉瓦造 | | | | |
| 圓 | | | 木骨石造 | 其ノ他 | | | | |

◎本表ニ記入スル數字ハ1、2、3ノ如キアラビヤ數字ヲ用フルコト

◎一工作物每ニ本調査票一枚ヲ作成スルコト

◎5工事種別及6構造種別ノ該當事項ニ○印ヲ附スルモノトス

受クルコトヲ得ズ

**第十二條**　建築代理士ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ五日以内ニ書類總監ニ届出ヅベシ

一　第五條第一號乃至第四號ノ事項ニ異動ヲ生ジタルトキ

二　事務所ヲ移轉シタルトキ

三　廢業シタルトキ

**第十三條**　建築代理所在不明ト爲リ又ハ死亡シタルトキハ其ノ戸主又ハ同居ノ家族ヨリ前項ノ届出ヲ爲スベシ

**第十四條**　建築代理士ハ其ノ事務所ニ別記第二號樣式ニ依リ帳簿ヲ備ヘ顧屬ノ受託及處理ノ都度之ヲ整理スベシ

**第十五條**　建築代理士、業務代理者及補助員ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　顧屬事務ハ委任ノ本旨ニ從ヒ敏速ニ處理シ特殊ノ事情ニ依リ遲滯スル場合ハ其ノ旨委任者ニ通知スルコト

二　書類ヲ作成スルニ當リテハ現場ニ付實査シ其ノ他必要ナル事項ヲ調査スルコト

三　顧屬書類ノ提出後其ノ内容ニ變更ヲ生ジタル場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ要旨ヲ委任者ニ通知スルコト

四　委任ニ依リ認許可證又ハ調査濟證ヲ受取リタル場合ニ於テハ之ヲ速ニ委任者ニ送付スルコト

**第十六條**　建築代理士ハ其ノ業務ニ關シ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ズ

**第十七條**　補助員就業上不適當ト認メタルトキハ縣視總監ニ於テ其ノ認可ヲ取消スコトアルベシ

**第十八條**　建築代理士ハ建築代理士組合ヲ設クベシ第五條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ハ前項ノ組合ニ加入スベシ

**第十九條**　前條ニ依リ組合ヲ設ケタルトキハ左ノ事項ニ付組合規約ヲ定メ縣視總監ニ届出デ認可ヲ受クベシ

組合代表者ハ遲滯ナク役員及組合員ノ住所氏名ヲ具シ組合規約ヲ添ヘ縣組合規約ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

一　名稱、區域及事務所所在地

二　目的及事業

三　役員ノ選任方法、任期及權限

四　會議竝ニ經費ノ收支ニ關スル事項

五　顧屬料金其ノ他必要ナル事項

役員ノ改選竝ニ組合員ニ異動アリタルトキハ組合代表者ヨリ五日以内ニ縣視總監ニ届出ヅベシ

**第二十條**　縣視總監必要アリト認ムルトキハ組合ノ解散、役員ノ改選、規約ノ變更其ノ他ノ事項ヲ命ズルコトアルベシ

**第二十一條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第五條、第九條乃至第十五條、第十八條第二項及第十九條ノ規定ニ違反シタル者

二　帳簿ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

**第二十二條**　建築代理士其ノ同居ノ戸主、家族、業務代理者、雇人及補助員ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザル故ヲ以テ處罰ヲ免ガルルコトヲ得ズ





**第二十三條**　本令ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

**附　則**

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年八月警視廳令第二十七號建築代願人規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ建築代願人タル者ニシテ本令施行後仍引續キ其ノ業務ヲ爲ス者ハ之ヲ第五條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル者ト看做ス

但シ昭和二十年五月三十一日迄ニ第四條各號ノ一ニ該當スル資格ヲ有スルニ至ラザル者ハ之ヲ取消スコトアルベシ

本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ從タル業務所ヲ有スル者ニシテ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第五條第二項ニ準ジ届出ヲ爲シタル者ハ之ヲ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一號樣式（第六條ノ規定ニ依ルモノ）

**第　號**

**合格證書**

氏　名

年月日生

建築代理士試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

昭和　年　月　日

警視廳㊞

第二號樣式（第十三條ノ規定ニ依ルモノ）

表　紙

自　年　月　日
至　年　月　日

事務處理簿

建築代理士　氏　名

第四編　建築關係　第一章　建築一般

處理簿樣式

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 委任者住所氏名 | | | | | |
| 敷地地名番號 | 區（郡）町（村）丁目　番地 | | | | |
| 受託年月日 | 年　月　日 | 願届書提出 | 年　月　日 | | |
| 願届ノ要旨 | | 建築物用途 | | | |
| 建築物ノ構造 | | 建築物ノ用途 | | | |
| 料金額 | 圓　錢 | 受領 第一回 | 圓　錢 | 年　月　日 | |
| | | 第二回 | 圓　錢 | 年　月　日 | |
| 處理經過 | 認許可證<br>調査濟證<br>使用認可證 | 交付 | 年　月　日 | | |
| 備考 | | 交付 | 年　月　日 | | |

備考欄ニハ料金額增減理由ヲ具體的ニ記載スルコト

昭和十八年十月二十一日
東京都令第二十六號

昭和五年八月警視廳令第二十七號建築代願人規則ノ定ムル所ニ仍ル建築代願人試驗ニ合格シタル者ハ之ヲ昭和十八年五月警視廳令第八號建築代理士規則ノ定ムル所ニ依ル建築代理士試驗ニ合格シタル者ト看做ス

**附　則**

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

# ●昇降機取締規則

大正十五年七月
警視廳令第三十號

改正　昭和五年九月第三三號、一七年一〇月第三四號、一八年七月東京都令第六號

## 第一章　總則

**第一條**　本令ニ依ル願届書ハ別段ノ定アルモノヽ外昇降機「エスカレーター」又ハ起重機所在地所轄區、地方事務所（八王子市ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所）又ハ支廳ヲ經由シ都ニ提出スベシ

**第二條**　本令ニ依ル願届書ハ願出人又ハ届出人ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ法定代理人、準禁治産者ナルトキハ保佐人、妻ナルトキハ夫ノ連署ヲ要ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

法定代理人、保佐人又ハ夫ニ變更アリタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ

**第三條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル機械ヲ設置、改設、増設、修繕シ又ハ其ノ構造設備若ハ用途ヲ變更セムトスルトキハ願出テ許可ヲ受クヘシ但シ乘用ヲ貨物用ニ變更セムトスルトキ及一時ノ用途ニ供スルモノニ在リテハ届出ツヘシ

一　昇降機
二　エスカレーター
三　能力三噸以上又ハ主柱若ハ斜柱ノ長四十尺以上ノ起重機但シ市街地建築物法施行區域内ニ於ケル建築工事用ノモノ又ハ工場敷地内ニ設置スルモノニシテ斜柱ヲ有セサルモノヲ除ク

**第四條**　前條ノ規定ニ依ル願届書ニハ左ノ事項ヲ具シ設計書及圖面ヲ添ヘ正副二通ヲ提出スヘシ但シ願届ニ關係ナキ事項及圖面ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　設置者ノ氏名、住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名）
二　設置地ノ地名、番號
三　建築物ノ名稱、用途
四　種類及用途
五　定員又ハ積載定量
六　願届ノ要旨
七　工事監督者ノ氏名、住所
八　起工期日及竣功期日

前項ノ設計書ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　昇降機及「エスカレーター」ノ設計書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ
イ　昇降機ノ構造設備、重量及速度
ロ　昇降路ノ構造設備
ハ　軌道ノ構造
ニ　捲揚用及平衡錘用索條ノ構造强度及把持方法
ホ　平衡錘ノ構造及重量
ヘ　原動機、制禦器及捲揚機ノ種類、能力、位置、構造及据付方法
ト　各種安全裝置ノ構造及作用
チ　特殊ノ裝置アルモノハ其ノ構造及作用

二　「ガイデリック」起重機ノ設計書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ
イ　「フック」ノ構造、重量及吊揚速度
ロ　主柱及斜柱ノ構造設備、重量、旋廻速度、起伏速度
ハ　主柱ノ基礎及据付方法
ニ　吊揚用、旋廻用及起伏用索條ノ構造、强度、重量及把持方法

【訪衛】





ホ　吊揚用及起伏用「ブロック」ノ構造及重量
ヘ　原動機、制禦器及捲揚機ノ種類、能力、位置、構造、重量及据付方法
ト　各種安全裝置ノ構造及作用
チ　特種ノ裝置アルモノハ其ノ構造及作用

三　其ノ他ノ起重機ノ設計書ハ前號ノ設計書ニ準スヘシ

**第一項ノ圖面ハ左ノ各號ニ依ルヘシ**

一　昇降機「エスカレーター」及「ガイデリック」起重機ノ圖面ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ
イ　建築物各階ニ於ケル昇降路ノ位置ヲ示ス圖（建築物外ニ設置スルモノニ在リテハ附近建築物其ノ他ノ工作物ニ對スル位置ヲ示ス圖）
ロ　昇降臺及昇降路又ハ吊揚用「フック」主柱及斜柱ノ構造圖
ハ　軌道、平衡錘又ハ主柱、斜柱、「フック」及「ブロック」竝索條、支線、原動機、制禦機、捲揚機及各種安全裝置ノ配置圖
ニ　原動機、制禦器、捲揚機ノ構造圖
ホ　電氣配線圖
ヘ　特殊ノ裝置アルモノハ其ノ詳細圖

二　其ノ他ノ起重機ノ圖面ハ前號ニ準スヘシ

**第五條**　第三條ノ許可ヲ受ケタル昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ニシテ工事竣功前前條第一項第四號乃至第六號、第二項及第三項ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ設計書及圖面ヲ具シタル願書正副二通ヲ提出シ許可ヲ受クヘシ

前項ノ昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ノ使用認可證交付前前條第一項第一號、第三號、第七號又ハ第八號ノ事項ニ變更アリタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ



**第六條**　工事ヲ中止シ又ハ廢止シタルトキハ五日以内ニ届出ツヘシ

**第七條**　工事場ニハ願書ノ副本又ハ其ノ寫ヲ備置クヘシ

當該吏員前項書類ノ提示ヲ要求シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

**第八條**　工事竣功シタルトキハ直ニ届出テ使用認可證ノ交付ヲ受クヘシ

前項使用認可證ノ交付ヲ受ケタル後ニ非サレハ昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ヲ使用スルコトヲ得ス

**第九條**　起工期日ヲ經過シ起工セサルトキ又ハ竣功期日ヲ經過シ仍竣功セサルトキハ第三條ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

**第十條**　昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ヲ承繼シタル者ハ使用認可證ヲ添ヘ被承繼者連署ノ上五日（相續ニ依ルモノハ十日）以内ニ届出使用認可證ノ書換ヲ受クヘシ但シ連署シ能ハサルトキハ其ノ理由ヲ附記スルコトヲ要ス

前項ニ依リ届出タル承繼者ハ之ヲ設置者ト看做ス

**第十一條**　昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ使用認可證ヲ添ヘ届出ツヘシ

**第十二條**　當該吏員昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ノ檢查ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス之ニ必要ナル準備ヲ命シタルトキ亦同シ

**第十三條**　昇降機「エスカレーター」又ハ起重機左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ除却、修繕、使用禁止、使用停止、工事ノ中止其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

一　保安上危險、衞生上有害其ノ他公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキ
二　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ工事ヲ爲シ又ハ使用シタルトキ

**第十四條**　昇降機運轉手又ハ起重機取扱主任者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ業務ノ停止又ハ禁止ヲ命スルコトアルヘシ

業務上不適當ト認メタルトキ

二　本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

**第十五條**　本令ハ機械ノ一部ヲ構成シ獨立ノ效用ヲ目的トセサル昇降機ニ之ヲ適用セス

## 第二節　構造設備

**第十六條**　昇降機各部ノ强度計算ニ於ケル昇降體ノ動荷重ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　乘用昇降機ニ在リテハ床面積一平方米ニ付三百七十瓩以上

二　貨物用昇降機ニ在リテハ床面積一平方米ニ付二百五十瓩以上。貨物用昇降機ニ在リテハ貨物ノ種類ニ依リ前項ノ規定ニ拘ラス其ノ動荷重ヲ指定スルコトアルヘシ

**第十七條**　昇降體ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ特殊ノ用途ニ供スルモノニシテ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

一　主要構造部ハ鐵材ヲ以テ構成スルコト

二　周圍ニハ圍障ヲ設ケ昇降體內ノ人又ハ物カ平衡錘昇降路ノ壁其ノ他ニ觸ルヽ虞アル構造ト爲スコト

三　出入口ヲ二以上設ケサルコト

四　出入口ニ堅牢ナル戸ヲ設クルコト

五　非常出口ヲ有スル屋蓋ヲ設クルコト

六　電燈設備ヲ爲スコト

**第十八條**　昇降路ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ特殊ノ構造設備又ハ周圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ第三號乃至第十一號ニ依ラサルコトヲ得

一　主要構造部ハ不燃材料ヲ以テ構成スルコト

二　周圍ニハ圍障ヲ設ケ圍障外ノ人又ハ物カ平衡錘ニ觸ルヽ虞アル構造トナスコト

三　周圍ノ內面ニハ凹凸ナカラシムルコト但シ昇降體ニ通スル出入口床先ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

四　昇降體ニ通スル出入口ヲ建物ノ各階ニ設クルコト

五　前號出入口ハ幅及高ヲ昇降體出入口ノ幅及高ト同シカラシメ且出入口床先ト昇降體トノ間隔ヲ二糎以上四糎以下ト爲スコト

六　出入口ニ不燃材料ヲ以テ構成シタル戸ヲ設ケ之ニ錠ヲ備フルコト

七　頂部ニ於ケル索輪其ノ他ノ裝置ヲ支持スル構造部ハ鐵造又ハ鐵筋「コンクリート」造ト爲スコト

八　前號裝置ノ下方ニ不燃材料ヲ以テ構成シタル床又ハ間隙四糎以下ノ格子ヲ設クルコト

九　前號床又ハ格子ノ下端ハ昇降體カ昇降路最上出入口ニ停止セル際其ノ頂上ヨリ一米以上高キ位置ニ在ラシムコト

十　原動機、制禦器、捲揚機等ヲ昇降體進路ノ直下ニ設クルトキハ其ノ裝置ノ上方ニ堅固ナル床ヲ設クルコト

十一　昇降路ノ下底又ハ前號ノ床ハ昇降路最下出入口床面ヨリ一米以上低キ位置ニ設クルコト

**第十九條**　昇降體又ハ平衡錘ノ進路ハ昇降路ノ頂上ヨリ下底ニ達スル鐵製軌道ニ依ルヘシ

**第二十條**　昇降體ハ二以上ノ鐵製索條ヲ以テ吊リ各條別箇ニ取付クヘシ平衡錘ニ付亦同シ但シ構造特殊ノモノニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項索條ノ直徑ハ捲揚用鼓胴又ハ索輪ノ直徑ノ四十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第一項索條ノ强度計算ニ於テハ安全係數ヲ十以上ト爲スヘシ

【防衛】



**第二十一條**　昇降體及捲揚用鼓胴ノ平衡錘ハ金屬製ト爲スヘシ

前項ノ平衡錘ハ軌道ヨリ脫離セサル構造ト爲シ其ノ各片ハ二本以上ノ「ボールト」ヲ以テ貫通連結スヘシ

**第二十二條**　原動機、制禦器、捲揚機ハ一昇降機毎ニ之ヲ設クヘシ

前項機械ノ設置場所ノ構造ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス(ハ)

一　機械ノ周圍ハ半米以上ノ間隔ヲ以テ圍障スルコト、

二　面積ハ昇降路水平斷面積ノ二倍以上ト爲スコト

三　屋蓋ヲ設ケ機械室床面ヨリノ高內法二米以上ト爲スコト

四　廊下其ノ他適當ナル通路ニ接シ出入口ヲ設クルコト

五　出入口ニハ堅牢ナル戸ヲ設ケ之ニ鎖ヲ附スルコト

**第二十三條**　昇降機ニハ左ノ各號ノ安全裝置ヲ爲スヘシ

一　昇降體ノ位置、運轉開始及其ノ方向ヲ指示スルモノ

二　操縱器ヲ自動的ニ運轉休止ノ位置ニ復セシムルモノ

三　昇降體又ハ昇降路ノ戸ヲ開キタルトキ原動機ノ動力ヲ自動的ニ遮斷スルモノ

四　昇降體停止ノ位置ヲ自動的ニ限定スルモノ

五　動力遮斷ノ際惰性ニ因ル原動機ノ回轉ヲ自動的ニ制止スルモノ

六　昇降體ノ速度カ豫定ノ限度ニ達シタルトキ動力ヲ自動的ニ遮斷スルモノ

七　昇降體ノ落下ヲ自動的ニ停止セシムルモノ

八　昇降體又ハ平衡錘カ昇降路底部ニ落下シタルトキ衝撃ヲ緩和スルモノ

九　「ドラム」式昇降機ニ在リテハ捲揚用索條カ弛緩シタルトキ動力ヲ自動的ニ遮斷スルモノ

## 第四節　建築關係　第一章　建築一般

**第二十四條**　昇降體ノ床面積一平方米以下、天井高一・二五米以下ノ貨物用昇降機ニハ第十六條乃至前條ノ規定ヲ適用セス

前項ノ昇降機ニハ適當ナル信號裝置及昇降路周圍ニハ危險防止上必要ナル圍障ヲ設クヘシ

**第二十五條**　「エスカレーター」ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ構造設備特殊ニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　進路ハ鐵製軌道ニ依ルコト

二　進路ノ兩面ニハ適當ナル扶壁ヲ設クルコト

三　非常ノ際直ニ動力ヲ遮斷シ得ル裝置ヲ爲スコト

四　制動裝置ヲ爲スコト

五　運轉開始及停止ノ信號裝置ヲ爲スコト

六　乘用ノモノニ在リテハ進路ノ兩側ノ扶壁ニ沿ヒ移動手摺ヲ設クルコト

**第二十五條ノ二**　第三條第三號ニ該當スル起重機ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ構造設備又ハ周圍ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　索條强度ノ安全係數ハ支線用ノモノニ在リテハ四以上捲揚用ノモノニ在リテハ八以上ト爲スコト

二　捲揚用鋼索條ノ直徑ハ其ノ通過スル捲揚用鼓胴又ハ索輪ノ直徑ノ三十分ノ一ヲ超エサルモノト爲スコト

三　自立不安定ナルモノハ適當ナル支線ヲ張ルコト

四　前號ノ支線ハ「ターン、バックル」及「ロープ、シンプル」ヲ用キ「ロープ、クリップ」其ノ他ヲ以テ緊結スルコト

五　捲揚機ニハ適當ナル制動機ヲ設クルコト

六　運轉操作上必要ナル信號裝置ヲ設クルコト

【防衛】

七　運轉中荷重又ハ動力傳導裝置ニ觸ルヽヲ防クニ足ルヘキ柵其ノ他ノ裝置ヲ設クルコト

八　捲揚機ノ設置場所ニ付テハ第二十二條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三節　管理及使用

**第二十六條**　昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ノ管理者ヲ定メタルトキハ管理者連署ノ上五日以內ニ屆出ツヘシ管理者ヲ變更シ又ハ其ノ氏名住所ニ變更アリタルトキ亦同シ

**第二十七條**　第四條第一項第一號ノ事項ニ變更アリタルトキ又ハ使用認可證ヲ亡失若ハ毀損シタルトキハ設置者（管理者アルトキハ管理者）ヨリ五日以內ニ屆出テ使用認可證ノ再下付ヲ受クヘシ

**第二十八條**　設置者（管理者アルトキハ管理者）昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ノ使用ヲ引續キ一箇月以上休止セムトスルトキハ使用認可證ヲ添ヘ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ依ル屆出休止シタル機械ハ使用開始屆ヲ爲シ使用認可證ノ返付ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

**第二十八條ノ二**　設置者（管理者アルトキハ管理者）ハ年一回以上昇降機「エスカレーター」又ハ起重機ノ構造ニ付細密檢査ヲ爲シ其ノ結果ヲ記錄シ置クヘシ

**第二十九條**　昇降機ノ設置者（管理者アルトキハ管理者）ハ左ノ各號ニ該當スル昇降機運轉手ヲ定メ其ノ履歷ヲ記載シタル名簿ヲ備ヘ置クベシ但シ第二十四條第一項ノ昇降機及手動昇降機又ハ自動昇降機ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一　滿十七歲以上ニシテ身體健全ナル者

二　昇降機ノ運轉ニ關シ適當ナル技能ヲ有スル者

**第二十九條ノ二**　起重機設置者（管理者アルトキハ管理者）ハ左ノ各號ニ該當スル起重機取扱主任者ヲ定メ其履歷書及寫眞ヲ添附シ之ヲ屆出ツベシ

一　滿二十歲以上ノ者

二　起重機ニ關シ適當ナル學識又ハ經驗ヲ有スル者

前項ノ規定ニ依リ屆出タル起重機取扱主任者ヲ解屆シ又ハ其ノ氏名ニ變更アリタルトキハ五日以內ニ屆出ツベシ

**第三十條**　乘用昇降機ニ於ケル定員ハ昇降盤ノ床面積一平方米ニ付五人ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス

前項ノ定員ハ十歲未滿ノ小兒ニ在リテハ二人ヲ以テ之ヲ一人ト看做ス

**第三十一條**　設置者（管理者アルトキハ管理者）ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　昇降機

イ　用途及定員（貨物用昇降機ニ在リテハ積載定量）ヲ諸易キ箇所ニ揭ケ置クコト

ロ　昇降路ノ內部又ハ第二十二條第二項ノ場所ヲ昇降機ニ直接關係ナキ用途ニ供セサルコト

ハ　運轉手ニ非サル者ヲシテ運轉セシメサルコト（第二十九條第一項但書ニ依ルモノヲ除ク）

ニ　第二十四條第一項ノ昇降機ニ人ヲ乘ラシメサルコト

ホ　構造設備ハ常ニ有效ニ保持スルコト

ヘ　構造設備破損シタルトキハ直ニ使用ヲ中止シ完成ニ至ル迄ノ間之ヲ使用セサルコト

ニ　「エスカレーター」

イ　用途ヲ諸易キ箇所ニ揭ケ置クコト

ロ　昇降路又ハ機械設置場所ヲ「エスカレーター」ニ直接關係ナキ用途ニ供セサルコト

ハ　使用認可ヲ受ケタル用途以外ニ使用セサルコト

【防衛】



ニ　構造設備ハ常ニ有效ニ保持スルコト

ホ　構造設備破損シタルトキハ直ニ使用ヲ中止シ完成ニ至ル迄ノ間之ヲ使用セサルコト

二　起重機

イ　荷重能力ヲ諸易キ箇所ニ揭ケ置クコト

ロ　機械室ヲ起重機ニ直接關係ナキ用途ニ供セサルコト

ハ　運轉手ヲ定メ其ノ他ノ者ヲシテ運轉セシメサルコト

ニ　構造設備ハ常ニ有效ニ保持スルコト

ホ　構造設備破損シタルトキハ直ニ使用ヲ中止シ完成ニ至ル迄ノ間之ヲ使用セサルコト

ヘ　起重機取扱主任者ノ立會スルニ非サレハ起重機ノ損付使用移動又ハ解體ヲ爲サヽルコト

**第三十二條**　昇降機運轉手又ハ起重機取扱主任者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　昇降機運轉手

イ　昇降體內諸易キ箇所ニ自己ノ名札ヲ揭ケ置クコト

ロ　昇降體內ニ於テハ酒氣ヲ帶ヒ又ハ喫煙セサルコト

ハ　定員又ハ積載定量ヲ超エテ乘載セシメサルコト

ニ　昇降路各出入口ハ開放シ置カサルコト

ホ　運轉ニ先チ昇降路及昇降體出入口ヲ閉鎖スルコト

ヘ　昇降體內ノ採光不十分ナルトキハ點燈スルコト

ト　貨物用昇降機ニ貨物取扱者以外ノ者ヲ乘ラシメサルコト

チ　事故アリタルトキ又ハ危險發生ノ虞アリト認メタルトキハ直ニ運轉ヲ中止シ設置者又ハ管理者ニ報告シ指揮ヲ承クルコト

二　起重機取扱主任者ニ付テハ前號ハ、ト、チノ規定ヲ準用ス

**第三十三條**　設置者（管理者アルトキハ管理者）ハ昇降機「エスカレーター」

## 第四編　建築關係　第一章　建築一般

**第三十四條**　第二條第二項、第三條、第五條乃至第八條、第十條第一項、第十一條、第十二條、第二十六條乃至第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ第十三條及第十四條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

**第三十五條**　前條ノ規定ハ未成年者又ハ禁治產者ニ在リテハ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者又ハ運轉手タル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前條ノ規定ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ法人解散ノ場合ニハ淸算人ニ之ヲ適用ス

附　則

**第三十六條**　本令ハ昭和五年九月二十日ヨリ之ヲ施行ス

**第三十七條**　本令施行前ニ設置シタル起重機ニシテ第三條第三號ニ該當スルモノヲ引續キ使用セムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ左ノ事項ヲ具シ屆出テ使用認可證ノ交付ヲ受クヘシ

一　設置者ノ氏名、住所（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名）

二　設置地ノ地名、番號

三　建築物名稱、用途

四　種類及用途

五　積載定量
六　主柱斜柱ノ長
七　原動機ノ種類、能力及箇數
八　設置年月日

附　則　（昭和十七年十月勅令第三十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

附　則　（昭和十八年東京都令第六號）

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

## ●水槽便所取締規則

大正十年六月
警視廳令第十三號

改正　昭和六年一〇月第五〇號、一八年七月東京都令第六號

**第一條**　汲取便所ニ非サル便所ヲ設置セムトスルモノハ水槽便所ノ構造トシ但シ市街地建築物法施行規則第十二條本文ニ依リ指定スル下水道ニ放流スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

**第二條**　水槽便所ヲ設置セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄區、地方事務所（八王子ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所）又ハ支廳ヲ經テ都ニ願出テ許可ヲ受クヘシ第六號乃至第九號ノ事項ヲ變更シ又ハ建設物ノ增設若ハ改造ヲ爲サムトスルトキ亦同シ但シ願ニ關係ナキ事項ハ之ヲ省略スルコトヲ得

一　設置者ノ住所氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地、代表者ノ氏名）
二　設置ノ地名番號
三　敷地、建物ノ總面積及其ノ平面略圖
四　建物ノ用途
五　常住者及通勤者ノ數竝外來者ノ見込人員
六　便器ノ數及位置
七　便器汚物誘導管、腐敗槽、酸化槽及消毒槽ノ構造仕樣書竝圖面（特殊構造ノモノニ在リテハ其ノ構造仕樣書、圖面）
八　給水ノ方法
九　汚水排出ノ場所
十　工事落成期日

前項第一號乃至第四號及第十號ノ事項ニ變更アリタルトキハ十日以內ニ所轄區、地方事務所（八王子ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所）又ハ支廳ヲ經テ都ニ屆出ツヘシ

**第三條**　水槽便所ノ構造落成シタルトキハ所轄區、地方事務所（八王子ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所）又ハ支廳ヲ經テ都ニ屆出テ使用ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

**第四條**　水槽便所ヲ廢止シタルトキハ設置者ヨリ、讓受ケタルトキハ讓受人ヨリ十日以內ニ所轄區、地方事務所（八王子ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所）又ハ支廳ヲ經テ都ニ屆出ツヘシ

**第五條**　水槽便所ノ淨化裝置ハ腐敗槽、酸化槽及消毒槽ニ區分シタル撒水式濾過床ノ構造トシ左ノ制限ニ從フヘシ但シ土地ノ狀況又ハ特種ノ構造ニ係ルモノニシテ衞生上支障ナシト認ムルトキハ構造其ノ他ノ制限ヲ緩和スルコトアルヘシ

一　底及周壁ハ厚十五糎以上ノ石、煉瓦又ハ「コンクリート」ヲ以テ構造シ內部ニハ厚サ二糎以上ノ防水「モルタル」ヲ塗布スルコト
二　腐敗槽ノ容積ハ水平面以下ニ於テ〇・八立方米以上トシ使用人員十五人ヲ超ユルトキハ一人ニ付〇・〇五四立方米以上ヲ增スコト但シ其ノ容積五立方米以上ノモノニ在リテハ淨化支障ナシト認ムルモノニ限リ此ノ割合ニ依ラサルコトヲ得

【防衞】

三　酸化槽內濾過床ノ高ハ九十糎以上其ノ容積ハ〇・四立方米以上トシ一日間ニ濾注スル汚水量ト同一以上ノ容積ヲ有セシムルコト
四　消毒槽ハ汚水ノ消毒ニ必要ナル裝置ヲ爲スコト
五　各槽ニハ檢查孔ヲ設クルコト

**第六條**　水槽便所ニハ使用人員一人ニ對シ一日二十五立以上ノ水ヲ濾注シ得ヘキ水槽其ノ他ノ給水裝置ヲ爲スヘシ

**第七條**　水槽便所ノ使用ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　一人ニ付一日二十五立以上ノ水ヲ濾注スルコト
二　排出汚水ニハ指定ノ消毒ヲ行フコト
三　汚水淨化ニ障害ヲ及ホス虞アル鹽酸、硝酸等ノ礦酸又ハ防臭劑、消毒藥ヲ腐敗槽酸化槽內ニ移行セシメサルコト
四　檢查孔ノ上部ニハ檢查ヲ妨クル裝置ヲ爲シ又ハ物件等ヲ置カサルコト
五　排氣管、送氣孔又ハ撒水櫨ハ閉塞セサル樣時時掃除シ故障アルトキハ直ニ修繕ヲ行フコト

**第八條**　水槽便所ヨリ排出スル汚水ハ左ノ各號ノ標準ニ適合シ且消毒シタルモノニ非サレハ之ヲ放流スルコトヲ得ス但シ土地ノ狀況其ノ他ニ依リ都ニ於テ支障ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　流出物ハ微ニ濁潤スルモ殆ント臭氣ヲ放タサルコト
二　流出物ハ亞硝酸又ハ硝酸ノ反應著明ナルコト
三　流出物ハ「メチーレンブラウ」脫色試驗ニ於テ褪色スルコトアルモ五時間內ニ脫色セサルコト
四　流出物ノ四時間內ニ於ケル酸素吸收量ハ十萬分中一、五分以下タルコト
五　流出物ノ蛋白性「アンモニア」ノ含量ハ十萬分中〇・三分以下タルコト
六　流出物ハ原汚水ニ對シ酸素吸收量及蛋白性「アンモニア」ノ含量ニ於テ四五・〇「パーセント」以上ノ減少率ヲ示スコト

【防衞】

**第九條**　水槽便所ノ構造設備又ハ取扱方法ニシテ衞生上危害ヲ生スル虞アリト認メタルトキハ其ノ改造、修繕其ノ他適當ノ措置ヲ命シ又ハ排出汚水ノ放流ヲ禁止スルコトアルヘシ

**第十條**　前條ノ規定ニ依リ其ノ放流ヲ禁止セラレタル汚水ハ橫溢セザル樣汲取ルヘシ

**第十一條**　腐敗槽ハ年一回以上掃除ヲ行ヒ沈澱物ヲ除去スヘシ

前項ノ沈澱物ハ所轄區、地方事務所（八王子ノ區域ニ付テハ南多摩地方事務所、立川市ノ區域ニ付テハ北多摩地方事務所）又ハ支廳ノ認可シタル方法ニ依リ之ヲ處分スヘシ

**第十二條**　第一條、第二條、第三條第二項、第四條、第八條、第十條及第十一條ノ規定ニ違反シ又ハ第九條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

前項ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

**第十三條**　設置者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス設置者法人ナルトキハ本令ノ罰則ハ之ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

### 附　則

本令ハ大正十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ノ規定ニ適合セサル現在ノ水槽便所ハ本令施行ノ日ヨリ二年內ニ本令

ノ規定ニ適合セシムヘシ但シ緋田汚水ニシテ第八條ノ標準程度ニ淨化セルモノハ此ノ限ニ在ラス

## ●共同住宅建築規則

昭和十六年二月六日
警視廳令第四號

**第一條**　本令ハ左ノ各號ニ該當スル建物ニシテ貸室ノ合計十室以上ヲ共同住宅ノ用途ニ供スルモノニ之ヲ適用ス建物ノ一部ヲ共同住宅ト爲スモノ亦同ジ

一　同一建物ヲ分割シテ各室毎ニ住宅タル設備ヲ有スルモノ（炊事場、便所等ヲ共用ト爲スモノヲ含ム）

二　出入口、廊下及階段等ヲ共用ト爲スモノ

**第二條**　建物ノ一部ヲ共同住宅ノ用途ニ供スルモノニ付テハ他ノ部分ニ對シ保安、衞生上必要ナル構造設備ヲ爲サシムルコトアルベシ

**第三條**　共同住宅ハ建物ノ主要ナル壁體、床、柱、直上階ノ床及階段等耐火構造ニ非ザル工場、倉庫、市場、料理店、飮食店、興行場、集會場及自動車車庫ノ上階ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ周圍ノ狀況其ノ他ニ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

**第四條**　共同住宅ハ幅員四メートル未滿又ハ袋路タル道路ニ面スル敷地ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ土地ノ狀況等ニ依リ保安上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

**第五條**　共同住宅ノ構造設備ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　貸室（附室ヲ除ク）ニハ直接道路又ハ幅員二メートル以上ノ空地（適當ニ外部ニ連絡スルモノ）ニ面スル窓ヲ設クルコト

二　貸室（附室ヲ除ク）ノ床面積ハ七平方メートル以上ト爲スコト

三　貸室ハ地階ニ之ヲ設ケザルコト但シ特殊ノ用途ニ供スルモノニシテ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

四　木造建物ニ在リテハ階數（屋階ヲ含ム）二以下ト爲スコト

五　常用階段及廊下ノ有效幅員ハ一、二メートル以上ト爲スコト

六　建築面積ノ合計三百平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ各建物ノ間隔ヲ四メートル以上ト爲スコト但シ建物ノ構造、規模等ニ依リ保安上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

七　炊事場其ノ他常時火氣ヲ使用スル箇所ニハ防火上適當ナル設備ヲ爲スコト

八　便所ヲ共用ト爲ス場合ハ貸室（附室ヲ除ク）五室ニ付大小各一箇以上ヲ設ケ便池ノ大サヲ〇・一二立方メートル以上ト爲スコト但シ別ニ專用便所ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラズ

九　共同浴室ヲ設クル場合ハ浴場及浴場營業取締規則ノ適用又ハ準用ヲ受クルモノノ外左ノ各號ニ依ルコト

イ　男女別トシ且居住者ノ專用ニ供スルモノト爲スコト

ロ　火焚場ノ周圍及天井ハ不燃材料ヲ以テ被覆スルコト

十　貸室ノ合計床面積百五十平方メートル以上ノモノニ在リテハ昭和十一年九月內務省令第三十一號特殊建築物規則第三章ノ規定ヲ準用ス但シ土地ノ狀況其ノ他ニ依リ保安、衞生上支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

**第六條**　共同住宅ニハ左ノ各號ニ依リ防火、避難上必要ナル器具ノ整備ヲ爲スベシ

一　適當ノ位置ニ消火器ヲ配備シ有效ニ之ヲ保持スルコト

二　繩梯子其ノ他適當ナル避難用具ヲ配備シ且緊其ノ他適當ノ場所ニ之ガ取付裝置ヲ設クルコト

【防衞】



**第七條**　前二條ノ規定ノ外防火、避難又ハ便所ノ構造、塵芥容器ノ設備其ノ他保安、衞生上必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

**第八條**　共同住宅ヲ設置セントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ建物所在地所轄警察署長ニ屆出ヅベシ設置者又ハ管理人ノ變更若ハ建物ノ改築、增築、移轉、變更ヲ爲サントスルトキ亦同ジ但シ市街地建築物法令ニ依ル建築申請、屆出ヲ爲シタルモノニ在リテハ第三號ノ圖面ヲ省略スルコトヲ得

一　設置者ノ住所、氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地）

二　建物ノ名稱、所在地地名番號

三　敷地面積、配置圖及建物平面圖

四　各階ノ貸室數及各階床面積

五　建物ノ所有者ト設置者ト異ナルトキハ所有者ノ住所氏名

六　管理人ノ氏名

七　工事落成期日

前項ノ外必要ト認ムルトキハ別ニ書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

**第九條**　共同住宅ニハ設置者自ラ管理ヲ爲ス場合ノ外管理人ヲ定ムベシ

前項ノ管理人ニシテ不適當ト認ムルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

**第十條**　共同住宅ニハ管理室ヲ設ケ且入口ニ其ノ標示ヲ爲スベシ

**第十一條**　設置者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一　管理室ニハ常ニ別記樣式ノ居住者名簿及消火、避難用具ノ配備位置ヲ示シタル貸室配置圖ヲ備ヘ置キ常ニ之ヲ整理シ置クコト

二　非常口、避難通路及建物內ニ配備シタル消火避難用具ハ有效ニ之ヲ保持スルコト

三　貸室ノ入口ニハ室番號及居住者ノ氏名ヲ標示スルコト

四　廊下、炊事場、便所、洗面所其ノ他ノ共同部分ハ常ニ淸潔ヲ保持スルコト

**第十二條**　共同住宅ヲ廢罷シタルトキハ速ニ建物所在地所轄警察署長ニ屆出ヅベシ

**第十三條**　設置者又ハ管理人左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第三條乃至第六條及第八條、第九條第一項、第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第二條、第七條又ハ第九條第二項ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

**第十四條**　設置者ニシテ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ前條ノ規定ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

**第十五條**　設置者又ハ管理人ハ其ノ代理人、雇人其ノ他事務ニ從事スル者ニシテ其ノ事務ニ關シ第十三條各號ノ一ニ該當シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

**第十六條**　本令ノ罰則ハ設置者又ハ管理人法人ナルトキハ法人ノ代理者ニ之ヲ適用ス

法人ノ使用人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ法人ノ業務ニ關シ第十一條各號ノ規定ニ違反シタルトキハ法人ノ代表者ヲ罰スルノ外當該使用人其ノ他ノ從業者ニ對シ本令ノ罰則ヲ適用スルコトアルベシ

### 附　則

**第十七條**　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

**第十八條**　昭和八年六月警視廳令第二十一號アパート建築規則ハ之ヲ廢止ス

**第十九條**　本令施行ノ際現ニ存在スル共同住宅ノ設置者ハ第八條第一項第

一號、第二號、第四號乃至第六號ノ事項ヲ具シ昭和十六年三月十五日迄ニ建物所在地所轄警察署長ニ届出ヅベシ

様式（第十二條ノ規定ニ依ルモノ）

居住者名簿

| 貸室番號 | 本籍地 | 職業 | 勤先 | 戸主又ハ其ノ續柄 | 氏名 | 生年月日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |





# 第二章　防火改修

## ●防火改修規則

昭和十七年三月二十七日
内務省令第十六號

改正　昭和一八年第五三號

**第一條**　防空法第五條ノ二第一項ノ區域ハ防空建築規則第二十一條ノ規定ニ依ル區域ヲ除ク市街地建築物法第二十三條ノ規定ニ依ル區域ノ全部又ハ一部ニ付地方長官之ヲ指定スベシ

**第二條**　防空法第五條ノ二ノ木造建築物ハ左ニ掲グルモノトス

一　床面積六百平方米軒高五米ヲ超ユル木造（鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同ジ）建物但シ防空建築規則第五條ノ二ノ規定ニ依リ建築シタルモノヲ除ク

二　前號ニ掲グルモノ以外ノ木造建物但シ市街地建築物法施行規則ノ定ムル乙種防火地區ニ關スル規定又ハ防空建築規則ノ規定ニ依リ建築シタルモノヲ除ク

**第三條**　前條ノ木造建物ノ防火改修ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外防空建築規則第三條、第四條（第一項第三號ヲ除ク）、第五條、第五條ノ二（第一項第二號ヲ除ク）及第五條ノ三ノ規定ヲ準用ス

**第四條**　地方長官ハ防空建築規則第四條ノ規定ノ準用ニ關シ敷地ヲ異ニスル木造建物ヲ共ノ建築面積ノ合計百五十平方米以内毎ニ同一敷地内ニ在ルモノト看做スコトヲ得

**第五條**　地方長官ヒムヲ得ズト認ムルトキハ第二條第二號ノ木造建物ノ竪又ハ出入口及其ノ周圍部ニ付防空建築規則第四條第一項ノ規定ノ準用ニ關シ三米未滿ヲ二米未滿トシ同條第二項ノ規定ノ準用ニ關シ五米未滿ヲ三米未滿トナスコトヲ得

**第六條**　防空建築規則第四條ノ規定ノ準用ニ關シ隣地境界線明瞭ナラザルトキハ互ニ相面スル建物ノ外壁間ノ中心線ヲ以テ隣地境界線ト看做ス

**第七條**　木造ノ長屋ニシテ建築面積百五十平方米ヲ超ユルモノハ百五十平方米以内毎ニ地盤ヨリ屋根ニ達スル迄防火上有效ナル土塗壁ノ類ヲ以テ區劃スベシ

**第八條**　地方長官ハ防火改修工事ノ施行ノ爲必要アリト認ムルトキハ當該建物ニ付補强其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

**第九條**　第二條第二號ノ木造建物ノ防火改修ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ街廓毎ニ一群トシテ之ヲ施行スベシ

**第十條**　防空法施行令第十一條第一項ノ費用ハ防空法第五條ノ二ノ規定ニ依ル工事ニ在リテハ當該工事ヲ施行シタル建物ノ所有者ノ負擔トシ同法第五條ノ三ノ規定ニ依ル工事ニ在リテハ工事完了ノ時ニ於ケル當該建物ノ所有者ノ負擔トス

防空法施行令第十一條第二項ノ費用ハ當該工事ヲ施行シタル街廓内ニ在ル第二條第二號ニ該當スル各建物ノ所有者ノ負擔トス

**第十一條**　防空法第五條ノ二ノ規定ニ依リ防火改修ヲ命ゼラレタル建物ノ所有者ハ地方長官ノ定ムル期間内ニ其ノ設計ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請ハ當該建物所在市町村ノ市町村長ヲ經由スベシ

**第十二條**　市町村長防空法第五條ノ三ノ規定ニ依リ防火改修工事ヲ施行スルトキハ其ノ設計ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

**第十三條**　前二條ノ防火改修工事竣功シタルトキ又ハ地方長官ノ特ニ指定

シタル工程ニ達シタルトキハ地方長官ニ届出ヅベシ

前項ノ届出ハ當該建物ノ所在市町村ノ市町村長ヲ經由スベシ

**第十四條**　地方長官土地ノ狀況又ハ建物ノ用途ニ依リ必要アリト認ムルトキハ內務大臣ノ認可ヲ受ケ第三條乃至第五條及第七條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

**第十五條**　町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●防火改修規則施行細則

昭和十七年八月
警視廳令第二十一號

**第一條**　防火改修規則（以下單ニ規則ト稱ス）ニ依ル工事施行ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル

**第二條**　規則又ハ本令ニ依ル申請書又ハ届書ハ三通（正本一通、副本二通）トシ都長官ニ提出スベシ

**第三條**　規則第九條ノ規定ニ依リ街鄰每ニ一群トシテ工事ヲ施行スル者ニシテ其ノ工事ニ關シ防火改修組合（以下單ニ組合ト稱ス）ヲ組織シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ届出ヅベシ

一　組合ノ名稱

二　組合員ノ住所氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名以下之ニ同ジ）

三　組合ニ役員ヲ置キタルトキハ其ノ氏名

四　組合ノ規約

五　其ノ他特ニ指定シタル事項

前項ノ届書ニハ關係建物ノ配置ヲ示セル圖面ヲ添附スベシ

**第四條**　規則第十一條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ設計書及圖面ヲ添附シ申請スベシ

一　申請者ノ住所氏名

二　設計者ノ住所氏名

三　工事管理者アルトキハ其ノ住所氏名

四　建物所在地ノ地名番號

五　建物ノ用途

六　其ノ他特ニ指定シタル事項

前項ノ申請ヲ爲シタル後工事管理者ヲ定メタルトキハ其ノ住所氏名ヲ届出ヅベシ

**第五條**　前條第一項ノ規定ニ依ル設計書ニハ左ノ事項ヲ具備スベシ

一　建物ノ各棟別設計內譯

二　圖面ニ示シ難キ仕樣ノ概要

三　其ノ他特ニ指定シタル　項

**第六條**　第四條第一項ノ規定ニ依ル圖面左ノ如シ但シ必要ナシト認ムルモノハ省略スルコトヲ得

一　配置圖（方位、建築線、敷地境界線、建物其ノ他必要ナル事項ヲ明示シタルモノ）

二　平面圖及立面圖（方位、改修ニ關係アル箇所ノ現狀及改修方法其ノ





他必要ナル事項ヲ明示シタルモノ）

三　詳細圖（材料ノ種類、寸法等細部ニ亘リ說明ヲ要スル事項ヲ明示シタルモノ）

**第七條**　削除

**第八條**　第四條及前條ノ申請ニシテ支障ナシト認ルトキハ申請書ノ副本ニ別記第一號樣式ニ依ル認可證印ヲ押捺シテ申請者ニ交付ス

**第九條**　建物ノ所有者ニシテ防空法（以下單ニ法ト稱ス）第五條ノ三ノ規定ニ依リ代施行ノ請求ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ建物ノ概要圖ヲ添附シ申請スベシ

一　申請者ノ住所氏名

二　建物所在地ノ地名番號

三　請求ノ事由

四　其ノ他特ニ指定シタル事項

**第十條**　規則第十三條ノ規定ニ依リ指定スル工程左ノ如シ

一　工事ニ着手シタルトキ

二　其ノ他特ニ指定シタル工程ニ達シタルトキ

**第十一條**　防空法施行令（以下單ニ令ト稱ス）第十一條第四項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ

一　當該建物所有者ノ住所氏名並ニ所屬組合名

二　工事費總額及建物ノ各棟別內譯

三　建物所有者別費用負擔割合及方法並ニ其ノ算定ノ根據

四　其ノ他特ニ指定シタル事項

別ニ告示シタル費用負擔方法ニ依ルトキハ其ノ旨附記シ前項第三號ノ費用負擔方法ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

**第十二條**　前條ノ申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ申請書ノ副本ニ別記第二號樣式（第十二條ノ規定ニ依ルモノ）

第　號
昭和　年　月　日
防火改修工事設計認可證
東京都

經四十七粍

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式（第八條ノ規定ニ依ルモノ）

第　號
昭和　年　月　日
防火改修工事費認可證
東京都
徑四十七粍

## ●東京都防火改修補助規程

昭和十七年十一月十日
東京市告示第五百六十八號

改正　昭和一八年四月第二二九號

**第一條**　本都ハ防空法（以下法ト稱ス）第十六條第一項ノ規定ニ依リ防火改修ニ要スル費用ヲ負擔スル建物ノ所有者ニ對シ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ本規程ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交付ス

**第二條**　本規程ニ於テ防火改修ニ要スル費用トハ防火改修ニ要スル設計費及工事費（附帶工事費ヲ含ム）ヲ謂フ

**第三條**　前條ノ費用ハ都長官之ヲ査定シ補助金額ヲ決定ス

**第四條**　補助金ハ左ノ各號ニ依ル

一　防火改修規則（以下規則ト稱ス）第二條第一號ノ規定ニ該當スルモノニ付テハ防火改修ニ要スル費用ノ二分ノ一以內

二　規則第二條第二號ノ規定ニ該當スルモノニ付テハ防火改修ニ要スル費用ノ三分ノ二以內

學校、病院、診療所等ノ用ニ供スル建物ニシテ都長官必要アリト認ムル



モノニ付テハ前項第一號ノ規定ニ拘ラズ三分ノ二以內トスルコトヲ得

**第五條**　法第五條ノ三ノ規定ニ依リ都長官ニ於テ工事ヲ施行スル原因ガ其ノ費用ヲ負擔スル者ノ責ニ歸スベキ場合ニ於ケル補助金ハ前條ノ規定ニ拘ラズ左ノ各號ニ依ル

一　前條第一項第一號ニ該當スルモノニ付テハ四分ノ一以內

二　前條第一項第二號及同條第二項ニ該當スルモノニ付テハ三分ノ一以內

**第七條**　補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ別ニ定ムル所ニ依リ都長官ニ申請スベシ

**第八條**　都長官必要アリト認ムルトキハ工事ノ設計ヲ爲シ又ハ工事ノ請負ヲ制限スルコトヲ得

前項ノ設計ニ要スル費用ハ都ニ於テ繰替支辨ス此ノ場合ニ於ケル辨償金ハ補助金精算ノ際之ヨリ控除ス

**第九條**　都長官ハ工事ヲ督勵指導シ又ハ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

**第十條**　法第五條ノ三ノ規定ニ依リ都長官ニ於テ工事ヲ施行スル場合ニ於ケル補助金ハ法第十七條ノ二第二項ノ規定ニ依ル辨償金ヲ徵收スル場合ニ於テ之ヲ交付シタルモノト看做ス

**第十一條**　本規程ニ基キテ生ジタル權利義務ハ都長官ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ

**第十二條**　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ都長官補助金交付決定ノ一部ヲ取消スコトヲ得

一　法第十九條ノ二第一號ノ規定ニ抵觸スルトキ

二　本規程又ハ都長官ノ指示シタル事項ニ違反シタルトキ

**第十三條**　本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ都長官之ヲ定ム

**附　則**

左ノ規程ハ之ヲ廢止ス但シ本規程施行前既ニ補助指令書ヲ交付シタルモノニ付テハ仍從前ノ規程ニ依ル

東京都木造建物防火改修補助規程

## ●東京都防火改修補助規程施行細則

昭和十七年十一月十日
東京市告示第五百六十九號

**第一條**　本細則ニ於テ規程トハ東京都防火改修補助規程ヲ謂フ

**第二條**　補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ補助申請書ヲ提出スベシ

**第三條**　補助ヲ決定シタルトキハ申請者ニ對シ之ヲ指令ス

**第四條**　規程第六條但書ノ規定ニ依リ補助金及工事材料ヲ交付スル場合ニ於テハ申請者ニ對シ之ヲ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ請求書ヲ提出スベシ

**第五條**　工事竣功シタルトキハ改修費申告書ヲ提出スベシ

**第六條**　工事竣功檢査完了シタルトキハ補助金額ヲ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ請求書ヲ提出スベシ

**第七條**　規程第四條第二項ノ學校トハ私立學校令ニ依ルモノ、病院、診療所トハ國民醫療法ニ依ルモノヲ謂フ

前項ノ建物所有者ニシテ補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ證憑書類ヲ提出スベシ

**第八條**　規程第八條ノ規定ニ依リ都長官ニ於テ工事ノ設計ヲ爲シ又ハ工事請負人ヲ指定スル場合ハ建物所有者ニ對シ之ヲ通知ス

**第九條**　本細則施行上必要ナル諸樣式ハ別記ノ通之ヲ定ム

**附　則**

本細則ハ規程施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



別記樣式

第一號　補助申請書
第二號　補助金前金拂請求書
第三號　工事材料請求書
第四號　工事材料受領書
第五號　改修費申告書

（第一號甲）　日本標準規格B4

補助申請書

【訪書】

| 建物所在地及棟數 | | 區　町　丁目　番地　棟 |
|---|---|---|
| 組合名 | | |
| 組合事務所所在地 | | 電話 |
| 組合長住所氏名 | | 電話 |

號　第　號番

右防火改修致度候間東京都防火改修補助規程ニ依リ補助金（補助金前金並工事材料ヲ含ム）交付相成度申請候也

昭和　年　月　日

住所
氏名　印

東京都長官　殿

（第一號乙）日本標準規格B4

補助申請書

| | |
|---|---|
| 建物所在地 | 區　町　丁目　番地 |
| 建物床面積 | 坪又ハ平方米 |
| 建物用途 | |

右防火改修致度候間東京都防火改修補助規程ニ依リ補助金（補助金前金竝工事材料ヲ含ム）交付相成度申請候也

昭和　年　月　日

住所

東京都長官　殿　　氏　　名印

號　第　號番

（第二號）日本標準規格B4

補助金前金拂請求書

一金

但シ昭和　年　月　日第　號補助金前金拂通知分

右請求候也

昭和　年　月　日

住所

氏　　名印

（第三號）日本標準規格B4

工事材料請求書

一金

但シ換算金額

昭和　年　月　日第　號工事材料交付通知分

右請求候也

住所

氏　　名印

號　第　號番

東京都長官　殿

（第四號）

前書ノ金額正ニ受領候也

昭和　年　月　日

右

氏　　名印

（第五號）日本標準規格B4

改修費申告書

一金

東京都長官　殿

【防衛】



內譯

本工事費金

但シ元請負金額

設計料金

附帶工事費金

右ノ通相違無之候ニ付別紙證憑書類相添（申告候也、

昭和　年　月　日

住所

東京都長官　殿　　氏　　名印

## ●東京都防衛局防火改修課出張所處務規程

昭和十八年七月一日
東京都訓令甲第八十九號
長官官房　防衛防　防衛局防火改修課出張所

第一條　東京都防衛局防火改修課ニ出張所ヲ置ク

第二條　出張所（以下所ト稱ス）ハ所管區域內ニ於ケル左ノ事務ヲ掌ル

一　木造建物防火改修工事ノ督勵及監督ニ關スル事項

二　木造建物防火改修ノ相談及連絡ニ關スル事項

第三條　所ニ所長及職員若干人ヲ置ク

第四條　所長ハ主事又ハ理工技師ヲ以テ之ニ充ツ防衛局員ノ中ヨリ防衛局長之ヲ命ジ職員ハ防火改修課員ノ中ヨリ防火改修課長之ヲ配屬ス

第五條　所長ハ防衛局防火改修課長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理シ所員ヲ指揮監督ス

第六條　所長事故アルトキハ次席者其ノ職務ヲ代理ス

第七條　左ニ揭グル事項ハ所長限リ之ヲ處理スルコトヲ得

一　所務ニ關シ職名又ハ所名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲スコト

二　職員以下ニ時間外勤務ヲ命ズルコト

三　區ノ存スル區域內ニ於ケル出張ヲ命ズルコト

四　職員以下ノ休暇、蒸參、看護及施行ヲ許否シ竝ニ除服出仕ヲ命ズルコト

五　其ノ他定例アル事件ニシテ輕易ナルモノ

第八條　所長ハ毎月十日限リ前月中ノ事務成績ヲ防衛局防火改修課長ニ報告スベシ

第九條　本規程ニ定ムルモノヲ除クノ外都廳中處務細則ヲ準用ス

【防衛】

# 第五編　防空設備資材

# 第五編　防空設備資材

## 第一章　防空設備

### ●東京都防空設備管理規程

昭和十九年一月一日
東京都訓令甲第八號

區内一般　區役所　地方事務所　支廳　各課

**第一章　總則**

**第一條**　防空設備ノ管理ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規程ニ依ル

**第二條**　本規程ニ於テ防空設備（以下設備ト稱ス）トハ空襲ニ因ル被害ヲ防遏スル爲設置セル設備ヲ謂フ

**第三條**　設備ノ管理者ハ廳中處務細則其ノ他ノ規定ノ定ムル所ニ依ル他ノ施設物ニ設置セル設備ノ管理ハ當該施設物ノ管理者之ヲ爲スベシ

**第四條**　設備ノ工事主管局、區、地方事務所、支廳又ハ廓ノ工事完成シタルトキハ第一號樣式ニ依リ第三條ノ管理者ニ引渡ヲ爲スト共ニ第二號樣式ニ依リ防衞局長ニ其ノ旨通知スベシ

防衞局長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第三號樣式ニ依リ使用者等關係先ニ通知スベシ

**第五條**　管理者ハ第四號樣式ニ依リ設備臺帳ヲ作成シ設備ノ管理ニ付左ノ事項ヲ定メ防衞局長ヲ經テ都長官ニ報告スベシ

一　管理擔當者ノ選任又ハ委嘱及其ノ監督方法
二　緊急事態ニ應ズル使用方法
三　設備ノ點檢方法
四　其ノ他必要ナル事項

**第六條**　管理者必要アリト認ムルトキハ設備ノ管理ヲ他ニ委託スルコトヲ得

設備ノ管理ヲ他ニ委託セントスルトキハ管理ノ範圍ヲ指示シ相手方ヨリ承諾書ヲ徵スベシ

前二項ノ場合ニ於テ管理者ハ管理受諾者ヲシテ第七條、第八條及第二章乃至第四章ノ規定ニ準ジ管理セシムルコトヲ要ス

**第七條**　管理者ハ毎月一回以上設備ノ巡視點檢ヲ爲スベシ但シ空襲其ノ他ノ災害アリタル場合ハ其ノ都度之ヲ行フベシ

巡視點檢ノ爲他人ノ土地又ハ邸内ニ立入ル必要アル場合ハ身分及用件ヲ說明シ相手方ノ承諾ヲ求ムベシ

**第八條**　管理者ハ設備ニ損傷其ノ他ノ異狀ヲ認メタルトキハ速ニ復舊整備ノ措置ヲ講ズベシ

**第九條**　管理者ハ設備ノ使用不能トナリタルトキ又ハ空襲其ノ他ノ災害ニ因リ著シキ被害ヲ生ジタルトキハ其ノ狀況ヲ第五號樣式ニ依リ防衞局長ニ通知スルト共ニ使用者等關係先ニ通知スベシ

**第十條**　設備ノ廢止又ハ改造、修理等ニ依リ著シキ異動ヲ生ジタルトキハ管理者ハ之ヲ第六號樣式ニ依リ防衞局長ニ通知スルト共ニ使用者等關係先ニ通知スベシ

**第十一條**　管理者ハ設備ノ使用ニ付必要アルモノニ付テハ收容者ヲ豫定シ又ハ周知連絡ノ措置ヲ講ジ置クベシ

前項ノ殘部補强ニ用フル資材中屋内ニ取付クルモノハ廊下等ニ其ノ他ノモノハ所定ノ格納庫ニ保管スルコト

點檢ニ際シテハ取付ケアル補强材ノ破損又ハ緩ミ竝ニ保管中ノ補强材及附屬品ノ所定數ノ有無等ニ付留意スルコト

(ロ)開口部ニ木扉取付ノモノ

教室及廊下窓ノ下段ノ扉ハ常時閉鎖シ置キ其ノ他ノ扉ハ警戒警報又ハ空襲警報(警戒警報ノ發令ナクシテ發令セラレタル場合)發令セラレタルトキ閉鎖シ警戒警報解除ニ依リ開扉スルコト

點檢ニ際シテハ扉ノ開閉具合ノ良否及閂、楔ノ所定數ノ有無、差込金具其ノ他ノ器具ノ破損等ニ付留意スルコト

地階防護室

二　警戒警報發令セラレタルトキハ出入口ノ扉ヲ開キ使用ノ準備ヲ整フルコト

點檢ニ際シテハ出入口、非常口、防毒扉、電燈設備及床板ノ破損竝ニ滯水ノ有無、水槽及便所ノ清潔保持等ニ留意スルコト

**第五節**　救護所防護室

**第十六條**　管理者ハ警戒警報發令セラレタルトキハ窓ノ補强材ヲ取付ケ電燈設備、防毒扉、水槽等附帶設備ノ點檢ヲ爲シ使用ノ準備ヲ整フベシ

**第十七條**　管理者ハ窓ニ取付クベキ補强材ヲ散逸又ハ腐朽セシメザル如ク一定ノ場所ニ保管スベシ

**第十八條**　管理者ハ救護所防護室ノ清潔ヲ保持シ有事ノ際ノ使用ニ支障ナキ如ク整備シ置クベシ

**第六節**　待避所

**第十九條**　管理者ハ無掩蓋待避所ニ付左ノ事項ヲ留意シ隨時點檢ヲ行ヒ之ガ滯留、補修等必要ナル措置ヲ講ズベシ

【防衛】

一　土嚢、堆土ノ損傷、崩壞及壕内ノ埋沒防止竝ニ清潔保持

二　石、煉瓦等危險物ノ除去

三　標識ノ散逸防止

四　道路側溝ノ閉塞防止

五　地下埋設物ノ防護及埋設物ニ因ル危險防止

**第二十條**　管理者ハ國民學校一階床下待避所ニ付左ノ事項ニ留意シ隨時點檢ヲ行ヒ之ガ清掃、補修等必要ナル措置ヲ講ズベシ

一　通風及清潔ノ保持

二　地下湧水及雨水流入ノ防止

三　掘鑿面、土嚢及入口階段ノ損壞、腐朽ノ防止

四　校舍ニ對スル影響

## 第三章　水利施設

### 第一節　防火水道

**第二十一條**　管理者ハ防火水道ノ取水及送水喞筒ノ試運轉ヲ毎週一回以上送水管及消火栓ノ巡視、點檢ヲ隔日ニ行フベシ

### 第二節　貯水槽及防火用貯水池

**第二十二條**　管理者ハ貯水槽及防火用貯水池ヲ常時滿水ノ狀態ニ置クベシ

充水ニ付テハ所轄消防署ト連絡ヲ採リ遺漏ナキヲ期スベシ

**第二十三條**　管理者ハ消防自動車ノ活動ニ支障ナカラシムル爲貯水槽及防火用貯水池周邊ノ障碍物ノ除去ニ留意スベシ

**第二十四條**　管理者ハ貯水槽ノ使用ニ當リ人孔蓋ヲ容易ニ取除キ得ル如ク常ニ留意シ破損又ハ紛失セル場合ハ木蓋等ニテ假蓋ヲ爲シ危險ヲ防止スベシ

**第二十五條**　管理者ハ防火用貯水池ノ人止柵ノ破損及蚊ノ發生防止ニ留意シ粘土構造ノ防火用貯水池ニハ放魚ヲ禁止シ保全上遺憾ナキヲ期スベシ



**第二十六條**　管理者ハ平時ニ在リテハ差込式堰止ノ差蓋ヲ取外シ又ハ引上式堰止ノ堰枠ヲ引上ゲ置キ防空警報發令セラレタルトキハ差蓋ヲ嵌込ミ又ハ堰枠ヲ下シ流水ヲ滯溜セシメ警戒警報解除セラレタルトキハ差蓋ヲ取外シ又ハ堰枠ヲ引上ゲ流水ヲ疏通セシムベシ

**第二十七條**　管理者ハ引上式堰止ノ開閉程度ヲ容易ニ推測シ得ル如ク豫メ桿棒ニ目盛ヲ附シ開扉中使用スル支木又ハ楔ハ脫落セザル樣留意スベシ

**第二十八條**　管理者ハ差蓋嵌込ニ際シ差蓋相互及敷居ト差蓋トヲ密着セシムル樣留意スベシ

**第二十九條**　管理者ハ差蓋及附屬品ヲ平時最寄ノ一定ノ場所ニ保管シ散逸又ハ毀損セザル樣留意スベシ

差蓋二枚以上ニ亙ルトキハ之ニ適宜ノ表示ヲ爲シ嵌込ニ際シ支障ナキヲ期スベシ

**第三十條**　管理者ハ敷居及其ノ附近ニ土砂、塵芥等ノ滯留セザル樣留意スベシ

**第三十一條**　管理者ハ堰止中增水又ハ暴風雨等ニ因リ設備ノ破損又ハ附近ノ土地ニ氾濫ノ虞アルトキハ速ニ適宜ノ措置ヲ講ジ最寄消防署ニ連絡スベシ

**第三十二條**　管理者ハ消防自動車ノ運轉ニ支障ナキ樣常ニ進入路ノ障碍物ノ除去及車止ノ可否ニ留意スベシ

**第三十三條**　管理者ハ呼水設備ノ開閉用「バルブ」ノ可否、導入管閉塞及漏水ノ有無ニ留意スベシ

**第三十四條**　管理者ハ吸管投入桝ニ泥土塵芥ノ堆積セザル樣常ニ淺渫ヲ完全ニ行フベシ

**第三十五條**　管理者ハ橋梁吸管投入孔ノ蓋ノ開閉ヲ容易ナラシムル樣整備

シ置クベシ

**第三十六條**　管理者ハ防火用井戸ヲ常時適度ニ使用シ吸水管及「ポンプ」等ノ乾燥其ノ他ニ因ル破損防止ニ留意スベシ

**第四章**　其ノ他施設

**第一節**　防空標識燈

**第三十七條**　管理者ハ防空標識燈ヲ防空警報發令中日没ヨリ日出マデ點燈シ警戒警報解除ニ依リ消燈スベシ

**第三十八條**　管理者ハ「ガラス」電球ノ破損其ノ他燈具ニ異狀ヲ認メタルトキハ直ニ消燈其ノ他ノ方法ニ依リ漏光及危險防止ノ處置ヲ爲スト共ニ其ノ狀況ヲ防衛局長ニ通知スベシ

**第三十九條**　管理者ハ停電若ハ電燈線ノ故障ニ依リ漏光及危險防止ノ處置ヲ爲シ得ザルトキハ速ニ修理又ハ取替ヲ爲スベシ

防衛局長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ修理又ハ取替ヲ爲スベシ

**第四十條**　本規程ハ昭和十九年一月一日ヨリ之ヲ適用ス

**第四十一條**　昭和十八年五月東京市防空設備管理規程ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

年　月　日

（管理者名）殿

（工事主管長　名）

第二號樣式

年　月　日

防衛局長　殿

（設備名）引渡書

標記防空設備左ノ通完成候ニ付引渡候也

| 設置場所 | 構造 | 容量 面積 | 容積 | 數量 | 收容人員 | 年號月日工事 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

第三號樣式

年　月　日

防衛局長　殿

（設備名）完成通知

標記防空設備左ノ通完成候條通知候也

| 設置場所 | 構造 | 容量 面積 | 容積 | 數量 | 收容人員 | 工費 | 竣工年月日 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

（工事主管長　名）





第四號樣式

年　月　日

（管理者名）殿

東京都防衛局長

防空設備完成通知

防空設備左ノ通完成候條通知候也

| 設備名 | 設置場所 | 構造 | 容量 面積 | 容積 | 數量 | 收容人員 | 年號月日工事 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |
| | | | | | | | | |

第五號樣式

番號　　防空設備臺帳

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 設備名 | | 引渡 | 昭和　年　月　日 | | |
| 設置場所 | | 借賃者 | | | |
| 構造 | | 委託 | 昭和　年　月　日 | | |
| 面積 | 容積 | 數量 | 收容人員 | 委託先住所氏名 | |
| | | | | 關係先 | |
| 竣功 | 昭和　年　月　日 | | | 土地所有者住所氏名 | |
| 摘要 | | | | | |

第六號樣式

年　月　日

（管理者名）

防衛局長　殿

標記ノ件左ノ通異動有之候條通知候也

| 設備名 | 設置場所 | 着手事項 | 新事項 | 異動事由 | 異動年月日 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

## ●東京都横穴式防空壕助成規程

昭和十八年一月二十七日
東京都告示第七十六號

**第一條**　横穴式防空壕ヲ築造スル町會隣組其ノ他ノモノニ對シ本規程ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付ス

**第二條**　助成金ハ其ノ築造費ノ二分ノ一以内ニ於テ之ヲ交付ス但シ一箇ニ付參百圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

**第三條**　助成金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ助成申請書（第一號樣式）ヲ區長ニ提出スベシ

**第四條**　區長前條ノ申請ニ付審査ノ上助成ノ決定ヲ爲シタルトキハ申請者ニ對シ其ノ旨指令ス

**第五條**　横穴式防空壕ノ築造竣工シタルトキハ申請者ハ竣工屆（第二號樣式）ニ精算書ヲ添ヘ助成金請求書（第三號樣式）ヲ提出スベシ

**第六條**　區長ハ隨時必要ナル檢査又ハ指示ヲ爲スコトヲ得

**第七條**　本規程若ハ之ニ基ク規則命令又ハ區長ノ指示ニ違反シタルトキハ區長助成金交付ノ決定ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル助成金ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

**第八條**　本規程施行ニ關シ必要ナル諸樣式ハ別記ノ通之ヲ定ム

**第九條**　本規程ハ都ノ區ノ存スル區域ニ之ヲ施行ス

別記

第一號樣式　横穴式防空壕助成申請書
第二號樣式　横穴式防空壕築造竣工屆
第三號樣式　横穴式防空壕助成金請求書
第一號樣式
横穴式防空壕助成申請書

一、築造時期
一、築造場所
一、名稱
一、收容豫定人員
一、所屬戸數及防空群數
一、所要經費見積額
一、維持管理方法

右之通築造致度候間東京都横穴式防空壕助成規程ニ依リ助成金交付相成度設計書、土地使用承諾書、防空壕築造地域竝所屬戸數表相添ヘ及申請候也

年　月　日

住所
氏　名印

區長　殿

第二號樣式　横穴式防空壕築造竣功屆

一、件　名
一、指令番號
一、築造場所
一、築造竣工年月日

右之通築造竣工致候間及御屆候也

年　月　日

住所
氏　名印

區長　殿

【防衛】



第三號樣式

横穴式防空壕助成金請求書

一金　　圓也

但シ指令第　號ヲ以テ助成金交付決定ニ係ル分

右助成金交付相成度別紙精算書相添ヘ及請求候也

年　月　日

住所
氏　名印

區長　殿

前書ノ金額正ニ領收候也

年　月　日

## ●東京都防空井整備要綱

昭和十八年十月二十八日
東京都告示第四百五十三號

**第一**　本都ハ空襲其ノ他非常災害時ニ於ケル防火用水及飲料水ヲ確保スル爲都民ノ協力ヲ受ケ要綱ニ依リ防空井ヲ整備ス

**第二**　防空井トハ都ノ助成ヲ受ケ設置又ハ改修（淨水裝置ヲ含ム）シタル井戸、噴泉其ノ他湧水利用施設及公設又ハ私設ノ井戸ニシテ一般ノ使用ニ開放セラレタルモノヲ謂フ

**第三**　防空井ノ整備ハ概ネ各隣組ヲ單位トシテ之ヲ行フ

**第四**　隣組ニシテ現ニ防空井ヲ有セザルトキハ新ニ之ヲ設置スルガ如ク措置スルモノトス

**第五**　工場、學校、病院、共同住宅等ニ供スル防空井ハ第三ニ準ジ設置又ハ改修ヲ爲スモノトス

**第六**　本都ハ防空井ノ整備ニ關シ別ニ定ムル規程ニ依リ助成ヲ爲スノ外資材及施行者ノ斡旋ヲ爲スモノトス

**第七**　本都ハ都民ノ設置スルモノノ外特ニ必要ト認ムル場所ニ對シテハ別ニ防空井ヲ設置ス

**第八**　都民ハ隣組毎ニ防空井ノ共同使用組織ヲ編成スルモノトス

**第九**　防空井ノ所有者又ハ管理者ハ特別ノ事由ナキ限リ非常災害及防空訓練ニ際シ其ノ防空井ノ使用ヲ一般ニ開放スルモノトス

**第十**　隣組長ハ其ノ所在ノ防空井ニ付湧水量、水質等ヲ調査スルト共ニ豫メ非常ノ際ノ使用方法ヲ定メ之ヲ隣組員ニ周知セシメ置クモノトス

**第十一**　町會長ハ隣組ト協力シ防空井ノ設置又ハ使用組織ノ斡旋ヲ爲スモノトス

**第十二**　防空井整備ノ事務ハ水道局ニ於テ之ヲ行ヒ水道局業務課營業所又ハ區役所ハ之ガ整備ニ付都民ノ相談ニ應ズルモノトス

**第十三**　本要綱ノ實施區域ハ都ノ區ノ存スル區域トス

附　則

本要綱ハ昭和十八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

## ●東京都防空井助成規程

昭和十八年十月二十六日
東京都告示第五百五十四號

**第一條**　東京都防空井整備要綱ニ依リ防空井ノ設置、改修（淨水裝置ヲ含ム以下同ジ）又ハ噴泉等ニ共同使用ノ裝置ヲ爲ス者ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付ス

**第二條**　助成金ハ防空井ノ設置、改修、噴泉等ニ共同使用ノ裝置ヲ爲シタ

【防衛】

ル費用ノ三分ノ二以内ニ於テ之ヲ交付ス
但シ一箇ニ付淨水裝置ハ三十圓其ノ他ハ三百三十圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
**第三條**　助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ助成申請書ヲ水道局業務課營業所又ハ區役所ヲ經由シ都長官ニ提出スベシ
**第四條**　都長官前條ノ申請ニ付助成ノ決定ヲ爲シタルトキハ申請者ニ對シ其ノ旨指令ス
**第五條**　工場竣功シタルトキハ申請者ハ竣功屆及精算書ヲ添ヘ助成金請求書ヲ提出スベシ
**第六條**　水道局業務課營業所長ハ隨時必要ナル檢査又ハ指示ヲ爲スコトヲ得
**第七條**　都長官必要アリト認ムルトキハ第二條ノ助成金ノ全部又ハ一部ニ代ヘ所要ノ資材ヲ交付スルコトヲ得
**第八條**　本規程及之ニ基ク本都ノ指示ヲ履行セザルトキハ助成金ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ
**第九條**　本規程施行ニ關シ必要ナル樣式ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

**第十條**　本規程ハ昭和十八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
**第十一條**　本規程施行前既ニ區長ニ助成ノ申請ヲ爲シタル者ニ對スル助成ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル





# 第二章　防空資材

## ●東京都都民用防空資材配給規程

昭和十七年七月二十五日
東京都告示第四百四號

改正　昭和一九年一月告示第七五號

**第一條**　東京都都民用防空資材ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ之ヲ配給ス
**第二條**　防空資材ノ配給ヲ受ケントスル者ハ町會長ヲ經テ所轄區長ニ之ガ申込ヲ爲スベシ
**第三條**　防空資材ハ區長ニ於テ町會長ヲ經テ申込者ニ之ガ配給ヲ爲ス
**第四條**　都長官必要アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ依ルノ外都長官ニ於テ之ヲ配給スルコトアルベシ
**第五條**　防空資材ノ配給ハ有償トシ代金ハ前納トス但シ都長官必要アリト認ムルトキハ之ヲ減免スルコトアルベシ
**第六條**　配給シタル防空資材ハ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ本都ノ區ノ存スル區域ノ外ニ移出スルコトヲ得ズ但シ防空資材所有者本都ノ區ノ存スル區域ノ外ニ轉居スル場合ニ於テハ之ヲ隣組員ニ讓渡スルコトヲ得
**第七條**　都長官必要ト認ムルトキハ配給シタル防空資材ノ提出ヲ命ジ又ハ檢査ヲ爲スコトアルベシ
**第八條**　本規程又ハ都長官ノ指示ニ違反シタル場合ハ防空資材ノ配給ヲ爲サズ又ハ既ニ配給シタル資材ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ
**第九條**　防空資材ノ配給ニ關シ必要ナル事項ハ配給要綱ニ依リ都長官長別ニ之ヲ定ム
**第十條**　本規程ハ都ノ區ノ存スル區域ニ之ヲ施行ス

附　則

本規程ハ昭和十七年七月二十五日ヨリ之ヲ施行ス

## ●東京都都民用防空資材配給規程取扱手續

昭和十七年七月二十五日
東京都訓令甲第八十七號
總務局　財務局　市民局　防衛局　各區役所宛

改正　昭和一九年一月第二一號

**第一條**　本手續ニ於テ規程ト稱スルハ東京都都民用防空資材配給規程ヲ謂フ
**第二條**　規程第九條ノ配給要綱ハ豫メ之ヲ區長ニ通知ス
**第三條**　區長防空資材ノ配給ヲ爲サントスルトキハ前條ノ配給要綱ニ基キ町會長ヨリ申込書ヲ徵スベシ
**第四條**　區長規程第五條ノ防空資材代金ヲ町會長ヨリ前納セシムル場合ニ於テハ納付書兼納付額通知書ニ依ルベシ
前項ノ代金ハ之ヲ市雜部金庫ニ拂込シ都長官ノ發行スル納付書兼納付額通知書ニ依リ區派出市金庫ニ拂込ムベシ
**第五條**　防衛局ニ都民用防空資材ノ出納保管ニ關スル事務ヲ執行スル爲用品出納吏ヲ置キ都長官之ヲ命ズ
都長官必要ト認ムルトキハ用品出納吏代理者若干人ヲ置クコトヲ得
用品出納吏ハ防衛局長ノ命ヲ承ケ所管ノ出納事務ヲ執行シ用品出納吏代理者ハ用品出納吏事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス
**第六條**　用品出納吏防空資材ヲ受入レタルトキハ檢査證其ノ他必要ナル證憑書類ニ基キ防空資材出納簿（以下出納簿ト稱ス）ニ受入登記ヲナスベシ
**第七條**　區長第三條ノ申込ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査ノ上防空資材配給請求書ヲ防衛局長ニ提出スベシ

防衛局長前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ用品出納吏ニ拂出ヲ命ジ請求區長ニ對シ配給決定通知書ヲ送付スベシ

**第八條**　用品出納吏防空資材ヲ請求區ノ物品出納吏ニ引渡ス場合ハ送付書ヲ以テシ受領書ヲ徵スベシ

**第九條**　用品出納吏防空資材ヲ拂出シタルトキハ受領書ニ依リ出納簿ニ拂出登記ヲ爲シ直ニ防衛局長ニ拂出報告ヲ爲スベシ

防衛局長用品出納吏ヨリ前項拂出報告ヲ受ケタルトキハ其ノ代價ヲ計算シ速ニ第四條第二項後段ニ定ムル收入手續ヲ爲スベシ

前項ノ收入手續ハ配給請求書及受領書ニ依リ之ヲ行フ

**第十條**　用品出納吏ハ毎月出納計算書ヲ作成シ之ヲ翌月十日迄ニ防衛局長ニ提出スベシ

**第十一條**　用品出納吏ハ出納簿ヲ備ヘ防空資材ノ出納ヲ整理スベシ

**第十二條**　用品出納吏ハ毎年九月末日及三月末日現在ニ於テ其ノ保管ニ係ル用品ノ棚卸ヲ行ヒ用品棚卸表ヲ作成シ翌月十日迄ニ之ヲ財務局長ニ提出スベシ

**第十三條**　本手續施行ニ關シ必要ナル樣式ハ別紙ノ通之ヲ定ム

（樣式省略）

## ●東京都警防團資材倉庫建設事務規程

昭和十八年五月十五日
東京市訓令甲第六十九號

改正　昭和一九年一月訓二號

**第一條**　警防團資材倉庫（以下倉庫ト稱ス）ノ建設ニ關シテハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規程ニ依ル

**第二條**　倉庫ノ標準ハ十坪ノ防火建築トス但シ土地ノ狀況ニ依リ已ムコトヲ得サル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

**第三條**　倉庫建設ニ關スル事項中區長分掌ニ係ルモノハ左ノ各號ニ揭クルモノヲ指稱ス

一　倉庫敷地ノ測量選定ニ關スル事項
二　建築設計ニ關スル事項
三　建築上必要ナル許可認可申請、屆出ニ關スル事項
四　建築工事ノ契約、執行及監督ニ關スル事項
五　其ノ他倉庫建設ニ附帶スル事項

**第四條**　倉庫建設ニ關スル左ノ各號ノ事務ハ都長官之ヲ掌理ス

一　倉庫建設事業計畫ニ關スル事項
二　豫算ノ編成及令達ニ關スル事項
三　關係官廳ニ對スル建築用資材其ノ他ノ許可認可申請、屆出及法令ニ依リ市長ノ事務ニ關スル事項
四　其ノ他前條ニ規定セサル事項

**第五條**　區長ハ警察、消防署長ノ行フ倉庫建設用地ノ決定ニ協力スヘシ

前項ノ用地市有地ナル場合ハ當該用地ノ管理者ニ對シ使用ノ承認ヲ受クヘシ

**第六條**　區長ハ都長官ノ別ニ指示スル標準設計ニ準據シ倉庫建設ニ關スル設計ヲ爲スヘシ

區長標準以上ノ設計ヲ爲サントスルトキハ都長官ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

**第七條**　區長ハ令達豫算ノ範圍内ニ於テ工事ヲ執行スヘシ

**第八條**　倉庫建設ニ要スル費用ノ一部ハ材料ヲ以テ之ヲ區長ニ配布スルコトアルヘシ

前項ノ材料ニシテ殘餘ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ都長官ニ返納スヘシ





**第九條**　材料ノ配布ヲ受ケタル工事竣工シタルトキハ十日以内ニ配布材料使用精算書ヲ提出スヘシ

**第十條**　區長ハ翌年度ニ繰越スヘキ工事ニ付テハ二月末日迄ニ都長官ニ報告スヘシ

**第十一條**　令達ヲ受ケタル建設費ニ關シテハ毎年度ノ支出見込額報告書ヲ翌年度四月十日迄ニ提出スヘシ

**第十二條**　都長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ隨時工事ニ關シ檢査ヲ行ヒ又ハ書類ヲ提出セシムルコトアルヘシ

**第十三條**　工事竣工シタルトキハ遲滯ナク精算書ヲ添附シ關係書類ト共ニ都長官ニ引繼クヘシ

**第十四條**　本規程施行上必要ナル樣式ハ別記ノ通之ヲ定ム

**第十五條**　本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ防衛局長別ニ之ヲ定ム

**第十六條**　本規程ハ都ノ區ノ存スル區域ニ之ヲ施行ス

第一號樣式（第九條）

何々警防團（本分團）資材倉庫建設工事用配付材料使用精算書

| 品名 | 設計額 | | 受領額 | | 使用額 | | 殘額 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 數量 | 金額 | 受領年月日 | 數量 | 單價 | 金額 | 數量 | 單價 | 金額 | |
| | | 圓 | | | 圓 | 圓 | | 圓 | 圓 | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

(イ)殘額說明
(ロ)殘額返納ノ有無

第二號樣式（第十條）

警防團資材倉庫建設費令達豫算支出見込額報告書（　年度）

| 件名（箇所別） | 令達豫算 | | 本年度支出濟及支出見込額 | 翌年度繰越額 | 不用額 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 年月日 | 番號 | 金額 | | | |
| | | 圓 | 圓 | 圓 | 圓 | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 計 | | | | | | |

第三號樣式（第十一條）

警防團資材倉庫建設工事繰越施行調書（　年　月　日調）

| 件名（箇所別） | 著手又ハ着手豫定 | 竣功豫定 | 工事費年度割額 | 繰越事由 |
|---|---|---|---|---|
| | 年月日 | 年月日 | 年度　年度　計 | |
| | | | 圓　圓　圓 | |

# 第六編　防空指導





| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| 計 | | | | | | | | | | | |

## ●小型腕用消防ポンプ管理ニ關スル件

昭和十七年八月八日
防發第四二八四號

防衛局長通牒

區町宛

昭和十七年五月二十五日防發第三一七四號ヲ以テ配付スベキ標記ポンプノ管理ニ關シテハ物品會計規程ニ基ク出納吏ノ管理ノ外當分ノ間別紙要領ニ依リ措置ノ上遺憾ナキヲ期セラレ度候也

追而右要領ニ基ク保管臺帳及ポンプ臺帳ハ本市ニ於テ作製シ別途送付可致ニ付申添候

東京市隣組防空群用小型腕用消防ポンプ管理要領

一、本市ハ政府ノ通牒ニ基キ國庫補助ヲ受ケ小型腕用消防ポンプヲ整備ノ上之ヲ本「市」内隣組防空群ニ配置シ有事ニ於ケル初期防火ニ遺憾ナキヲ期スルコト、チリタルニ付本要領ニ依リ之ガ管理ヲナスモノトス

二、配置方法

本「市」ハ警視廳ト協議ノ上配置順序其ノ他配置方法ヲ決定シ逐次所要臺數ヲ區長ニ配付シ區長ハ區内消防署長ト協議シ隣組防空群ニ配置シ之ヲ使用セシムルモノトス

三、區長ノ管理

區長ハ小型腕用消防ポンプノ管理ヲ左記ニ依リナスモノトス

(一) 本「市」ニ於テ配付スル隣組防空群用小型腕用消防ポンプハ區長之ヲ管理シ區長ハ町會長ニ保管セシムルコト

(二) 區長ハ東京「市」物品會計規程第二十五條第十七號樣式ニ依ル領リ證ヲ本「市」ニ提出スルコト

(三) 區長ハ別紙(第一號樣式)管理臺帳ヲ備ヘ置キ管理ポンプ整理番號、配置町會名、保管者住所氏名等必要ナル事項ヲ記入整理スルコト

(四) 區長ポンプノ配置ヲ了シタルトキハ其ノ都度別紙(第三號樣式)ニ依ル配置報告書ヲ防衛局長ニ提出スルコト

(五) 區長ハ常ニ本ポンプノ保管維持ニ留意シ訓練其ノ他ノ場合必要ニ應ジ隨時係員ヲ派遣シ之ガ必要ナル事項ヲ指導スルコト

四、保管

保管ハ區長左記ニ依リ爲サシムルモノトス、

(一) 配置ポンプノ保管者ハ町會長トシ町會長ハ東京市物品會計規程第二十五條第十七號樣式ニ準ズル保管證ヲ區長ニ提出スルコト

(二) 町會長ハ別紙(第二號樣式)小型腕用消防ポンプ保管臺帳ヲ備ヘ保管並使用ニ伴フ重要事項ヲ記錄セシムルコト

(三) 保管場所ハ消防活動上適當ナル個所ヲ選ビ既設ノ建物ヲ利用スル等保管上遺憾ナキヲ期スル樣慫慂スルコト

五、事故報告

ポンプノ故障又ハ事故アリタル場合區長ハ文書ヲ以テ事由ヲ付シ報告ノ上本「市」ノ指示ヲ受クルコト

隣組用小型腕用消防ポンプノ管理ニ付テハ本要領ニ依ルノ外別ニ「市」長ニ於テ指示スルコトアルベシ

(樣式省略)

# 第六編　防空指導

## 第一章　一般防空

### ●時局防空必携


はしがき……三三二
第一　どんな空襲を受けるか……三三二
一、空襲の目標……三三二
二、空襲の時刻……三三二
三、空襲の程度……三三二
四、投下彈……三三二
第二　防空とは……三三二
第三　防空の組織……三三三
第四　家庭、隣組の防空……三三三
その一　ふだんの準備……三三三
その二　警戒警報が發令されたら……三三五
その三　空襲警報が發令されたら……三三六
その四　敵機が來たら……三三七
その五　燒夷彈が落ちたら……三三七
その六　火災になつたら……三三九
その七　爆彈が落ちたら……三三九
その八　毒瓦斯彈が落ちたら……三三九
その九　死傷者が出來たら……三四〇
その十　空襲警報が解除されたら……三四〇
第五　學校、工場、銀行、會社、病産院、興行場、集會、百貨店等に對する一般の心得……三四〇
一、學　校……三四〇
二、工　場……三四一
三、銀行、會社等……三四一
四、病　産　院……三四一
五、興行場、集會、百貨店等……三四一
第六　その他……三四二
一、路上通行者……三四二
二、鐵道、船舶等……三四二
三、食　糧……三四二
四、飲　料　水……三四三
五、郵便、貯金、電信、電話、電氣、ガス……三四三
六、銀行その他の金融機關……三四四
七、空襲による被害の救濟と保險……三四五
八、防　諜……三四五
九、罪と罰……三四五
附表第一　警報傳達一覽表……三四六
附表第二　各種燒夷彈效力判定表……三四七
附表第三　爆彈效力判定表……三四九

## はしがき

敵は絶えず空襲の機を狙つてゐる。何時どこの陸上基地や航空母艦から來襲するかもわからない。廣い大空では總ての敵機を捕へて一機も逃さず撃ち落すことは困難である。國民はしばしば空襲を受けることを覺悟しなければならない。

そこでどんな空襲にも役立つやう平素から準備をし、十分訓練を重ね非常に際しても、あわてたり、混亂することなく、落ちついて御國を守り抜かねばならない。

## 第一　どんな空襲を受けるか

豫想される空襲はどんなものであらうか。

一、空襲の目標

大都市が主な目標となることは勿論であるが、中小都市や戰爭遂行上必要な運輸、交通、生産の要點等も空襲の目標となるであらう。尚國民の戰意を挫く爲無差別に爆撃することもあらう。

二、空襲の時刻

明け方や月夜を利用することが多いであらう。

尚警報が發令されてゐないのに突然空襲があるかもわからない。

三、空襲の程度

飛行機の性能はだんだんよくなり、數もどんどん殖えてゐる。今後は相當大規模の空襲をくり返し受けるおそれが多い。

四、投下彈

燒夷彈を主とし爆彈も使ふであらう。

燒夷彈にはエレクトロン、油脂、黄燐等がある。多數の小型燒夷彈と燒夷力の大きな大型燒夷彈とを使用することもあり、更に爆彈を併用することもある。

爆彈は樞要部を破壞するためには大型のものも使用される。尚中には落ちてから暫く立つた後或は數日間以上も經つて不意に爆發する時限爆彈もある。

燒夷彈、爆彈の效力の概要は附表の通りである。

毒瓦斯彈や細菌彈を投下し、銃撃を行はないとは斷言出來ない。

尚宣傳ビラや燒夷カードを撒いたり、玩具や萬年筆に見せかけた謀略彈を撒いたりすることもある。

其の他空襲時には味方の高射砲の彈片が落ちてくることも注意せねばならない。

## 第二　防空とは



防空とは先づ敵機を發見する爲防空監視を行つたり、敵機來襲のおそれや危險のある事を知らせる爲警戒警報や空襲警報を傳へたり、燈火管制や擬裝をして敵機の目をくらましたり、その他各種の準備を整へて置き敵機の爆撃を受けたら火災を防いだり、負傷者の手當をしたり、壞された建物や、道路、橋等を修理したりして空襲の被害を出來るだけ少くすることを云ふ。

この防空は陸海軍の行ふ防衛に卽應して行はれるのであつて、軍官民が一體となりどんな困難にも打ち勝ちそれぞれの任務に邁進して初めて隙のない鐵壁の守りを固め得るのである。

## 第三　防空の組織

防空上最も大切なことは各自がそれぞれ全力を擧げてその持場を守ることである。その爲に自衞防空機關として家庭防空には隣組があり、官公署、學校、工場、銀行、會社等には特設防護團がある。

自衞防空機關の手の足りないところや力の及ばない場合には、警防團や警察署、消防署、市町村の防空機關等が出動して防空活動をする。その他防空監視に當る爲防空監視隊があり、また學校報國隊の防空補助員は警察署、消防署、警防團等の補助として活動する。

警防團、隣組、特設防護團、學校報國隊は秩序のある活動をすることが必要であるから、ふだんから互によく連絡し、準備を整へ、訓練を重ねて備かねばならない。特に指揮に當る者の指揮能力の向上が大切である。

## 第四　家庭、隣組の防空

### その一　ふだんの準備

今は防空實施中である。

備へがあれば憂へはない。

ふだんから次のやうな準備を整へ常に點檢し、訓練を重ねて、何時でも役に立つやうにして置かねばならない。

一、家庭

1　防火用資材

イ、水

量―建物延坪十五坪未滿は百リットル（約五斗五升）以上十五坪以上は概ね十坪に付五十リットル（約二斗八升）の割合で增加する。

容器―貯水槽、風呂桶、天水桶、樽、盥、バケツ等。

井戸水、池の水、流水等も出來るだけ利用する。

位置―家の構造や待避所の位置等を考へて、何處に燒夷彈が落ちてもすぐ間に合ふ所に配置する。

ロ、砂か土、五十リットル（約二斗八升）以上。

すくつて投げかける分と、袋に入れて投げつける分（一升位宛布か紙の袋に入れる）とに分けて置く。

ハ、莚、叺の類數枚。

ニ、注水用のバケツか手桶。

ホ、火叩き。

ヘ、蓋口（無ければ長棒）

ト、水びしやく

2　防空用服裝

防空活動に便利なものとし、有り合せのものを利用する。

皮膚を露出しない爲帽子か頭巾、手袋、足袋か靴の類。

頭と肩を覆ふ爲の鐵兜、座布團の類。

3　防毒面

當局より指定された所では備へる。

4　燈火管制用具。

5　蠟燭か懷中電燈。

6　非常袋の類。

手輕に持てるものにする。

7　三角巾、繃帶用の布。

有り合せの物で準備し、なるべく煮沸又は蒸氣消毒して置く。

8　待避所

當局より指示された所では必ず作る。

木造住宅に設けるものは出易い床下の地下か屋外の地下がよい。已むを得ないときは效力は少いが地上か床上に作る。床上に作る場合日常生活に差支へがあるときは警戒警報發令と同時に作れるやう準備して置く。

9　防火、燈火管制等について家族の任務を定めて置く。

10　家の周圍を片附けなるべく隣家との通路を作る。

11　燒夷彈等の落ちてゐる所を早く發見出來るやうに、天井や床下の掃除孔等をのぞけるやうにして置く。

12　押入、戸棚等を整理し屋根裏、床下等にある燃え易い物を片付ける。



13　不用の燈火は消して置く。

14　なるべく家を不在にしない。

不在にするときは隣家か隣組長（組長以外に隣組の防空を指揮する者があればその人に云ふ）に連絡する。

## 二、隣組

1　防火用資材

イ、水―一立方メートル（約五石五斗）以上を貯水する。

井戸水、池の水、流水等が利用出來ればそれでよい。

ロ、なるべく腕用ポンプ。

ハ、梯子、綱。

ニ、シヤベルか鍬。

2　防護監視所を設け、防護監視員の爲必ず待避所を作る。

3　空家や倉庫の警戒について打合せて置く。

4　隣組長は防護監視、防火、連絡等につき防空從事者（防空活動の出來る者）の分擔を定めて置く。

5　隣組長は最寄の警防團詰所、警察消防官署、救護所等の位置、電話番號を調べ、組内に知らせて置く。

6　隣組長は隣接する隣組との連絡、應援の方法等を定めて置く。

7　隣組長は時々組内の防空準備を點檢し、不十分な所や惡い箇所は改める。

## 三、計畫

何時、何處に燒夷彈や爆彈等が落ちても、すぐ應ぜられるやうに家庭も隣組も、特に次のことに注意し計畫する。

1　防空活動が出來る者は全部防空に當る。

2　夜と晝、休日と平日とに應じて人數が減つても防空活動に差支へのないやうにする。

3　防空用具の數、量、配置場所等を適當に定める。

## 四、訓練

計畫が立派で用具が十分でも訓練が足りないと役に立たない。

當局から命ぜられた時ばかりでなく、家庭も隣組も色々な場合特に防空活動の困難な夜や明方、或は防空活動に不便な場所に於ける訓練を眞劍に行ひ、その結果具合の惡い所を改め、更に訓練を重ねて必勝の自信を持つことが最も大切である。

### その二　警戒警報が發令されたら

## 一、家庭

1　防空用服を着る。
2　防火用水を點檢し、足りないところは補充する。更にあらゆる容器に水を滿たして、空襲警報が發令されても水を準備する必要がないやうにして置く。
3　注水用バケツ、砂、莚その他の防空用具を點檢し、使用に便利な所に配置する。
4　家の中のふすま、障子、ガラス戸で差支へないものは取外して邪魔にならない所に片付ける。
5　燃え易い危險な物と食糧は安全な所に置く。
6　待避所を使へるやうに準備する。床上に待避所を作る準備をしてある所ではすぐ作る。
7　防空從事者は家に在つて待機する。外出をしてゐたらすぐ歸る。已むを得ず不在にしたり、防空活動の出來ない者を殘して外出するときは隣家か隣組長に連絡する。
8　夜は警戒管制をする。
直ぐに空襲管制に移れるやうに準備して置く。

二、隣　組

1　隣組長は速かに警報を傳達する。
2　隣組長は組內の狀況を點檢し、防火用水その他の準備を完全にする。
3　防護監視員は何時でも任務につけるやう準備する。

## その三　空襲警報が發令されたら

一、家　庭

1　防空用服裝を完全にする。
2　門、倉庫、物置等の鍵を外す。
3　火元を始末し、ガスは元栓を閉める。
4　ホースがあれば水道の蛇口にしつかりとつける。
水道の水は貯水用には使はない。
5　隣家に接した雨戸やガラス戸は延燒防止のため全部閉める。但し鍵はかけない。
隣家に接しないガラス戸は破損防止と危害豫防のためなるべく取り外すか開放する。開放した場合雨戸や窓掛が附設されてゐれば、ガラス戸のある部分に雨戸や窓掛を引く。
隣家に接しないその他の雨戸はありのままでよいが、防空活動に差支へないやうにして置く。
爆彈に因るガラス破片の飛散防止の爲に、紙等を貼つて置く



のも一方法であるが、爆風の威力の程度や又場所によつては尙飛散するから、十分注意して危害を避けるやうにせねばならぬ。
6　家の中のふすまや障子を取り外して、邪魔にならない所に片付けるか開放する。
7　防空活動の出來ない者を待避所その他安全な場所に避難させる。
8　家財道具は持ち出してはならない。
9　夜は空襲管制をする。
總ての處置がすんだら防空責任者は今一度點檢し、防護監視員以外の防空從事者はすぐ待避出來るやう屋內に在つて待機する。

二、隣　組

1　隣組長は速かに警報を傳達する。
2　隣組長は防護監視員を配置する。
3　隣組長は空家や倉庫を警戒させる。
4　隣組長は組內の狀況を點檢し、不備の點を完全にする。

## その四　敵機が來たら

一、防護監視員は敵機を見たり、爆音や砲聲を聞いたら、その樣子を組內の者に大聲で知らせる。
防護監視員はそれが終つたら豫定の待避所に待避し、その後の樣子に注意し、危險が去つたら次の空襲に備へて防護監視に當る。
二、防護監視員の知らせによつてその他の防空從事者はすべて豫定の待避所で待機する。
三、連續して空襲を受けることもあるから、防空從事者は、この點に注意し油斷があつてはならぬ。

## その五　燒夷彈が落ちたら

一、燒夷彈の落ちた家庭
1　防空從事者は速かに防火に當ると同時に大聲で近隣に知らせる。
2　防火のやり方は
イ、最初の一分間が最も大切である。
ロ、どんな燒夷彈でも、水を周圍の燃え易いものにかけて、延燒を防止することが第一である。
ハ、燒夷彈の種類や狀況に應じ、併せて次の處置をする。

エレクトロン焼夷彈
莚類を水で濡らしてかけてその上に水をかけるか、砂袋を投げつけて燒夷彈の火を抑へる。
燒夷彈の火勢の弱いものは速かにシャベル等で屋外に運び出す。

油脂燒夷彈
莚類を水で濡らしてかけるか水をかけるか、バケツやシヤベルで砂や土を投げかけて油脂の火焰を消す。

黄燐燒夷彈
塊つて燃えてゐる黄燐には水をかけるか、莚類を水で濡らしてかけるか、バケツやシャベルで砂や土を投げかけて火焰を消すか、シヤベル等ですくひ出す。
飛び散つて燃えてゐる黄燐は水で濡らした火叩きで叩き消すか、水をかけて消す。
素手や素足で黄燐に觸れない。

二、燒夷彈が天井裏や屋根裏に止つたら、蔦口か長棒で突き落す。

ホ、燒夷彈が防火に不便な所に在るときは、蔦口か長棒で移動する。

へ、高い所や遠い所の火焰は水びしやくで水をかける。

ト、小火焰や火の子は火叩きで叩き消す。

3　黄燐は永く燃え續け、又一旦消した後でも燃え出すから、これを取り除けるか、安全な所に運び出して燃焼させる。

4　燒夷彈は家庭の何處に落ちてゐるかもわからない。押入、物置、天井裏、床下等にも注意する。

二、隣組

1　防空従事者は自宅に異狀がなかつたら、速かに現場に駈けつけ隣組長の指揮で全力を擧げて防火に當る。

2　隣接の隣組長は組内に異狀がなかつたら、防空従事者の一部を殘して警戒に當らせ他は應援させる。

3　隣組長は組内に燒夷彈が落ちたら、最寄の警防團詰所か警察消防官署に狀況を簡明に通知する。

4　隣組長は隣組の力で防火の見込がないと思ふときは、警防團や消防署の應援を求める。

5　隣組長は不發彈があつたら、これに觸れないやうに注意して最寄の警防團詰所か警察消防官署へ届け出る。



## その六　火災になつたら

一、火災になつても隣組長は警察消防官吏や警防團員の指圖があるまで、防空従事者を指揮して飽くまで消火や延燒防止に當る。

二、消火のやり方は

1　先づ燃え移らうとする所に水をかけ、火災の擴がるのを防ぐ。

2　次に燃えてゐる箇所に周圍から逐次水をかけて消す。

三、隣家への延燒防止のやり方は

1　火焰をかぶつてゐるときはその場所に水をかける。

2　強く熱氣をうけてゐるときは火を發し易い庇下、妻等に注意して水をかける。

四、火災を防ぐには多量の水が必要であるから絶えず水を補給する。

五、隣接の隣組長は組内に延燒の危險があるときは防空従事者を延燒防止に當らせ、危險のないときは防空従事者の一部を殘して警戒に當らせ、他は應援させる。

## 第六編　防空指導　第一章　一般防空

六、消防隊や警防團が到着したら、その指圖に従つて消防の補助に當る。

七、風下では飛火の警戒をする。飛火は火叩きで叩き消すか、バケツ、水びしやく等で水をかけて消す。

## その七　爆彈が落ちたら

一、爆彈の落下音を聞くか、附近に爆彈が落ち初めた時は、直ちに伏臥するか附近にある待避所を利用して咄嗟の危害を避ける。

二、爆彈は火災の原因となることもあるから注意する。

三、隣組長は組内に爆彈が落ちたら速かに狀況を最寄の警防團詰所か警察消防官署に通知する。

四、隣組長は不發彈があつたらその附近に近寄らないやうにし速かに最寄の警防團詰所か警察消防官署に通知して、その指圖に従ふ。

## その八　毒瓦斯が落ちたら

一、毒瓦斯に氣がつくか、毒瓦斯警報を聞いたら防毒面を持つてゐる者は直ちに着ける。

二、防毒面のない者は簡易吸收罐を用ひるか、それもないときは

濡れ手拭をたたみ口と鼻に當て、風上や風向と直角の無毒地帶に避ける。

三、隣組長は速かに最寄の警防團詰所か警察消防官署に通知する。

### その九　死傷者が出來たら

一、負傷してもひるんではならない。

二、輕傷者よりも重傷者の處置を先にする。

家屋等の下敷になつた者は早く救ひ出す。

三、手の足りないときは速かに警防團や警察署に通知して應援を求める。

四、處置のやり方は

1　重傷者は速かに救護所に送る。

イ、出血の多い者は應急止血をして送る。

ロ、骨折した者は取扱に注意する。

ハ、短時間で救護所に送れるときは手當をしないで送る。

2　輕傷者は應急手當をして活動を續けるか、救護所に行つて治療を受ける。

3　窒息瓦斯傷者は安靜にして救護所に送り、糜爛瓦斯傷者は應急除毒をして救護所に送る。

4　催涙瓦斯傷者や、くしやみ瓦斯傷者は自分で應急手當をするか、救護所に行つて治療を受ける。

五、救護所に收容された患者やその附添人は靜かに係員の指圖に從ふ。

六、死亡者は懇ろに且つ速かに收容する。

### その十　空襲警報が解除されたら

一、警戒警報の發令された狀態に移る。

二、次の空襲に備へて總ての準備を完全にして置く。

三、隣組長は組内の被害の狀況を町會長と最寄の警察官署に届け出る。

四、隣組長は彈片その他の落下物を警察署へ届け出る。

## 第五　學校、工場、銀行、會社、病産院、興行場、集會、百貨店等に對する一般の心得

一般の者は學校、工場、銀行、會社、病産院、興行場、集會、百貨店等に對しては家庭、隣組の防空に最も關係の深い次のやうなことを特にふだんから心得て置かねばならない。



1　學生、生徒、兒童にはふだんから防空に都合のよい服裝を準備して置く。

2　警戒警報で特定の都市では原則として授業を休止する。

學校報國隊の防空補助員は所要に應じ豫め定められた消防、救護その他の防空業務にあたる。

3　空襲警報が家に居る場合發令されたら、學校で定められた任務のあるものは直ぐ任務につく。

もし登校又は歸宅の途中であつたら任務のあるものは直ぐ任務につく。その他は、學校か家庭の何れかなるべく近い方に行く。

### 二、工場

1　特設防護團員は、何時防空警報が發令されても直ぐ職場に駈けつけられるやうに準備して置く。

2　防空警報が發令されても、作業を續け生産を減少させないやうに努めるのが建前である。

3　工場に働く一般の産業戰士は空襲警報發令中でも、ふだんの通り出勤時間までに職場に行く。

### 三、銀行、會社等

1　防空警報が發令された場合の一般勤務者の出勤は、勤め先の定めた通りにする。

### 四、病産院

1　空襲警報が發令されても、必要な手術やお産の手當は行はれる。

2　救護所に充てられる病産院に入院してゐる輕い患者は、空襲の狀況によつては退院させられることもある。

3　空襲の際入院患者の安否を直ぐ電話で問ひ合せたり、行つてただすことは防空活動の妨害となるから是非愼まねばならぬ。

### 五、興行場、集會、百貨店等

1　警戒警報が發令されたら

興行場、百貨店へ行かないやうにする。

集會へも已むを得ないものの外は行かない。

演說會や講演會その他集會は屋外では行はれない。

2　空襲警報が發令されたら

興行や集會はすべて行はれない。

これ等の場所に居るときは、係員の指圖に從はねばならぬ。

3　何時防空警報が發令されてもよいやうに、豫め防火用資材の配置、非常口、待避所の位置等は努めて承知して置く。

## 第六　その他

次のことは防空上心得て置く。

一、路上通行者

1　防空警報が發令されたら速かに自分の持場の家庭か職場に駈けつける。

2　敵機を見たり、爆音や砲聲を聞いたら

イ、最寄の待避所に待避する。

附近に待避所がなかつたら、地形地物を利用して姿勢を低くする。それも出來ないときは地面に伏せる。

待避をするときはなるべく分散し、先を爭つたりして混亂を起さないやうにする。

ロ、附近の家に燒夷彈が落ちたら、その防火に協力せねばならぬ。

ハ、車輛は消火栓、道路の交叉點、曲角、橋等を避け速かに分散して停止し、乘客は待避する。

自動車や荷車等は左側に寄る。



二、鐵道、船舶等

1　已むを得ない用事のあるときの外は旅行を止める。

乘車(船)の制限が行はれる場合もある。

2　汽車や郊外電車や船は何時もの通り動くが、空襲警報發令後は時刻が變更される場合がある。

3　市内電車やバスは空襲警報發令中は、夜間運轉しないのが建前である。

4　空襲管制をする場合は乘客も協力してよろひ戸又は窓掛を閉める。

5　空襲警報が發令された場合には荷物の受渡しを中止することがある。

6　乘客は驛や列車や船の中では絶對に職員の指圖に從ふ。

7　鐵道線路上やトンネル内に、避難したり荷物を置かない。

8　地下鐵道には避難を許さない。

9　踏切燈や列車の前照燈は、燈火管制のため暗くなるから、踏切を通る時は特に注意をする。

三、食糧

米、麥、鹽、味噌、醬油等の食糧は絶對に支障の無いやうに準

【訪毒】

備してある。しかし次のことは特に心得ねばならぬ。

1　家庭

イ、食糧は出來るだけ燒かないやうに、置き場所等に注意する。

ロ、食糧の通帳の保管に注意する。

ハ、燒け出された者は公共炊出所を利用出來るし又特別配給を受ける場合もある。

ニ、避難先に當分止まる場合はなるべく通帳で買物をする。

ホ、水に濡れたり燒け殘りの米は無駄にせず食べる。

ヘ、買溜はしない。

2　配給所

イ、家庭にはふだんの通り配給を行ふ。

ロ、公共炊出所等には道府縣、食糧事務所との豫めの打合せ又は指令に依り配給する。

ハ、燒け出された家庭に注意し、隣組長と密接な連絡をとり配給を適正にする。

四、飲料水

1　家庭

イ、斷水した時等に困らぬやう、ふだんから水の節約に慣れて置く。

ロ、もし斷水した時には配水車、トラック、荷車、リヤカー、舟等で配給される。

ハ、井戸その他の水で簡單に濾して飲めるものは、その設備を整へて置く。尙飲むときは沸かすがよい。

ニ、水道を使つた後は蛇口を締めて置く。これを怠ると汚物が逆に入つたり、水壓が下つて消防に差支へたりする。

2　隣組長

イ、隣組の井戸の位置、飲めるかどうか等を調べて置き、お互に分けあつて使ふやうにする。

ロ、隣組と隣組との間でもお互に分け合つて使ふやうにする。

五、郵便、貯金、電信、電話、電氣、ガス

1　郵便

イ、狀況によつては郵便物の特殊取扱を停止し、配達を取止め、受取人の出局を待つて交附する等取扱上制限を行ふ外、新聞、雜誌、小包等は引受けを停止する。

【訪毒】

ロ、不要、不急の郵便は總て差控へ、已むを得ないものの外は葉書で間に合せる。
ハ、居所が變つた場合には直ぐもとの郵便局へ屆け出る。

2　郵便貯金、郵便爲替、簡易生命保險、郵便年金

イ、これ等の拂戻又は拂渡については絶對に安心してよい。もしある地方に被害があればそのときの狀況によつて地域を限つて取扱時間を延長したり、他の郵便局取扱のものに對しても拂戻又は拂渡をする。
ロ、貯金通帳や保險證書や印鑑の保管に注意する。
尙念の爲記號番號等は他の手帳につけて置く。
ハ、預けてある證券類や年金、恩給の書類は心配のないやうに保管してある。

3　電信、電話

イ、大事な通信を妨げない爲電信、電話は已むを得ない場合の外は使はないやうにする。
ロ、特に空襲の際は防空通信やその他の重要通信が輻輳するから、安否の問合せや見舞の通信は一切差控へる。

4　電氣、ガス

イ、出來るだけ節約する。
ロ、停止の場合を考へ必要な準備をして置く。
ハ、被害の箇所を發見した者は直ちに警察署や會社等に知らせる。
ニ、被害のあつた物に濫りに接近して手を觸れたりせず知識のある者や係員に處置してもらふ。

六、銀行その他の金融機關

預金の引出しを制限することは絶對にない。

1　銀行等ではふだんの通り業務を行ひ預金の引出しにはどれだけでも應ずるやうにしてある。又取引してゐる銀行等が被害を受けても、他の銀行から拂戻を受けられる途が講じてある。

2　預金通帳や印鑑等の保管に注意する。しかし失くした場合でも、本當の預金者であることが明かになれば支拂はれる。

3　預金の支拂を止められることを心配して現金を用意して居ることは無駄なことであり、又失つたり、盜まれたり、燒け





たりする等のおそれがあるから却つて危險である。

七、空襲による被害の救濟と保險

1　罹災者に對しては當局で食物や衣料や住居等につき、それぞれ必要な應急救濟の準備がしてあるが、非常の場合は、先づお互に扶け合ふことが大切である。

2　空襲による人や家や物の被害は防空法や、戰時災害保護法等に依つてそれぞれ必要な救濟の途が講ぜられてゐる。

3　空襲等によつて起る人や家や物の被害に對しては、戰爭死亡傷害保險法や、戰爭保險臨時措置法に依つて特別の保險が作られてゐるから、なるべく加入して置くがよい。

八、防諜

1　空襲の被害や防空戰鬪の樣子は差支へない限り新聞やラヂオ等で當局から知らされる。この發表を絶對に信賴し、勝手に想像して噪つたり、見たり聞いたりしたことでも輕々しく書いたり話したりすることはデマの因となることを心せねばならぬ。

2　デマ等に惑はされず落ちついて行動し、敵に心の隙を與へてはならぬ。

3　防空の準備や施設の狀況等敵に知らせて惡いことを、書いたり喋つたりしてはならない。

九、罪と罰

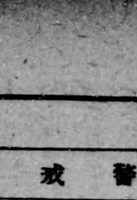
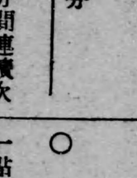
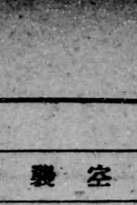
1　犯罪は平時より一層重く、且つ速かに罰して、不安なく防空活動が出來るやうに考へられてゐる。

2　特に重く罰せられる罪

イ、燈火管制中の竊盜、强盜とか風俗上の罪。
ロ、防空、通信、交通、重要生產等の施設を壞したりしてこれを妨害する罪。
ハ、業者が儲けようとして買占めをしたり、賣り惜しみをしたりその他一般國民の經濟生活を亂す罪。
ニ、流言蜚語の罪。
ホ、その他國土防衛を害する罪。

3　燈火管制を怠つたり、防空活動の出來る者で規則に定められた防空業務に從事しなかつたりするとそれぞれ處罰を受ける。

附表第一　警報傳達一覽表

| | サイレン | 警鐘 | 電燈點滅 | 揭示 | 旗又は吹流（晝間） | 信號燈（晝間） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 防空警報 警戒警報 | 三分<br>——<br>三分間連續吹鳴 | ○<br>○—○<br>一點と二點班打 | 用ひず | 地色は青文字は白<br>警戒警報發令中<br>發令と同時に官公署、學校、驛、劇場、映畫館、百貨店、主要道路の交叉點等一般の見易い個所に揭示する。 |  <br>發令と同時に望樓火の見やぐら等一般の見易い高所に揭揚する |  <br>發令と同時に望樓火の見やぐら等一般の見易い高所に揭燈する |
| 空襲警報 警戒警報 | 四秒八秒<br>—　—<br>八秒宛間を置き四秒宛十回鳴らす | ○　○—○<br>○—○<br>一點と四點班打 | 用ひず | 右を撤去する | 右を降下する | 右を消燈する |
| 空襲解除警報 | 用ひず | 用ひず | 數秒宛間を置き五回以上點滅 | 地色は赤文字は白<br>空襲警報發令中<br>發令と同時に警戒警報の揭示を撤去し右の揭示と揭げかへる |  <br>發令と同時に警戒警報の旗又は吹流を降下し右の旗又は吹流と揭げかへる | 點滅後消燈<br>發令と同時に警戒警報の信號燈を二分間點滅した後消燈する |







| 警報 | |
|---|---|
| 空襲警報解除 | 三分間連續吹鳴 |
| 備考 | 電信、電話、ラジオ、口頭及右の方法の全部又は一部に依つて傳達する。 |
| 防護團警報 | |
| 火災警報 | 平時の火災信號又は空罐、金盥等を連打し「燒夷彈」又は「火事」と連呼 |
| 火災警報解除 | 口頭で傳達 |
| 毒瓦斯警報 | |
| 瓦斯警報解除 | 口頭で傳達 |

附表第二　各種燒夷彈效力判定表

| 彈種＼區分 | | 貫徹力 | 燃燒狀況 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 一米 | 二米 | |
| 二百瓩 | 油脂彈 | 鐵筋コンクリート建 | 焰の高さ（最大） | | |
| | エレクトロン彈 | 屋根を貫徹せず | 火片の飛散範圍（最大） | 特殊な型式は五米 | 高さ三米、半徑五米 |
| | | 木造建 | 燃燒の激しい時期 | 五秒乃至一分 | 十秒至二十分 |
| | | 屋根、天井、床を貫徹する小屋組材等に中ると | 全部燃え切る時間 | 六分 | 乃至三十分 |
| | | | 木造家屋を火災にする危險率 | 多い | 油脂彈より稍々少い |
| | | | 火災になる迄の時間 | 一分乃至三分 | 一分半乃至三分 |
| | | | 廣場の範圍 | 人に傷害を及ぼす範圍 | |
| | | | 建物の中の場合 | | |

| 級 | 十瓩級 | | | | 二十瓩級 | | 五十瓩級 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 油脂彈 | | 黃燐彈 | | 油脂彈 | 黃燐彈 | 油脂彈 | 黃燐彈 | |
| | 油脂彈 | エレクトロン彈 | 黃燐彈 | | 屋根を貫徹する | | 同じ種類の二十瓩彈より一層威力が強い | | 火災になるまでの時間は落ちた場所や建物の構造、家の内外の燃燒物の狀態によつて幾分相違がある。 |
| 天井裏で止る | 屋根を貫徹する | | | | | | | | |
| 平家は屋根、天井床を貫徹し二階家は一階に落ちる。小屋組材に中ると天井裏で止る | 屋根、天井、床を貫徹し床下に發火する | | | | | | | | |
| 五米 | 五米 | | | | 五米 | | | | |
| 四米 | 四米 | | | | | | | | |
| 高さ四米半俘二十 | 特殊な型式は十數米 | 高さ七米、半俘十米 | 高さ十五米、半俘八十米 | 高さ十米、半俘百米、稀には百五十米 | 半俘六米 | | | | |
| 三十分 | 五乃至八分 | 十秒乃至二分 | 二乃至五分 | | 十分 | 四十分（細かいものはすぐ燃え切る） | | | |
| 少い | 三十分 | 一時間 | 三十分 | | 十瓩油脂彈より遙に多い | 建物を破壞して木片障子着物・藁等に燃えつく火災になり方は緩慢 | | | |
| 一分半乃至二分半 | 三十秒乃至一分半 | 三十秒乃至四十秒 | 四十秒乃至一分半 | | 三十秒乃至一分半 | 四十秒乃至一分半 | | | |
| | | | | | 半俘四米（十米へ六米迄は死ぬ） | 半俘二十米へ六米迄は死ぬ | | | |
| | | | | | 落ちた室及隣室の者は全身火傷することがある | | | | |

同じ種類の二十瓩彈より多い







# 附表第三　爆彈効力判定表

| 彈種＼分 | 木造家屋 | 彈片による危險界（立姿） |
|---|---|---|
| 五十瓩級 | 10米以內倒壞 20米半壞 40米以上安全 | 25米以內即死 殺傷 90米以上安全 |
| 百瓩級 | 15米以內倒壞 30米半壞 60米以上安全 | 30米以內即死 殺傷 100米以上安全 |
| 二百五十瓩級 | 22米以內倒壞 45米半壞 90米以上安全 | 45米以內即死 殺傷 150米以上安全 |
| 五百瓩級 | 30米以內倒壞 60米半壞 120米以上安全 | 80米以內即死 殺傷 300米以上安全 |
| 一噸級 | 40米以內倒壞 80米半壞 160米以上安全 | 150米以內即死 殺傷 500米以上安全 |

(一) 彈片は安全界と雖も輕傷を受けることあり

(二) 伏姿の場合は各距離を三割乃至八割減少す。

| 爆風ニ因ル危険界(空気) | 地中侵徹爆破ノ状況 | 防空壕 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 6米以内即死<br>殺傷<br>16米以上安全 | 7米 6米 3米 5米 | 3米以内崩壊<br>半壊<br>6米以上安全 | 本表に示せる値は爆弾及土質等の種類に依つて変化するが一般的概略値を示せるものである。 |
| 8米以内即死<br>殺傷<br>20米以上安全 | 9米 8米 4米 8米 | 4米以内崩壊<br>半壊<br>8米以上安全 | |
| 12米以内即死<br>殺傷<br>28米以上安全 | 13米 11米 5.5米 10米 | 5.5米以内崩壊<br>半壊<br>11米以上安全 | |
| 16米以内即死<br>殺傷<br>40米以上安全 | 15米 13米 6.5米 12米 | 6.5米以内崩壊<br>半壊<br>13米以上安全 | |
| 20米以内即死<br>殺傷<br>50米以上安全 | 20米 17米 8.5米 15米 | 8.5米以内崩壊<br>半壊<br>17米以上安全 | |



| 場所 | 電話番號 |
|---|---|
| 警察署 | |
| 派出所(駐在所) | |
| 消防署 | |
| 消防出張所(消防派出所) | |
| 警防團 | |
| 救護所 | |

## ●東京都隣組防空群指導要綱

一、組織及編成

隣組防空群ノ組織及編成ハ都廳ノ所管トシ區長ニ於テ之ヲ行フモノトスルコト

二、指導統制

隣組防空群ノ防空活動ノ指導教育訓練竝ニ災害發生時ニ於ケル指揮統制ハ警視廳ノ所管トシ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フモノトスルコト

(一) 警防團分團本部ニ町會單位ニ隣組防空群指導係ヲ設置スルコト

(二) 隣組防空群指導係ニハ係長一名、部長二名及各隣組班ニ班長一名ヲ置ク

係長ト町會防務部總代トハ之ヲ同一人トスルヲ原則トスルモ差當リ實情ニ應ジ町會長又ハ同副會長中ヨリ之ヲ選ビ得ルコト

部長及班長ハ之ヲ町會防務部幹事トスルコト

町會防務部總代ノ選任ニ當リテハ町會長ハ警防團分團長ト協議シ警察署長ノ承認ヲ受クルコト

(三) 隣組防空群指導係ハ警察消防署長ノ指揮統制ニ依リ隣組防空群ノ平時ニ於ケル指導竝ニ防空警報發令下ニ於ケル防空活動ノ指導督勵ニ當ルコト

(四) 隣組防空群長ハ群ヲ代表シ警察消防署、區役所、警防團分團隣組防空群指導係トノ連絡ニ任ズルト共ニ之等ノ機關ノ指示ニ基キ群ノ防空設備及資材ノ整備、教育訓練竝ニ防空警報發令下ニ於ケル防空活動ノ指導統制ニ當ルコト

三、設備資材ノ整備

隣組防空群ノ防空設備及資材ノ整備ハ都廳ノ所管トスルコト

備考

(一) 東京都長官及警視總監ノ共管事項

一、防空計畫ノ設定ニ關スル事項

一、防空法第二條ノ規定ニ依ル市町村長ノ指定ニ關スル事項

一、防空計畫ノ認可ニ關スル事項

(二) 東京都長官、警視總監各主管スベキ事項

一、防空ノ實施ニ必要ナル設備資材ノ供用命令ノ權限

一、特殊技能者及特別ノ教育訓練ヲ受ケタル者竝ニ緊急ノ場合實施

區域內ノ者ニ對スル從事命令ノ權限
一、防空ノ實施ノ開始及終止ノ關係方面ヘノ通知ニ關スル事項
一、緊急ノ必要ニ依リ土地家屋ノ一時使用、物件ノ收用、使用ノ權限
一、受領命令ノ權限
一、資料ノ提出命令及立入檢查ノ權限
一、行政官廳ノ爲ス防空ノ實施ニ從事スル者ニ對スル扶助ニ關スル事項
一、損失補償及實費辨償ニ關スル事項



# 第二章　學校防空

## ●學校防空指針

第一章　總則……三五四
第一　學校防空ノ意義及區分……三五四
第二　學校防空擔任者……三五四
第二章　準備……三五四
第一　要旨……三五四
第二　學校防空計畫ノ設定……三五四
一　要旨……三五四
二　自衞防空計畫……三五四
三　校外防空計畫……三五五
四　其ノ他學校防空計畫設定上留意スベキ事項……三五五
第三　學校防空體制ノ整備……三五六
一　人的整備……三五六
二　物的整備……三五七
第四　教育訓練……三五九
一　學校防空ニ關スル教育訓練ノ主眼……三五九
二　一般教育訓練……三五九
三　幹部訓練……三六〇
四　基本訓練……三六〇
五　綜合訓練……三六〇
六　其ノ他教育訓練上留意スベキ事項……三六〇
第三章　實施……三六〇
第一　防空活動態勢ニ轉移ノ時機……三六〇
第二　警戒警報發令アリタル場合……三六〇
一　學校長其ノ他學校責任者ノ處置……三六〇
二　學校特設防護團員ノ行動要領……三六一
三　學校報國隊防空補助員ノ行動要領……三六一
第三　警戒警報發令下ニ於テ空襲警報發令アリタル場合……三六一
一　學校特設防護團員ノ行動要領……三六一
二　其ノ他ノ在校者ノ行動要領……三六一
第四　警戒警報發令ナクシテ空襲警報發令アリタル場合……三六一
一　在校時發令アリタル場合……三六二
二　不在校時發令アリタル場合……三六二
三　登校下校ノ途中ニ於テ發令アリタル場合……三六二
第五　空襲被害時……三六二
第四章　文書報告……三六三
第一　學校經營……三六三
第二　文書報告……三六三
第三　學校防空計畫設定其ノ他ノ諸準備ニ對スル再檢討……三六三
(一)、消防　(二)、待避　(三)、救護　(四)、其ノ他
三　幹部訓練……三六〇
四　基本訓練……三六〇
五　綜合訓練……三六〇
六　其ノ他教育訓練上留意スベキ事項……三六〇
第三章　實施……三六〇
第一　防空活動態勢ニ轉移ノ時機……三六〇
第二　警戒警報發令アリタル場合……三六〇
一　學校長其ノ他學校責任者ノ處置……三六〇
二　學校特設防護團員ノ行動要領……三六一
三　學校報國隊防空補助員ノ行動要領……三六一
第三　警戒警報發令下ニ於テ空襲警報發令アリタル場合……三六一
一　學校特設防護團員ノ行動要領……三六一
二　其ノ他ノ在校者ノ行動要領……三六一
第四　警戒警報發令ナクシテ空襲警報發令アリタル場合……三六一
一　在校時發令アリタル場合……三六二
二　不在校時發令アリタル場合……三六二
三　登校下校ノ途中ニ於テ發令アリタル場合……三六二
第五　空襲被害時……三六二
第四章　文書報告……三六三
第一　學校經營……三六三
第二　文書報告……三六三
第三　學校防空計畫設定其ノ他ノ諸準備ニ對スル再檢討……三六三

## 第二章　學校防空

### 第一節　總則

第1、學校防空ノ意義及區分

本措針ニ於テ學校防空ト稱スルハ航空機ノ來襲ニ依リ生ジ又ハ之ニ因ル被害ヲ輕減スル爲學校ノ行フ防空全部ヲ謂ヒ之ヲ學校ニ於ケル自衞防空（以下單ニ自衞防空ト稱ス）及校外防空ノ二部分ニ區分ス

（1）　自衞防空ノ本旨ハ當該學校竝ニ其ノ下敎職員、學生生徒及兒童ノ保護ニ任ジ以テ航空機ノ來襲ニ依リ生ジ又ハ生ズル虞アル被害ヲ最少限度ニ極メ且學校ノ敎育ヲ繼續實施スルニ在リ其ノ主眼トスル點ハ左ノ如シ

（1）（2）（3）　學生生徒及兒童ノ保護

（4）　校舍ノ防護

（5）　實施ナルベク文ハ武、研究實科及實習研究施設等ノ防護

（二）　校外防空ノ本旨ハ學校敎職員及學徒ノ有スル集團的ニシテ積極的ナル防空能力ヲ動員シ學校報國隊防空補助員トシテ當該地方竝（來ラントシ又ハ襲來シツヽアル場合ニ於ケル消防團員、學校報國隊防空要員ノ協力セシムルニ在リ

第二、學校防空擔任者

1、學校ノ自衞防空ハ其ノ時期ノ如何ヲ問ハズ凡テ之ヲ擔任スルヲ本則トス但シ國民學校等防空要員ノ配置ニ關シテハ附近警防團員、學校報國隊防空補助員ノ應援ヲ受クルモノトス

2、校外防空ハ自衞防空ニ從事スル者ヲ除ク學校報國隊員之ヲ擔任スルヲ本則トス、

3、中等學校程度學生生徒、國民學校兒童及幼稚園幼兒ハ自衞防空並ニ校外防空ハ之ヲ擔任セシメザルモノトス

第三、學校防空ノ實施ニ關スル事項

1、學校防空ノ實施ニ關スル事項ハ概ネ左ノ如シ

（1）　警報ノ種類ニ應ズル防護團員ノ配置竝ニ警報發令下ニ於ケル團員ノ服務ハ交替勤務ヲ原則トス但シ學校ノ實狀及狀況ニ應ジ適宜ノ配置ヲ行フヲ妨ゲズ

（2）　休暇中ノ自衞防空要スレバ臨時ニ防護團員ノ指名變更ヲ爲シ又ハ一部人員ノ缺勤ヲ生ジ止メル等ノ方法ニ依リ當該自衞防空計畫遂行ニ必要ナル人員ヲ確保シ休暇中ノ自衞防空措置ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

（3）　不在校時ニ於テ防空要員ノ不在ニ因リ警報發令アリタル場合ノ警報ノ受領傳達、燈火管制及防護團竝學校ニ於ケル自衞防空實施ニ關スル事項ノ指揮統制ニ任ズベキ要員ハ宿直員ニ指定シ置クヲ要ス

（4）　防空施設ニ關スル事項

（5）　防空通信連絡ニ關スル事項

（6）　訓練ニ關スル事項

（7）　其ノ他必要ト認ムル事項

（二）　自衞防空實施計畫ハ豫想シ得ル凡ユル場合ニ付防空業務全般ニ亘リ樹立サルベキモノトス

留意スベキ事項概ネ左ノ如シ

（1）　警報ノ種類ニ應ズル防護團員ノ配置計畫

警戒警報發令下ニ於ケル團員ノ服務ハ交替勤務ヲ原則トス但シ學校ノ實狀及狀況ニ應ジ適宜ノ配置ヲ行フヲ妨ゲズ

（2）　休暇中ノ自衞防空要スレバ臨時ニ防護團員ノ指名變更ヲ爲シ又ハ一部人員ノ缺勤ヲ生ジ止メル等ノ方法ニ依リ當該自衞防空計畫遂行ニ必要ナル人員ヲ確保シ休暇中ノ自衞防空措置ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

（3）　不在校時ニ於テ防空要員ノ不在ニ因リ警報發令アリタル場合ノ警報ノ受領傳達、燈火管制及防護團竝學校ニ於ケル自衞防空實施ニ關スル事項ノ指揮統制ニ任ズベキ要員ハ宿直員ニ指定シ置クヲ要ス

（三）　自衞防空施設計畫ハ實狀及實行ノ狀況ヲ考慮シ重點的ニ工夫整備ヲ爲ス如ク計畫スルモノトス





四、自衞防空ニ從事スル者（學校特設防護團員）ハ一般ノ特設防護團員トノ關係

同等竝（防空從事者扶助令第二條第一項第六號該當者）トノ關係

事者（學校報國隊防空補助員）ハ自衞防空團員トノ關係

第二條第一項第五號該當者）トス

### 第二節　準備

第1、要旨

學校防空ノ準備ニ當リテハ出來得ル限リ學校敎育ヲ繼續實施スル旨トシテ積極ナル學校防空計畫ノ設定ニ基キ防空態制ノ整備ニ努メ平素ノ敎育訓練ヲ徹底シ以テ學校防空ノ完璧ヲ期スベシ

第二、學校防空計畫ノ設定

1、要旨

學校防空計畫ノ設定ハ概ネ周到且具體的ニシテ實行性アルヲ要スル而シテ之ガ重點タル配意スルモノトス

上ノ地域的特質、學校ノ種類及校令ノ精神竝ニ學校ノ造營等ヲ考慮シ立案ニ當リテハ防空實情ニ合スル如ク

學校防空計畫ハ之ヲ自衞防空計畫ト校外防空計畫トニ分ツ

學校防空計畫ノ年度ハ其ノ年ノ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

二、自衞防空計畫

自衞防空計畫ハ現有ノ人的物的全施設ヲ擧ゲテ校外防空ノ必要度ヲ勘案シ自衞防空上最モ有效ニ活用スルヲ目途トシテ企畫スルモノトス

之ヲ防空實施計畫ト防空施設計畫トニ分ツ

（二）　自衞防空計畫ノ內容ニ記載スベキ主ナル事項左ノ如シ

（1）　當該學校ノ自衞防空方針ニ關スル事項

當該學校防空計畫ノ內容ニ記載スベキ事項概ネ左ノ如シ

（1）　學校防空ノ目的ニ關スル事項

（2）　學校防空ノ組織ニ關スル事項

（3）　防空實施時ニ於ケル自衞防空機關ノ活動ノ準備竝ニ學生、生徒、兒童及幼兒ノ措置ニ關スル事項

（4）　防空施設ニ關スル事項

（5）　防空通信連絡ニ關スル事項

（6）　訓練ニ關スル事項

（7）　其ノ他必要ト認ムル事項

（二）　自衞防空實施計畫ハ豫想シ得ル凡ユル場合ニ付防空業務全般ニ亘リ樹立サルベキモノトス

留意スベキ事項概ネ左ノ如シ

（1）　警報ノ種類ニ應ズル防護團員ノ配置計畫

警戒警報發令下ニ於ケル團員ノ服務ハ交替勤務ヲ原則トス但シ學校ノ實狀及狀況ニ應ジ適宜ノ配置ヲ行フヲ妨ゲズ

（2）　休暇中ノ自衞防空

要スレバ臨時ニ防護團員ノ指名變更ヲ爲シ又ハ一部人員ノ缺勤ヲ生ジ止メル等ノ方法ニ依リ當該自衞防空計畫遂行ニ必要ナル人員ヲ確保シ休暇中ノ自衞防空措置ニ遺憾ナキヲ期スルモノトス

（3）

不在校時ニ於テ防空要員ノ不在ニ因リ警報發令アリタル場合ノ警報ノ受領傳達、燈火管制及防護團竝學校ニ於ケル自衞防空實施ニ關スル事項ノ指揮統制ニ任ズベキ要員ハ宿直員ニ指定シ置クヲ要ス

（三）　自衞防空施設計畫ハ實狀及實行ノ狀況ヲ考慮シ重點的ニ工夫整備ヲ爲ス如ク計畫スルモノトス

三、校外防空計畫

校外防空計畫ハ學校ヲ將ニ防空ノ爲ニ開設セントスル時ヨリ閉鎖ニ至ル迄ノ間ニ於ケル學校ノ防空ニ關シ具體的ニ計畫ヲ樹立シ置クモノトス

（1）　校外防空計畫設定者

防空業務ノ配置個所及編成ノ基準ノ大綱ニ付テハ地方長官之ヲ決定スルモノトス但シ大學、高等專門學校ノ場合ハ關係學校報國隊地方部長、地方部ノ設置ナキ地域ニアリテハ關係學校報國隊長ト協議ノ上之ヲ決定スルモノトス

細部ノ事項ハ學校報國隊長、關係警察、消防署長及市（區）町村長ト協議ノ上之ヲ決定ス

（二）　校外防空計畫設定要領

配備計畫ハ防空活動ノ態勢ニ轉移ノ時機ニ於テ配備ニ就カシムベキ計畫ニシテ配備場所別ニ人員ノ編成、任務、指揮系統及警戒警報發令時ニ於ケル計畫シ置クモノトス尙狀況ノ推移ニ應ジ臨機ニ適應シ得ル如ク計畫シ置クモノトス

四、其ノ他學校防空計畫設定上留意スベキ事項

（一）　學校ハ防空上必要ヨリ校令ノ提供ヲ求メラルベキ場合多キヲ以テ斯カル場合竝ニ校令ノ一部ガ破壞、紛失又ハ徵用セラレタル如ク具體的ニ豫定計畫ヲ樹立シ置キ校令ガ破壞、紛失又ハ徵用セラレタル場合ニ於テモ防空實施ニ支障ナキヲ期スルヲ要ス

二校令ノ殘存部分ニ於テ又ハ最モ學校活用ノ部分又ハ三部敎室ヲ敎職員ノ執務室竝ニ學校ノ事務室ニ充テ之ニ隣接シテ直チニ指揮統制スルニ適スル室ヲ選定シ置クヲ要ス

（二）　學校ノ防空上必要ナル施設ハ豫想シ得ル凡ユル場合ニ付防空業務ニ支障ナキヲ期スルヲ要ス

（三）　學校ノ防空施設ニ關シ特ニ考慮スベキ事項左ノ如シ

（1）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ安全ヲ第一トシ且ツ學校敎育ノ繼續實施ニ支障ナキヲ要ス

（2）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學ニ便ナルヲ要ス

（3）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ集合、整列、退避竝ニ解散ニ便ナルヲ要ス

（4）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（5）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（6）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（7）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（8）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（9）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（10）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（11）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（12）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（13）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（14）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（15）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（16）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（17）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（18）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（19）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（20）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（21）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（22）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（23）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（24）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（25）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（26）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（27）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（28）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（29）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（30）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（31）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（32）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（33）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（34）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（35）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（36）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（37）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（38）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（39）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（40）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（41）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（42）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（43）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（44）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（45）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（46）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（47）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（48）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（49）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（50）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（51）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（52）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（53）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（54）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（55）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（56）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（57）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（58）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（59）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（60）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（61）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（62）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（63）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（64）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（65）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（66）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（67）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（68）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（69）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（70）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（71）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（72）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（73）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（74）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（75）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（76）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（77）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（78）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（79）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（80）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（81）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（82）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（83）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（84）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（85）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（86）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（87）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（88）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（89）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（90）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（91）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（92）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（93）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（94）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（95）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（96）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（97）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（98）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（99）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

（100）　學校ノ防空施設ハ學生生徒及兒童ノ通學路ニ面スル部分ニ於テ通學ニ支障ナキヲ要ス

(二)　學校防空計畫ハ前年度二月末日迄ニ之ヲ設定シ支部管内地方長官ニ對シテハ各支部ニ於テ提出スルモノトス但シ中等學校以下ニ在リテハ地方長官ニ提出スルモノトス

第三、學校防空施設ノ整備

1、人的整備

學校長ハ自衛防空實施ノ爲學校ノ擴張及規模、警護スベキ物件、校舍ノ構造、配置及環境等ヲ勘案シ當該學校職員隊及兼ネテ之ニ充ツル爲宿舍ヲ有スル學校ニ在リテハ先ヅ宿舍生ヲ以テ之ニ充ツルヲ可トス要スレバ在校時不在校時ニ拘ラズ在校生徒ヲ以テ之ニ充ツルヲ可トス

(一)　學校特設防護團ノ編成及任務

學校特設防護團員ハ學校附近在住者及成ルベク短時間ニ通學シ得ル者ヲ以テ之ニ充テ若宿舍ヲ有スル學校ニ在リテハ先ヅ宿舍生ヲ以テ之ニ充ツルヲ可トス要スレバ在校時不在校時ニ拘ラズ在校生徒ヲ以テ之ニ充ツルヲ可トス

學校特設防護團ハ其ノ任務ニ從ヒ概ネ左ノ如ク組織シ學校ノ實情ニ應ジ適宜編成ヲ行ヒ、又現職大ナル學校ニ在リテハ分團ヲ設ケ分團ヲ設クルヲ可トス

何各部各班ノ編制ニ關シ準ハ則ヲ指示スルモノトス

(1)　本部

本部ハ學校防空全般ニ關スル企畫及其ノ實施ニ際シテ團ノ指導統制、外部トノ連絡等團ノ中樞的重要事項ヲ掌ル

本部長ハ團長又ハ副團長之ニ充ツルモノトス本部員ハ他ノ各部ノ部長及少數團員ヲ以テ之ニ充ツ

本部ニ總務班及施設班ヲ置ク各班ニ係ヲ置クコトヲ得

(イ)　總務班

監視班ノ任務左ノ如シ

(1)　防護監視ニ關スルコト

(2)　室內監視ニ關スルコト

(室內監視員ハ一人ニテ一乃至數室ノ監視ヲ受持ツモノトス)

(3)　消防部

消防部ハ火災ノ發生ヲ防止シ其ノ消滅ニ任ズ

建物ノ狀態、消防器具器材及貯水設備ノ狀況等ヲ考慮シ要スレバ消防班ノ外直接消火ニ任ズベキモ、ポンプ班及水ノ補給ニ任ズベキ給水班ヲ置ク

(4)　救護部

救護部ハ救急看護及防毒消毒ニ任ズ

救護部ニ救護班ヲ置ク各班ニ係ヲ置クコトヲ得

(イ)　救護班

救護班ハ傷病者ノ救出運搬、應急處置及看護ニ任ズ

(ロ)　防毒班

防毒班ノ任務左ノ如シ

(1)　瓦斯ノ檢知及瓦斯警報ノ傳達ニ關スルコト

(2)　瓦斯濃度ノ檢知ノ設置及持久瓦斯ノ制毒、除毒及消毒ニ關スルコト

(3)　被毒者ノ救出及被毒物件ノ消(除)毒ニ關スルコト

(三)　學校單獨除防空組織ノ編成及共ノ整備

(1)　本部

本部ハ學校防空全般ニ關スル企畫及其ノ實施ニ際シテ團ノ指導統制、外部トノ連絡等團ノ中樞的重要事項ヲ掌ル

本部長ハ團長又ハ副團長之ニ充ツルモノトス本部員ハ他ノ各部ノ部長及少數團員ヲ以テ之ニ充ツ

本部ニ總務班及施設班ヲ置ク各班ニ係ヲ置クコトヲ得

(イ)　總務班

總務班ノ任務左ノ如シ

(1)　防空計畫全般ニ關スルコト

(2)　團員ノ招集統制ニ關スルコト

(3)　警報ノ受領及傳達ニ關スルコト

(4)　關係官公署及警防團トノ連絡ニ關スルコト

(5)　所要記錄ノ調製ニ關スルコト

(6)　共他各部ニ屬セザル事項

(ロ)　施設班

施設班ノ任務左ノ如シ

(1)　施設ノ整備ニ關スルコト

(2)　資材ノ調達及配給ニ關スルコト

(3)　團員ノ給養ニ關スルコト

(2)　警護部

警護部ハ學校ニ於ケル重要物資ノ警備保管及監視ニ任ズ

警護部ニ警備班及監視班ヲ置ク各班ニ係ヲ置クコトヲ得

(イ)　警備班

警備班ノ任務左ノ如シ

(1)　御眞影及勅語謄本、奉安殿ノ警護ニ關スルコト

(2)　貴重ナル文獻、研究資料及重要ナル學校施設等ノ警護ニ關スルコト

(3)　校令內外ノ警戒及燈火管制ニ關スルコト

(4)　待避者ノ統制誘導ニ關スルコト

(5)　危險物品及貴重警戒類等ノ搬出及保管ニ關スルコト

(6)　非常持出物件ノ搬出ニ關スルコト

(ロ)　監視班





監視班ノ任務左ノ如シ

(1)　防護監視ニ關スルコト

(2)　室內監視ニ關スルコト

(室內監視員ハ一人ニテ一乃至數室ノ監視ヲ受持ツモノトス)

(3)　消防部

消防部ハ火災ノ發生ヲ防止シ其ノ消滅ニ任ズ

建物ノ狀態、消防器具器材及貯水設備ノ狀況等ヲ考慮シ要スレバ消防班ノ外直接消火ニ任ズベキモ、ポンプ班及水ノ補給ニ任ズベキ給水班ヲ置ク

(4)　救護部

救護部ハ救急看護及防毒消毒ニ任ズ

救護部ニ救護班ヲ置ク各班ニ係ヲ置クコトヲ得

(イ)　救護班

救護班ハ傷病者ノ救出運搬、應急處置及看護ニ任ズ

(ロ)　防毒班

防毒班ノ任務左ノ如シ

(1)　瓦斯ノ檢知及瓦斯警報ノ傳達ニ關スルコト

(2)　瓦斯濃度ノ檢知ノ設置及持久瓦斯ノ制毒、除毒及消毒ニ關スルコト

(3)　被毒者ノ救出及被毒物件ノ消(除)毒ニ關スルコト

(三)　學校單獨除防空組織ノ編成及共ノ整備

(1)　本部

本部ハ學校防空全般ニ關スル企畫及其ノ實施ニ際シテ團ノ指導統制、外部トノ連絡等團ノ中樞的重要事項ヲ掌ル

本部長ハ團長又ハ副團長之ニ充ツルモノトス本部員ハ他ノ各部ノ部長及少數團員ヲ以テ之ニ充ツ

本部ニ總務班及施設班ヲ置ク各班ニ係ヲ置クコトヲ得

(イ)　總務班

總務班ノ任務左ノ如シ

(1)　防空計畫全般ニ關スルコト

(2)　團員ノ招集統制ニ關スルコト

(3)　警報ノ受領及傳達ニ關スルコト

(4)　關係官公署及警防團トノ連絡ニ關スルコト

(5)　所要記錄ノ調製ニ關スルコト

(6)　共他各部ニ屬セザル事項

(ロ)　施設班

施設班ノ任務左ノ如シ

(1)　施設ノ整備ニ關スルコト

(2)　資材ノ調達及配給ニ關スルコト

(3)　團員ノ給養ニ關スルコト

(2)　警護部

警護部ハ學校ニ於ケル重要物資ノ警備保管及監視ニ任ズ

警護部ニ警備班及監視班ヲ置ク各班ニ係ヲ置クコトヲ得

(イ)　警備班

警備班ノ任務左ノ如シ

(1)　御眞影及勅語謄本、奉安殿ノ警護ニ關スルコト

(2)　貴重ナル文獻、研究資料及重要ナル學校施設等ノ警護ニ關スルコト

(3)　校令內外ノ警戒及燈火管制ニ關スルコト

(4)　待避者ノ統制誘導ニ關スルコト

(5)　危險物品及貴重警戒類等ノ搬出及保管ニ關スルコト

(6)　非常持出物件ノ搬出ニ關スルコト

(ロ)　監視班

監視班ノ任務左ノ如シ

(1)　防護監視ニ關スルコト

(2)　室內監視ニ關スルコト

(室內監視員ハ一人ニテ一乃至數室ノ監視ヲ受持ツモノトス)

(3)　消防部

消防部ハ火災ノ發生ヲ防止シ其ノ消滅ニ任ズ

建物ノ狀態、消防器具器材及貯水設備ノ狀況等ヲ考慮シ要スレバ消防班ノ外直接消火ニ任ズベキモ、ポンプ班及水ノ補給ニ任ズベキ給水班ヲ置ク

(4)　救護部

救護部ハ救急看護及防毒消毒ニ任ズ

救護部ニ救護班ヲ置ク各班ニ係ヲ置クコトヲ得

(イ)　救護班

救護班ハ傷病者ノ救出運搬、應急處置及看護ニ任ズ

(ロ)　防毒班

防毒班ノ任務左ノ如シ

(1)　瓦斯ノ檢知及瓦斯警報ノ傳達ニ關スルコト

(2)　瓦斯濃度ノ檢知ノ設置及持久瓦斯ノ制毒、除毒及消毒ニ關スルコト

(3)　被毒者ノ救出及被毒物件ノ消(除)毒ニ關スルコト

(三)　學校單獨除防空組織ノ編成及共ノ整備

(1)　學校防空計畫ノ樹立、訓練ノ實施、工作、防護、警戒等ニ關シ學校長ヲ補佐シ學校職員生徒ヲ指揮監督シ學校防空ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

(2)　學校職員

學校職員ハ學生生徒ニ對シ防衛召集ニ依リ缺員トナルコトヲ慮シ從來ノ學校防空上ノ任務ニ加フルニ左ノ事項ニ關シ夫々專門部門ニ從事シ工作、防護、警戒ノ實施ニ當リテハ消防、救護、防毒等特技ヲ有スル教職員、學生生徒ニ對シ各自ノ特ッ性ヲヨク檢討シ、實施ニ遺憾ナキヲ期スル爲平素ヨリ研究訓練ヲ行フニカムムルヲ要ス

(3)　消防部

消防部ハ火災ノ發生ヲ防止シ其ノ消滅ニ任ズ

建物ノ狀態、消防器具器材及貯水設備ノ狀況等ヲ考慮シ要スレバ消防班ノ外直接消火ニ任ズベキモ、ポンプ班及水ノ補給ニ任ズベキ給水班ヲ置ク

(4)　救護部

救護部ハ救急看護及防毒消毒ニ任ズ

救護部ニ救護班ヲ置ク各班ニ係ヲ置クコトヲ得

(イ)　救護班

救護班ハ傷病者ノ救出運搬、應急處置及看護ニ任ズ

(ロ)　防毒班

防毒班ノ任務左ノ如シ

(1)　瓦斯ノ檢知及瓦斯警報ノ傳達ニ關スルコト

(2)　瓦斯濃度ノ檢知ノ設置及持久瓦斯ノ制毒、除毒及消毒ニ關スルコト

(3)　被毒者ノ救出及被毒物件ノ消(除)毒ニ關スルコト

(三)　學校單獨除防空組織ノ編成及共ノ整備

(1)　學校防空計畫ノ樹立、訓練ノ實施、工作、防護、警戒等ニ關シ學校長ヲ補佐シ學校職員生徒ヲ指揮監督シ學校防空ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

(2)　學校職員

學校職員ハ學生生徒ニ對シ防衛召集ニ依リ缺員トナルコトヲ慮シ從來ノ學校防空上ノ任務ニ加フルニ左ノ事項ニ關シ夫々專門部門ニ從事シ工作、防護、警戒ノ實施ニ當リテハ消防、救護、防毒等特技ヲ有スル教職員、學生生徒ニ對シ各自ノ特ッ性ヲヨク檢討シ、實施ニ遺憾ナキヲ期スル爲平素ヨリ研究訓練ヲ行フニカムムルヲ要ス

二、物的整備

學校防空上物的整備ニ當リテハ極力御眞影奉安殿ノ設置、生徒兒童ノ保護施設(例ヘバ待避所)及貯水槽ノ設置、敷地建物ノ選定及編成ニ關シ學校防空ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

(1)　學校報國隊防空補助員ノ選定ニ當リテハ消防、救護、防毒等特技ヲ有スル教職員、學生生徒ニ對シ各自ノ特ッ性ヲヨク檢討シ、實施ニ遺憾ナキヲ期スル爲平素ヨリ研究訓練ヲ行フニカムムルヲ要ス

(2)　學校報國隊防空補助員ノ選定及編成ニ關シ共ノ整備





ルモノトス

學校報國隊防空補助員ノ編成ハ學校外防空計畫ニ示ス任務ニ應ズル如ク編成スルモノトス

學校報國隊防空補助員ノ出動及動務ニ關シテハ適當ナル教職員ヲ以テ監督スルモノトス

(2)　指揮系統

(イ)　警備

(ロ)　交通整理

(ハ)　消防

(ニ)　應急復舊

(ホ)　避難者ノ保護

(ヘ)　配給

(ト)　傳令及連絡

(チ)　其ノ他

(三)　其ノ他

(1)　學校防空ハ教職員生徒ヲ以テ之ニ當ルヲ原則トスルモノ

戰時下特ニ緊要ナル研究、身體虛弱者、家庭其ノ他ノ事情ニ依リ止ムヲ得ザル者等ハ學校特設防護團及學校報國隊防空補助員ノ除外スルヲ可トス

(2)　教職員學生生徒中兵務ニ召集ニ依リ缺員トナルコトヲ慮シ從來ノ學校防空上ノ任務ニ加フルニ要スル

彩施設等學校全體ニ關スルモノハ勿論、防護團ノ活動上直接整備ヲ要スルモノ多キヲ以テ、極力資材難ヲ克服スル方途ヲ講ジ學校防空ニ萬遺漏ナキヲ期スル要アリ

緊要ナルモノ概ネ左ノ如シ

(2) 消火及防火施設ノ整備充實

(一) 御眞影及勅語謄本、詔書謄本ノ奉護施設

石造其ノ他堅固ナル奉安殿ノ設アル學校及鐵筋混凝土造ノ校舍内ニ奉護シアル學校ニ在リテモ又然ラザル學校ニ在リテモ齊シク遺憾ノ無キヲ期スル爲ニ於ケル奉遷所ヲ決定シ置キ其ノ他奉護上萬全ノ措置ヲ講ズルモノトス

(二) 待避施設

待避施設ハ昭和十八年七月十四日附官總三一〇號文部次官通牒「防空待避所ノ整備增强ニ關スル件」ニ示ス設置要領ニ基キ當該學校ノ教職員學生生徒及兒童全員收容可能ナル待避所ヲ設置スルヲ本則トス

(三) 貴重ナル文獻、研究資料及重要研究施設ノ防護施設

(1) 貴重ナル文獻、研究資料ニ就テハ警戒警報發令時之ヲ格納スベキ安全個所ヲ地下其ノ他ニ設置シ、狀況ニ依リ危險區域外ニ搬出シ之ガ防護ニ萬全ヲ期スベキ施設ヲ講ジ置クヲ要ス

(2) 重要研究施設ニ付テハ防火防彈裝置ヲ施ス等特ニ其ノ防護施設ヲ嚴重ニスルヲ要ス

(四) 其ノ他防護團ノ活動上直接緊要ナル施設

(1) 防護監視所ノ設置

(イ) 防護監視所ハ上空ノ監視十分ニシテ全校ヲ見透シ得ル箇所ヲ選定シ要スレバ數ケ所ニ設ケ通報連絡ノ施設ヲ整備シ置クモノトス

(ロ) 防護監視所ノ設置

(イ) 鐵兜

(ロ) 防毒面

(ハ) 防毒服

(ニ) 埋沒者救出用具(鍬、シャベル、鳶口、鋸、鶴嘴等)

【防衛】

(ホ) 救急箱、三角布、擔架、副木材料

(ヘ) 携帶電燈、メガホン、非常持出袋、自轉車、防護警報器材、傳令用紙等

(5) 其ノ他

(イ) 特ニ必要ナル室ニ對スル暗幕裝置

(ロ) 非常用炊爨用具

(ハ) 防護團員待機設備

(五) 學校報國隊防空補助員ノ出動ニ要スル施設

學校報國隊防空補助員ノ防空活動ニ要スル施設ハ總テ協力ヲ受クル防空機關ニ於テ整備シ置クモノトス

(六) 食糧其ノ他ノ給養ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ルモノトス

第四、教育訓練

一、學校防空ニ關スル教育訓練ノ主眼

防空ハ戰鬪ナリ戰勝ノ要諦ハ之ニ從事スル者ヲシテ盡忠殉國ノ至誠ヨリ發スル戰鬪精神ニ燃エ必勝ノ信念ヲ堅持セシムルニ在リ而シテ必勝ノ信念ハ千磨必死ノ訓練ニ依ツテ得ラルヽモノナルヲ以テ定期的ニ行フハ固ヨリ臨時不斷ニ訓練ヲ重ネ如何ナル事態ニ遭フモ沈着冷靜積極果敢ニ活動シ得ル自信ヲ把握セシムルヲ以テ主眼トス

教育訓練ヲ分ツテ一般教育訓練及幹部訓練トス

以上ハ更ニ教育内容ニ依リ基本訓練及綜合訓練ニ分ツ

二、一般教育訓練

防空全般ニ關スル教育訓練ヲ謂ヒ學校報國隊員ハ全員交替勤務ニ支障ナカラシムル如ク訓練スルコトヲ要ス特ニ留意スベキ業務左ノ如シ

(一) 消防

(1) 消防訓練ハ單ニ學校特設防護團消防班ノミニ限ラズ中等學校高

【防衛】

學年以上ノ學生生徒ハ全員之ヲ徹底シ置クヲ要ス特ニ學校報國隊防空補助員ニシテ消防機關ニ協力スベキ者ハ平常ヨリ關係機關ト連絡ヲ密ニシ其ノ能力ノ向上ヲ期スル要アリ

(2) 消防訓練ニ關聯シ特ニ留意スベキ事項左ノ如シ

(イ) 燒夷彈ニ對シテハ初期防火ノ重要性ニ鑑ミ防護監視ノ外室内監視ヲ嚴重ニスルヲ要ス

(ロ) 危險物品藥品等特ニ爆發ノ虞アルモノ又ハ貴重物件等ハ平常ヨリ之ガ區分ヲ明確ニナシ警報發令時安全箇所ニ移轉シ易カラシム

(二) 待避

(1) 一箇所ニ多數ノ人員ヲ擁スル學校ニ在リテハ適確迅速ニ待避セシメ被害ヲ最少限度ニ極限スルノ要アルヲ以テ平常ヨリ待避箇所ヲ各人毎ニ豫定シ置キ待避ノ際ハ坐布團ノ類ヲ以テ頭部ヲ覆ヒ待避セシムル等ノ訓練ヲ實施シ置クモノトス

尙學校特設防護團員ノ待避ニ付テハ可成配置箇所最寄ノ待避所ヲ以テ之ニ充テ迅速ニ任務ニ就キ得ル樣計畫シ置クト共ニ防護團ノ訓練ニ際シテハ團員ノ待避訓練ヲ重要項目トシテ必ズ實施シ防護活動トノ迅速ナル連繫ヲ演練シ置クモノトス

(2) 登下校ニ際シ突然空襲ニ遭ヒタル場合ノ待避ヲ考慮シ平常ヨリ待避所ノ位置、收容力等ヲ熟知セシメ置クト共ニ寸刻ノ餘裕モ無キ場合伏臥姿勢ヲ執リ目、耳ハ手ヲ以テ之ヲ抑ヘ咄嗟ノ危害ヲ避ケ得ル如ク訓練ヲ重ネシメ置クモノトス

(3) 鐵筋混凝土造校舍内ニ待避スル場合ハ硝子ノ破片ニ依ル傷害ヲ防止スル爲窓ハ取外シ又ハ開放スルヲ原則トシ(但シ延燒ノ危險アル隣接建物ニ面シタル窓ハ嚴メ閉ヂ置クコト)生徒兒童ニ對シ

六、其ノ他教育訓練上留意スベキ事項

（一）学校特設防護團員及學校報國隊防空補助員ノ自宅ニ在ル場合ハ勿論通行中ト雖モ空襲ニ依ル被害ノ局限ニ必要ナル措置ヲ講ジ又ハ防空業務ニ服スル場合ニ於ケル如ク指揮者ノ指揮ニ協力スルノ態度ヲ要ス

（二）中等學校以上ノ學生生徒及國民學校高等科兒童ニ在リテハ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

## 第三章　實施

第一、防空活動準備發令ノ時機

學校ハ原則トシテ警戒警報發令ト同時ニ防空活動態勢ニ轉移スルモノトス

第二、警戒警報發令アリタル場合

一、學校其ノ他學校責任者ノ處置

（一）在校時發令アリタル場合

(1) 直チニ授業ヲ休止ス

(2) 中等學校以下ノ學年生徒、國民學校兒童及幼稚園幼兒ハ直チニ歸宅セシム

(3) 學校特設防護團ヲシテ團員ノ動員ニ關シ夫々所定ノ任務ニ就カシム

(4) 學校報國隊防空補助員ヲシテ夫々所定ノ配備ニ就カシム

(5) 前項ニ指定セラレタル者ノ外ハ授業ヲ繼續セシムベキモノトス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

二、學校特設防護團員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團長ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

(1) 總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

(2) 警備班救護班指揮者ハ其ノ所ノ警備ニ就ク

(3) 警備班救火管制指揮者ハ管制準備ヲ爲ス

(4) 警備班警備指揮者ハ直ニ施設ノ警備ニ就キ可燃物、危險物、貴重ナル文獻及供覽資料、食糧等ヲ安全場所ニ收納ス

(5) 監視班防護監視指揮者ハ直チニ監視所ニ就キ監視ニ當ル

(6) 消防班ハ一切ノ容器ニ水ヲ滿ス外共ニ消防器具ヲ點檢シ直チニ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク

(7) 救護班ハ擔架ヲ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク外共ニ救急材料ヲ整備シ何時ニテモ收容可能ノ狀態ニ置ク

(8) 防毒班ハ直チニ出動シ得ル如ク準備シ待機ス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

三、學校報國隊防空補助員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校長ハ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

(1) 總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

(2) 警備班救護班指揮者ハ其ノ所ノ警備ニ就ク

(3) 警備班救火管制指揮者ハ管制準備ヲ爲ス

(4) 警備班警備指揮者ハ直ニ施設ノ警備ニ就キ可燃物、危險物、貴重ナル文獻及供覽資料、食糧等ヲ安全場所ニ收納ス

(5) 監視班防護監視指揮者ハ監視ヲ嚴ニシ迅速ニ傳達ス

(6) 消防班ハ一切ノ容器ニ水ヲ滿ス外共ニ消防器具ヲ點檢シ直チニ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク

(7) 救護班ハ擔架ヲ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク外共ニ救急材料ヲ整備シ何時ニテモ收容可能ノ狀態ニ置ク

(8) 防毒班ハ直チニ出動シ得ル如ク準備シ待機ス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

三、學校報國隊防空補助員ノ行動要領

在校時ハ勿論不在校時或ハ空校下校ノ途中ニ在ル場合ト雖モ直チニ空校下校ノ途上竝ニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

## 第三章　實施

第一、防空活動準備發令ノ時機

學校ハ原則トシテ警戒警報發令ト同時ニ防空活動態勢ニ轉移スルモノトス

第二、警戒警報發令アリタル場合

一、學校其ノ他學校責任者ノ處置

（一）在校時發令アリタル場合

(1) 直チニ授業ヲ休止ス

(2) 中等學校以下學校ノ生徒、國民學校兒童及幼稚園幼兒ハ直チニ歸宅セシム

(3) 學校特設防護團ヲシテ團員ノ動員ニ關シ夫々所定ノ任務ニ就カシム

(4) 學校報國隊防空補助員ヲシテ夫々所定ノ配備ニ就カシム

(5) 前項ニ指定セラレタル者ノ外ハ授業ヲ繼續セシムベキモノトス

（二）不在校時發令アリタル場合

防空法ニ基ク防空要員ハ直チニ左ノ措置ヲ講ズ

(1) 夜間ナルトキハ直チニ警戒發令ヲ實施ス

(2) 團長其ノ他所定個所ニ速ヤカニ必要ナル指揮ヲ受ク

(3) 空校シ來ル團員ノ指揮統制ニ任ズルト共ニ學校報國隊防空補助員ヲシテ直チニ配備ニ就キ得ル態勢ヲ採ラシム

（三）空校下校ノ途中ニ於テ發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

二、學校特設防護團員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團長ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

(1) 總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

(2) 警備班救護班指揮者ハ其ノ所ノ警備ニ就ク

(3) 警備班救火管制指揮者ハ管制準備ヲ爲ス

(4) 警備班警備指揮者ハ直ニ施設ノ警備ニ就キ可燃物、危險物、貴重ナル文獻及供覽資料、食糧等ヲ安全場所ニ收納ス

(5) 監視班防護監視指揮者ハ直チニ監視所ニ就キ監視ニ當ル

(6) 消防班ハ一切ノ容器ニ水ヲ滿ス外共ニ消防器具ヲ點檢シ直チニ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク

(7) 救護班ハ擔架ヲ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク外共ニ救急材料ヲ整備シ何時ニテモ收容可能ノ狀態ニ置ク

(8) 防毒班ハ直チニ出動シ得ル如ク準備シ待機ス

（二）不在校時發令アリタル場合

防空法ニ基ク防空要員ハ直チニ左ノ措置ヲ講ズ

(1) 夜間ナルトキハ直チニ警戒發令ヲ實施ス

(2) 團長其ノ他所定個所ニ速ヤカニ必要ナル指揮ヲ受ク

(3) 空校シ來ル團員ノ指揮統制ニ任ズルト共ニ學校報國隊防空補助員ヲシテ直チニ配備ニ就キ得ル態勢ヲ採ラシム

（三）空校下校ノ途中ニ於テ發令アリタル場合

直チニ空校團長ノ指揮下ニ入リ所定ノ業務ニ服スル外ノ行動要領ニ付テハ夜間ハ燈火管制ヲ實施スル外在校時ニ同ジ

（三）空校下校ノ途中ニ於テ發令アリタル場合

概ネ前項ニ準ジ行動ス

三、學校報國隊防空補助員ノ行動要領

在校時ハ勿論不在校時或ハ空校下校ノ途中ニ在ル場合ト雖モ直チニ空校ノ上竝ニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

## 第三章　實施

第一、防空活動準備發令ノ時機

學校ハ原則トシテ警戒警報發令ト同時ニ防空活動態勢ニ轉移スルモノトス

第二、警戒警報發令アリタル場合

一、學校其ノ他學校責任者ノ處置

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團員ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

（一）總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

（二）警備班救火管制指揮者ハ夜間ナルトキハ直チニ空襲管制ヲ實施スル外ハ直チニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

## 第三章　實施

第一、防空活動準備發令ノ時機

學校ハ原則トシテ警戒警報發令ト同時ニ防空活動態勢ニ轉移スルモノトス

第二、警戒警報發令アリタル場合

一、學校其ノ他學校責任者ノ處置

（一）在校時發令アリタル場合

(1) 直チニ授業ヲ休止ス

(2) 中等學校以下學校ノ生徒、國民學校兒童及幼稚園幼兒ハ直チニ歸宅セシム

(3) 學校特設防護團ヲシテ團員ノ動員ニ關シ夫々所定ノ任務ニ就カシム

(4) 學校報國隊防空補助員ヲシテ夫々所定ノ配備ニ就カシム

(5) 前項ニ指定セラレタル者ノ外ハ授業ヲ繼續セシムベキモノトス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

二、學校特設防護團員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團長ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

(1) 總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

(2) 警備班救護班指揮者ハ其ノ所ノ警備ニ就ク

(3) 警備班救火管制指揮者ハ管制準備ヲ爲ス

(4) 警備班警備指揮者ハ直ニ施設ノ警備ニ就キ可燃物、危險物、貴重ナル文獻及供覽資料、食糧等ヲ安全場所ニ收納ス

(5) 監視班防護監視指揮者ハ直チニ監視所ニ就キ監視ニ當ル

(6) 消防班ハ一切ノ容器ニ水ヲ滿ス外共ニ消防器具ヲ點檢シ直チニ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク

(7) 救護班ハ擔架ヲ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク外共ニ救急材料ヲ整備シ何時ニテモ收容可能ノ狀態ニ置ク

(8) 防毒班ハ直チニ出動シ得ル如ク準備シ待機ス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

三、學校報國隊防空補助員ノ行動要領

在校時ハ勿論不在校時或ハ空校下校ノ途中ニ在ル場合ト雖モ直チニ空校ノ上竝ニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

## 第三章　實施

第一、防空活動準備發令ノ時機

學校ハ原則トシテ警戒警報發令ト同時ニ防空活動態勢ニ轉移スルモノトス

第二、警戒警報發令アリタル場合

一、學校其ノ他學校責任者ノ處置

（一）在校時發令アリタル場合

(1) 直チニ授業ヲ休止ス

(2) 中等學校以下學校ノ生徒、國民學校兒童及幼稚園幼兒ハ直チニ歸宅セシム

(3) 學校特設防護團ヲシテ團員ノ動員ニ關シ夫々所定ノ任務ニ就カシム

(4) 學校報國隊防空補助員ヲシテ夫々所定ノ配備ニ就カシム

(5) 前項ニ指定セラレタル者ノ外ハ授業ヲ繼續セシムベキモノトス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

二、學校特設防護團員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團長ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

(1) 總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

(2) 警備班救護班指揮者ハ其ノ所ノ警備ニ就ク

(3) 警備班救火管制指揮者ハ管制準備ヲ爲ス

(4) 警備班警備指揮者ハ直ニ施設ノ警備ニ就キ可燃物、危險物、貴重ナル文獻及供覽資料、食糧等ヲ安全場所ニ收納ス

(5) 監視班防護監視指揮者ハ直チニ監視所ニ就キ監視ニ當ル

(6) 消防班ハ一切ノ容器ニ水ヲ滿ス外共ニ消防器具ヲ點檢シ直チニ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク

(7) 救護班ハ擔架ヲ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク外共ニ救急材料ヲ整備シ何時ニテモ收容可能ノ狀態ニ置ク

(8) 防毒班ハ直チニ出動シ得ル如ク準備シ待機ス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

三、學校報國隊防空補助員ノ行動要領

在校時ハ勿論不在校時或ハ空校下校ノ途中ニ在ル場合ト雖モ直チニ空校ノ上竝ニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

## 第三章　實施

第一、防空活動準備發令ノ時機

學校ハ原則トシテ警戒警報發令ト同時ニ防空活動態勢ニ轉移スルモノトス

第二、警戒警報發令アリタル場合

一、學校其ノ他學校責任者ノ處置

（一）在校時發令アリタル場合

(1) 直チニ授業ヲ休止ス

(2) 中等學校以下學校ノ生徒、國民學校兒童及幼稚園幼兒ハ直チニ歸宅セシム

(3) 學校特設防護團ヲシテ團員ノ動員ニ關シ夫々所定ノ任務ニ就カシム

(4) 學校報國隊防空補助員ヲシテ夫々所定ノ配備ニ就カシム

(5) 前項ニ指定セラレタル者ノ外ハ授業ヲ繼續セシムベキモノトス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

二、學校特設防護團員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團長ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

(1) 總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

(2) 警備班救護班指揮者ハ其ノ所ノ警備ニ就ク

(3) 警備班救火管制指揮者ハ管制準備ヲ爲ス

(4) 警備班警備指揮者ハ直ニ施設ノ警備ニ就キ可燃物、危險物、貴重ナル文獻及供覽資料、食糧等ヲ安全場所ニ收納ス

(5) 監視班防護監視指揮者ハ直チニ監視所ニ就キ監視ニ當ル

(6) 消防班ハ一切ノ容器ニ水ヲ滿ス外共ニ消防器具ヲ點檢シ直チニ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク

(7) 救護班ハ擔架ヲ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク外共ニ救急材料ヲ整備シ何時ニテモ收容可能ノ狀態ニ置ク

(8) 防毒班ハ直チニ出動シ得ル如ク準備シ待機ス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

三、學校報國隊防空補助員ノ行動要領

在校時ハ勿論不在校時或ハ空校下校ノ途中ニ在ル場合ト雖モ直チニ空校ノ上竝ニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス





（三）不在校時發令アリタル場合

防空法ニ基ク防空要員ハ直チニ左ノ措置ヲ講ズ

(1) 夜間ナルトキハ直チニ警戒發令ヲ實施ス

(2) 團長其ノ他所定個所ニ速ヤカニ必要ナル指揮ヲ受ク

(3) 空校シ來ル團員ノ指揮統制ニ任ズルト共ニ學校報國隊防空補助員ヲシテ直チニ配備ニ就キ得ル態勢ヲ採ラシム

（三）空校下校ノ途中ニ於テ發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

二、學校特設防護團員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團長ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

(1) 總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

(2) 警備班救護班指揮者ハ其ノ所ノ警備ニ就ク

(3) 警備班救火管制指揮者ハ管制準備ヲ爲ス

(4) 警備班警備指揮者ハ直ニ施設ノ警備ニ就キ可燃物、危險物、貴重ナル文獻及供覽資料、食糧等ヲ安全場所ニ收納ス

(5) 監視班防護監視指揮者ハ監視ヲ嚴ニシ迅速ニ傳達ス

(6) 消防班ハ一切ノ容器ニ水ヲ滿ス外共ニ消防器具ヲ點檢シ直チニ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク

(7) 救護班ハ擔架ヲ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク外共ニ救急材料ヲ整備シ何時ニテモ收容可能ノ狀態ニ置ク

(8) 防毒班ハ直チニ出動シ得ル如ク準備シ待機ス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

三、學校報國隊防空補助員ノ行動要領

在校時ハ勿論不在校時或ハ空校下校ノ途中ニ在ル場合ト雖モ直チニ空校ノ上竝ニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

## 第三章　實施

第一、防空活動準備發令ノ時機

學校ハ原則トシテ警戒警報發令ト同時ニ防空活動態勢ニ轉移スルモノトス

第二、警戒警報發令アリタル場合

一、學校其ノ他學校責任者ノ處置

（一）在校時發令アリタル場合

(1) 直チニ授業ヲ休止ス

(2) 中等學校以下學校ノ生徒、國民學校兒童及幼稚園幼兒ハ直チニ歸宅セシム

(3) 學校特設防護團ヲシテ團員ノ動員ニ關シ夫々所定ノ任務ニ就カシム

(4) 學校報國隊防空補助員ヲシテ夫々所定ノ配備ニ就カシム

(5) 前項ニ指定セラレタル者ノ外ハ授業ヲ繼續セシムベキモノトス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

二、學校特設防護團員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團長ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

(1) 總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

(2) 警備班救護班指揮者ハ其ノ所ノ警備ニ就ク

(3) 警備班救火管制指揮者ハ管制準備ヲ爲ス

(4) 警備班警備指揮者ハ直ニ施設ノ警備ニ就キ可燃物、危險物、貴重ナル文獻及供覽資料、食糧等ヲ安全場所ニ收納ス

(5) 監視班防護監視指揮者ハ直チニ監視所ニ就キ監視ニ當ル

(6) 消防班ハ一切ノ容器ニ水ヲ滿ス外共ニ消防器具ヲ點檢シ直チニ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク

(7) 救護班ハ擔架ヲ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク外共ニ救急材料ヲ整備シ何時ニテモ收容可能ノ狀態ニ置ク

(8) 防毒班ハ直チニ出動シ得ル如ク準備シ待機ス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

三、學校報國隊防空補助員ノ行動要領

在校時ハ勿論不在校時或ハ空校下校ノ途中ニ在ル場合ト雖モ直チニ空校ノ上竝ニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

## 第三章　實施

第一、防空活動準備發令ノ時機

學校ハ原則トシテ警戒警報發令ト同時ニ防空活動態勢ニ轉移スルモノトス

第二、警戒警報發令アリタル場合

一、學校其ノ他學校責任者ノ處置

（一）在校時發令アリタル場合

(1) 直チニ授業ヲ休止ス

(2) 中等學校以下學校ノ生徒、國民學校兒童及幼稚園幼兒ハ直チニ歸宅セシム

(3) 學校特設防護團ヲシテ團員ノ動員ニ關シ夫々所定ノ任務ニ就カシム

(4) 學校報國隊防空補助員ヲシテ夫々所定ノ配備ニ就カシム

(5) 前項ニ指定セラレタル者ノ外ハ授業ヲ繼續セシムベキモノトス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

二、學校特設防護團員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團長ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

（一）總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

（二）警備班救火管制指揮者ハ夜間ナルトキハ直チニ空襲管制ヲ實施スル外ハ直チニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

## 第三章　實施

第一、防空活動準備發令ノ時機

學校ハ原則トシテ警戒警報發令ト同時ニ防空活動態勢ニ轉移スルモノトス

第二、警戒警報發令アリタル場合

一、學校其ノ他學校責任者ノ處置

（一）在校時發令アリタル場合

(1) 直チニ授業ヲ休止ス

(2) 中等學校以下學校ノ生徒、國民學校兒童及幼稚園幼兒ハ直チニ歸宅セシム

(3) 學校特設防護團ヲシテ團員ノ動員ニ關シ夫々所定ノ任務ニ就カシム

(4) 學校報國隊防空補助員ヲシテ夫々所定ノ配備ニ就カシム

(5) 前項ニ指定セラレタル者ノ外ハ授業ヲ繼續セシムベキモノトス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

二、學校特設防護團員ノ行動要領

（一）在校時發令アリタル場合

學校特設防護團長ハ直チニ團員ヲ夫々所定ノ配置ニ就カシム但シ交通動勞員ハ力メテ歸宅セシム

團員ノ行動要領左ノ如シ

(1) 總務班警報傳達者ハ校內ニ警報ヲ深實迅速ニ傳達ス

(2) 警備班救護班指揮者ハ其ノ所ノ警備ニ就ク

(3) 警備班救火管制指揮者ハ管制準備ヲ爲ス

(4) 警備班警備指揮者ハ直ニ施設ノ警備ニ就キ可燃物、危險物、貴重ナル文獻及供覽資料、食糧等ヲ安全場所ニ收納ス

(5) 監視班防護監視指揮者ハ直チニ監視所ニ就キ監視ニ當ル

(6) 消防班ハ一切ノ容器ニ水ヲ滿ス外共ニ消防器具ヲ點檢シ直チニ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク

(7) 救護班ハ擔架ヲ使用シ得ル狀態ニ爲シ置ク外共ニ救急材料ヲ整備シ何時ニテモ收容可能ノ狀態ニ置ク

(8) 防毒班ハ直チニ出動シ得ル如ク準備シ待機ス

（二）不在校時發令アリタル場合

學校長其ノ他學校責任者ハ前項ニ準ジ措置ヲ講ズ

三、學校報國隊防空補助員ノ行動要領

在校時ハ勿論不在校時或ハ空校下校ノ途中ニ在ル場合ト雖モ直チニ空校ノ上竝ニ學校ニ於ケル防空教育ノ徹底ヲ圖リ家庭ニ在ル場合ハ各自ノ能力ニ應ジ適切ナル行動ニ出デ隣組防火群ノ一員トシテ防空業務ニ服スル如ク指導スルヲ要ス

（三）學校報國隊防空補助員ノ教育訓練ニ付テハ學校ニ於テモ學校長ト協議ノ上之ヲ實施スルモノトス

圖ヲ要ス

三、室内ニ監視指揮ヲ要スル者ハ指揮任ニ當ル者ノ待避所ヲ最モ安全ナル場所ニ設ケ待避シタルトキ直チニ人員ノ點呼ヲ行ヒ負傷者ノ有無ヲ確メ防火ニ努ムルト共ニ出入口ノ戸ヲ開キ或ハ大聲ヲ發シテ附近ノ者ニ知ラセ消防隊ノ方法ニ依リ消防班ノ應援ヲ求ムルモノトス

四、鍛冶場ハ消防ニ必要ナル水ヲ得ル便ノ良キ場所ニ注意スルモノトス

五、鍛冶場ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハズ最初ノ一分間ニ於テ鎮滅ニ努ムルヲ以テ第一義トス

六、火災ト爲リタル場合ハ先ヅ延燒防止ニ努メ又ハ燃燒個所ノ消火ニ努ムルモノトス

七、消火中ト雖モ爆彈ノ落下ヲ聞キ又ハ附近ニ爆彈落下シ始メタルトキハ直チニ伏臥シ又ハ附近ノ待避所ヲ利用シ咄嗟ニ危害ヲ避クルモノトス

八、延燒ノ虞アル場合ハ直チニ窓ヲ閉ヂ火焰ヲ放ル個所及發火シ易キ庇下、素等ニ水ヲカケル等延燒防止ニ努ムルモノトス尙風下ニ於ケル火キ、ベッ、ホ柄杓等ヲ以テ飛火ノ警戒ヲナスモノトス

九、火災發生大ノ虞アリ初期消火困難ト認メタルトキハ直チニ消防隊又ハ警察署等ニ出動ヲ求ムルモノトス

一〇、警察、消防署等ノ防空機關技術ニ關シ來リタル場合ハ特ニ天井裏床下、物置便所等ニ注意スルモノトス

一一、御眞影奉安所危險ニ瀕シタルトキハ特ニ必要ト認メタル場合ニ限リ必ズ指揮任ニ當ル者ノ指揮ニ依リ之ヲ協力シテ消火ニ努ムルモノトス

右ノ場合ニ於テハ御眞影ヲ奉遷スベシ

（様式第1）

何年何月何日空襲被害狀況調

學校名

| 空襲時ノ狀況及其ノ際採リタル處置 | 被害狀況 |
|---|---|
| （記載例）<br>午前（後）何時何分空襲警報<br>解除ト同時ニ全員待避ヲ移リ何<br>分待避完了何時何分燒夷彈（鋼<br>鐵彈）何個落下何個所ヨリ發<br>火セルモ何個所ハ直チニ消シ<br>止メタ | （記載例）<br>一、御眞影ハ御安泰ナリ（何處々々奉遷所ニ奉遷ス）<br>二、燒失（破壞）校舍左ノ如シ<br>（一）何教室（坪）何坪（全燒、全壞、內約何坪燒失又ハ破壞）<br>（二）何教室ノ一部燒失（破壞）セルモ使用ニ支障無シ<br>三、死傷者左ノ如シ<br>（一）何々行爲中爆彈ノ破片（鋼鐵彈ノ直撃）ニ依リ即死<br>（重傷、全治何週間ノ負傷）<br>（何村何年何歳　何某）<br>四、救護關係ニ支障ナシ<br>（二部〇〇ニ移轉シ授業繼續中ナリ） |
| 其ノ他<br>一、防空上ノ所見（計畫ニ於テ不備ナリシ事項及特ニ適切ナリシ事項等ヲ記載ス）<br>二、顯著ナル功績（防空活動ニ於テ最モ適切ナルヌハ勇敢ナル |  |





一二、負傷者發生シタル場合ハ救出搬送ヲ主トシ最少限度ノ應急處置ニ止メ治カニ所定ノ救護所ニ運搬スルモノトス

一三、空襲ニ依ル被害アリタルトキハ全校協力シテ應急處置ニ努ムルト共ニ所轄警察署ニ左記事項ヲ速報シ詳細ハ夫ノ手ニ於テ定ムル樣式ニ依リ所定ノ場所ニ報告スルモノトス

記

一、御眞影及勅語謄本、詔書謄本ノ安否
二、死傷者數
三、建物被害ノ程度

第四章　文書報告其ノ他

第一、學校經營

一、空襲被害無キ場合ハ警戒警報解除後直チニ授業ヲ開始ス

二、校舍ノ一部又ハ全部ガ破壞若シクハ燒失シタル場合ハ所定ノ基キ校舍ノ殘存部分ニ於テ又ハ移轉先ニ於テ要スレバ二部又ハ三部授業ヲ行ヒ警戒警報解除後速カニ教育ノ續行ヲ施スルモノトス

第二、文書報告

校ノ內外ヲ問ハズ其ノ學校ニ關シ空襲ニ依ル被害ノ高等專門學校及師範學校ニ付テハ當該學校長ヨリ別記樣式（第一）ニ依リ又地方長官管下ノ中等學校以下ハ當該學校ニ付テハ當該都道府縣ヨリ別記樣式（第二）ニ依リ何レモ文部大臣宛被害狀況ヲ報告スルモノトス

第三、學校防空計畫設定其ノ他諸準備ニ對スル再檢討

空襲ニ依ル被害アリタル場合ハ勿論然ラザル場合ト雖モ學校長ハ關係者ト協力防空活動實施ノ狀況ヲ詳細研究シ學校防空計畫設定其ノ他ノ諸準備ニ遺憾ナキヤ十分再檢討シ實行上更ニ有效適切ナル準備ヲ行フ

行爲ニ因テ技藝ノ功績ヲ表シタル者ノ行爲ノ概要ヲ記載ス）

（様式第二）

何年何月何日當下學校空襲被害狀況調

道府縣名

（其ノ一）

| 被害學校名 | 空襲時刻 | 被害狀況 |
|---|---|---|
| （記載例）<br>何々國民學校<br>村何々（市町）所在 | 時午前（後）何分（後）何 | （記載例）<br>投彈爆撃ニ因リ投彈落下<br>何棟所燒失（內何棟所ハ直チニ消火）<br>一、御眞影ハ御安泰ナリ（何處々々奉遷所ニ奉遷ス）<br>二、被害（燒失）校舍左ノ如シ<br>（一）何々教室總坪何坪（全燒、全壞、內約何坪燒失又ハ破壞）<br>（二）何々教室ノ一部燒失（破壞）セルモ使用ニ支障無シ<br>三、死傷者左ノ無シ<br>（一）何々行爲中爆彈ノ破片（燒夷彈ノ直撃）ニ依リ即死（重傷）<br>（二）<br>高一男　何歳　何　某 |

（其ノ二）

| 類焼被害程度 | 校數 | 被害校舍 | | 被害者 | | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 燒失 | 破壞 | 死者 | | 傷者 | | |
| | | | | 教職員 | 童生徒兒 | 教職員 | 童生徒兒 | |
| | | | | | | | | 內○罹災生徒總數<br>○○國民學校名<br>○學○學校名<br>生徒兒 |

備考

一、一部燒失（破壞）セルモ使用ニ支障ナキモノハ計上セザルコト

一、ヲ計上スルニ坪數ハ當該教室ノ總坪數ニシテ使用不能ノモノハ當該教室ノ燒坪數

其ノ他

一、防空上ノ所見（計畫ニ於テ不備ナリシ事ヲ及特ニ適切ナリシ項等ヲ記載ス）

二、顯著ナル功績（防空活動ニ於テ最モ適切ナル又ハ勇敢ナル行爲ニ因テ技藝ノ功績ヲ表シタル者ノ行爲ヲ概記ス）

四、授業繼續ニ支障ナシ（○○ニ移轉シ二部授業ニ依リ授業繼續中ナリ）





狀況ニ依リテハ樣式（其ノ一）ニ依ル報告ヲ省略スルコトヲ得ルモノ場合ニ於テハ樣式（其ノ二）ニ依ル報告中ニ　御眞影奉安狀況及授業繼續又ハ休止ノ狀況ヲ特記スルコト

## ●都ノ公立學校防空ノ指導等ニ關スル件

昭和十八年十月八日
敎庶發第一四〇號

都ノ公立學校防空ノ指導等ニ關シテハ左記ノ通決定相成候條之ガ運營ニ付關係當局相互間ニ於ケル連絡ヲ緊密ニシ其ノ實施ニ當リ遺漏無キヲ期セラレ度

記

都ノ公立學校防空ニ關シテハ其ノ學校設備竝ニ生徒兒童ニ對スル防空敎育ニ關スル事項ハ都長官（敎育局長又ハ區長、地方事務所長、支廳長、市長）ニ於テ之ヲ主管シ防空警報發令下ニ於テ現場ニ於ケル防空活動ノ指導統制ニ關スル事項ハ警視總監（警察署長、消防署長）之ニ當ルモノトス

（參考）防空警報發令下現場ニ於ケル防空活動ノ指導統制ヲ受クベキ主ナル事項

一、防空警報ニ關スル事項
一、燈火管制ニ關スル事項
一、消防、防火ニ關スル事項但シ設備實村ノ整備ニ關スル事項ヲ除ク
一、防毒ニ關スル事項但シ設備實村ノ整備ニ關スル事項ヲ除ク
一、應急救護ニ關スル事項
一、特殊、建築及退主ノ指導統制ニ關スル事項
一、應急復舊ノ現場ノ指導統制ニ關スル事項